木部下久保田遺跡
山名赤沼遺跡

主要地方道寺尾藤岡線社会資本総合整備事業に伴う
埋　蔵　文　化　財　発　掘　調　査　報　告　書

2022

群　馬　県　高　崎　土　木　事　務　所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

木部下久保田遺跡
山 名 赤 沼 遺 跡

主要地方道寺尾藤岡線社会資本総合整備事業に伴う
埋　蔵　文　化　財　発　掘　調　査　報　告　書

2022

群　馬　県　高　崎　土　木　事　務　所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

主要地方道寺尾藤岡線社会資本総合整備事業は、群馬県高崎市寺尾町と藤岡市藤岡を結び、当該地域の渋滞解消を目的としたバイパス整備です。

発掘調査を実施しました高崎市南八幡地区は、烏川と鏑川に挟まれた地形で、幾度となく水害に見舞われた地域です。また、地区内には全長65mの山名伊勢塚古墳を中心とした山名古墳群や、上野三碑のうち山上碑と金井沢碑が存在し、古くから歴史的に重要な地域として知られています。

本書で報告します木部下久保田遺跡・山名赤沼遺跡は平成29年度に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施した遺跡です。遺跡の発掘調査では、天明３(1783)年の浅間山の噴火に伴う火山灰をかき集めた復旧坑や、それ以前の洪水の復旧坑などが確認されました。南八幡地区に暮らした人々が天災に見舞われたのちに立ち直ろうとする力強い様子が明らかになりました。

発掘調査から報告書刊行に至るまでには、群馬県高崎土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会をはじめ、関係機関および地元関係者の皆様には多大なるご指導とご協力を賜りました。

本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が高崎市南八幡地域における歴史の解明に広く役立てられますことを念じて、序といたします。

令和４年11月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理　事　長　　向　田　忠　正

例　　言

1　本書は、主要地方道寺尾藤岡線社会資本総合整備事業に伴う木部下久保田遺跡および山名赤沼遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　所在地　木部下久保田遺跡：群馬県高崎市山名町237-1、238、239、240-1、260-1、261-2、木部町293-1、294-1、295-1、296、297-1、297-2、298-1、299-1、300-1、302-1、1,016-2
山名赤沼遺跡：群馬県高崎市山名町111-1、112-1、113、116-1、117-1

3　事業主体　群馬県高崎土木事務所

4　調査主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5　発掘調査期間および体制は以下の通りである。
事業名　　平成29年度主要地方道寺尾藤岡線バイパス(山名工区)社会資本総合整備事業
履行期間　平成29年11月１日～平成30年３月31日
調査期間　平成29年12月１日～平成30年３月31日
調査担当　小野隆(主任調査研究員)　岩上千鶴(主任調査研究員)
調査面積　8,763.42㎡（木部下久保田遺跡　7,072.32㎡、山名赤沼遺跡　1,691.1㎡）
遺跡掘削請負工事　スナガ環境測設株式会社
遺構地上測量　　アコン測量設計株式会社

6　整理事業期間および体制は以下の通りである。
事業名　　令和４年度(主)寺尾藤岡線(山名東工区)社会資本総合整備(活力・重点)事業
履行期間　令和４年４月１日～令和５年３月31日
整理期間　令和４年４月１日～令和４年10月31日
遺物実測・観察表・写真撮影　石器　岩﨑泰一(専門調査役)　土師器・須恵器　神谷佳明(専門調査役)
陶磁器　大西雅広(専門調査役)　金属製品　板垣泰之(専門員(主任))
デジタル編集・本文執筆　　齊田智彦(主任調査研究員)

7　発掘調査諸資料および出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

8　発掘調査および整理事業・本報告書の作成には下記の機関よりご指導・ご教示を頂いた。
群馬県地域創生部文化財保護課、高崎市教育委員会

凡　　例

1　報告書に用いた座標・方位は、すべて平面直角座標Ⅸ系(測地成果2011)を使用した。北方位はすべて座標北で、真北方向角は東偏0°27′58″である。

2　遺構・遺物の縮尺は、原則として以下の通りとし、それぞれスケールを明示した。
遺構　掘立柱建物１：60　　土坑・ピット１：40　　溝１：80、1：40　　復旧坑・畑１：100、1：50
遺物　１：３、１：２、１：１

3　遺構の主軸方向・走向を示すため、座標北を基準として東に傾いた場合はＮ－○°－Ｅ、西に傾いた場合はＮ－○°－Ｗというように表記した。遺構･遺物の計測値で､全体を計測できないものについては､現存の値を記載し(　)で表した。

4　遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版ともに一致する。

5　本書で使用したテフラの呼称は以下の通りである。
浅間Ａ軽石　As-A（天明３年　1783年）

6　土層や土器の色調観察は、原則として農林水産省農林水産技術会議監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を使用した。

7　本書で使用した地図は以下の通りである。
国土地理院発行　20万分の１地勢図「宇都宮」「長野」平成10年
２万５千分の１電子地形図「高崎」平成30年
高崎市都市計画基本図　2500分の１　平成27年

目　次

例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第１章　調査の経過
　第１節　発掘調査に至る経緯 …… 1
　第２節　発掘調査の方法 …… 2
　第３節　発掘調査の経過 …… 5
　第４節　整理作業の経過 …… 5
第２章　遺跡の立地と歴史的環境
　第１節　遺跡の地形と立地 …… 6
　第２節　周辺遺跡の分布 …… 8
　第３節　基本土層 …… 11
第３章　木部下久保田遺跡の遺構と遺物
　第１節　調査の概要 …… 12
　第２節　第１面の遺構と遺物 …… 13
　　（１）畑 …… 13
　　（２）復旧坑 …… 28
　　（３）溝 …… 43
　　（４）畦 …… 44
　第３節　第２面の遺構と遺物 …… 47
　　（１）復旧坑 …… 47
　　（２）集石 …… 68
　　（３）畦 …… 70
　第４節　第３面の遺構と遺物 …… 71
　　（１）掘立柱建物 …… 71
　　（２）溝 …… 78
　　（３）耕作痕と耕具痕 …… 92
　　（４）屋外炉 …… 92
　　（５）土坑 …… 93
　　（６）ピット …… 103
　第５節　遺構外出土遺物 …… 105
第４章　山名赤沼遺跡の遺構と遺物
　第１節　調査の概要 …… 107
　第２節　検出された遺構と遺物 …… 108
　　（１）復旧坑 …… 108
　　（２）畦 …… 111
　　（３）溝 …… 114
第５章　調査のまとめ …… 118

写真図版
抄録
付図

挿図目次

〈木部下久保田遺跡〉
第１図　木部下久保田遺跡・山名赤沼遺跡と群馬県の地勢 ・・・・・・・ 1
第２図　木部下久保田遺跡と山名赤沼遺跡の位置 ・・・・・・・・・・・・・ 2
第３図　路線図と各遺跡の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第４図　調査区とグリッド設定図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
第５図　遺跡周辺の地形断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第６図　遺跡周辺の地形 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
第７図　周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第８図　木部下久保田遺跡と山名赤沼遺跡の基本土層 ・・・・・・・・・・ 11
第９図　１区１面　遺構全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
第10図　１号畑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
第11図　１号畑（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
第12図　２号畑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
第13図　３号畑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
第14図　３号畑（２）、４号畑（１）と出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・ 17
第15図　４号畑（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
第16図　５号畑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
第17図　５号畑（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
第18図　６号畑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
第19図　６号畑出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
第20図　７号畑（１）と出土遺物、８号畑（１）・・・・・・・・・・・・・・・ 23
第21図　７号畑（２）、８号畑（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
第22図　９号畑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
第23図　10号畑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
第24図　10号畑（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
第25図　11号畑、12号畑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
第26図　１号復旧坑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
第27図　１号復旧坑（２）と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
第28図　１号復旧坑（３）、２号復旧坑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
第29図　２号復旧坑（２）と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
第30図　２号復旧坑（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
第31図　２号復旧坑（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
第32図　３号復旧坑、４号復旧坑と出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
第33図　５号復旧坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
第34図　６号復旧坑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
第35図　６号復旧坑（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
第36図　６号復旧坑（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
第37図　７号復旧坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第38図　８号復旧坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
第39図　９号復旧坑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
第40図　９号復旧坑（２）、20号復旧坑・42号溝・・・・・・・・・・・・・・ 43
第41図　１号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第42図　２号溝～12号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
第43図　43号溝、１区１面畦全体図と９号畦出土遺物 ・・・・・・・・・・ 46
第44図　１区２面　遺構全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
第45図　10号復旧坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第46図　11号復旧坑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
第47図　11号復旧坑（２）・（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
第48図　11号復旧坑（４）、12号復旧坑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
第49図　11号復旧坑（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
第50図　12号復旧坑（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
第51図　11号復旧坑（６）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
第52図　11号復旧坑（７）、12号復旧坑（３）と出土遺物 ・・・・・・・・・・ 55
第53図　13号復旧坑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
第54図　13号復旧坑（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
第55図　13号復旧坑（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
第56図　13号復旧坑（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
第57図　14号復旧坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
第58図　15号復旧坑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第59図　15号復旧坑（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
第60図　15号復旧坑（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
第61図　16号復旧坑・18号復旧坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
第62図　17号復旧坑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
第63図　17号復旧坑（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
第64図　19号復旧坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
第65図　21号復旧坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
第66図　11号畦　集石と出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
第67図　１区２面　畦全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
第68図　２区３面　遺構全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
第69図　１号掘立柱建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
第70図　１号掘立柱建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
第71図　１号掘立柱建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
第72図　２号掘立柱建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
第73図　２号掘立柱建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
第74図　13号溝、14号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
第75図　15号溝、16号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
第76図　18号溝・20号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
第77図　17号溝、19号溝、21号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
第78図　22号溝～24号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
第79図　25号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
第80図　25号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
第81図　26号溝～28号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
第82図　29号溝～31号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
第83図　32号溝～35号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
第84図　36号溝～38号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
第85図　39号溝～41号溝と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
第86図　耕作痕　１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
第87図　耕作痕　２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
第88図　耕具痕　１～３・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
第89図　２区耕具痕範囲、１号屋外炉 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
第90図　１号土坑～６号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
第91図　７号土坑～15号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
第92図　16号土坑～24号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
第93図　25号土坑～29号土坑、38号土坑と出土遺物・・・・・・・・・・・・ 97
第94図　30号土坑～34号土坑と出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
第95図　35号土坑～37号土坑、39号土坑～43号土坑・・・・・・・・・・・・ 99
第96図　44号土坑～48号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100
第97図　48号土坑出土遺物、49号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 101
第98図　18号、19号、21号～23号、26号～28号、30号～33号ピット・ 103
第99図　34号ピット～36号ピット、47号ピット～55号ピット ・・・・・ 104
第100図　56号ピット～62号ピット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
第101図　遺構外出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105

〈山名赤沼遺跡〉
第102図　遺構全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
第103図　１号復旧坑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
第104図　１号復旧坑（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
第105図　１号復旧坑（３）と出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110
第106図　２号復旧坑と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 112
第107図　３号復旧坑と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113
第108図　１号溝、２号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 114
第109図　木部下久保田遺跡と五箇川入堤外遺跡（下）の畑の復旧・・・ 118

表 目 次

第１表　木部下久保田遺跡・山名赤沼遺跡の周辺遺跡　・・・・・・・・・ 9
第２表　２号溝～12号溝計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
第３表　１号掘立柱建物計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
第４表　２号掘立柱建物計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
第５表　土坑計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102
第６表　ピット計測表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106
第７表　木部下久保田遺跡　遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 115
第８表　山名赤沼遺跡　遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117

写真目次

〈木部下久保田遺跡〉
ＰＬ．１　１　１区１面南側全景(北より)
　　２　１区２面全景(南より)
ＰＬ．２　１　１号畑全景(南東より)
　　２　１号畑土層断面(西より)
　　３　１号畑全景(西より)
　　４　１号畑土層断面(北東より)
ＰＬ．３　１　２号畑全景(北より)
　　２　３号畑全景(北より)
　　３　３号畑土層断面A－A′(南西より)
　　４　３号畑土層断面B－B′(北東より)
ＰＬ．４　１　４号畑全景(北より)
　　２　４号畑重機搬入路下全景(北より)
　　３　４号畑土層断面(南西より)
　　４　５号畑耕具痕確認状況(東より)
　　５　５号畑耕具痕(東より)
ＰＬ．５　１　５号畑全景(北より)
　　２　５号畑重機搬入路下全景(北より)
　　３　５号畑調査風景
　　４　６号畑土層断面A－A′(西より)
　　５　６号畑耕具痕２土層断面C－C′(東より)
ＰＬ．６　１　６号畑全景(東より)
　　２　７号畑全景(東より)
　　３　７号畑土層断面(北東より)
　　４　８号畑全景(東より)
　　５　９号畑重機搬入路下全景(北より)
ＰＬ．７　１　９号畑全景(北より)
　　２　９号畑土層断面(南西より)
　　３　10号畑全景(北より)
　　４　11号畑(奥)、12号畑(手前)全景(西より)
ＰＬ．８　１　１号復旧坑全景(北東より)
　　２　１号復旧坑土層断面(南西より)
　　３　１号復旧坑土層断面(南より)
　　４　１号復旧坑調査風景
ＰＬ．９　１　２号復旧坑全景(北より)
　　２　２号復旧坑土層断面A－A′（１)(北より)
　　３　２号復旧坑土層断面A－A′（２)(北より)
　　４　２号復旧坑土層断面B－B′(北西より)
ＰＬ．10　１　３号復旧坑全景(北より)
　　２　３号復旧坑土層断面A－A′(東より)
　　３　３号復旧坑土層断面B－B′(東より)
　　４　４号復旧坑全景(北より)
　　５　４号復旧坑土層断面A－A′(西より)
　　６　４号復旧坑土層断面B－B′(南より)
ＰＬ．11　１　５号復旧坑全景(北より)
　　２　５号復旧坑土層断面(１)(南より)
　　３　５号復旧坑土層断面(２)(南より)
　　４　５号復旧坑土層断面(３)(南より)
ＰＬ．12　１　６号復旧坑全景(北より)
　　２　６号復旧坑土層断面A－A′(南より)
　　３　６号復旧坑土層断面B－B′(南より)
ＰＬ．13　１　７号復旧坑全景(東より)
　　２　７号復旧坑土層断面(１)(東より)
　　３　７号復旧坑土層断面(２)(東より)
　　４　７号復旧坑土層断面(３)(東より)
ＰＬ．14　１　８号復旧坑全景(西より)
　　２　８号復旧坑土層断面(１)(東より)
　　３　８号復旧坑土層断面(２)(東より)
　　４　８号復旧坑土層断面(３)(東より)
　　５　９号復旧坑東部(西より)
　　６　９号復旧坑西部(南より)
ＰＬ．15　１　１号溝全景(南より)
　　２　２号溝全景(東より)
　　３　１号溝土層断面(南より)
　　４　２号溝土層断面(東より)
　　５　３号溝土層断面(東より)
　　６　４号溝土層断面(東より)
ＰＬ．16　１　３号溝全景(東より)
　　２　４号溝全景(東より)
　　３　５号溝全景(東より)
　　４　６号溝全景(東より)
ＰＬ．17　１　５号溝土層断面(東より)
　　２　６号溝土層断面(東より)
　　３　７号溝土層断面(東より)
　　４　８号溝土層断面(東より)
　　５　７号溝全景(東より)
　　６　８号溝全景(東より)
ＰＬ．18　１　９号溝全景(東より)
　　２　10号溝全景(東より)
　　３　11号溝全景(東より)
　　４　12号溝全景(東より)
ＰＬ．19　１　９号溝土層断面(東より)
　　２　10号溝土層断面(東より)
　　３　11号溝土層断面(東より)
　　４　12号溝土層断面(東より)
　　５　42号溝全景(北より)
　　６　42号溝土層断面(南東より)
　　７　調査風景
ＰＬ．20　１　１号畦全景(北より)
　　２　２号畦全景(東より)
　　３　１号畦土層断面　３号畑C－C′(北西より)
　　４　２号畦土層断面　２号畑D－D′(南西より)
　　５　３号畦土層断面　基本土層B－B′(北東より)
　　６　４号畦土層断面　２号復旧坑D－D′(北東より)
ＰＬ．21　１　３号畦全景(東より)
　　２　４号畦全景(東より)
　　３　５号畦全景(北より)
　　４　６号畦全景(南より)
ＰＬ．22　１　５号畦土層断面　２号復旧坑C－C′(北西より)
　　２　６号畦土層断面　２号復旧坑E－E′(北西より)
　　３　７号畦土層断面　５号復旧坑B－B′(西より)
　　４　８号畦土層断面　２号復旧坑F－F′(北東より)
　　５　７号畦全景(西より)
　　６　８号畦全景(東より)
ＰＬ．23　１　９号畦全景(東より)
　　２　10号畦全景(南より)

	3	９号畦土層断面　10号畑C－C′(北東より)
	4	10号畦土層断面　10号畑D－D′(北西より)
ＰＬ．24	1	10号復旧坑、11号復旧坑北部(西より)
	2	10号復旧坑東部(西より)
	3	11号復旧坑東部(西より)
ＰＬ．25	1	12号復旧坑全景(東より)
	2	12号復旧坑土層断面D－D′(東より)
	3	13号復旧坑土層断面B－B′(南西より)
	4	11号復旧坑南部～14号復旧坑全景(南東より)
ＰＬ．26	1	15号復旧坑全景(南東より)
	2	14号復旧坑土層断面(北東より)
	3	15号復旧坑土層断面A－A′(南西より)
	4	15号復旧坑土層断面B－B′(南西より)
	5	16号復旧坑～19号復旧坑全景(北東より)
ＰＬ．27	1	16号復旧坑土層断面(南東より)
	2	17号復旧坑(２)(東より)
	3	17号復旧坑土層断面(北東より)
	4	18号復旧坑土層断面(南東より)
	5	19号復旧坑土層断面A－A′(南より)
	6	21号復旧坑重機搬入路下全景(北東より)
	7	20号復旧坑全景(北西より)
ＰＬ．28	1	１号掘立柱建物全景(北より)
	2	１号掘立柱建物　Ｐ１土層断面(南より)
	3	１号掘立柱建物　Ｐ１全景(南より)
	4	１号掘立柱建物　Ｐ２土層断面(南西より)
	5	１号掘立柱建物　Ｐ２全景(南西より)
ＰＬ．29	1	１号掘立柱建物　Ｐ３土層断面(南西より)
	2	１号掘立柱建物　Ｐ３全景(南西より)
	3	１号掘立柱建物　Ｐ４土層断面(南より)
	4	１号掘立柱建物　Ｐ４全景(南より)
	5	１号掘立柱建物　Ｐ５土層断面(南より)
	6	１号掘立柱建物　Ｐ５全景(南より)
	7	１号掘立柱建物　Ｐ６土層断面(東より)
	8	１号掘立柱建物　Ｐ６全景(東より)
ＰＬ．30	1	１号掘立柱建物　Ｐ７土層断面(南西より)
	2	１号掘立柱建物　Ｐ７全景(南西より)
	3	１号掘立柱建物　Ｐ８土層断面(北東より)
	4	１号掘立柱建物　Ｐ８全景(北東より)
	5	１号掘立柱建物　Ｐ９土層断面(南より)
	6	１号掘立柱建物　Ｐ９全景(南より)
	7	１号掘立柱建物　Ｐ10土層断面(南より)
	8	１号掘立柱建物　Ｐ10全景(南より)
ＰＬ．31	1	１号掘立柱建物　Ｐ11土層断面(南より)
	2	１号掘立柱建物　Ｐ11全景(南より)
	3	１号掘立柱建物　Ｐ12土層断面(南より)
	4	１号掘立柱建物　Ｐ12全景(南より)
	5	１号掘立柱建物　Ｐ13土層断面(南西より)
	6	１号掘立柱建物　Ｐ13全景(南西より)
	7	１号掘立柱建物　Ｐ14土層断面(南西より)
	8	１号掘立柱建物　Ｐ14全景(南西より)
ＰＬ．32	1	１号掘立柱建物　Ｐ15土層断面(南東より)
	2	１号掘立柱建物　Ｐ15全景(南東より)
	3	１号掘立柱建物　Ｐ16土層断面(南より)
	4	１号掘立柱建物　Ｐ16全景(南より)
	5	１号掘立柱建物　Ｐ17土層断面(南東より)
	6	１号掘立柱建物　Ｐ17全景(南東より)
	7	１号掘立柱建物　Ｐ18土層断面(南東より)
	8	１号掘立柱建物　Ｐ18全景(南東より)
ＰＬ．33	1	２号掘立柱建物全景(南西より)
	2	２号掘立柱建物調査風景
	3	２号掘立柱建物　Ｐ１全景(南東より)
	4	２号掘立柱建物　Ｐ２土層断面(南東より)
	5	２号掘立柱建物　Ｐ２全景(南東より)
ＰＬ．34	1	２号掘立柱建物　Ｐ３土層断面(南東より)
	2	２号掘立柱建物　Ｐ３全景(南東より)
	3	２号掘立柱建物　Ｐ４土層断面(南より)
	4	２号掘立柱建物　Ｐ４全景(南より)
	5	２号掘立柱建物　Ｐ５土層断面(西より)
	6	２号掘立柱建物　Ｐ５全景(西より)
	7	２号掘立柱建物　Ｐ６土層断面(南より)
	8	２号掘立柱建物　Ｐ６全景(南より)
ＰＬ．35	1	２号掘立柱建物　Ｐ７土層断面(南東より)
	2	２号掘立柱建物　Ｐ７全景(南東より)
	3	２号掘立柱建物　Ｐ８土層断面(南より)
	4	２号掘立柱建物　Ｐ８全景(南より)
	5	２号掘立柱建物　Ｐ９土層断面(南東より)
	6	２号掘立柱建物　Ｐ９全景(南東より)
	7	２号掘立柱建物　Ｐ10土層断面(南東より)
	8	２号掘立柱建物　Ｐ10全景(南東より)
ＰＬ．36	1	２号掘立柱建物　Ｐ11土層断面(南東より)
	2	２号掘立柱建物　Ｐ11全景(南東より)
	3	２号掘立柱建物　Ｐ12土層断面(南東より)
	4	２号掘立柱建物　Ｐ12全景(南東より)
	5	１号掘立柱建物(上)、２号掘立柱建物(下)全景
ＰＬ．37	1	13号溝全景(東より)
	2	14号溝全景(北より)
	3	13号溝土層断面(西より)
	4	14号溝土層断面(南より)
	5	15号溝土層断面(南より)
	6	16号溝土層断面(南西より)
ＰＬ．38	1	15号溝全景(北より)
	2	16号溝全景(北東より)
	3	17号溝土層断面(南より)
	4	17号溝全景(南より)
	5	18号溝土層断面A－A′(北西より)
	6	18号溝土層断面B－B′(北東より)
ＰＬ．39	1	18号溝～20号溝全景(北東より)
	2	19号溝土層断面(北西より)
	3	20号溝土層断面A－A′(北西より)
	4	20号溝土層断面B－B′(北より)
	5	21号溝土層断面(南西より)
ＰＬ．40	1	22号溝全景(北東より)
	2	23号溝全景(北東より)
	3	24号溝全景(南西より)
	4	25号溝全景(東より)
ＰＬ．41	1	22号溝土層断面(南より)
	2	23号溝土層断面(南より)
	3	24号溝土層断面(北より)
	4	25号溝土層断面(東より)
	5	26号溝全景(東より)
	6	27号溝全景(東より)
ＰＬ．42	1	26号溝土層断面(北東より)
	2	27号溝土層断面(西より)
	3	28号溝土層断面(南より)
	4	29号溝土層断面(西より)
	5	29号溝全景(西より)
	6	30号溝土層断面(南西より)
	7	30号溝、31号溝全景(南西より)
	8	31号溝土層断面(南より)
ＰＬ．43	1	32号溝全景(北東より)
	2	32号溝土層断面(南より)
	3	33号溝～36号溝全景(北東より)
	4	33号溝土層断面(北より)
	5	34号溝土層断面(北より)
	6	35号溝土層断面(北より)
	7	36号溝土層断面(北東より)
ＰＬ．44	1	37号溝全景(北東より)
	2	38号溝全景(北東より)
	3	37号溝土層断面(北東より)
	4	38号溝土層断面(北東より)
	5	39号溝土層断面(南東より)
	6	40号溝土層断面(北東より)

ＰＬ．45　1　40号溝全景(北東より)
2　41号溝土層断面(北東より)
3　41号溝全景(西より)
4　２区３面全景(西より)
ＰＬ．46　1　１号土坑土層断面(南東より)
2　１号土坑全景(南東より)
3　２号土坑土層断面(南より)
4　２号土坑全景(南より)
5　３号土坑土層断面(南東より)
6　３号土坑全景(南東より)
7　４号土坑土層断面(南東より)
8　４号土坑全景(北西より)
ＰＬ．47　1　５号土坑土層断面(南西より)
2　５号土坑全景(南西より)
3　６号土坑土層断面(南東より)
4　６号土坑全景(南東より)
5　７号土坑土層断面(南東より)
6　７号土坑全景(南東より)
7　８号土坑土層断面(南東より)
8　８号土坑全景(南東より)
ＰＬ．48　1　９号土坑土層断面(南西より)
2　９号土坑全景(南西より)
3　10号土坑土層断面(南東より)
4　10号土坑全景(南東より)
5　11号土坑土層断面(南東より)
6　11号土坑全景(南東より)
7　12号土坑土層断面(南東より)
8　12号土坑全景(南より)
ＰＬ．49　1　13号土坑土層断面(南東より)
2　13号土坑全景(南西より)
3　14号土坑土層断面(南西より)
4　14号土坑全景(南西より)
5　15号土坑土層断面(南東より)
6　15号土坑全景(北西より)
7　16号土坑土層断面(南東より)
8　16号土坑全景(南より)
ＰＬ．50　1　17号土坑土層断面(南西より)
2　17号土坑全景(南西より)
3　18号土坑土層断面(南より)
4　19号土坑土層断面(東より)
5　19号土坑全景(北より)
6　20号土坑土層断面(北東より)
7　20号土坑全景(北東より)
8　21号土坑土層断面(南東より)
ＰＬ．51　1　21号土坑全景(北西より)
2　22号土坑土層断面(北東より)
3　22号土坑全景(北西より)
4　23号土坑土層断面(南東より)
5　23号土坑全景(北東より)
6　24号土坑土層断面(北東より)
7　24号土坑全景(南より)
8　25号土坑土層断面(南東より)
ＰＬ．52　1　25号土坑全景(南東より)
2　26号土坑土層断面(南東より)
3　26号土坑全景(北西より)
4　27号土坑土層断面(南東より)
5　27号土坑全景(北西より)
6　28号土坑土層断面(北東より)
7　28号土坑全景(北東より)
8　29号土坑土層断面(南東より)
ＰＬ．53　1　29号土坑全景(南東より)
2　30号土坑土層断面(北西より)
3　30号土坑全景(北より)
4　30号土坑炭化材検出状況(北より)
5　31号土坑土層断面(東より)
6　31号土坑全景(東より)
7　32号土坑土層断面(南東より)
8　32号土坑全景(北より)
ＰＬ．54　1　33号土坑土層断面(東より)
2　33号土坑全景(南東より)
3　34号土坑土層断面(南東より)
4　34号土坑全景(北より)
5　35号土坑土層断面(南東より)
6　35号土坑全景(北東より)
7　36号土坑土層断面(南東より)
8　36号土坑全景(北西より)
ＰＬ．55　1　37号土坑土層断面(南東より)
2　37号土坑全景(北東より)
3　38号土坑土層断面(東より)
4　38号土坑全景(北東より)
5　39号土坑土層断面(南東より)
6　39号土坑全景(南より)
7　40号土坑土層断面(北東より)
8　40号土坑全景(北西より)
ＰＬ．56　1　41号土坑土層断面(南東より)
2　41号土坑全景(南東より)
3　42号土坑土層断面(南より)
4　42号土坑全景(南より)
5　43号土坑土層断面(南より)
6　43号土坑全景(南より)
7　44号土坑土層断面(北東より)
8　44号土坑全景(北東より)
ＰＬ．57　1　45号土坑土層断面(北東より)
2　45号土坑全景(北東より)
3　46号土坑土層断面(南東より)
4　46号土坑全景(北西より)
5　47号土坑土層断面(南東より)
6　47号土坑全景(南東より)
7　48号土坑土層断面A－A′(北より)
8　48号土坑全景(南より)
ＰＬ．58　1　49号土坑土層断面B－B′(西より)
2　49号土坑全景(南西より)
3　耕作痕１　土層断面(南東より)
4　耕作痕２　土層断面(南東より)
5　耕具痕１　土層断面(南東より)
6　耕具痕２　土層断面(北東より)
7　耕具痕３　土層断面(南西より)
8　１号屋外炉土層断面(南東より)
ＰＬ．59　1　18号ピット土層断面(南より)
2　18号ピット全景(南より)
3　19号ピット土層断面(南東より)
4　19号ピット全景(南東より)
5　21号ピット土層断面(南東より)
6　21号ピット全景(南東より)
7　22号ピット土層断面(南東より)
8　22号ピット全景(南東より)
9　23号ピット土層断面(東より)
10　23号ピット全景(南東より)
11　26号ピット土層断面(南東より)
12　26号ピット全景(南東より)
13　27号ピット土層断面(南より)
14　27号ピット全景(南より)
15　28号ピット土層断面(北東より)
ＰＬ．60　1　28号ピット全景(北東より)
2　30号ピット土層断面(南東より)
3　30号ピット全景(南東より)
4　31号ピット土層断面(北東より)
5　31号ピット全景(南東より)
6　32号ピット土層断面(南東より)
7　32号ピット全景(南東より)
8　33号ピット土層断面(北東より)
9　33号ピット全景(南東より)

10　34号ピット土層断面(南東より)
11　34号ピット全景(南東より)
12　35号ピット土層断面(南東より)
13　35号ピット全景(南東より)
14　36号ピット土層断面(北東より)
15　36号ピット全景(南東より)
ＰＬ．61　1　47号ピット土層断面(南東より)
2　47号ピット全景(北より)
3　48号ピット土層断面(北東より)
4　48号ピット全景(北より)
5　49号ピット土層断面(東より)
6　49号ピット全景(東より)
7　50号ピット土層断面(南東より)
8　50号ピット全景(南東より)
9　51号ピット土層断面(北西より)
10　51号ピット全景(北西より)
11　52号ピット土層断面(南西より)
12　52号ピット全景(南西より)
13　53号ピット土層断面(南より)
14　53号ピット全景(南より)
15　54号ピット土層断面(南より)
ＰＬ．62　1　54号ピット全景(北より)
2　55号ピット土層断面(南より)
3　55号ピット全景(南より)
4　56号ピット土層断面(南より)
5　56号ピット全景(南より)
6　57号ピット土層断面(南東より)
7　57号ピット全景(北東より)
8　58号ピット土層断面(南東より)
9　58号・60号ピット土層断面(南東より)
10　59号ピット土層断面(南より)
11　59号ピット全景(南より)
12　61号ピット土層断面(南東より)
13　61号ピット全景(北西より)
14　62号ピット土層断面(南東より)
15　62号ピット全景(北東より)

〈山名赤沼遺跡〉

ＰＬ．63　1　調査区全景(北より)
ＰＬ．64　1　１号復旧坑全景(西より)
2　１号復旧坑土層断面A－A′(北東より)
3　１号復旧坑土層断面B－B′(北東より)
4　２号復旧坑、３号復旧坑全景(北より)
ＰＬ．65　1　２号復旧坑土層断面(北東より)
2　３号復旧坑土層断面(北東より)
3　１号溝土層断面(北東より)
4　２号溝土層断面(北東より)
5　１号溝(右)、２号溝(左)全景(北より)
6　１号畦土層断面　１号復旧坑C－C′(北より)
7　２号畦土層断面　２号復旧坑B－B′(北東より)
ＰＬ．66　遺物写真(１)
ＰＬ．67　遺物写真(２)

第１章　調査の経過

第１節　発掘調査に至る経緯

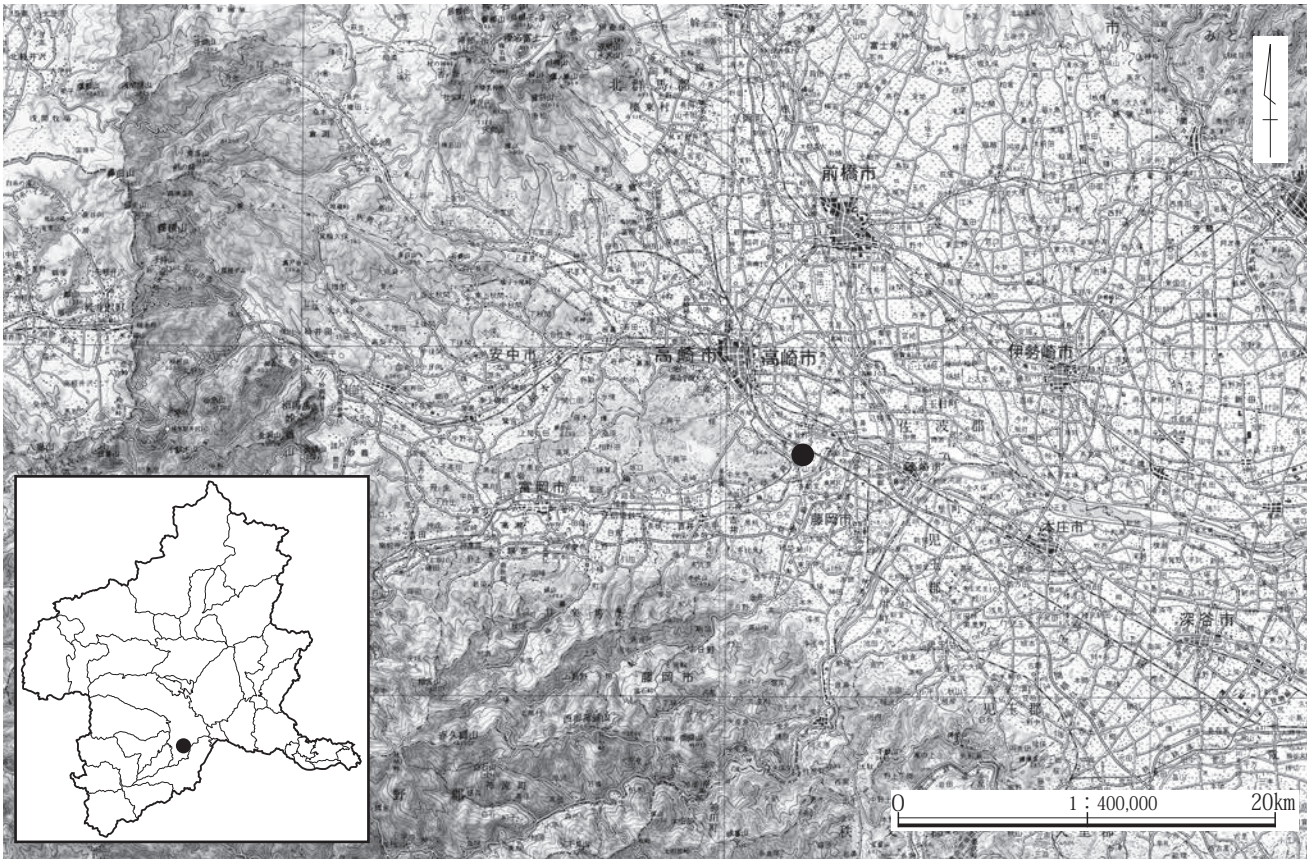
木部下久保田遺跡・山名赤沼遺跡は、群馬県西部の高崎市木部町および山名町内に所在する。遺跡の北方約2.4㎞には浅間山古墳、南方約2.1㎞には七輿山古墳、約1.0㎞には山名伊勢塚古墳を中心とした山名古墳群などがある。またこの地域には「世界の記憶」に登録された上野三碑のうち山上碑と金井沢碑が存在する。

主要地方道寺尾藤岡線は、高崎市寺尾町を起点とし藤岡市藤岡をつなぐ全長9.4㎞の道路である。県が定めている「はばたけ群馬・県土整備プラン」では「７つの交通軸」の整備が進められている。県土整備プランが実現すると、物流や日常生活に悪影響を与えている慢性的な混雑や朝夕の渋滞を大幅に改善されるとしている。さらに主軸の整備だけではなく混雑の一因となっている地域の交通渋滞を解消するためには、主軸に誘導するための軸間の連絡道路等の整備が効果的であると考えられている。

主要地方道寺尾藤岡線山名工区は、高崎市根小屋町から藤岡市篠塚を結ぶ延長2.4㎞(高崎市内は2.2㎞)、幅14.5mのバイパスである。現道は朝夕に交通渋滞が発生するため地域住民からは「地域間の移動時間を短縮してほしい」「道路の幅が狭く大型車の走行や歩行者自転車の通行が非常に危険な状況である」等の声が上がっている。

群馬県教育委員会文化財保護課(現地域創生部文化財保護課、以下文化財保護課と略す)は、群馬県高崎土木事務所の照会を受け、平成28年６月27日～７月１日、同年12月７日～８日に重機を用いた試掘確認調査を実施した。その結果、中・近世の畑や復旧坑等が確認されたため、木部下久保田遺跡・山名赤沼遺跡として発掘調査の対象となった。

平成29年10月30日、文化財保護課の調整を受け群馬県高崎土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で発掘調査委託契約が締結され、平成29年12



第１図　木部下久保田遺跡・山名赤沼遺跡と群馬県の地勢(国土地理院20万分の１地勢図「長野」「宇都宮」を加工)

月１日より平成30年３月31日までの期間で発掘調査が実施されることとなった。

第２節　発掘調査の方法

調査区・グリッドの設定と調査の方法

木部下久保田遺跡の調査区の名称は調査工程管理のために既存の農道の南側を１区、北側を２区と設定した。さらに１区については、作業工程の都合上X=31,255付近に重機搬入路を残して南と北に分けて調査を実施した。

山名赤沼遺跡ついては、調査範囲が狭く道路等も存在しないため調査区名称は設けていない。なお、遺構番号は遺跡ごとの通し番号としている。

調査前には、調査区に単管パイプと安全ロープを巡らし、危険個所・立入禁止等の看板を設置して安全対策を行った。調査事務所は、南八幡小通りに面した２区の北側の事業地内に設置した。この通りは、小中学生の通学路となっているため、安全対策には十分留意した。

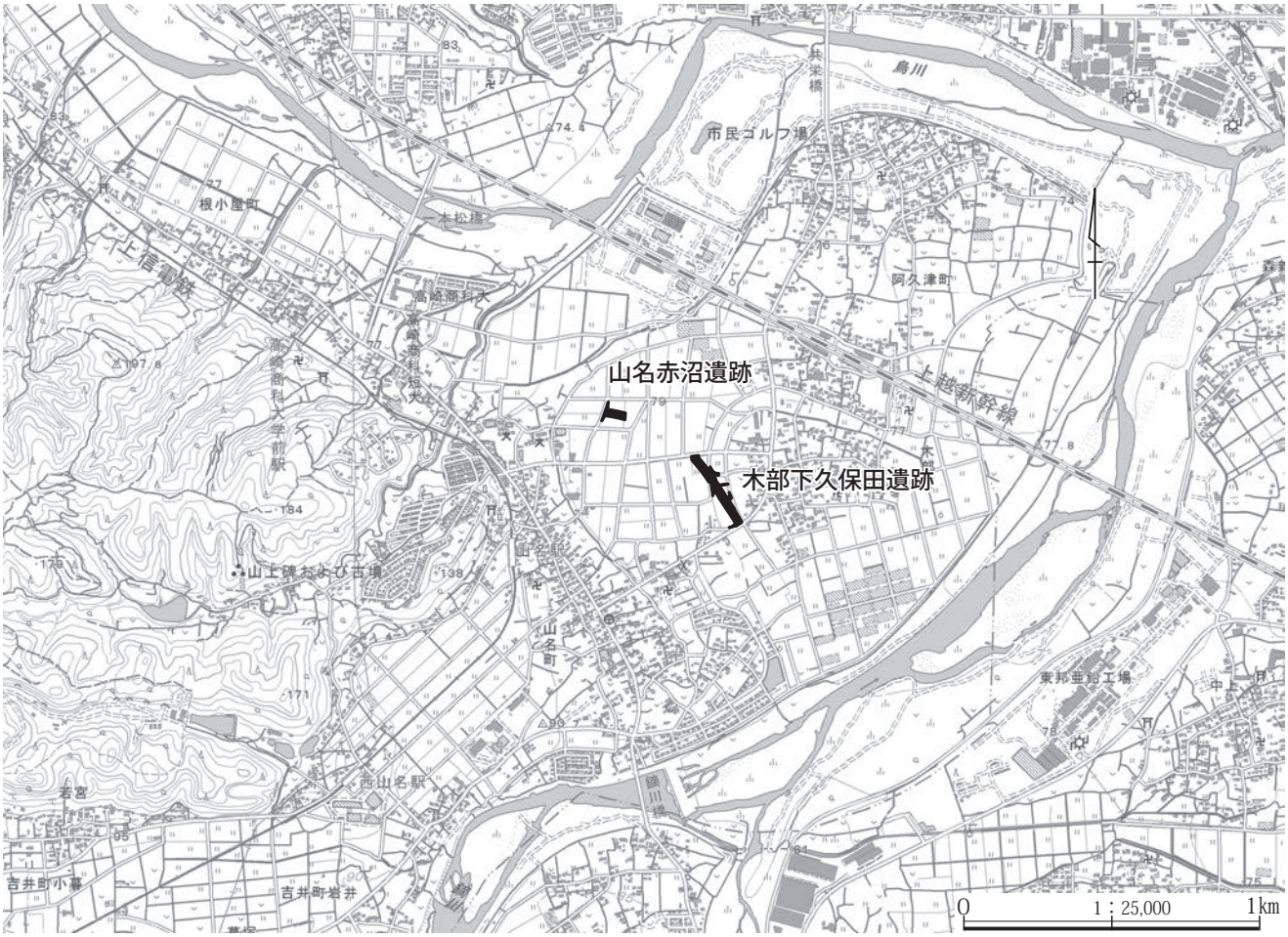
平面図を記録する測量用のグリッドは、平面直角座標系（測地成果2011）Ⅸ系を使用し、座標値の下３桁で呼称した。例えば、Ｘ軸＝31,300とＹ軸＝-70,700の交点をそれぞれ300、-700と略し、この地点を南東隅とする５ｍ四方の範囲を300-700グリッドと呼称した。

本遺跡では、バックフォーで表土を除去したのちに、鋤簾を用いて遺構面を精査し、遺構確認を行った。その後、スコップや移植ゴテを用いて個別の遺構の掘削を行い、必要に応じてベルト設定や半截による土層観察を行った。

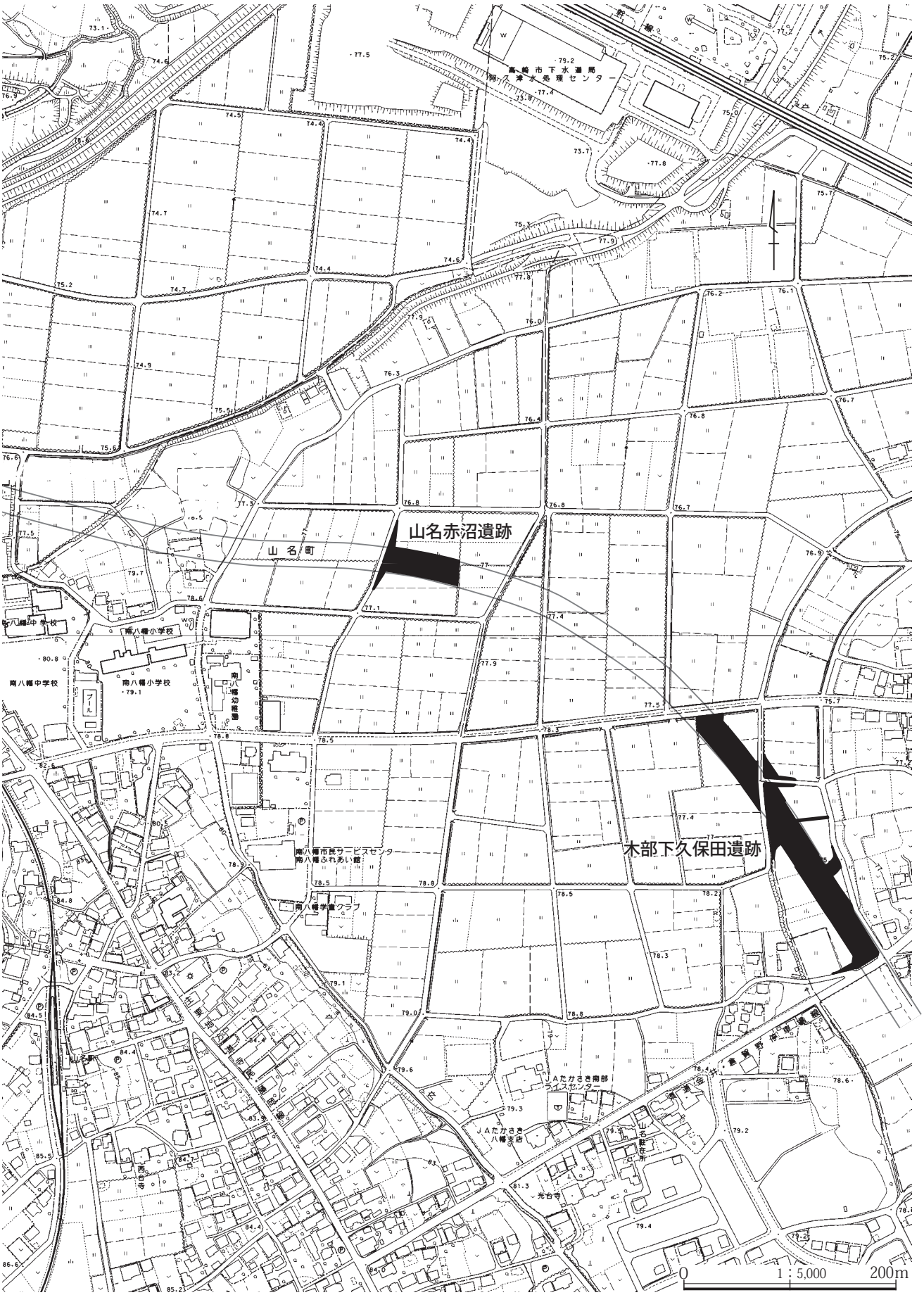
遺物が出土した場合には、原位置の記録の後に取り上げ、ラベルに出土位置の記録等を付して収納した。

遺構の記録は、デジタル測量による測図を原則とし、平面図は1/40縮尺図、断面図は1/20縮尺図、全体図は1/100縮尺図で作図した。

写真は35㎜フルサイズデジタルカメラでの記録を基本とし、必要に応じてブローニー版による銀塩写真を併用した。

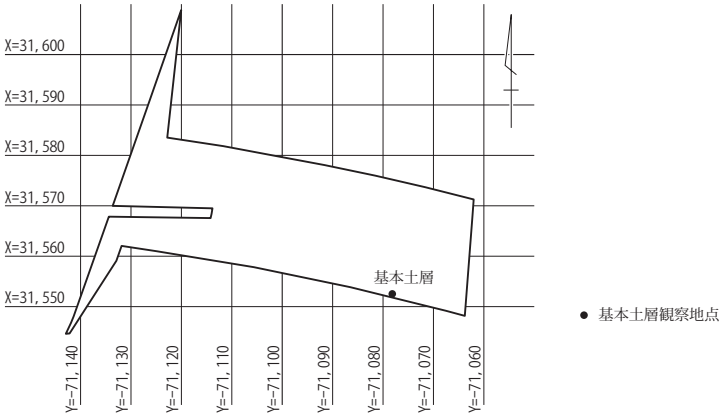


第２図　木部下久保田遺跡と山名赤沼遺跡の位置（国土地理院２万５千分の１地形図「高崎」を加工）

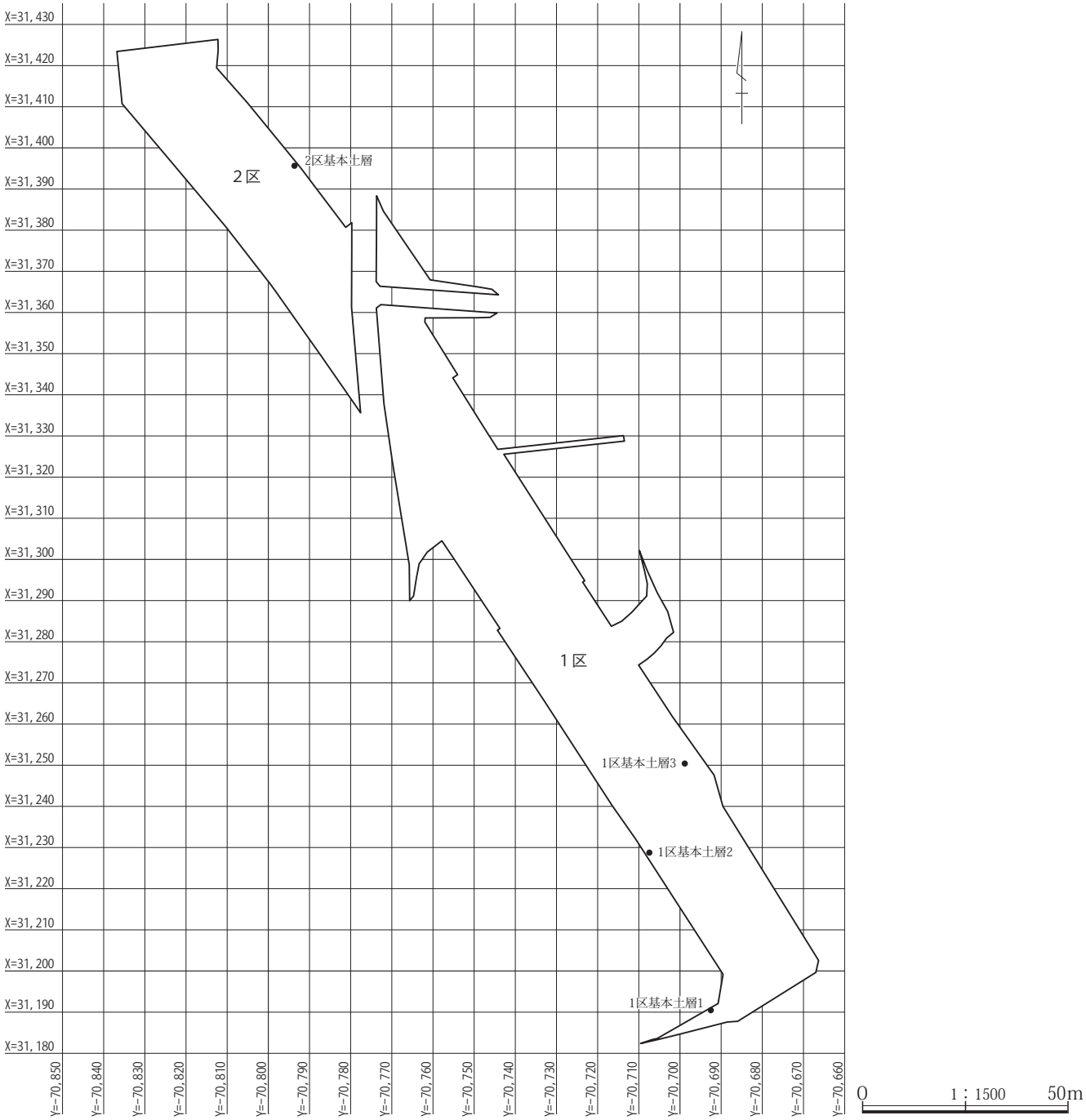


第３図　路線図と各遺跡の位置（高崎市都市計画基本図2500分の１を加工）

山名赤沼遺跡



木部下久保田遺跡



第４図　調査区とグリッド設定図

第３節　発掘調査の経過

調査経過の概略は以下のとおりである。

平成29年

12月１日　現地確認。
　５日　調査事務所設置開始。
　11日　木部下久保田遺跡１区１面南側、重機掘削開始。
　13日　１区１面調査、鋤簾による遺構確認。
　14日　As-A降下前の畑の調査開始。
　14日　畑の測量開始。
　18日　１号畑軽石除去作業。
　20日　１号復旧坑調査。
　22日　２・３号畑測量。
　25日　４・５号畑調査。
　26日　１・２号畦断面測量。

平成30年

１月５日　１区南１面空中写真撮影、１区北側表土掘削開始。
　11日　６・７号畑断面測量、２・３号復旧坑調査。
　16日　２区調査開始、重機による掘削。
　17日　４～12号溝調査。
　22日　３号復旧坑調査、２区鋤簾による遺構確認。
　24日　５・６号復旧坑調査。
　29日　６～８号復旧坑調査、２区遺構確認。
　31日　１区北１面空中写真撮影。
２月１日　安全対策。
　５日　１区南２面遺構確認。２区表土掘削。
　７日　１区北２面重機による掘削開始、２区鋤簾による遺構確認、表土掘削。
　８日　１区南２面復旧坑調査。
　13日　２区土坑およびピット調査。
　20日　２区25号溝調査。
　28日　１区・２区空中写真撮影
３月２日　２区基本土層測量、復旧坑調査。
　５日　２区49号土坑調査、１号溝調査。
　12日　１区重機搬入路下調査。
　14日　高所作業車による全景写真撮影。
　30日　調査終了。

第４節　整理作業の経過

整理事業については、文化財保護課の調整を受け、群馬県高崎土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で、令和４年４月１日に、事業の委託契約が交わされた。そして、１日より同事業団本部にて整理作業を開始した。

すでに洗浄・注記を済ませ、収納してあった遺物を分類したのち、遺構ごとに接合作業を行った。その後、図化する個体を選定後、復元・写真撮影、実測・採拓、観察作業を行った。

実測は三次元計測器や長焦点の実測用写真を併用しながら行った。遺物図はロットリングによるトレース後、スキャニングによりデジタル化したものとデジタルトレースしたものである。遺物写真は35㎜フルサイズのデジタルカメラにより撮影後、色調等を調整した。

遺構は、調査段階でデジタルデータ化しており、これを編集して完成図面とした。また、遺構写真は、発掘調査で撮影したデジタル写真から掲載写真を選択し、色調等の調整後デジタル入稿用データを作成した。

これらの作業と並行して本文および観察表と原稿を執筆し、デジタルデータ化した遺構図・遺物図と合わせてアドビ社のインデザインを使用してデジタル入稿データを編集した。

10月31日に編集作業を完了し、出土遺物・図面・写真類の収納作業を終了した。そして令和４年12月に発掘調査報告書「木部下久保田遺跡・山名赤沼遺跡」を刊行した。

第２章　遺跡の立地と歴史的環境

第１節　遺跡の地形と立地

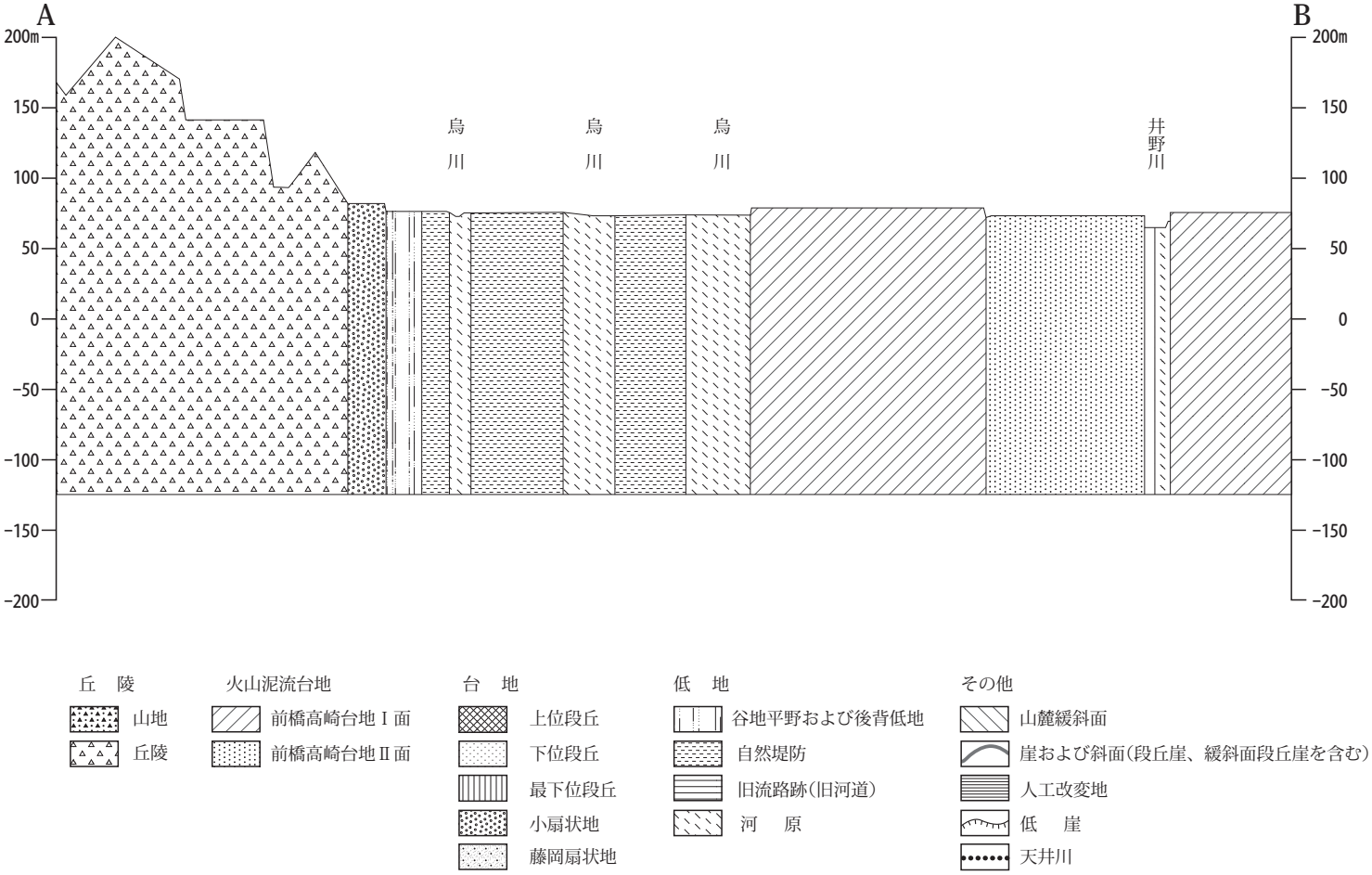
木部下久保田遺跡・山名赤沼遺跡は、上信電鉄高崎商科大学前駅より南南東へ約5.5㎞、群馬県高崎市木部町・山名町に所在し、標高は76.8ｍを測る。北方には烏川、南方には鏑川が流れ、二つの川は遺跡の北西約２㎞付近で合流する。この付近一帯は、洪水に見舞われることが多く、明治43年８月の洪水では、烏川や鏑川の堤防が決壊したため、多野郡八幡村(現在の南八幡地区)では、被害が甚大であったとの記録が残っている。

高崎市の西部には岩野谷丘陵が広がっている。この丘陵は、市全体の15％程度の面積を占めている(平成の合併以前の高崎市)。岩野谷丘陵は碓氷川、高田川、鏑川、烏川に囲まれた地域で、地元では観音山と呼ばれることが多い。特徴的なのは尾根の高さが標高200～250ｍにそろっていて、河川による浸食により急崖が多いことである。

丘陵を構成するのは板鼻層と呼ばれる地層で、約800万年前に海岸に堆積した砂や礫から成る。そのほか、植物化石から形成された亜炭層、凝灰岩地層なども見受けられる。

丘陵の縁辺には小規模で急な傾斜をもつ扇状地が形成されている。遺跡の北部には根小屋七沢と呼ばれる河川がある。大雨のときに流路からあふれた土砂を周囲に盛り返したために、周囲の土地から高いところを流れる天井川の状態になっている。

遺跡のある烏川右岸の山名町、木部町、阿久津町では現在でも旧河川の様子が地形に残されている。この一帯は氾濫原の中にあるが、かつて自然堤防だったところは古くから宅地や畑、道路に利用されている。一方、旧流路や後背湿地だったところはもともと畑であったが、現在では土地改良が進み、水田として利用されている。



第５図　遺跡周辺の地形断面図(土地分類基本調査「高崎」から作成)

第６図　遺跡周辺の地形（土地分類基本調査「高崎」から作成）

第２節　周辺遺跡の分布

本遺跡の調査によって確認された遺構は、中近世の遺構が中心である。本節では、周辺に広がる遺跡について概観する。

旧石器時代　高崎市内において旧石器時代の遺跡は少なく、近隣に遺跡は存在しない。岩野谷丘陵に北斜面の少林山台遺跡(図範囲外)から、黒曜石製槍先形尖頭器と黒色頁岩製の柳葉形の槍先形尖頭器が出土している。

縄文時代　八幡山遺跡(７)からは、前期後半諸磯ｂ式期の土器に混じって土偶１点が出土している。山名柳沢遺跡(６)では、花積下層式期、黒浜式期、諸磯ｂ式期、諸磯ｃ式期の竪穴建物が、山名戸矢遺跡(16)では後期の竪穴建物が確認されている。

弥生時代　周辺には弥生時代の遺跡は存在しないが、山名田中地遺跡(18)から、中期前半から中葉期と考えられる弥生土器片が採取されている。

古墳時代　上毛古墳綜覧(昭和10年版)では、旧多野郡八幡村には77基の古墳の存在が確認されている。そのうちの50基は円墳で残りは形式不明である。市指定遺跡の山名古墳群には、前方後円墳の山名伊勢塚古墳(20)、山名原口Ⅰ遺跡１号墳(19)をはじめ、後期群集墳を形成している。山名古墳群では、「模様積石室」と呼ばれる特徴的な横穴石室が散見する。これは、鮎川・鏑川・烏川の結晶片岩を積み上げたものである。

山名古墳群と鏑川を挟んだ対岸には、大型前方後円墳の七輿山古墳(58)、模様積石室の伊勢塚古墳(52)がある。

烏川対岸には倉賀野古墳群が存在する。その中心は、中期の大型の前方後円墳の浅間山古墳(35)、大鶴巻古墳(40)、小鶴巻古墳(39)などである。倉賀野古墳群の北西にある佐野古墳群にも多くの古墳が分布している。後期の前方後円墳の漆山古墳(27)や大型円墳の蔵王塚古墳(26)をはじめ、長山古墳(25)、長者屋敷天王山古墳(32)などが分布する。そして、終末期には山上古墳(９)、安楽寺古墳(43)などが築造される。

集落は、田端遺跡(12)、山名戸矢遺跡(16)などがある。田端遺跡からは玉造工房が確認され、建物の主軸方向・規模・平面形状に規則性が認められるなど、計画的な集落を形成していたものと思われる。山名戸矢遺跡では、後期の竪穴建物や土坑は山名古墳群の造営時期とほぼ重なっている。

奈良・平安時代

山名柳沢遺跡(６)、田端遺跡(12)、山名戸矢遺跡(16)、山名原口Ⅰ遺跡(19)などがあげられる。山名柳沢遺跡では羽口・鉄滓・炉壁などが出土した竪穴建物が、田端遺跡では160棟を超える竪穴建物が調査された。また、山名戸矢遺跡の平安時代の竪穴建物からは、「辛枚万呂」と刻字された瓦が出土している。山名原口Ⅰ遺跡の竪穴建物は、古墳群を避けた地点で確認されている。

本遺跡の西方の岩野谷丘陵には、世界の記憶に登録された上野三碑のうち、金井沢碑(23)と山上碑(９)が存在する。681年に建てられたとされる山上碑には「佐野三家(さのみやけ)」の文字が刻まれ、放光寺の僧の長利が建立したと考えられている。また、726年に建てられた金井沢碑には「群馬郡下賛郷(くるまのこおりしもさぬごう)」と刻まれており、県内で初めて「群馬」の文字が使われている。

中・近世　多数の城館が確認されている。平地部には木部氏館(13)、木部氏の支城とされる木部北城(11)、木部城(14)、山名館(17)、岩野谷丘陵には根小屋城(22)、山名城(８)、寺尾茶臼山城(24)などが分布している。

烏川の対岸には、倉賀野氏が築いたと言われる倉賀野城(48)をはじめ、倉賀野西城(45)、倉賀野東城(50)など、多数の城館が築かれている。

城館以外の遺構として、山名原口Ⅰ遺跡(19)から竪穴状遺構、山名土合古墳群(５)からは、銭貨・すり鉢片・板碑片などが古墳の周溝より出土している。山名戸矢遺跡(16)の集石遺構のうち３基が中世の可能性が高いとされている。田端遺跡(12)では掘立柱建物・土坑墓・溝のほか館の堀も確認され、白磁皿・青磁碗類・内耳鍋・茶臼・五輪塔など遺物も多数出土した。

近世になると、烏川対岸の倉賀野町には宿場町が、現在の共栄橋付近には倉賀野河岸が形成され、宿場町や海運の拠点として繁栄した。

第７図　周辺の遺跡（国土地理院２万５千分の１地形図「高崎」を加工）

第１表　木部下久保田遺跡・山名赤沼遺跡の周辺遺跡

	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良平安	中・近世	文献
1	木部下久保田遺跡						○	本報告
2	山名赤沼遺跡						○	本報告
3	山名土合遺跡							群埋文調査2021
4	根小屋赤沼遺跡							群埋文調査2021
5	山名土合古墳群				○			高崎市教育委員会 1995『平成６年度　高崎市内小規模埋蔵文化財緊急発掘調査概要』
6	山名柳沢遺跡		○		○	○	○	『山名柳沢遺跡』1998　高崎市遺跡調査会
7	八幡山遺跡		○					新編『高崎市史』1996　資料編１原始古代Ⅰ
8	山名城						○	新編『高崎市史』1996　資料編３中世Ⅰ
9	山上碑および古墳				○	○		新編『高崎市史』1996　資料編１原始古代Ⅰ
10	でえせいじ遺跡					○		新編『高崎市史』2003　通史編１原始古代

	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良平安	中・近世	文献
11	木部北城						○	新編『高崎市史』1996　資料編３中世Ⅰ
12	田端遺跡				○	○	○	『田端遺跡』1988　群埋文
13	木部氏館						○	新編『高崎市史』1996　資料編３中世Ⅰ
14	木部城						○	新編『高崎市史』1996　資料編３中世Ⅰ
15	山名若宮遺跡					○	○	『山名若宮遺跡』2017　高崎市教委
16	山名戸矢遺跡		○		○	○	○	『山名戸矢遺跡』1993　高崎市遺跡調査会
17	山名館						○	新編『高崎市史』1996　資料編３中世Ⅰ
18	山名田中地遺跡			○				新編『高崎市史』1996　資料編１原始古代Ⅰ
19	山名原口Ⅰ遺跡				○	○	○	『山名原口1遺跡』1990　高崎市教委
20	山名伊勢塚古墳				○			『山名伊勢塚古墳』2008　高崎市教委
21	山名原口Ⅱ遺跡				○			『山名原口Ⅱ遺跡』1991　高崎市教委
22	根小屋城						○	新編『高崎市史』1996　資料編３中世Ⅰ
23	金井沢碑					○		新編『高崎市史』1996　資料編２原始古代Ⅱ
24	寺尾茶臼山城						○	新編『高崎市史』1996　資料編３中世Ⅰ
25	長山古墳				○			群埋文77集
26	蔵王塚古墳				○			
27	漆山古墳				○			新編『高崎市史』1996　資料編１原始古代Ⅰ
28	堀口屋敷						○	新編『高崎市史』1996　資料編３中世Ⅰ
29	清水屋敷						○	群埋文77集
30	下佐野遺跡Ⅰ・Ⅱ地区		○					
31	下佐野一本木遺跡					○	○	高崎市78集
32	長者屋敷天王山古墳				○			新編『高崎市史』1996　資料編１原始古代Ⅰ
33	夕陽長者屋敷						○	群埋文77集
34	下佐野長者屋敷遺跡				○	○	○	高崎市239集
35	浅間山古墳				○			新編『高崎市史』1996　資料編１原始古代Ⅰ
36	庚申塚古墳				○			
37	大山古墳				○			
38	茶臼山古墳				○			
39	小鶴巻古墳				○			新編『高崎市史』1996　資料編１原始古代Ⅰ
40	大鶴巻古墳				○			新編『高崎市史』1996　資料編１原始古代Ⅰ
41	上稲荷前屋敷						○	新編『高崎市史』1996　資料編３中世Ⅰ
42	倉賀野条里Ⅰ～Ⅴ遺跡					○	○	高崎市教委244、116、287、52、220
43	安楽寺古墳				○			新編『高崎市史』1996　資料編１原始古代Ⅰ
44	一本杉古墳				○			新編『高崎市史』1996　資料編１原始古代Ⅰ
45	倉賀野西城						○	高崎市遺跡調査会　26
46	倉賀野万福寺遺跡Ⅰ・Ⅱ		○		○			高崎市遺跡調査会　4
47	倉賀野宮之前遺跡				○			高崎市24集
48	倉賀野城						○	新編『高崎市史』1996　資料編３中世Ⅰ
49	長賀寺山古墳							
50	倉賀野東城						○	新編『高崎市史』1996　資料編３中世Ⅰ
51	岡の砦						○	『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』1993　藤岡市史編纂委員会
52	伊勢塚古墳				○			『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』1993　藤岡市史編纂委員会
53	上落合岡B遺跡				○	○	○	『上落合岡Ｂ遺跡』2001　藤岡市教委
54	上落合岡遺跡			○	○	○	○	『上落合岡遺跡《本文編》』2004　藤岡市教委
55	落合の砦							『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』1993　藤岡市史編纂委員会
56	上落合上野遺跡	○	○	○	○	○		『D49上落合上野遺跡』2003　藤岡市教委
57	上落合七輿遺跡				○	○	○	『七輿山古墳』2010　群埋文
58	七輿山古墳				○			『七輿山古墳』2010　群埋文
59	宗永寺裏東塚古墳				○			『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』1993　藤岡市史編纂委員会
60	上落合城山遺跡				○		○	『上落合城山遺跡・白石稲荷原遺跡・猿田川水田址遺跡』2002　藤岡市教委
61	西原遺跡		○			○		『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』1993　藤岡市史編纂委員会
62	篠塚館							
63	下木戸遺跡					○		群馬県藤岡市教育委員会1994『年報(９)』
64	篠塚塚越遺跡				○	○		群馬県藤岡市教育委員会1999『年報(14)』
65	北原遺跡					○		『藤岡市史資料編　原始・古代・中世』1993　藤岡市史編纂委員会
66	動堂城							
67	上栗須寺前遺跡群		○		○	○	○	『上栗須寺前遺跡群Ⅰ～Ⅲ』1992 1994 1996 群埋文

第３節　基本土層

木部下久保田遺跡の１区と２区との現地表面での比高差は最大1.1mある。１区ではAs-Aを含んだ土層や洪水による砂質層が確認できるが、２区では、As-Aの混入が少なく、砂質層も見られない。

山名赤沼遺跡は、地表面から遺構確認面まで20cmほどとなる。そのため、調査区の北半分は耕作のために遺構は確認できない。

各地点での基本土層は以下の通りである。観察地点は第４図に示した。

木部下久保田遺跡

１区基本土層１～３

Ⅰ　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり。現耕作土。
Ⅱ　褐灰色土(10YR4/1)　φ１mmAs-Aを20％、褐色土を５％含む。しまりあり。
Ⅲ　にぶい赤褐色土(5YR4/4)　φ１～２mmAs-Aを３％含む。しまりあり。
Ⅳ　褐灰色土(10YR5/1)　As-A。赤褐色土を20％含む。もろい。
Ⅴ　灰黄褐色土(10YR5/2)　φ１～３mm白色粒を５％、褐色土を10％含む。やや砂質。
Ⅴ-b　灰黄褐色土(10YR4/2)　やや砂質。
Ⅵ　灰黄褐色土(10YR5/2)　褐色土を10％含む。砂質。
Ⅶ　褐灰色土(10YR4/1)　褐色土を５％、φ２mm白色粒を１％含む。しまりあり。粘性あり。(３号畦)
Ⅷ　褐色土(10YR4/4)　褐灰色土を10％含む。しまりあり。粘性あり。
Ⅸ　褐灰色(10YR4/1)　黄褐色土を層状に40％含む。φ１mm白色粒を２％含む。
Ⅸ-１　褐灰色土(10YR4/1)　褐色土を20％含む。やや粘質。
Ⅸ-２　褐灰色土(10YR4/1)　暗褐色土を20％含む。やや砂質。粘性あり。
Ⅸ-３　褐色土(10YR4/4)　褐灰色土を10％含む。
Ⅹ　灰黄褐色土(10YR4/2)　φ１～３mm黄褐色軽石を３％、砂を層状に10％含む。
Ⅺ　暗褐色土(10YR3/3)　粘質。柔らかい。
Ⅻ　暗褐色土(10YR3/3)　川の礫を多量に含む。

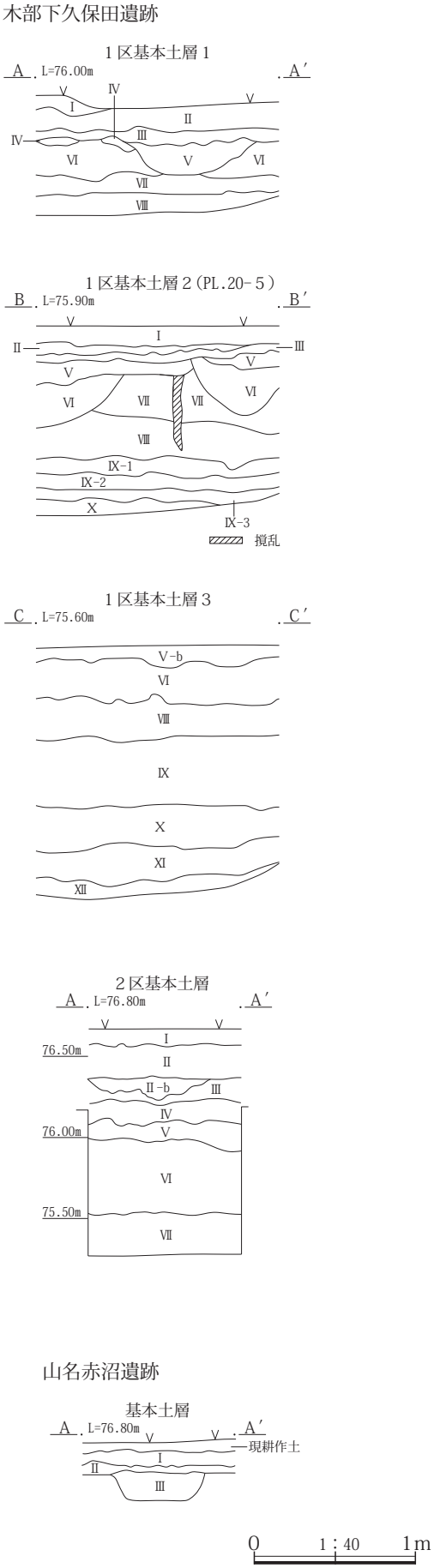
２区基本土層

Ⅰ　黒褐色土(10YR3/2)　現耕作土。
Ⅱ　暗褐色土(10YR3/4)　φ１～３mm程度のAs-Aを５％、小礫を３％含む。しまりあり。
Ⅱ-b　暗褐色土(10YR3/3)　φ１～２mm程度の白色粒を３％含む。しまりあり。
Ⅲ　褐色土(10YR4/6)　φ２～５mm程度の黒色粒を５％含む。しまりあり。
Ⅳ　褐色土(10YR4/6)　明褐色土を10％含む。しまりあり。
Ⅴ　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　明褐色土を７％含む。しまりあり。粘質土。
Ⅵ　黄褐色土(10YR5/8)　灰黄褐色土を10％含む。硬くしまる。粘質土。
Ⅶ　暗褐色土(10YR3/4)　φ５～６mm程度の黒褐色土を７％含む。硬くしまる。粘質土。

山名赤沼遺跡

基本土層

Ⅰ　褐色土(10YR4/1)　As-Aを３％含む。しまりあり。
Ⅱ　褐色土(10YR4/4)　黒褐色土を10％含む。黄褐色土を５％含む。しまりあり。粘質土。
Ⅲ　As-A。



第８図　木部下久保田遺跡と山名赤沼遺跡の基本土層

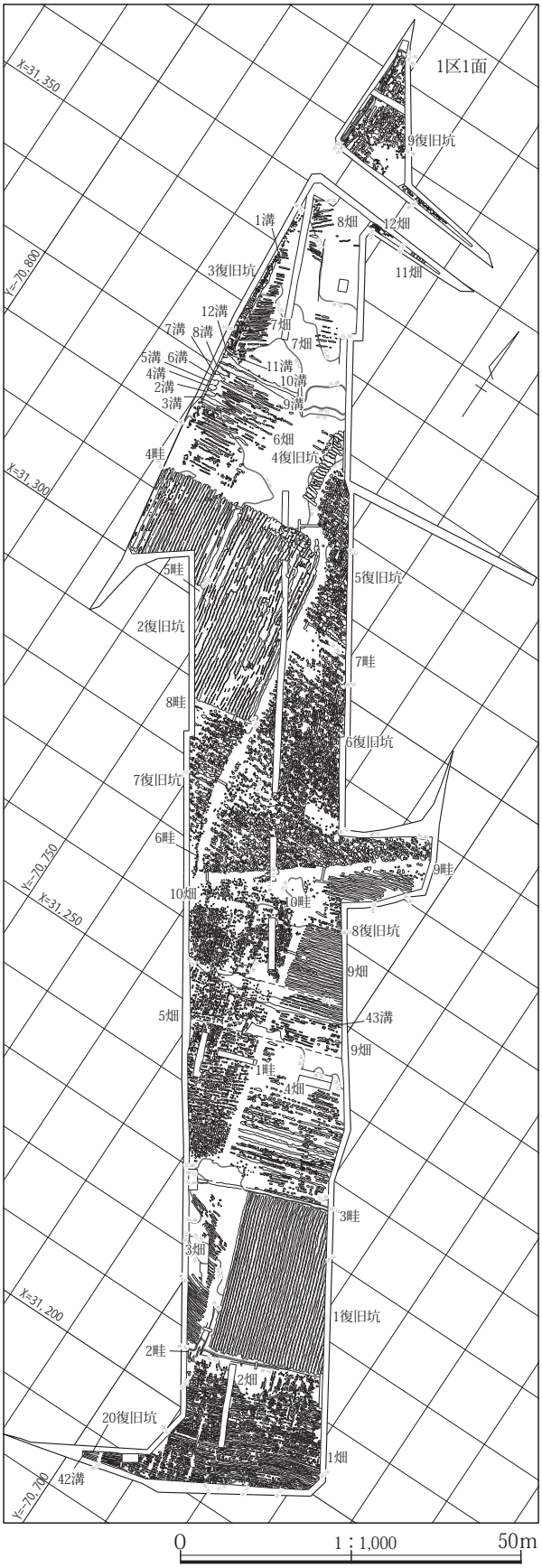
第３章　木部下久保田遺跡の遺構と遺物

第１節　調査の概要

調査は、平成29年度に実施した。１区は、表土から遺構確認面まで30～40cmで、耕作等の影響が顕著であった。よって現耕作土とその下の基本土層Ⅲ層下を第１面とし、天明３(1783)年の浅間山の噴火に伴うAs-A軽石降下後の復旧坑とその後の畑を調査した。

確認された遺構は畑12か所、復旧坑10か所、溝14条である。第２面では、洪水の復旧坑を調査した。天明以前の水害としては､寛保２(1742)年大洪水があげられるが、遺跡は烏川と鏑川に挟まれた低地にあるため、頻繁に洪水に見舞われていたと推定される。そのため、この洪水の時期がいつであるかを断定することはできないが、遺物は天明以前のものが中心である。調査した遺構は、復旧坑10か所、集石１基である。

２区は、発掘調査前の１区標高の平均が75.77mであるのに対し､76.86mと1.1mの比高差がある。そのため、圃場整備などによりAs-Aの関連する復旧坑等、上面の遺構は削平されていた。よって２区は、遺構確認面を第３面とし調査を実施した。確認された遺構は、掘立柱建物２棟､溝29条､土坑49基､ピット31基､屋外炉１基である。



第９図　１区１面　遺構全体図

第２節　第１面の遺構と遺物

（１）畑

１号畑（第10・11図　PL.２）

位置　X＝31,186～31,211　Y＝-70,667～-70,691

１区南、西に１号畦、20号復旧坑、北に２号畑に接する区画に位置する。

重複　なし。

規模　東西32.20m以上　南北18.24m以上

サク　条数　66条　条間　20～50cm　掘削間隔　１～28cm　長さ　計測不可　幅　８～26cm　深さ　１～６cm

主軸方位　N－65°－E

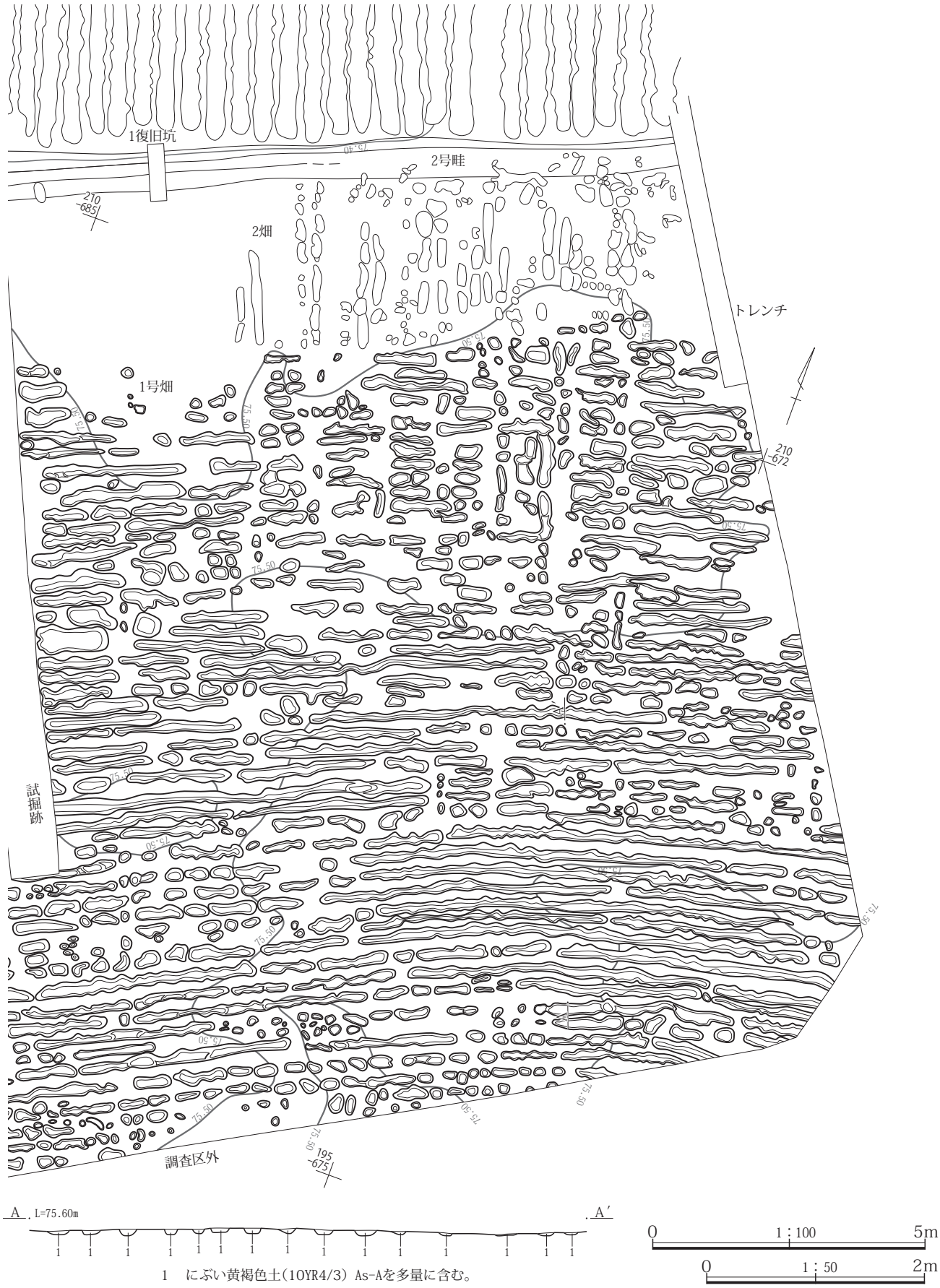
検出・埋没状況　埋土はAs-Aを多量に含むにぶい黄褐色土である。断面形は台形を呈する。

出土遺物　国産磁器２点、国産施釉陶器３点が出土した。国産磁器のうちの１点は、18世紀前葉～中葉の外面２重網目、内面１重網目文の肥前磁器碗底部片であるが、小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　出土遺物および埋土から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

第10図　１号畑（１）

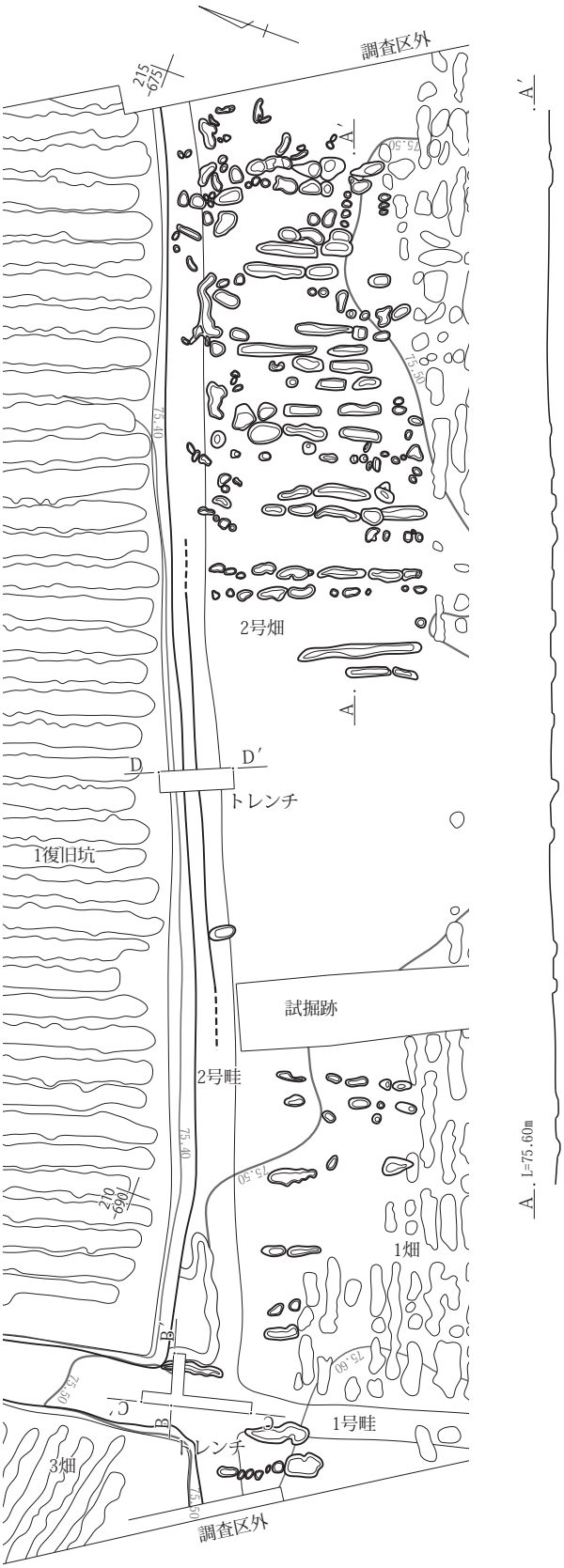
１号畑　割図２



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-Aを多量に含む。

第11図　１号畑(２)

２号畑



２号畑(第12図　PL.３・20)

位置　X＝31,206～31,214　Y＝-70,674～-70,693

１区南、北に２号畦、西に１号畦、南に１号畑に囲まれた区画内に位置する。

重複　なし。

規模　東西18.69m以上　南北3.23m以上

サク　条数　41条　条間・掘削間隔・長さ　計測不可

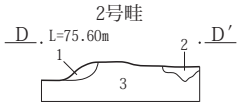
幅　11～20cm　深さ　２～７cm

主軸方位　N－19°－W

検出・埋没状況　埋土は褐色土を主体とし、As-Aが混じる灰黄褐色土である。断面形は台形を呈する。

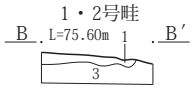
出土遺物　18世紀の瀬戸・美濃陶器碗の底部片が出土したが小片のため実測・図示できなかった。

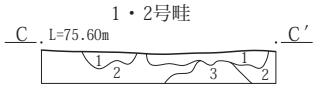
調査所見　遺物および埋土から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。



２号畦　D－D′

1　褐色土(10YR4/4)φ１～３mmAs-Aを３％含む。
2　褐色土(10YR4/4)シルト質。硬くしまる。
3　褐灰色土(10YR4/1)層状に褐色土を５％含む。
　φ２mm白色粒を１％含む。粘性あり。しまりあり。





１・２号畦　B－B′・C－C′

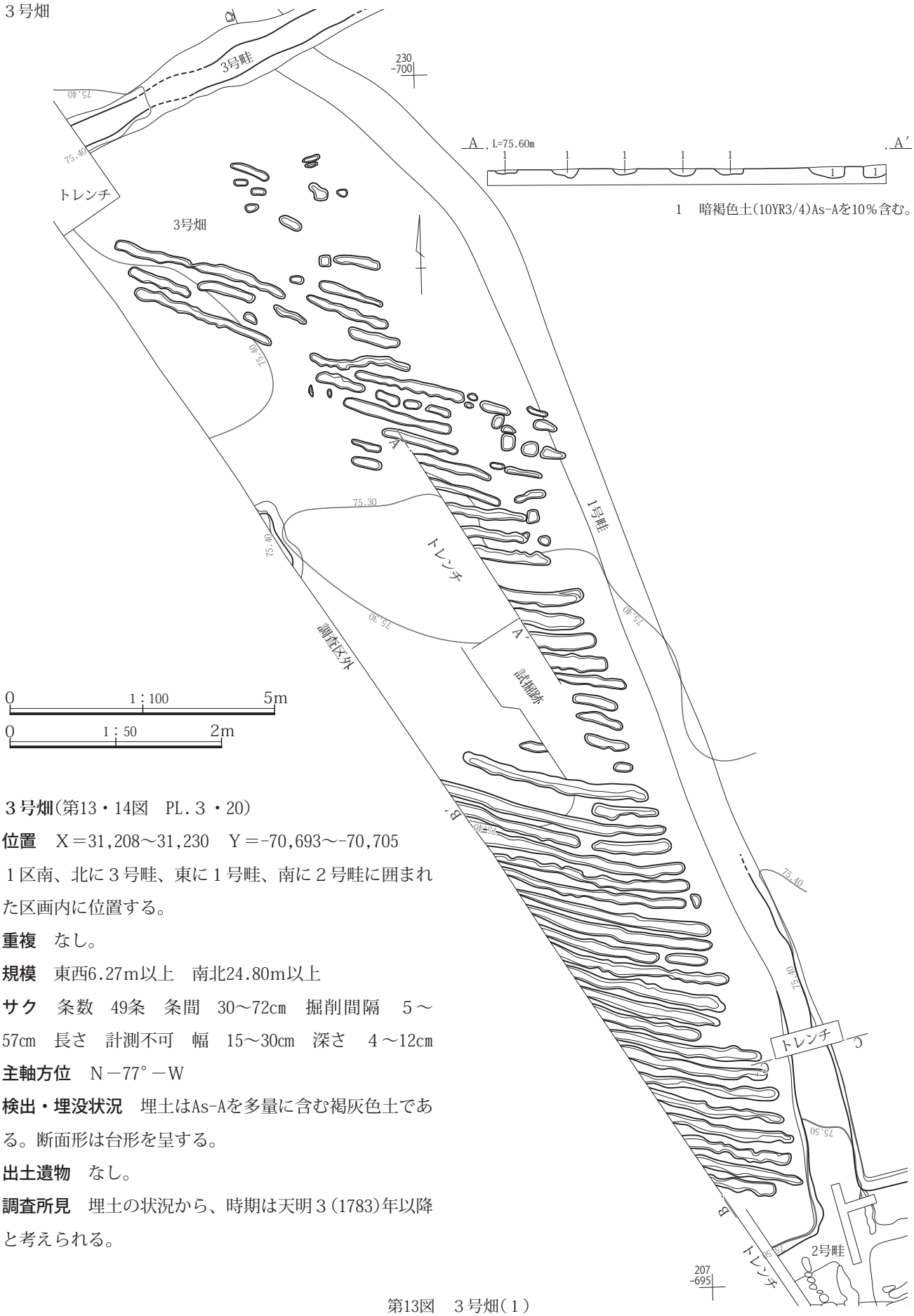
1　褐色土(10YR4/4)φ１～３mmAs-Aを３％含む。
2　褐色土(10YR4/4)シルト質。硬くしまる。
3　褐灰色土(10YR4/1)層状に褐色土を５％含む。
　φ２mm白色粒を１％含む。粘性あり。しまりあり。

0　1：100　5m

0　1：50　2m

第12図　２号畑

３号畑



３号畑(第13・14図　PL.３・20)

位置　X＝31,208～31,230　Y＝-70,693～-70,705

１区南、北に３号畦、東に１号畦、南に２号畦に囲まれた区画内に位置する。

重複　なし。

規模　東西6.27m以上　南北24.80m以上

サク　条数　49条　条間　30～72cm　掘削間隔　５～57cm　長さ　計測不可　幅　15～30cm　深さ　４～12cm

主軸方位　N－77°－W

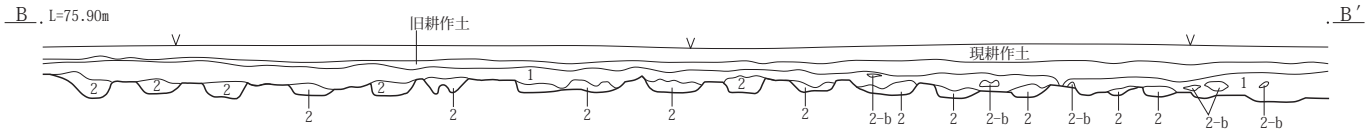
検出・埋没状況　埋土はAs-Aを多量に含む褐灰色土である。断面形は台形を呈する。

出土遺物　なし。

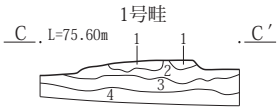
調査所見　埋土の状況から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

第13図　３号畑(１)

３号畑



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-A混土。As-Aを10％含む。
　赤褐色土(鉄分)30％含む。
2　褐灰色土(10YR4/1) As-Aを多量含む。
　所々Ａ混土を含む。しまりあり。
2-b　As-A。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)φ１～３mmAs-Aを５％含む。
2　褐色土(10YR4/4)シルト質。硬くしまる。
3　褐灰色土(10YR4/1)層状に褐色土を５％、φ２mm白色粒を１％含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/6)褐灰色土を10％含む。粘性あり。

４号畑(第14・15図　PL.４・66)

位置　X＝31,231～31,255　Y＝-70,687～-70,709

１区南、南に３号畦、西に１号畦と接する区画に位置する。

重複　なし。

規模　東西15.32m以上　南北21.90m以上

サク　条数　51条　条間　計測不可・掘削間隔・長さ計測不可　幅　16～50㎝　深さ　３～８㎝

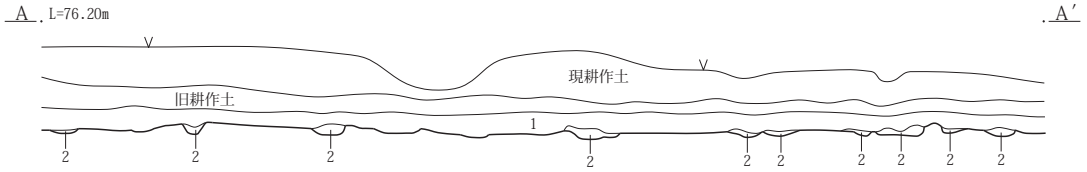
主軸方位　N－73°－E

検出・埋没状況　埋土はAs-Aを多量に含む褐灰色土である。断面形は台形を呈する。

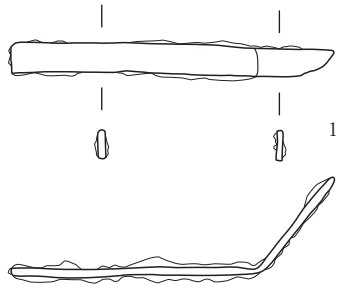
出土遺物　図示できたものは刀子の完形品(第14図１)１点である。そのほか国産施釉陶器が２点出土した。

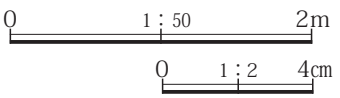
　内訳は瀬戸・美濃陶器18世紀後葉のすり鉢口縁部片および肥前陶器17世紀後葉～18世紀中葉緑釉皿底部片で、小片のため実測・図示には至らなかった。

調査所見　出土遺物および埋土から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-A混土。As-Aを10％含む。赤褐色土(鉄分)30％含む。
2　褐灰色土(10YR4/1)As-Aを多量含む。 所々Ａ混土を含む。しまりあり。





第14図　３号畑(２)、４号畑(１)と出土遺物

４号畑

第15図　４号畑（２）

５号畑(第16・17図　PL.４・５)

位置　X＝31,229～31,259　Y＝-70,703～-70,725

１区南、東に１号畦、南に３号畦、北に10号畑に囲まれた区画内に位置する。

重複　43号溝に後出する。

規模　東西12.38m以上　南北33.00m以上

サク　条数　46条　条間　20～42cm　掘削間隔　１～19cm　長さ　計測不可　幅　14～30cm　深さ　２～11cm

主軸方位　N－16°－W

検出・埋没状況　耕作痕には、As-Aが多量に含まれている。断面形は台形を呈する。

出土遺物　瀬戸・美濃陶器すり鉢口縁部片、瀬戸・美濃陶器袋物体部片、瀬戸・美濃陶器碗と思われる体部片が出土した。いずれも江戸時代所産であるが、小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　出土遺物および埋土から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

５号畑　割図１

第16図　５号畑(１)

５号畑　割図２

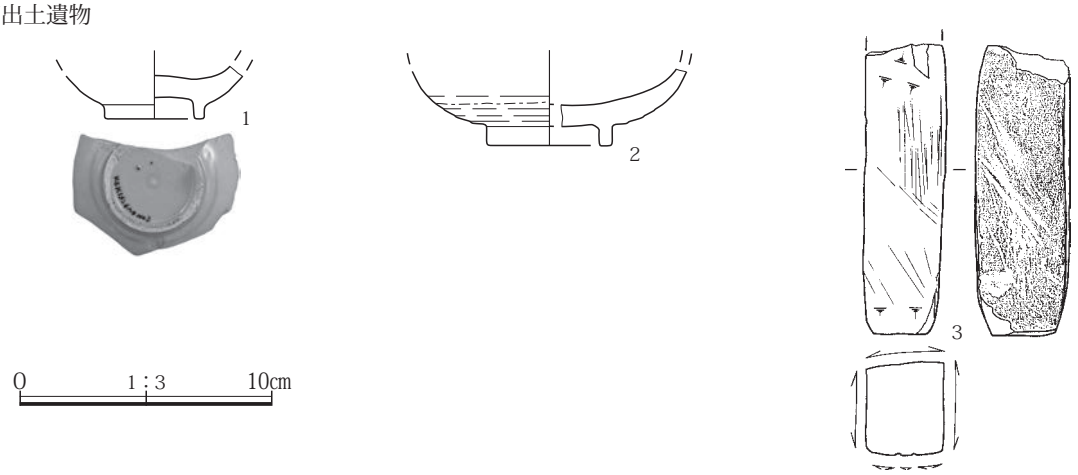
第17図　５号畑（２）

６号畑

A
L=75.20m
A′
12溝
11溝
7畑
10溝
9溝
8溝
7溝
6溝
5溝
4溝
2溝
3溝
調査区外
330
-770
330
-755
75.10
75.00
3
1
6号畑
6号畑耕具痕1
6号畑耕具痕2
B
B′
C
C′
315
-765
315
-755
4号畦
2復旧坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-Aを５％含む。
耕具痕1
B L=75.20m B′
耕具痕2
C L=75.20m C′
0　1：100　5m
0　1：50　2m
耕具痕１・２
1　As-A。

第18図　６号畑

６号畑出土遺物



第19図　６号畑出土遺物

６号畑(第18・19図　PL. ５・６・66)

位置　X＝31,314～31,332　Y＝-70,755～-70,769

１区南、南に４号畦、西側に２～10号溝に接する区画に位置する。

重複　なし。

規模　東西14.18m以上　南北16.61m以上

サク　条数　37条　条間　22～68cm　掘削間隔　６～44cm　長さ　計測不可　幅　11～37cm　深さ　２～12cm

主軸方位　N－87°－E

検出・埋没状況　埋土はAs-Aを微量含むにぶい黄褐色土である。断面形は台形を呈する。

出土遺物　図示できたものは、肥前磁器染付碗(第19図１)１点、瀬戸・美濃碗(第19図２)１点で、いずれも18世紀の所産である。そのほか肥前磁器碗体部片、肥前陶器陶胎染付碗口縁部片(17世紀後葉～18世紀中葉)が出土したが､小片のため実測・図示できなかった。そのほか、砂岩製砥石(第19図３)１点が出土した。

調査所見　出土遺物および埋土から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

７号畑(第20・21図　PL. ６・66)

位置　X＝31,332～31,355　Y＝-70,757～-70,772

１区北、東に８号畑、南に10号溝、西に１号溝に接する区画に位置する。

重複　なし。

規模　東西15.22m以上　南北21.86m以上

サク　条数　43条　条間　27～72cm　掘削間隔　８～86cm　長さ　1.11～4.00m　幅　10～47cm　深さ　１～８cm

主軸方位　N－56°－E

検出・埋没状況　埋土はAs-Aを微量に含むにぶい黄褐色土である。断面形は台形を呈する。

出土遺物　掲載遺物は砂岩製砥石(第20図１)の１点である。肥前磁器碗底部片、瀬戸美濃陶器器種不詳片、在地系焙烙と思われる底部片が出土した。時期は江戸時代、他は小片であるため時期判別することはできなかった。いずれの破片も実測・図示はしていない。

調査所見　出土遺物および埋土から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

８号畑(第20・21図　PL. ６)

位置　X＝31,346～31,358　Y＝-70,757～-70,771

１区北、西に７号畑に接する区画に位置する。

重複　なし。

規模　東西7.52m以上　南北16.80m以上

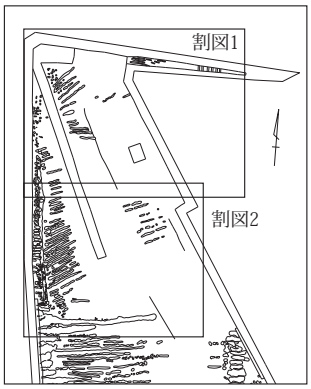
サク　条数　14条　条間　20～105cm　掘削間隔　５～78cm　長さ　計測不可　幅　14～36cm　深さ　１～８cm

主軸方位　N－48°－E

検出・埋没状況　埋土はAs-Aを微量に含むにぶい黄褐色土である。断面形は台形を呈する。

出土遺物　時期不詳土器１点、江戸時代の肥前磁器碗口縁部片１点、瀬戸・美濃陶器灰釉碗口縁部片１点の計３点が出土した。いずれも小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　出土遺物および埋土から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。



７号畑、８号畑　割図１

７号畑出土遺物

第20図　７号畑（１）と出土遺物、８号畑（１）

７号畑　割図２

７号畑　A－A′

1　にぶい黄褐色土(10YRYR4/3)褐灰色土を10%、As-Aを５％含む。

８号畑　A－A′

1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-Aを５％含む。

0　1：100　5m

0　1：50　2m

第21図　７号畑（２）、８号畑（２）

９号畑(第22図　PL.６・７)

位置　X＝31,253～31,274　Y＝-70,699～-70,714

１区北、西に10号畦、北に８号復旧坑、南に４号畑に接する区画に位置する。

重複　43号溝に後出する。

規模　東西18.90m以上　南北22.10m以上

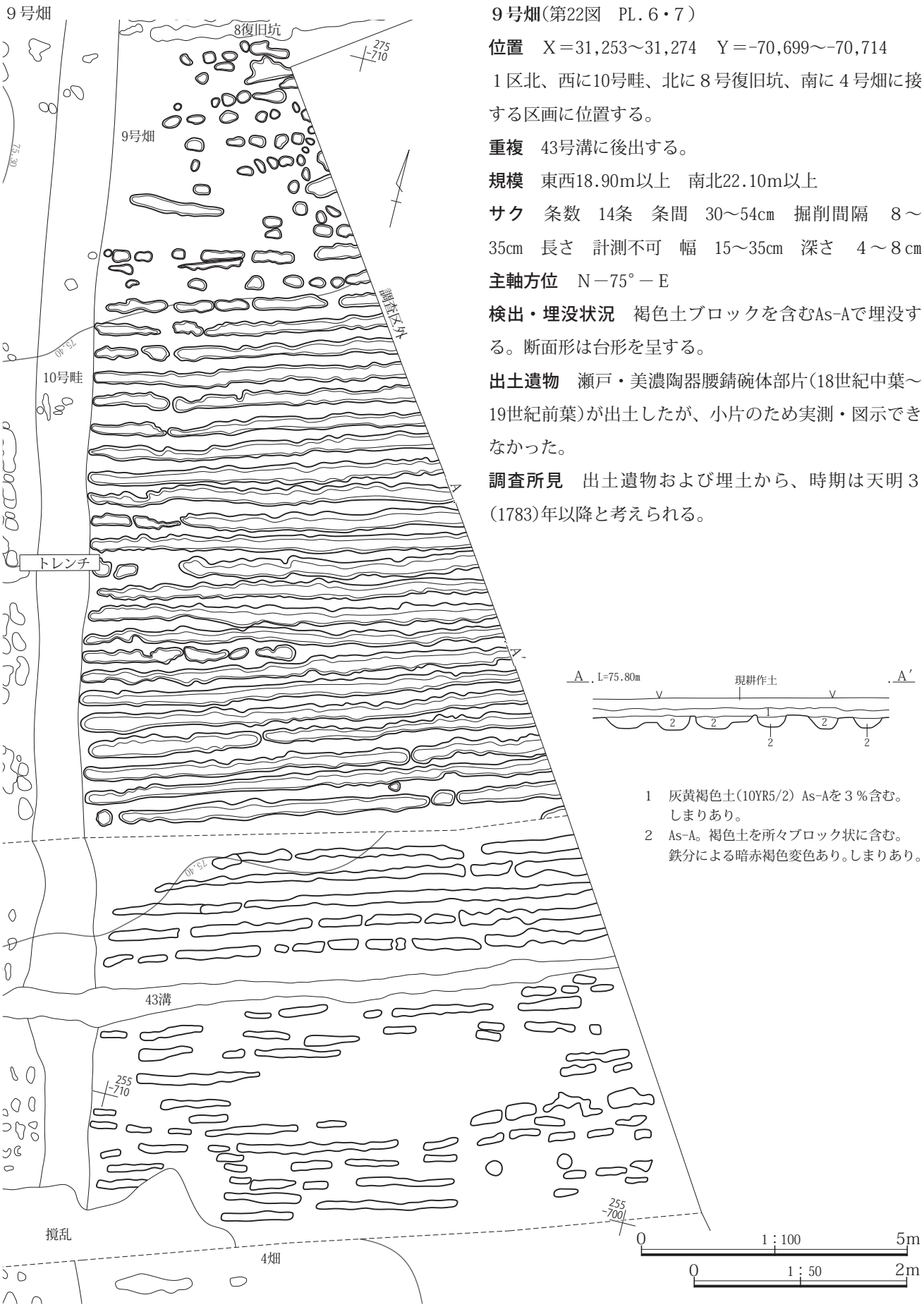
サク　条数　14条　条間　30～54cm　掘削間隔　８～35cm　長さ　計測不可　幅　15～35cm　深さ　４～８cm

主軸方位　N－75°－E

検出・埋没状況　褐色土ブロックを含むAs-Aで埋没する。断面形は台形を呈する。

出土遺物　瀬戸・美濃陶器腰錆碗体部片(18世紀中葉～19世紀前葉)が出土したが、小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　出土遺物および埋土から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。



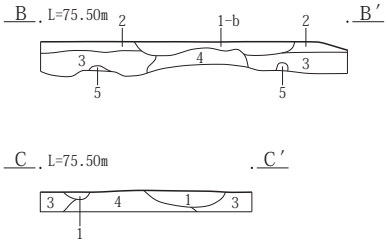
第22図　９号畑

10号畑

第23図　10号畑（１）

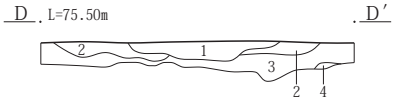
10号畑

９号畦

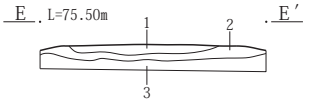


B－B′・C－C′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-Aを５％含む。硬くしまる。
1－b　にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-Aを２％含む。硬くしまる。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-Aを２％、シルト質土を20％含む。硬くしまる。
3　褐灰色土(10YR4/1)シルト質土。洪水層。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)非常に硬くしまる。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)粘性、しまりあり。

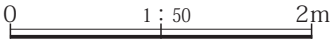
10号畦



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-Aを部分的に３％含む。褐色の粘土を30％含む。やや粘性あり。非常に硬くしまる。
2　灰黄褐色土(10YR5/2)褐色の粘土を20％含む。硬くしまる。
3　褐灰色土(10YR4/1)シルト質土。洪水層。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)粘性、しまりあり。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-Aを５％含む。褐色土を30％含む。硬くしまる。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)As-Aを１％含む。砂質土を20％含む。しまりあり。
3　褐灰色土(10YR4/1)シルト質土。洪水層。



第24図　10号畑（２）

10号畑（第23・24図　PL.７）

位置　X＝31,255～31,276　Y＝-70,712～-70,731　１区南、北に９号畦、東に10号畦、南に５号畑に囲まれた区画内に位置する。

重複　なし。

規模　東西18.42m以上　南北17.50m以上

サク　条数　53条　条間　21～40㎝　掘削間隔　０～17㎝　長さ　計測不可　幅　13～29㎝　深さ　２～７㎝

主軸方位　N－18°－W

検出・埋没状況　埋没状況の記録はないが９号畦、10号畦、５号畑の記録から埋土にはAs-Aを含んでいたと推測される。断面形は台形または弧状を呈する。

出土遺物　肥前陶器陶胎染付碗体部片(17世紀後葉～18世紀中葉)が出土したが、小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　出土遺物および埋土から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

11号畑（第25図　PL.７）

位置　X＝31,359　Y＝-70,752～-70,755　１区南端、北に位置する。

重複　なし。

規模　東西24.00m以上　南北0.62m以上

サク　条数　６条　条間　37～58㎝　掘削間隔　22～42㎝　長さ　計測不可　幅　13～17㎝　深さ　未掘削のため深さは不明

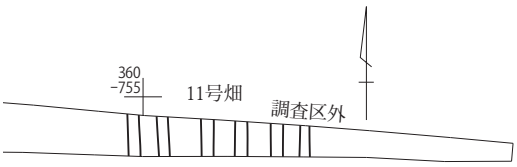
主軸方位　N－１°－W

検出・埋没状況　調査地点が狭小のため遺構は未掘削である。平面の確認状況から、埋土にはAs-Aを含んでいる。

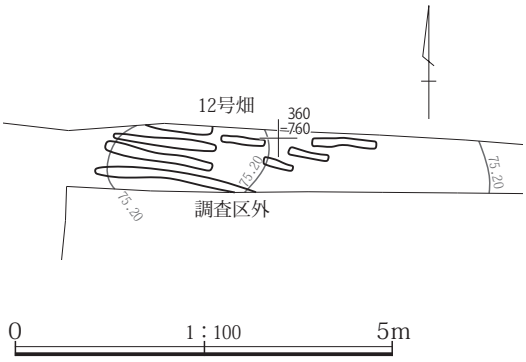
出土遺物　肥前陶器陶胎染付碗体部片(17世紀後葉～18世紀中葉)が出土したが、小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　出土遺物および埋土から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

11号畑



12号畑



第25図　11号畑、12号畑

12号畑(第25図　PL.７)

位置　X＝31,359～31,360　Y＝-70,758～-70,762

１区南、東に11号畑、西に８号畑に接する区画に位置する。

重複　なし。

規模　東西36.20m以上　南北1.11m以上

サク　条数　５条　条間　20～22cm　掘削間隔　９cm

長さ　計測不可　幅　10～13cm　深さ　未掘削のため深さは不明

主軸方位　N－79°－W

検出・埋没状況　調査地点が狭小のため遺構は未掘削である。平面の確認状況から、埋土にはAs-Aを含んでいる。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の確認状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

（２）復旧坑

１号復旧坑(第26～28図　PL.８・66)

位置　X＝31,209～31,705　Y＝-70,765～-70,701

１区南、北に３号畦、南に２号畦、西に１号畦に囲まれた区画内に位置する。

重複　なし。

規模　東西17.73m以上　南北24.13m以上

サク　条数　40条　条間　32～52cm　掘削間隔　３～26cm　長さ　23.25～23.98m　幅　19～37cm　深さ　５～15cm

主軸方位　N－18°－W

検出・埋没状況　埋土はAs-Aを主体とし、断面形は台形または弧状を呈する。

出土遺物　出土遺物のうち図示できたものは、肥前磁器青磁染付碗(第27図１)、焙烙を加工した円盤状製品(第27図２)、煙管雁首(第27図３)、火打金(第27図４)の４点である。そのほか、陶磁器片や焙烙破片などが14点出土したが、小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　出土遺物はすべて江戸時代のものである。埋土にはAs-Aが充填されていることから、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

２号復旧坑(第28～31図　PL.９・20・22・66)

位置　X＝31,287～31,317　Y＝-70,736～-70,868

１区北、北に４号畦、東に６号畦、南に８号畦に囲まれた区画内に位置する。ほぼ中央には５号畦が南北に走向する。

重複　なし。

規模　東西26.46m　南北29.12m以上

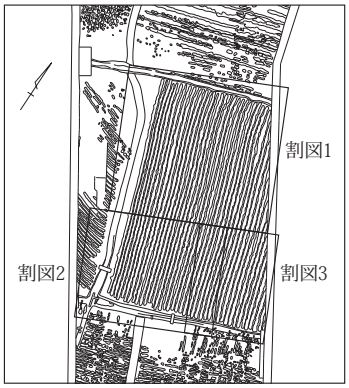
サク　条数　58条　条間　30～56cm　掘削間隔　６～23cm　長さ　計測不可　幅　18～48cm　深さ　７～21cm

主軸方位　N－９°－W

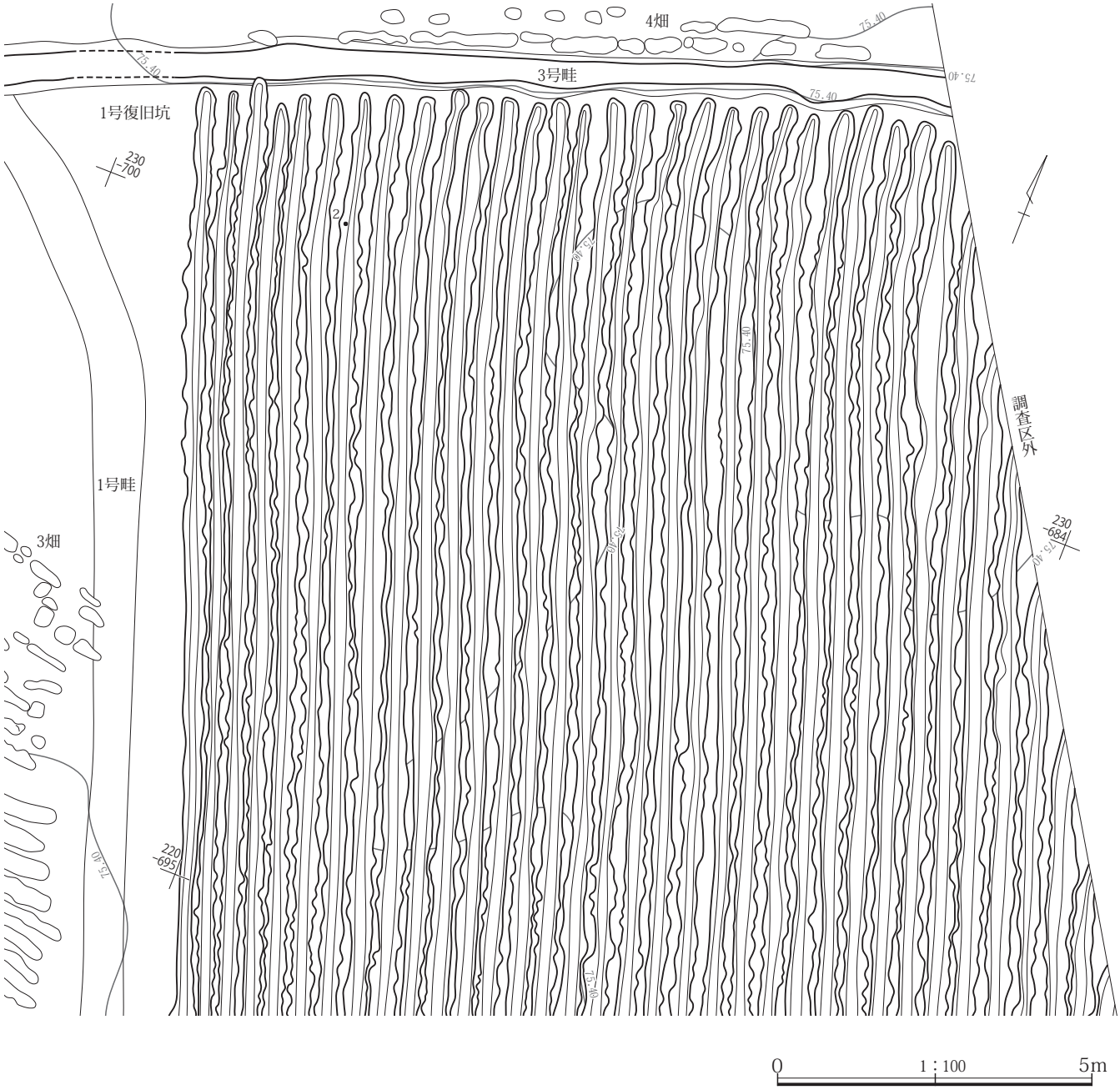
検出・埋没状況　埋土はAs-Aを主体とし、部分的にAs-Aを多量に含む灰黄褐色土が混入する。断面形は台形を呈する。

出土遺物　出土遺物のうち図示できたものは、肥前陶器皿(第29図１)と龍泉窯系青磁碗(第29図２)の２点である。そのほか、陶磁器片や焙烙破片などが29点出土したが、小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　出土遺物には17世紀までさかのぼるものもあるが、埋土にはAs-Aが充填されていることから、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。



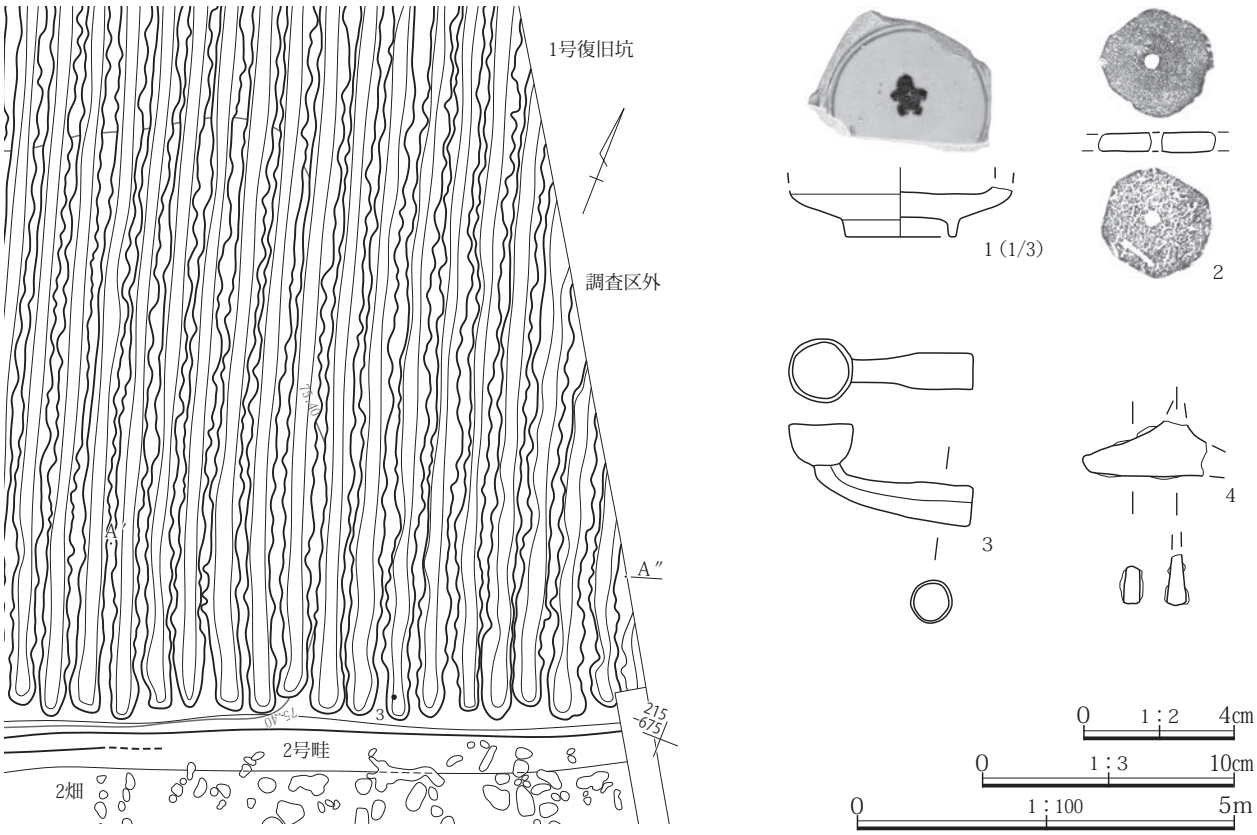
１号復旧坑　割図１



第26図　１号復旧坑（１）

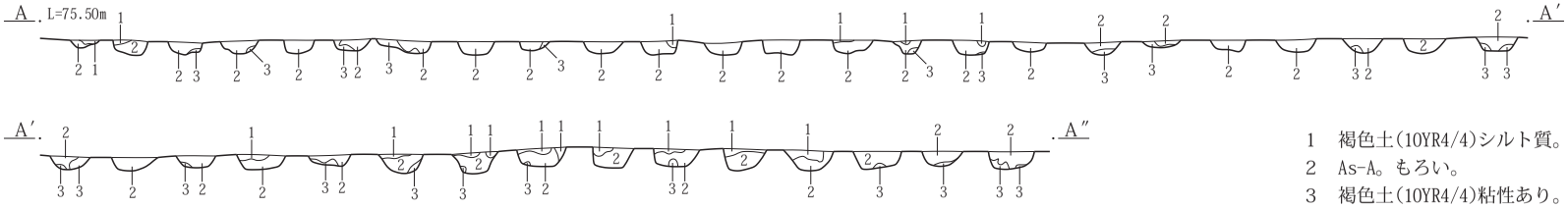
１号復旧坑　割図２

１号復旧坑　割図３



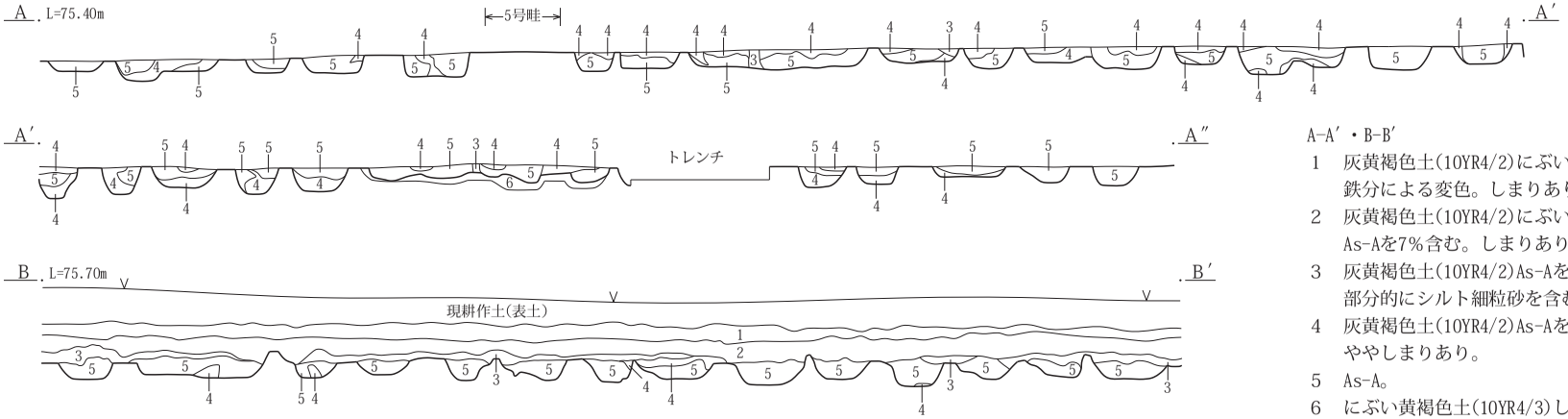
第27図　１号復旧坑（２）と出土遺物

１号復旧坑



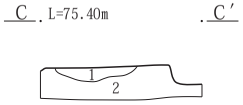
1　褐色土(10YR4/4)シルト質。しまりあり。
2　As-A。もろい。
3　褐色土(10YR4/4)粘性あり。

２号復旧坑



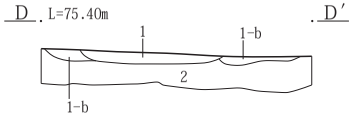
A-A′・B-B′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)にぶい赤褐色土を30％含む。
　　鉄分による変色。しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)にぶい赤褐色土を40％含む。
　　As-Aを7％含む。しまりあり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)As-Aを５％含む。
　　部分的にシルト細粒砂を含む。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)As-Aを20％程度含む。
　　ややしまりあり。
5　As-A。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)しまりあり。粘質土。

５号畦



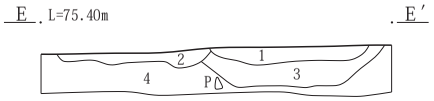
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-Aを１％含む。
　　シルト質土10％含む。硬くしまる。
2　褐灰色土(10YR4/1)砂質土。洪水層。

４号畦



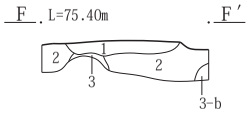
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-Aを１％含む。シルト質土10％含む。硬くしまる。
1－b　にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-Aを１％含む。シルト質土20％含む。しまりあり。
2　褐灰色土(10YR4/1)砂質土。洪水層。

６号畦



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-Aを３％含む。非常に硬くしまる。
2　灰黄褐色土(10YR4/2) As-Aを５％、褐色土を10％含む。
3　褐灰色土(10YR4/1)砂質土。洪水層。
4　灰黄褐色土(10YR5/2)やや粘性。非常に硬くしまる。（２面11号畦）

８号畦

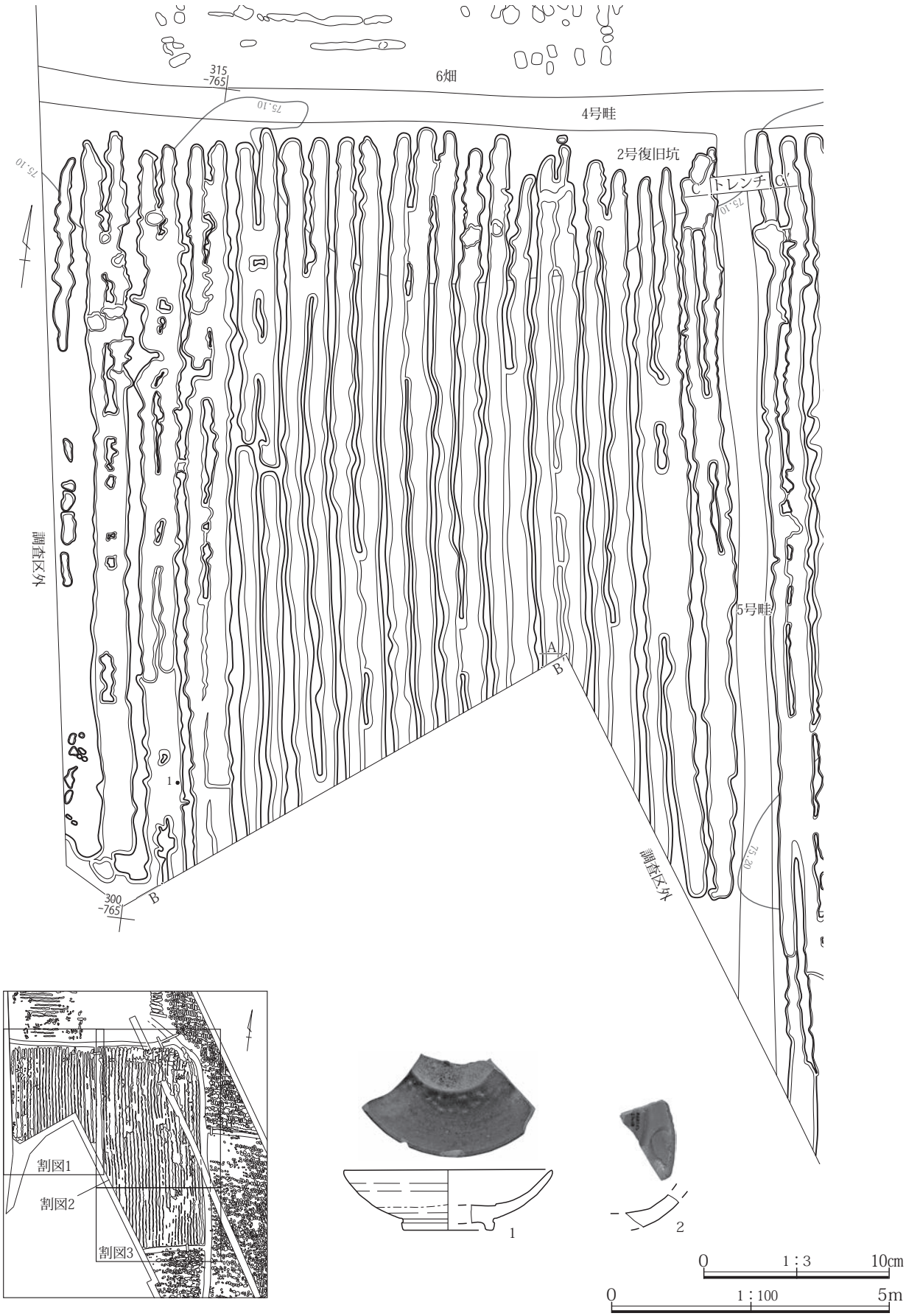


1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)As-Aを１％含む。シルト質土10％含む。硬くしまる。
2　褐灰色土(10YR4/1)砂質土。洪水層。
3　灰黄褐色土(10YR5/2)粘性、しまりあり。
3－b　灰黄褐色土(10YR4/2)粘性。しまりあり。褐色の粘土を20％含む。

0　1：50　2m

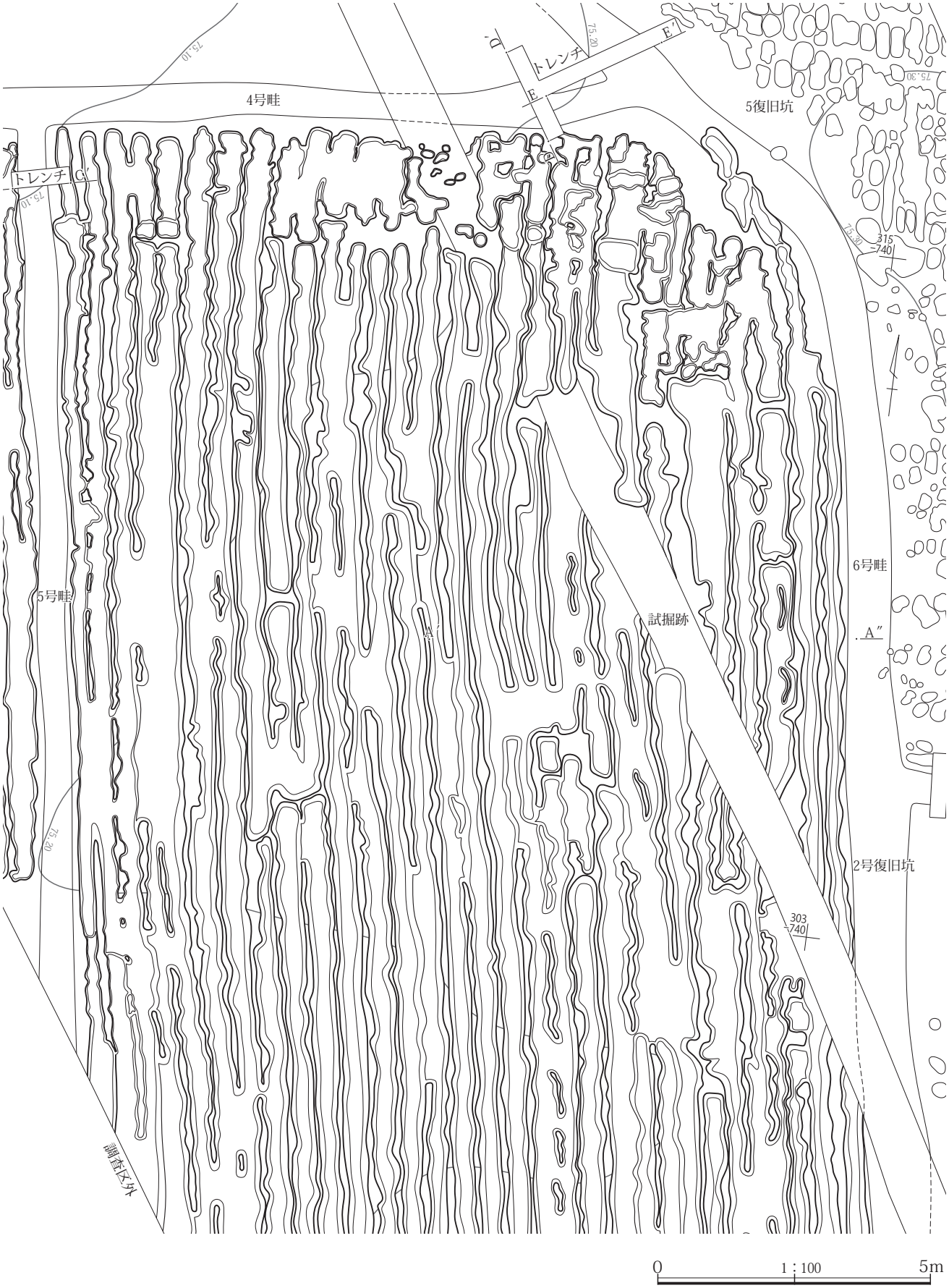
第28図　１号復旧坑（３）、２号復旧坑（１）

２号復旧坑　割図１



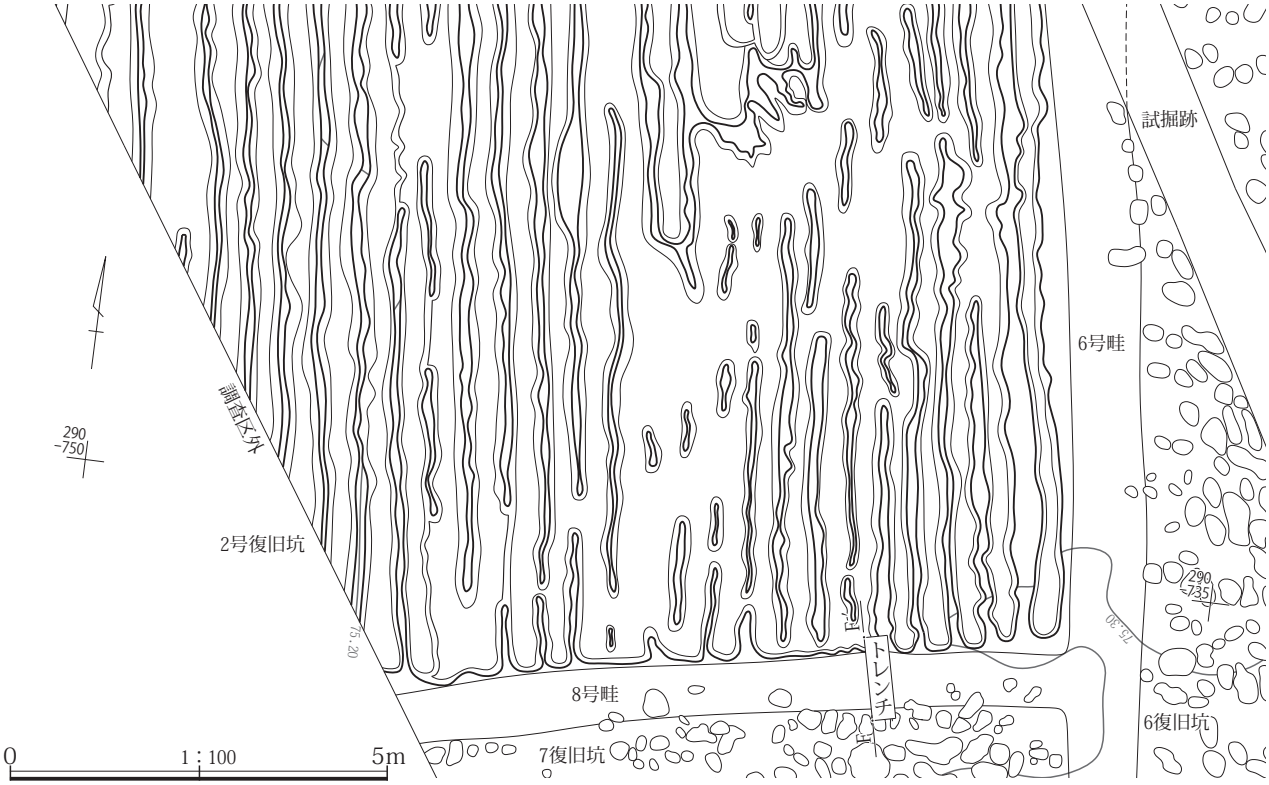
第29図　２号復旧坑（２）と出土遺物

２号復旧坑　割図２



第30図　２号復旧坑（３）

２号復旧坑　割図３



第31図　２号復旧坑（４）

３号復旧坑（第32図　PL.10）

位置　X＝31,333～31,348　Y＝-70,769～-70,771

１区北、東に１号溝、南に12号溝に接する区画に位置する。

重複　１号溝と同時期。

規模　東西1.24m以上　南北15.16m以上

サク　条数　40条　条間・掘削間隔・長さ・幅　計測不可　深さ　１～13cm

主軸方位　計測不可

検出・埋没状況　埋土はAs-Aを多量に含む褐色土である。断面形は台形を呈する。

出土遺物　国産磁器１点が出土したが小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　出土遺物や埋土の状況から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

４号復旧坑（第32図　PL.10）

位置　X＝31,321～31,332　Y＝-70,747～-70,751

１区北、南に６号畦、東に５号復旧坑に接する区画に位置する。

重複　なし。

規模　東西4.90m　南北12.32m以上

サク　条数　23条　条間　40～66cm　掘削間隔　３～22cm　長さ　1.18～1.99m　幅　26～63cm　深さ　12～24cm

主軸方位　N－82°－E

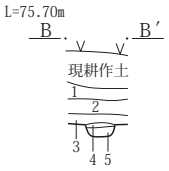
検出・埋没状況　埋土はAs-Aを主体とし、褐色土ブロックが少量混じる。断面形は長方形を呈する。

出土遺物　出土遺物のうち図示できたものは、製作地不詳染付碗（第32図１）のみである。そのほか、肥前磁器碗と瀬戸美濃陶器碗がそれぞれ１点出土したが、小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　出土遺物には近現代のもの含まれているが、埋土にはAs-Aが充填されているため、後世の耕作による混入と考えられる。未掲載出土遺物の時期は江戸時代であり、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

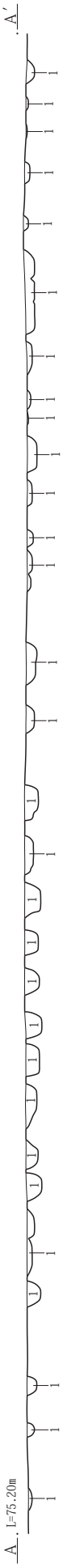
３号復旧坑

A-A′
1　褐色土(10YR4/4)
灰黄褐色土混土。
As-Aを30％含む。しまりあり。

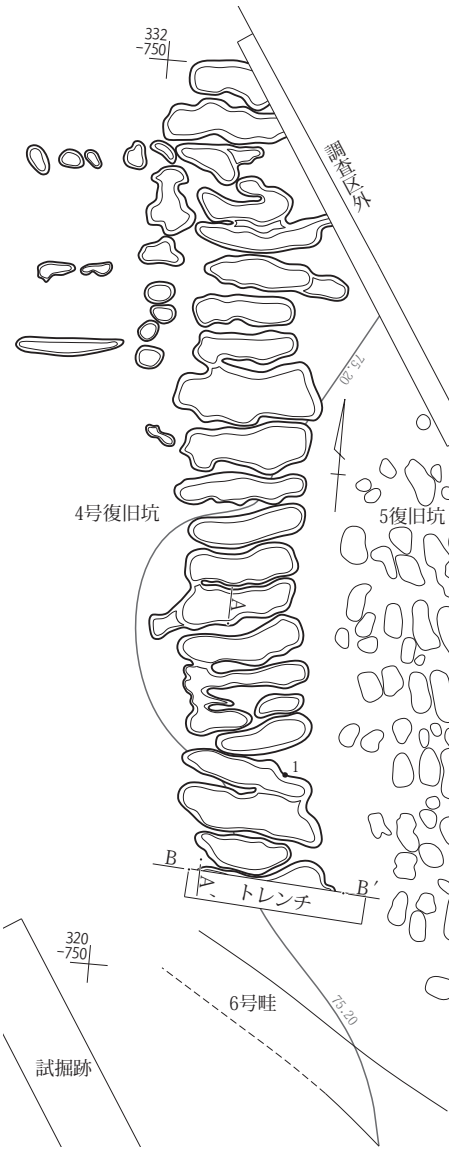


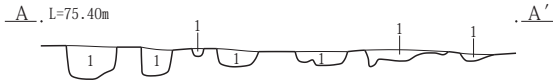
B-B′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)
にぶい赤褐色土を30％含む。
鉄分による変色。しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)
にぶい赤褐色土を40％含む。
As-Aを７％含む。しまりあり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)
As-Aを５％含む。部分的にシルト細粒砂を含む。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)
As-Aを20％程度含む。
ややしまりあり。
5　As-A。

0　1：100　5m
0　1：50　2m

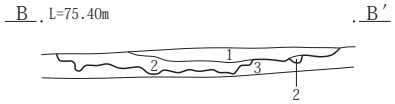


４号復旧坑

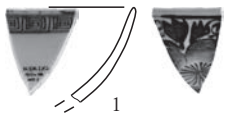




A-A′
1　As-A。褐色土をブロック状に５％含む。



B-B′
1　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土を30％含む。
2　As-A。褐色土を20％含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)砂質。



0　1：3　10cm

第32図　３号復旧坑、４号復旧坑と出土遺物

５号復旧坑(第33図　PL.11・22)

位置　X＝31,305～31,327　Y＝-70,731～-70,747

１区北、南に７号畦、西に６号畦に接する区画に位置する。

重複　なし。

規模　東西7.25m以上　南北22.14m以上

サク　条数　48条　条間・掘削間隔・長さ・幅　計測不可　深さ　３～９cm

主軸方位　N－３°－W

検出・埋没状況　埋土はAs-Aを主体とし、断面形は三角形または台形を呈する。

出土遺物　なし

調査所見　埋土にはAs-Aが充填されていることから、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

７号畦

1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)砂質土10％含む。非常に硬くしまる。

1－b　にぶい黄褐色土(10YR4/3)砂質土10％含む。硬くしまる。

2　褐灰色土(10YR4/1)砂質土。洪水層。灰黄褐色の粘土を10％含む。

3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)粘性あり。しまりあり。

第33図　５号復旧坑

６号復旧坑　割図１

第34図　６号復旧坑（１）

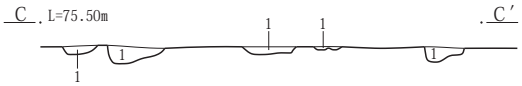
６号復旧坑　割図２

A-A′・B-B′
1　As-Aに褐色土を20％含む。

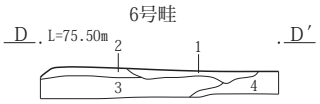
0　1：100　5m
0　1：50　2m

第35図　６号復旧坑（２）

６号復旧坑　割図３



1　As-Aに褐色土を30％含む。



６号畦
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-Aを３％含む。非常に硬くしまる。
2　褐灰色土(10YR4/1)砂質土。洪水層。
3　灰黄褐色土(10YR5/2)やや粘性。非常に硬くしまる。（２面11号畦）
4　灰黄褐色土(10YR4/2)粘性あり。しまりあり。

0　1：100　5m
0　1：50　2m

第36図　６号復旧坑（３）

６号復旧坑（第34～36図　PL.12）

位置　X＝31,266～31,305　Y＝-70,703～-70,738
１区北、北に７号畦、南に９号畦、西に６号畦に囲まれた区画内に位置する。

重複　なし。

規模　東西31.86m以上　南北38.36m以上

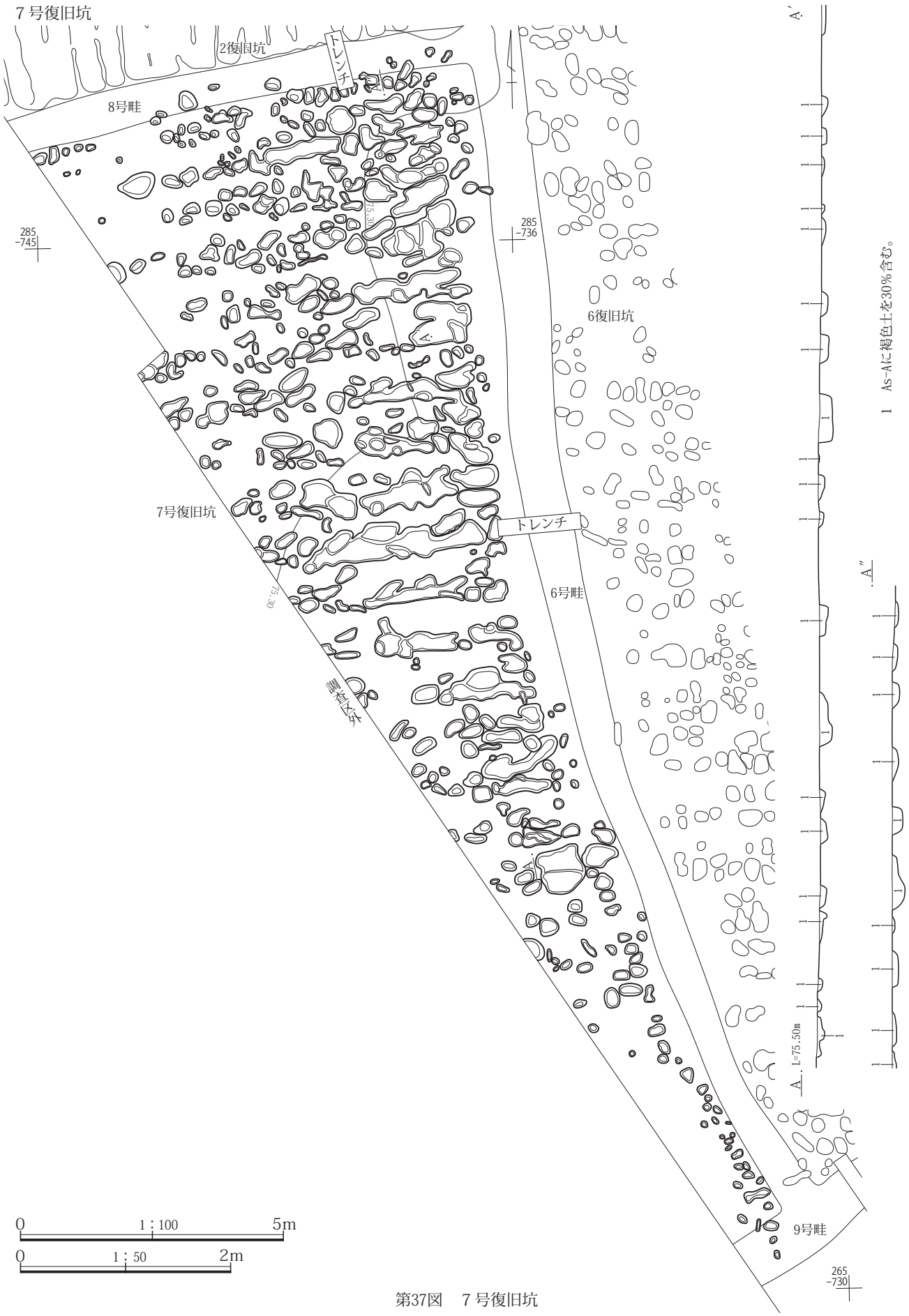
サク　条数・条間・掘削間隔・長さ・幅　計測不可　深さ　１～12cm

主軸方位　北はＮ－28°－W、X=31,290付近ではＮ－１°－W、X=31,280付近ではＮ－87°－W

検出・埋没状況　後世の耕作により復旧坑の上位は削平されているため、連続する耕作痕の状態で検出した。掘削方向は、大きく３つに分類できる。埋土はAs-Aを主体で褐色土を多量に含んでいる。断面形は台形、長方形、弧状を呈する。

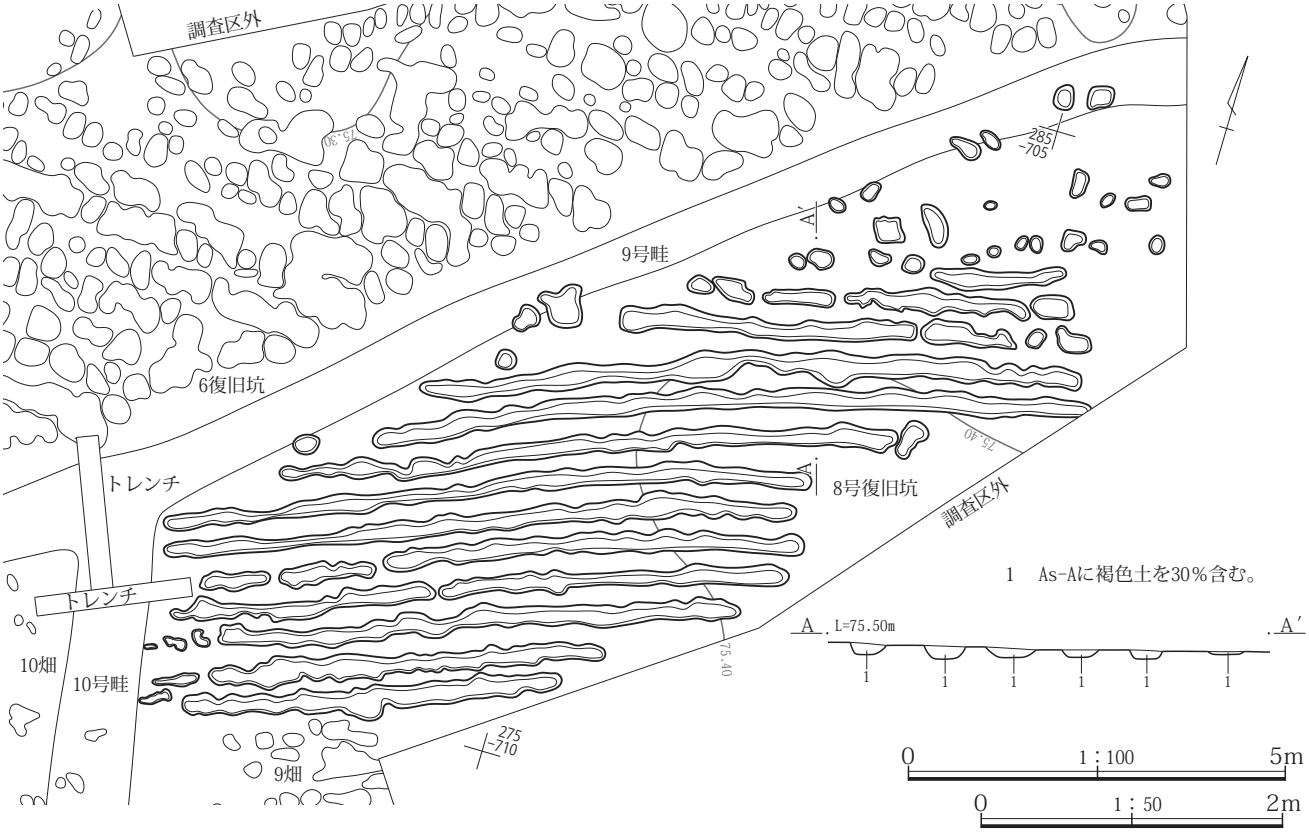
出土遺物　瀬戸・美濃陶器体部片、肥前陶器小片がそれぞれ１点出土したが、小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　掘削方向が３つに分類できるため、所有者が異なる復旧坑または復旧の時期に差がある可能性がある。出土遺物はすべて江戸時代のものであり。埋土にはAs-Aが充填されていることから、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。


７号復旧坑
2復旧坑
トレンチ
8号畦
285
-745
285
-736
75.30
6復旧坑
7号復旧坑
トレンチ
6号畦
調査区外
9号畦
265
-730
A
A'
A''
A. L=75.50m
1 As-Aに褐色土を30%含む。
0
1：100
5m
0
1：50
2m

第37図　７号復旧坑

８号復旧坑



第38図　８号復旧坑

７号復旧坑(第37図　PL.13)

位置　X＝31,265～31,288　Y＝－70,731～-70,745

１区北、北に８号畦、東に６号畦、南に９号畦に囲まれた区画に位置する。

重複　なし。

規模　東西8.61m以上　南北22.58m以上

サク　条数・条間・掘削間隔・長さ・幅　計測不可

深さ　１～14cm

主軸方位　N－84°－E

検出・埋没状況　後世の耕作により上位は削平されているため、連続する耕作痕として検出した。埋土はAs-Aを主体とし、褐色土ブロックが多量に混じる。断面形は長方形、三角形を呈する。

出土遺物　丹波陶器すり鉢体部片、肥前磁器片２点と製作地不詳陶器片１点出土したが、小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　埋土にAs-Aを含み、未掲載出土遺物は江戸時代の所産であることから、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

８号復旧坑(第38図　PL.14)

位置　X＝31,274～31,285　Y＝-70,702～-70,714

１区北、北に９号畦、西に10号畦、南に９号畑に囲まれた区画に位置する。

重複　なし。

規模　東西11.14m以上　南北5.27m以上

サク　条数　13条　条間　38～50cm　掘削間隔　13～27cm　長さ　3.94～9.53m　幅　15～32cm　深さ　４～７cm

主軸方位　N－70°－E

検出・埋没状況　埋土はAs-Aを主体とし、褐色土ブロックが多量に混じる。断面形は台形を呈する。

出土遺物　なし。

調査所見　埋土にAs-Aを含むことから、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

９号復旧坑　割図１

９号復旧坑（第39・40図　PL.14）

位置　Ｘ＝31,365～31,382　Ｙ＝-70,753～-70,772

１区最北端に位置する。

重複　なし。

規模　東西18.76m以上　南北18.46m以上

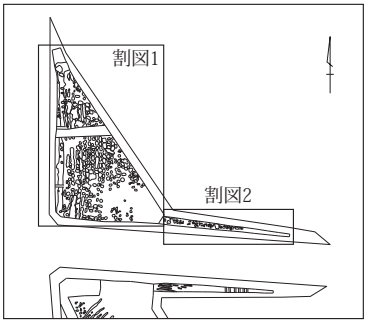
サク　条数　18条　条間　36～50cm　掘削間隔　２～27cm　長さ　計測不可　幅　18～41cm　深さ　２～８cm

主軸方位　Ｎ－４°－Ｅ

検出・埋没状況　埋土はAs-Aを主体とし、断面形は不整形である。調査区の西側は旧河道と微高地の境界にあたる。

出土遺物　なし。

調査所見　埋土にAs-Aを含むことから、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

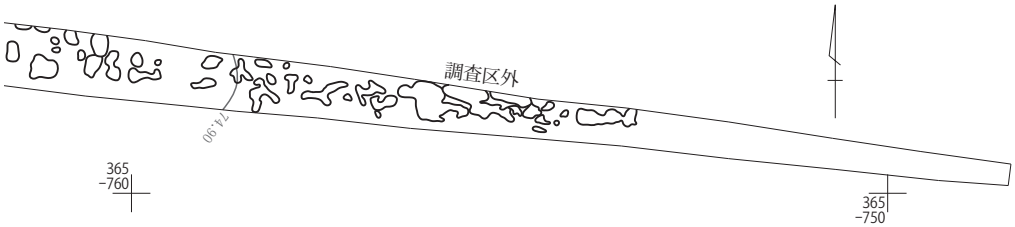


0　1：100　5m

0　1：50　2m

第39図　９号復旧坑（１）

９号復旧坑　割図２



20号復旧坑(第40図　PL.27)

位置　X＝31,186～31,187　Y＝-70,696～-70,698

１区最南端に位置する。

重複　42号溝より前出する。

規模　東西2.09m以上　南北1.48m以上

サク　条数　３条　条間　43～46㎝　掘削間隔　19～26㎝　長さ　計測不可　幅　17～19㎝　深さ　計測不可

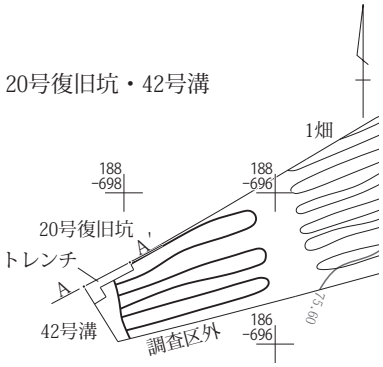
主軸方位　N－74°－E

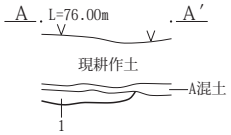
検出・埋没状況　埋土はAs-Aを主体としている。調査範囲が狭小のため、上端のみの確認にとどめた。

出土遺物　なし。

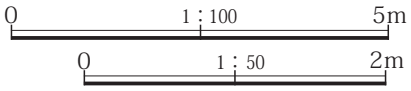
調査所見　埋土にAs-Aを含むことから、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

20号復旧坑・42号溝





1　褐灰色土(10YR4/1)暗褐色土を40％含む。



第40図　９号復旧坑(２)、20号復旧坑・42号溝

（３）溝

１号溝(第41図　PL.15)

位置　X＝31,333～31,348　Y＝-70,769～-70,771

１区北、東に７号畑、西に３号復旧坑

重複　３号復旧坑と同時期。

規模　調査長15.53m　最大幅0.59m　最深部0.14m

走向　N－８°－W

検出・埋没状況　埋土はAs-Aを多量に含む褐色土主体で、灰黄褐色土が混入する。断面形は三角形を呈する。

出土遺物　なし。

調査所見　３号復旧坑と重複しているが、埋土はほぼ同じである。よって、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

42号溝(第40図　PL.19)

位置　X＝31,186　Y＝-70,698～-70,699　１区南、調査区の南西部に位置する。

重複　20号復旧坑に後出する。

規模　調査長0.88m　最大幅0.49m　最深部0.07m

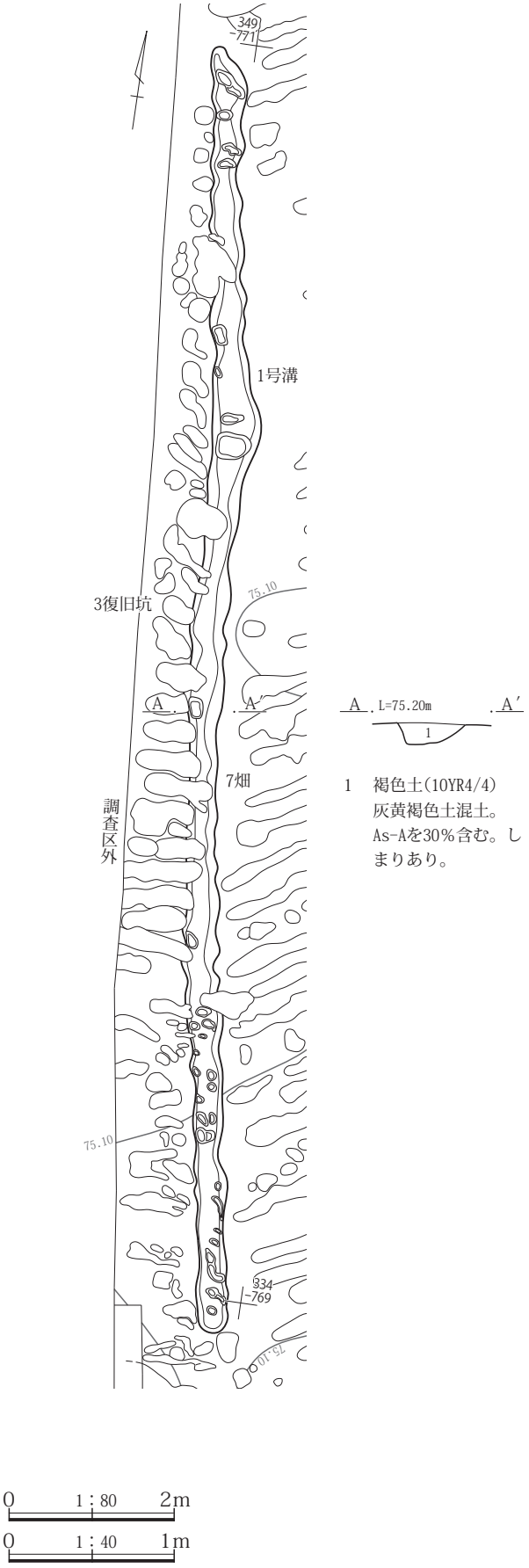
走向　不明。

検出・埋没状況　埋土は暗褐色土が主体であり、断面形は不整形である。

出土遺物　なし。

調査所見　調査範囲が狭小であるため、溝ではなく復旧坑や畑である可能性もある。時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

１号溝



第41図　１号溝

２～12号溝(第42図　PL.15～19)

位置　X＝31,324～31,333　Y＝-70,757～-70,770

１区北、北に７号畑、南と東に６号畑と接する区画内に位置する。

重複　６号畑と重複するが新旧は不明である。

規模　調査長12.77m　最大幅1.36m　最深部0.13m(詳細は第２表を参照)

走向　N－83°－E(10号溝)

検出・埋没状況　埋土はAs-Aを多量に含むにぶい黄褐色土主体で、褐色土が少量混入する。断面形は不整形である。

出土遺物　なし。

調査所見　個別の溝として調査されたが、埋土や掘削深度がほぼ同じであるため、復旧坑の可能性もある。時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

43号溝(第43図)

位置　X＝31,254～31,259　Y＝-70,701～-70,717

１区中央、重機搬入路下に位置する。

重複　９号畑、10号畦に後出する。

規模　調査長17.45m　最大幅0.74m　最深部0.07m

走向　N－72°－E。

検出・埋没状況　調査工程の都合から、平面のみ確認のため、埋土および断面形は未調査である。

出土遺物　なし。

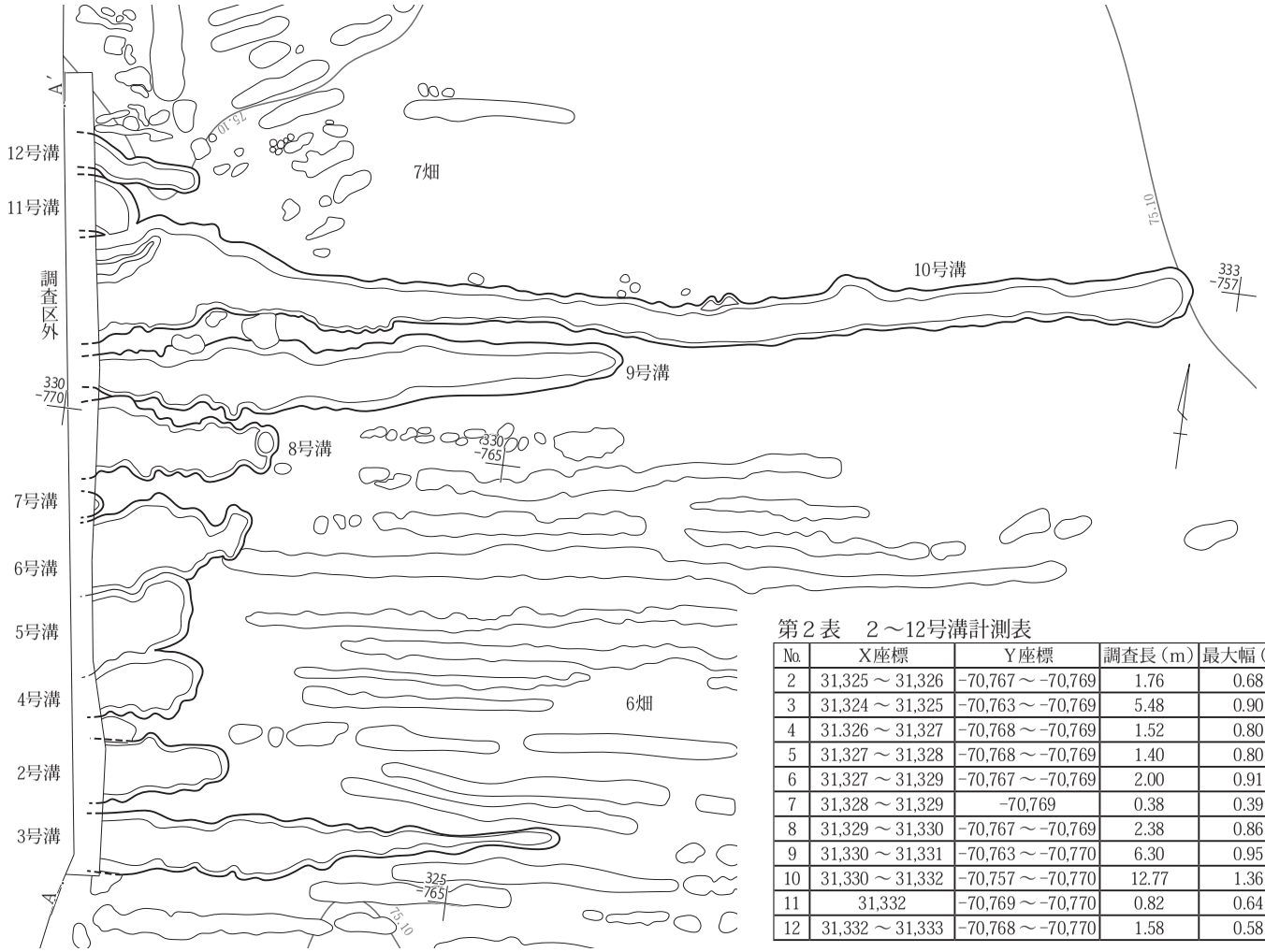
調査所見　溝の走向は、９号畑のサクと並行しているため、同時期である可能性が高い。時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

(４)畦(第12・14・24・28・33・36図　PL.20～23・66)

畑や復旧坑の間に掘削されずに固く踏みしめられたり、盛土されたりした部分を確認した。これを畦として調査し１面では10本確認した。

このうち１号・５号・６号・10号畦は南北に走向し、残りは東西に走向している。いずれの畦の上面は固くしまっている。遺物は９号畦の直上から砥沢石製砥石(第43図１)１点が出土している。

２号溝～12号溝



２号溝～12号溝

1　褐灰色土(10YR4/1)褐色土を10％、φ１～３㎜のAs-Aを３％含む。

2　褐色土(7.5YR4/4)φ１～３㎜のAs-Aを３％含む。１層の酸化した部分。

3　褐灰色土(10YR4/1)褐色土を10％、φ１～３㎜のAs-Aを５％含む。

4　にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-Aを30％、φ１～３㎜のAs-Aを２％含む。

4-b　にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-Aを30％、φ１～３㎜のAs-Aを２％、褐色土を５％含む。

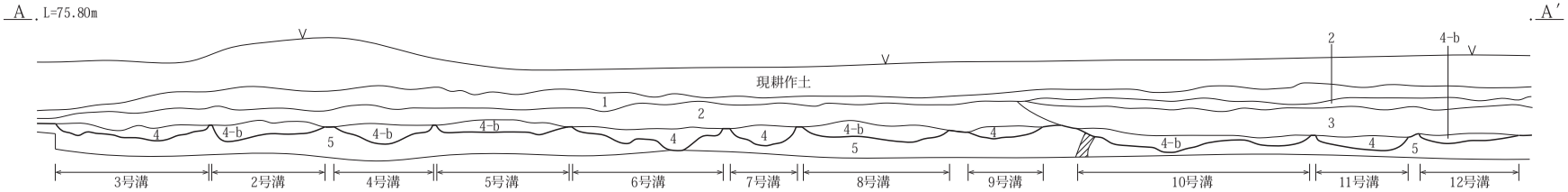
5　灰黄褐色土(10YR4/2)砂質土。

第２表　２～12号溝計測表

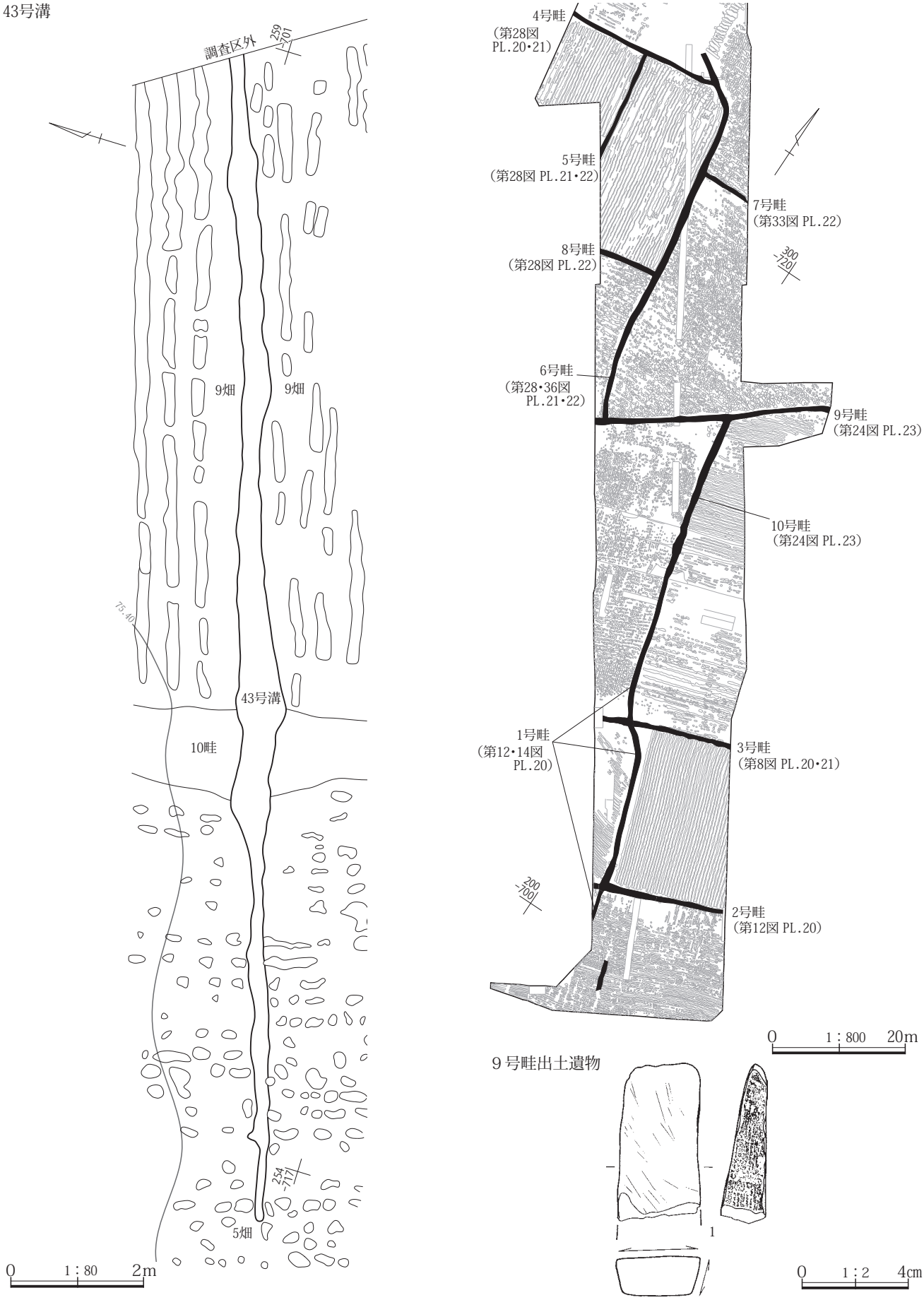
No.	X座標	Y座標	調査長（m）	最大幅（m）	最深（m）	走向
2	31,325～31,326	-70,767～-70,769	1.76	0.68	0.09	N－80°－E
3	31,324～31,325	-70,763～-70,769	5.48	0.90	0.09	N－83°－E
4	31.326～31,327	-70,768～-70,769	1.52	0.80	0.1	N－70°－E
5	31,327～31,328	-70,768～-70,769	1.40	0.80	0.05	N－69°－E
6	31,327～31,329	-70,767～-70,769	2.00	0.91	0.13	N－75°－E
7	31,328～31,329	-70,769	0.38	0.39	0.12	N－84°－E
8	31,329～31,330	-70,767～-70,769	2.38	0.86	0.12	N－87°－E
9	31,330～31,331	-70,763～-70,770	6.30	0.95	0.15	N－81°－E
10	31,330～31,332	-70,757～-70,770	12.77	1.36	0.13	N－83°－E
11	31,332	-70,769～-70,770	0.82	0.64	0.09	N－82°－E
12	31,332～31,333	-70,768～-70,770	1.58	0.58	0.06	N－83°－W

0　1：80　2m

0　1：40　1m



第42図　２号溝～12号溝



第43図　43号溝、１区１面畦全体図と９号畦出土遺物

第３節　第２面の遺構と遺物

（１）復旧坑

10号復旧坑（第45図　PL.24）

位置　Ｘ＝31,365～31,373　Ｙ＝-70,748～-70,766

１区北、11号畑に隣接する。

重複　なし。

規模　東西17.79m以上　南北6.70m以上

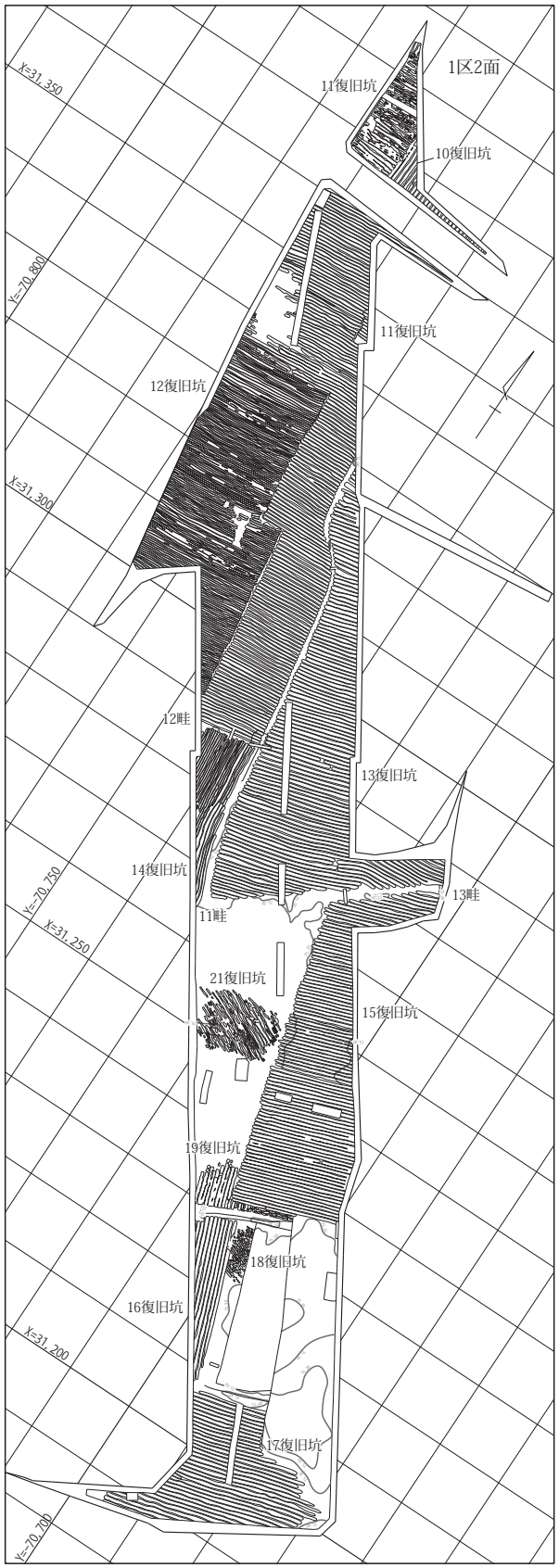
サク　条数　27条　条間　48～80cm　掘削間隔　６～32cm　長さ　計測不可　幅　27～61cm　深さ　５～16cm

主軸方位　Ｎ－１°－Ｅ

検出・埋没状況　埋土は写真より褐色の砂を主体と判断した。断面形は弧状である。サクの掘り込みが比較的浅く、畝状の高まりの約10cm上まで砂で覆われている。

出土遺物　なし。

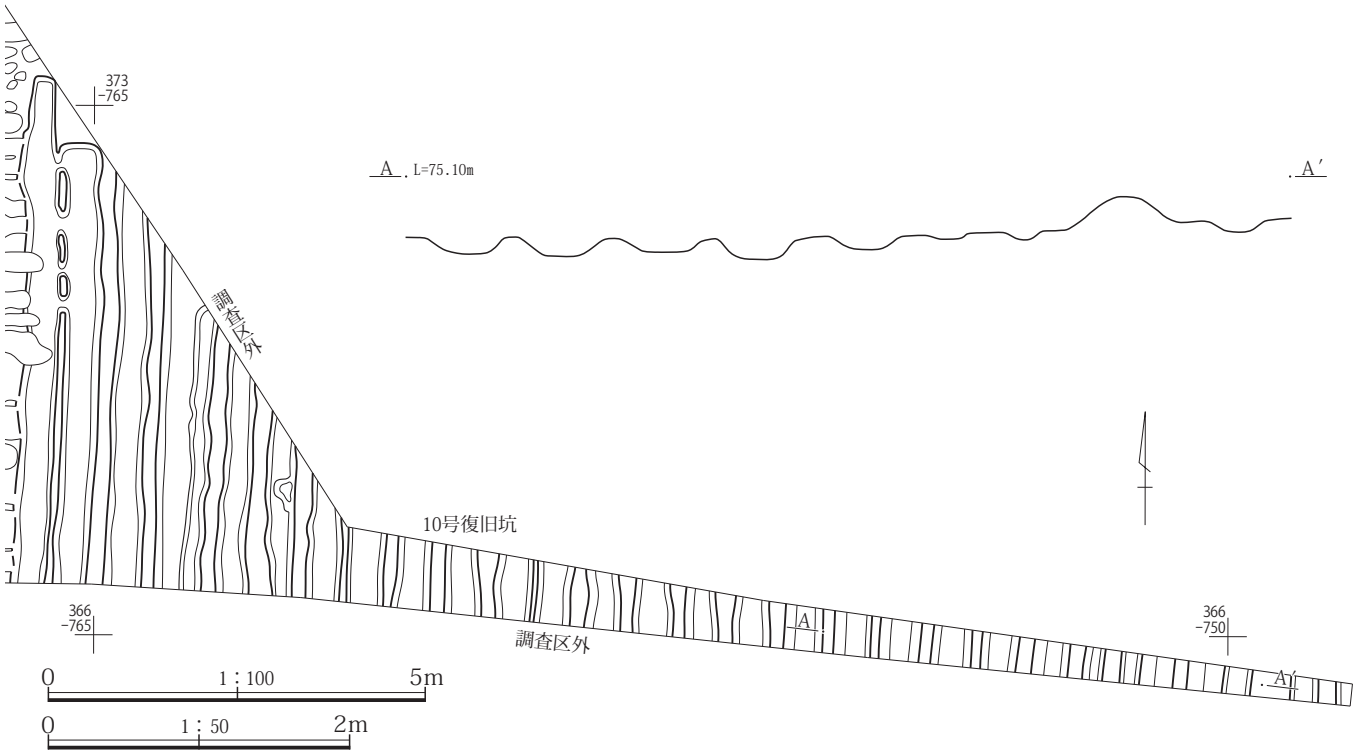
調査所見　復旧坑として調査したが、掘削深度が比較的浅く、サクの間まで砂で覆われていることを考慮すると、畑が休耕しているときに洪水層により自然埋没した可能性もある。埋土にAs-Aが含まれていないことから、時期は天明３（1783）年以前と考えられる。



0　1：1,000　50m

第44図　１区２面　遺構全体図

10号復旧坑



第45図　10号復旧坑

11号復旧坑(第46～49・51・52図　PL.24・25)

位置　X＝31,287～31,385　Y＝-70,736～-70,773

１区北、道路を挟んで北と南の区画に分けて調査した。北区画は10号復旧坑に隣接する。南区画は、南に12号畦、西に12号復旧坑に囲まれた区画内に位置する。

重複　なし。

規模　東西22.58m　南北100.03m以上

サク　条数　197条　条間　26～58cm　掘削間隔　4～24cm　長さ　7.59～11.32m　幅　22～55cm　深さ　1～21cm

主軸方位　北区画：N－87°－E

南区画：N－84°－E

検出・埋没状況　埋土は暗褐色の砂を主体とする。断面形は弧状である。サクの掘り込みが比較的浅く、畝状の高まりの約20cm上まで砂で覆われている。

出土遺物　埋土中から金属片１点が出土したが、小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　サクの深さや埋没状況を考慮すると、畑が休耕しているときに洪水層で覆われた可能性もある。埋土にAs-Aが含まれていないことから、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

12号復旧坑(第48・50・52図　PL.25・66)

位置　X＝31,290～31,336　Y＝-70,747～-70,770

１区北、北と東が11号復旧坑に接する区画に位置する。

重複　なし。

規模　東西17.52m以上　南北46.78m以上

サク　条数　187条　条間　16～48cm　掘削間隔　2～15cm　長さ　14.5m以上　幅　11～39cm　深さ　1～4cm

主軸方位　N－83°－E

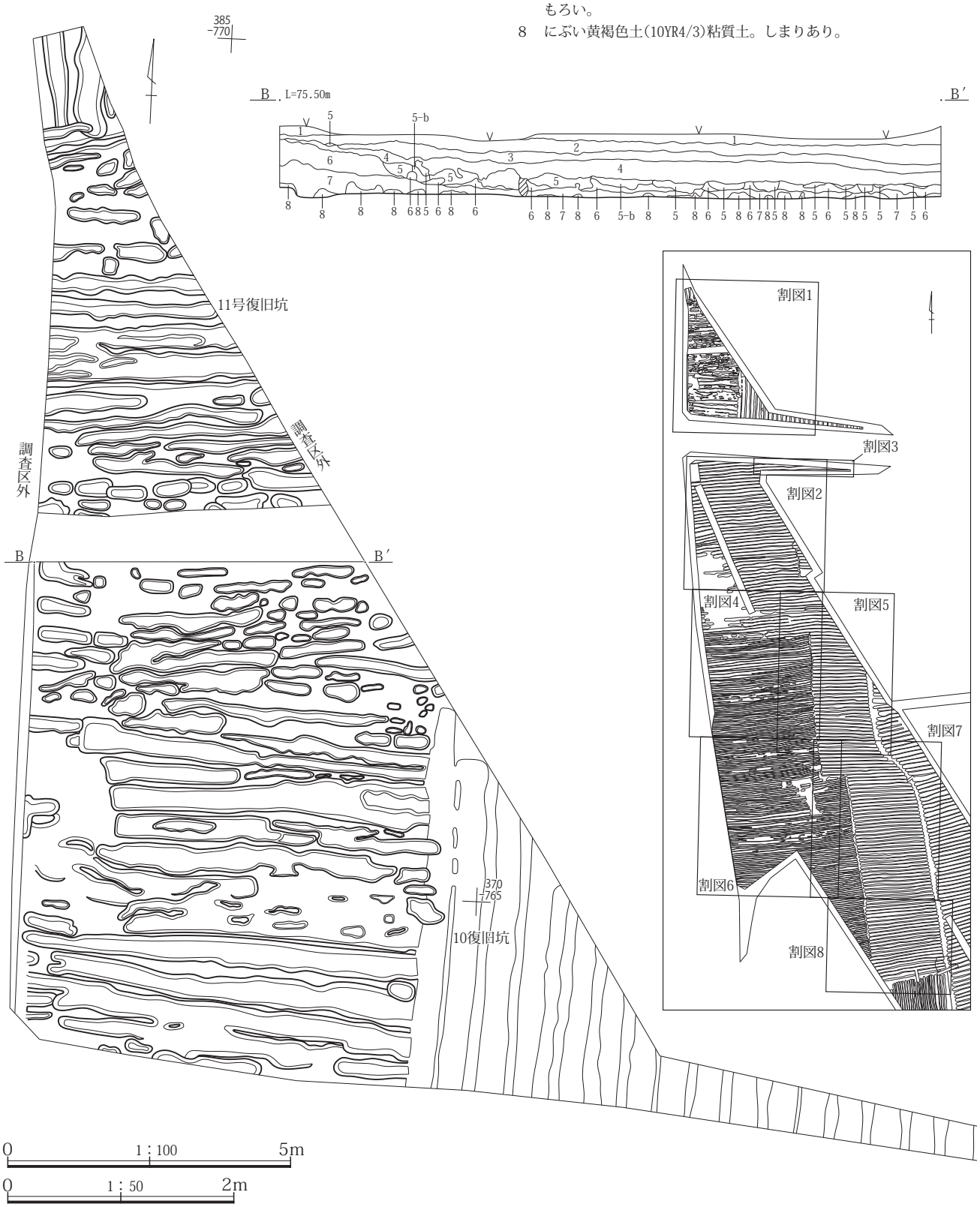
検出・埋没状況　埋土は暗褐色の砂を主体とする。後世の耕作により上位は削平されている。断面形は台形である。

出土遺物　洪水層の上位の２層から、堺・明石陶器すり鉢の口縁片(第52図１)が出土した。

調査所見　遺構の検出状況及び埋土にAs-Aを含まないことから、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

11号復旧坑　割図１

1　暗褐色土(10YR3/3) As-Aを10％含む　しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4) As-Aを15％含む。鉄分により暗赤褐色土変色あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4) As-Aを30％含む。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/4) As-Aを30％含む。上層下層に鉄分による暗赤褐色変色あり。しまりあり。
5　As-A 純層。
5－ｂ　As-A。褐色土を少量含む。しまりあり。
6　褐色土(10YR4/4)しまりあり。やや粘性あり。
7　褐色土(10YR4/4)シルト。洪水の細粒状の砂を50％含む。もろい。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)粘質土。しまりあり。



第46図　11号復旧坑（１）

11号復旧坑　割図２

11号復旧坑

調査区外

トレンチ

359
-756

11号復旧坑

A　L=75.60m　現耕作土　A′

1

2

3

1　暗褐色土(10YRY3/3) As-Aを３％含む。
鉄分沈着あり。しまりあり。

2　褐色土(10YR4/4)暗褐色土を10％含む。
しまりあり。

3　暗褐色砂(10YR3/3)もろい。

試掘跡

347
-770

347
-756

調査区外

11号復旧坑　割図３

調査区外

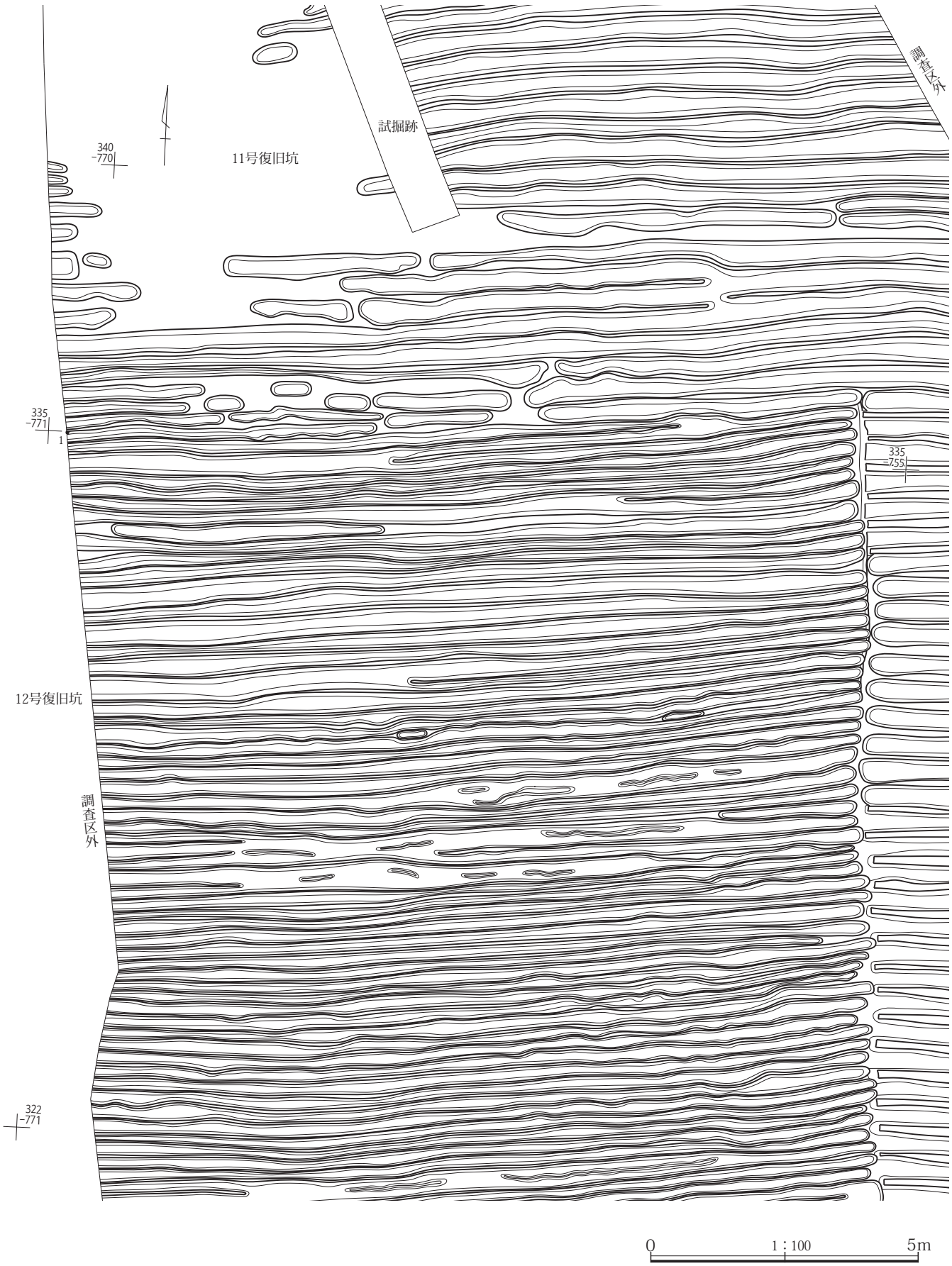
360
-753

0　1：100　5m

0　1：50　2m

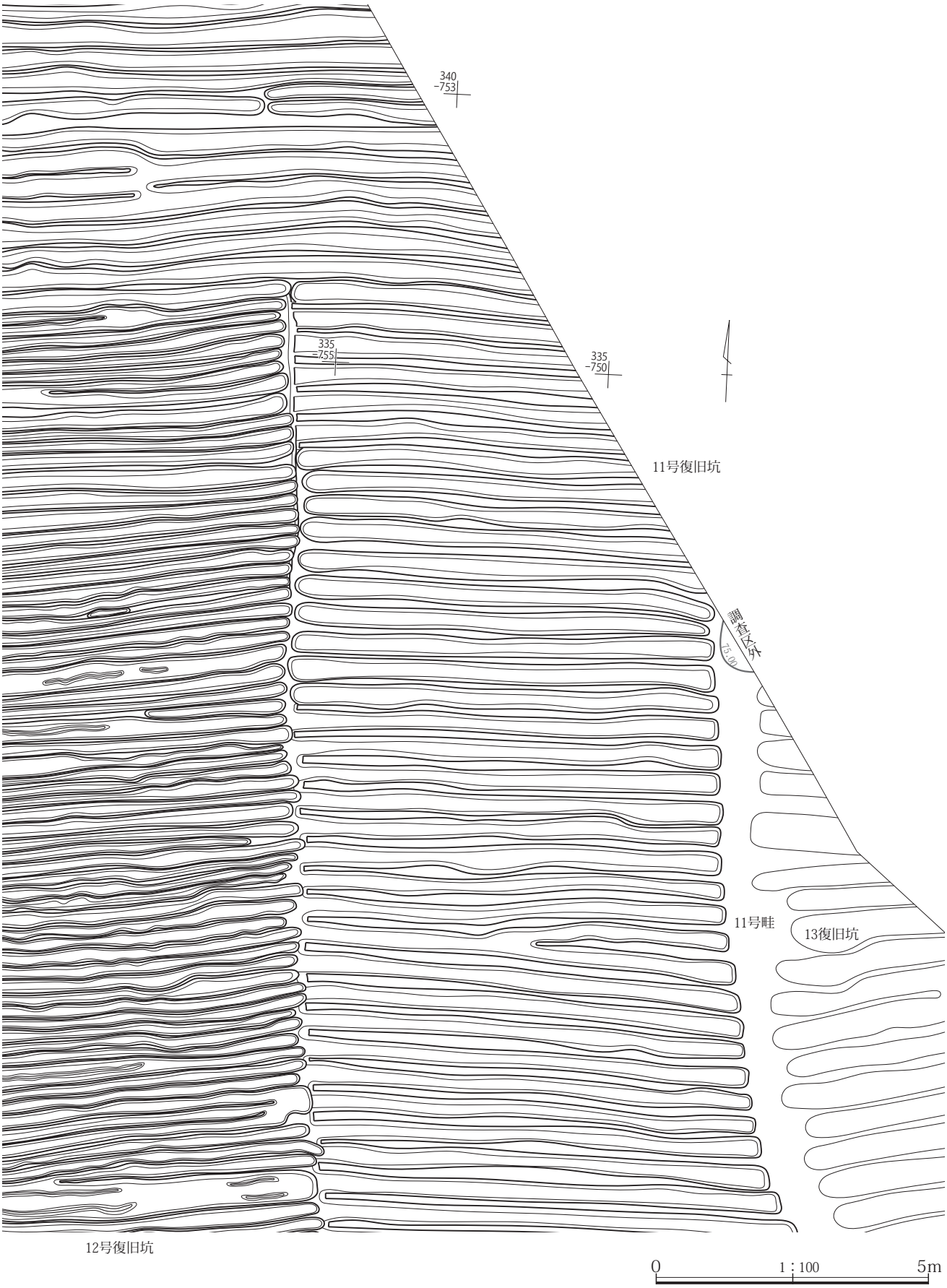
第47図　11号復旧坑（２）・（３）

11号復旧坑、12号復旧坑　割図４



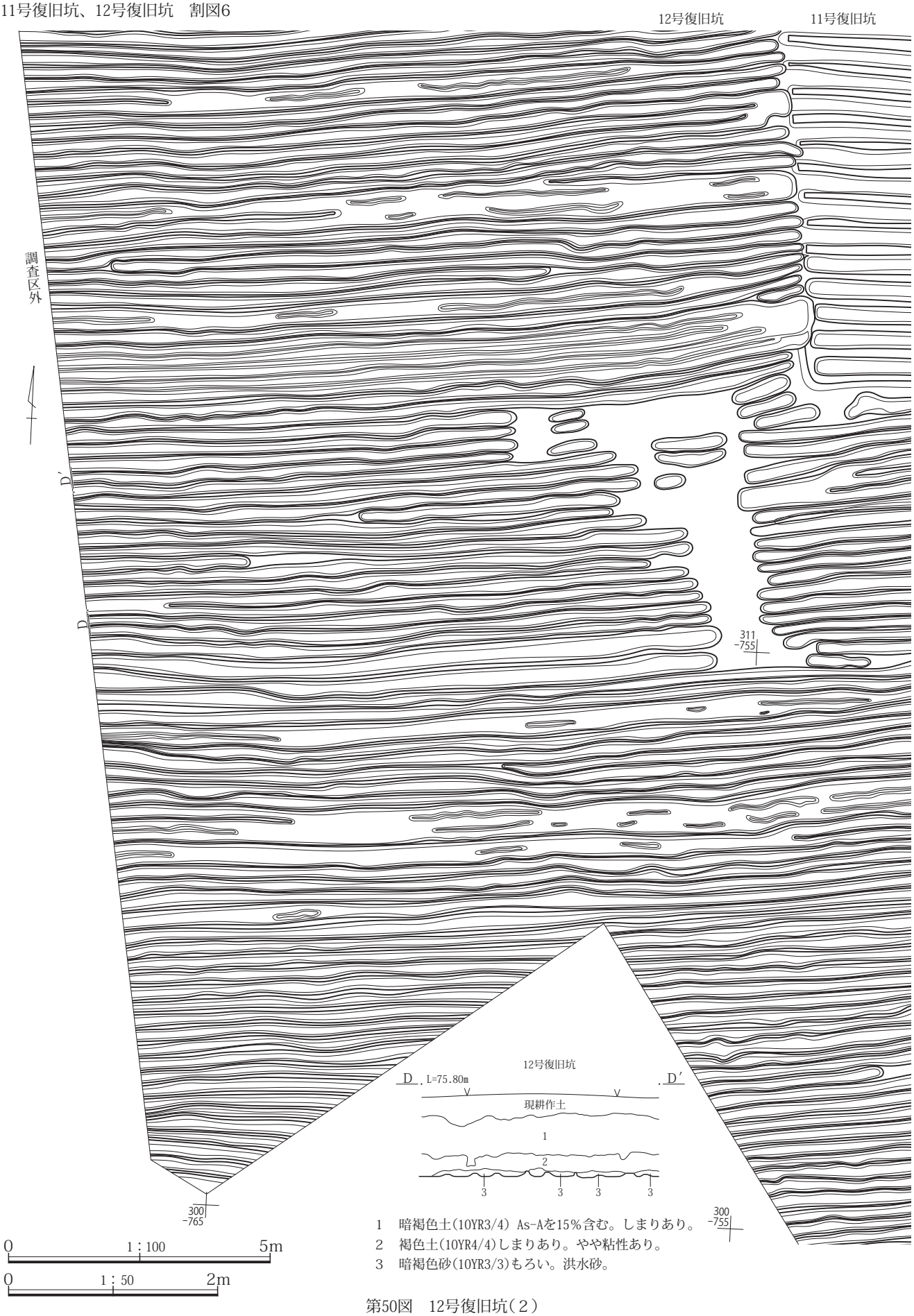
第48図　11号復旧坑（４）、12号復旧坑（１）

11号復旧坑、12号復旧坑　割図５



第49図　11号復旧坑（５）

11号復旧坑、12号復旧坑　割図6



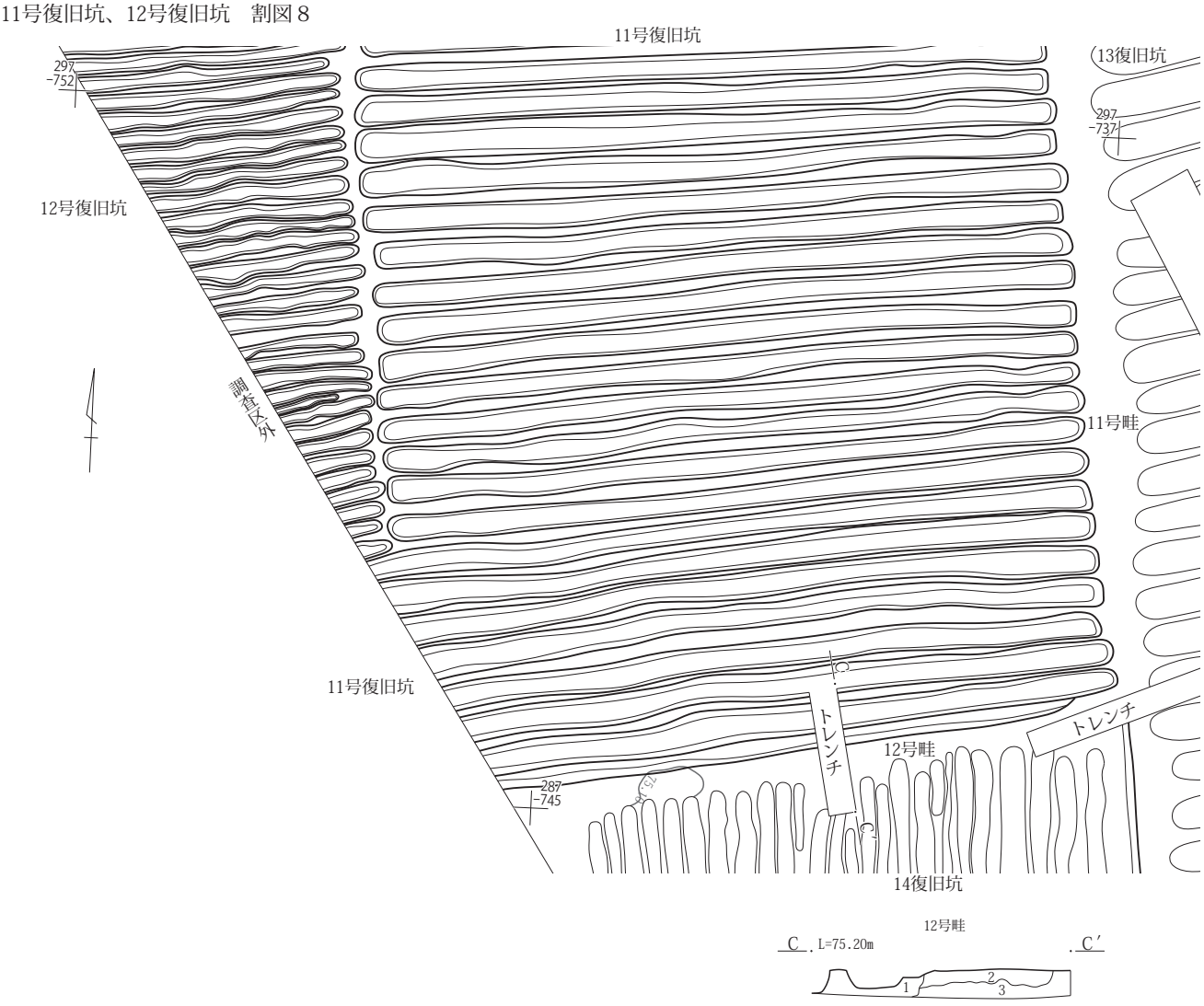
1　暗褐色土(10YR3/4) As-Aを15％含む。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)しまりあり。やや粘性あり。
3　暗褐色砂(10YR3/3)もろい。洪水砂。

第50図　12号復旧坑（２）

11号復旧坑、12号復旧坑　割図７

第51図　11号復旧坑（６）

11号復旧坑、12号復旧坑　割図８

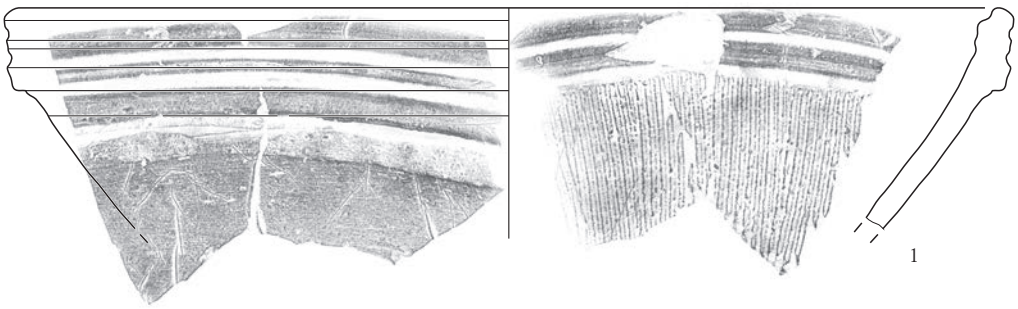


0　1：100　5m

0　1：50　2m

1　褐色土(10YR4/6)暗褐色土を５％含む。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)非常に硬くしまる。粘質土。
3　褐色土(10YR4/6)φ１～２㎜程度の白色粒を２％含む。硬くしまる。粘性あり。

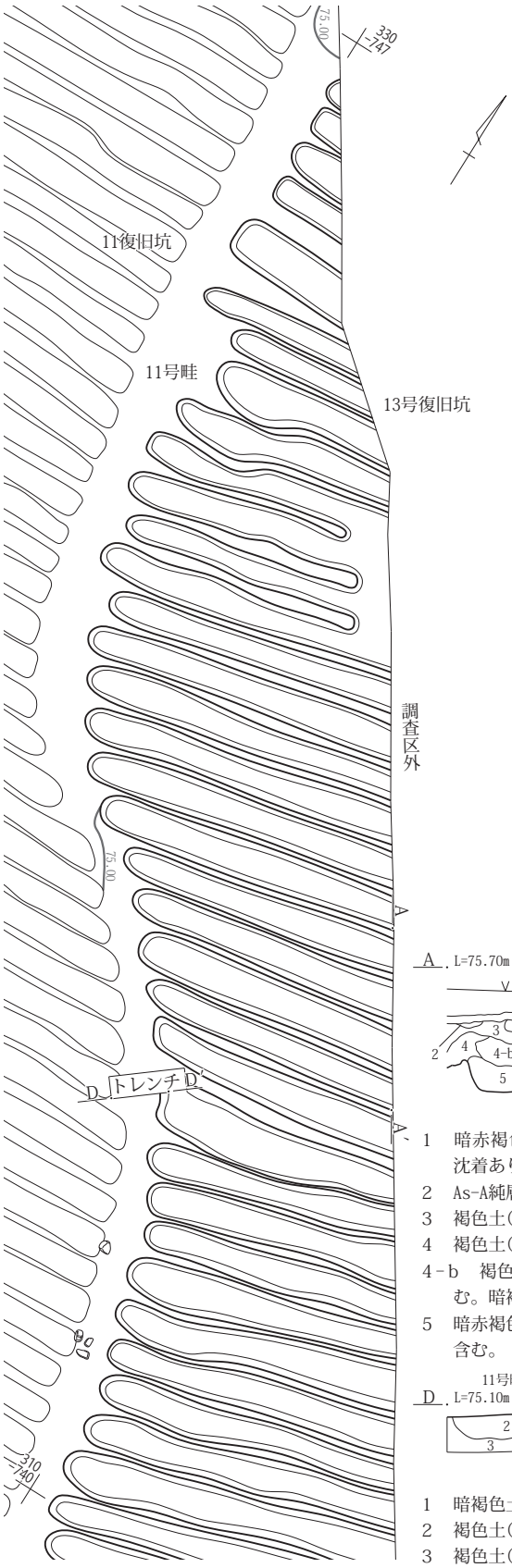
12号復旧坑出土遺物



0　1：3　10cm

第52図　11号復旧坑（７）、12号復旧坑（３）と出土遺物

13号復旧坑　割図１



13号復旧坑(第53～56図　PL.25)

位置　X＝31,267～31,329　Y＝-70,703～-70,746

１区南、南に13号畦、西に11号畦に接する区画に位置する。

重複　なし。

規模　東西32.20m以上　南北64.43m以上

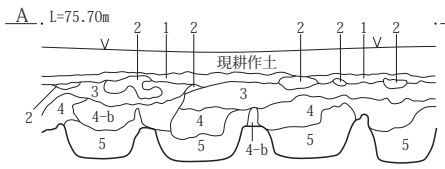
サク　条数　115条　条間　43～90㎝　掘削間隔　4～36㎝　長さ　計測不可　幅　27～77㎝　深さ　7～30㎝

主軸方位　N－73°－E、Y＝-70,715以東はN－85°－Eに屈曲する。

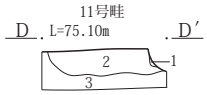
検出・埋没状況　埋土は暗赤褐色の砂を主体とし、少量の褐色粘土を含んでいる。断面形は台形である。

出土遺物　瀬戸・美濃陶器と考えられる碗の口縁部片が出土したが、小片のため実測・図示できなかった。江戸時代。

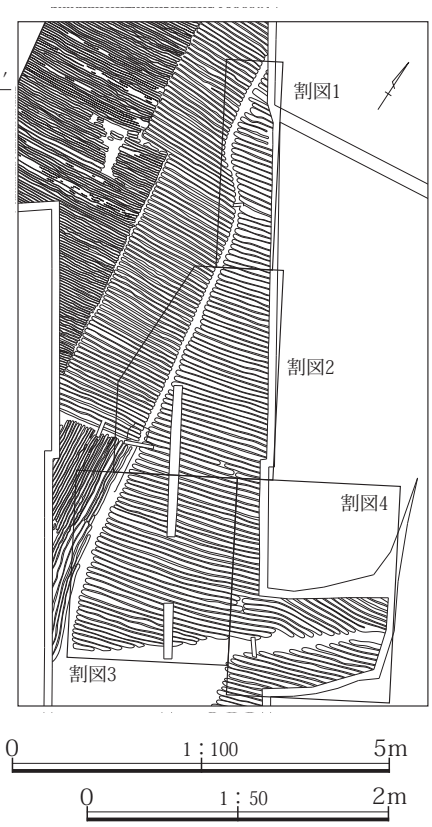
調査所見　復旧坑の埋土の上位には、褐色の砂が堆積していることから、畑の復旧後に再び洪水の被害にあっていたことが推定できる。出土遺物や遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含んでいないことから、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。



1　暗赤褐色土(5YR3/3) As-Aを７％含む。鉄分沈着あり。しまりあり。
2　As-A純層。
3　褐色土(10YR4/4)しまりあり。やや粘性あり。
4　褐色土(10YR4/6)粘土に暗褐色砂を20％含む。
4－b　褐色土(10YR4/6)粘土に暗褐色砂を20％含む。暗褐色砂を40％含む。もろい。
5　暗赤褐色砂層(5YR3/3)所々に褐色粘土を少量含む。



1　暗褐色土(10YR3/3)砂層(復旧坑の覆土)。
2　褐色土(10YR4/4)非常に硬くしまる。
3　褐色土(10YR4/6)硬くしまる。

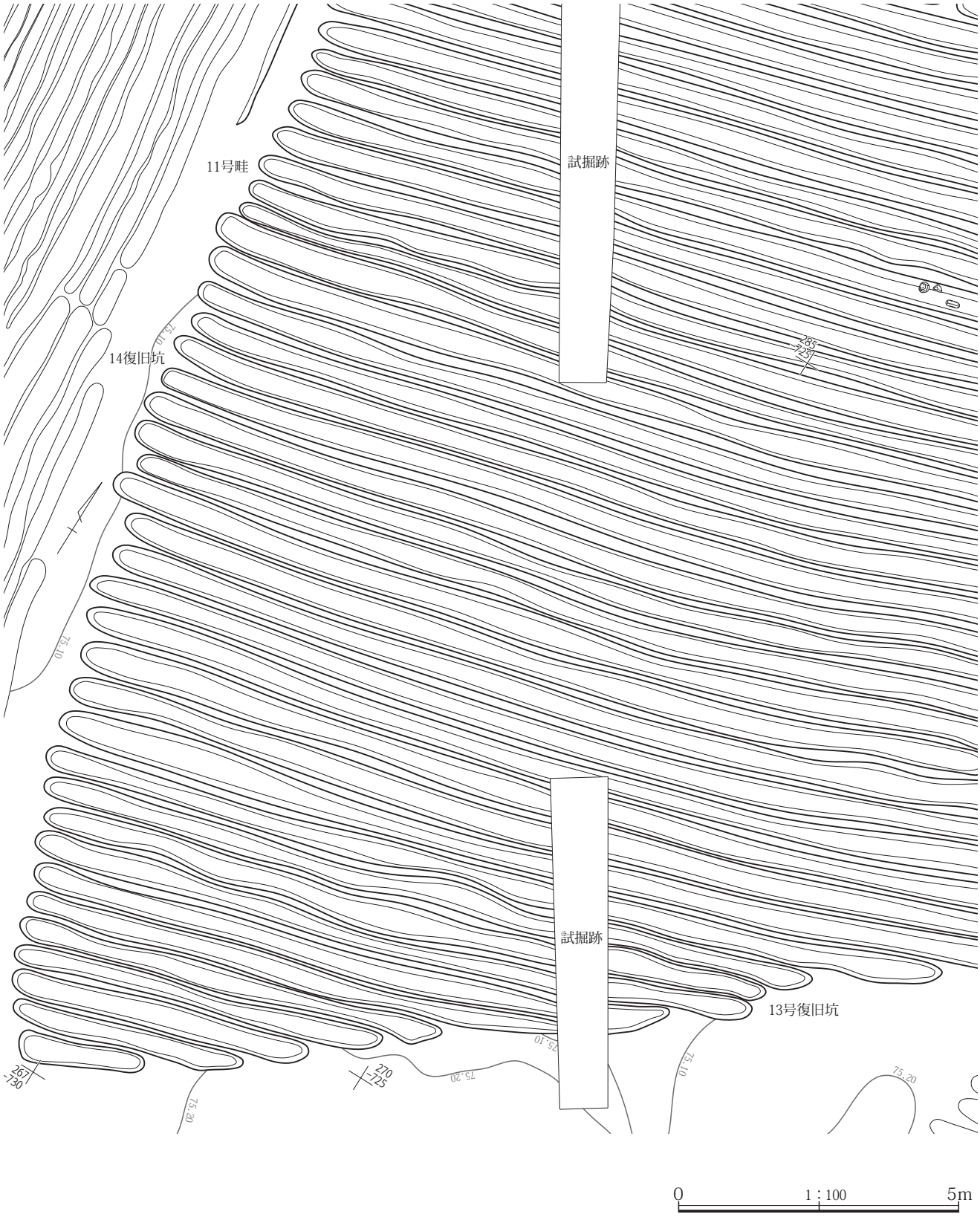


第53図　13号復旧坑(１)

13号復旧坑　割図２

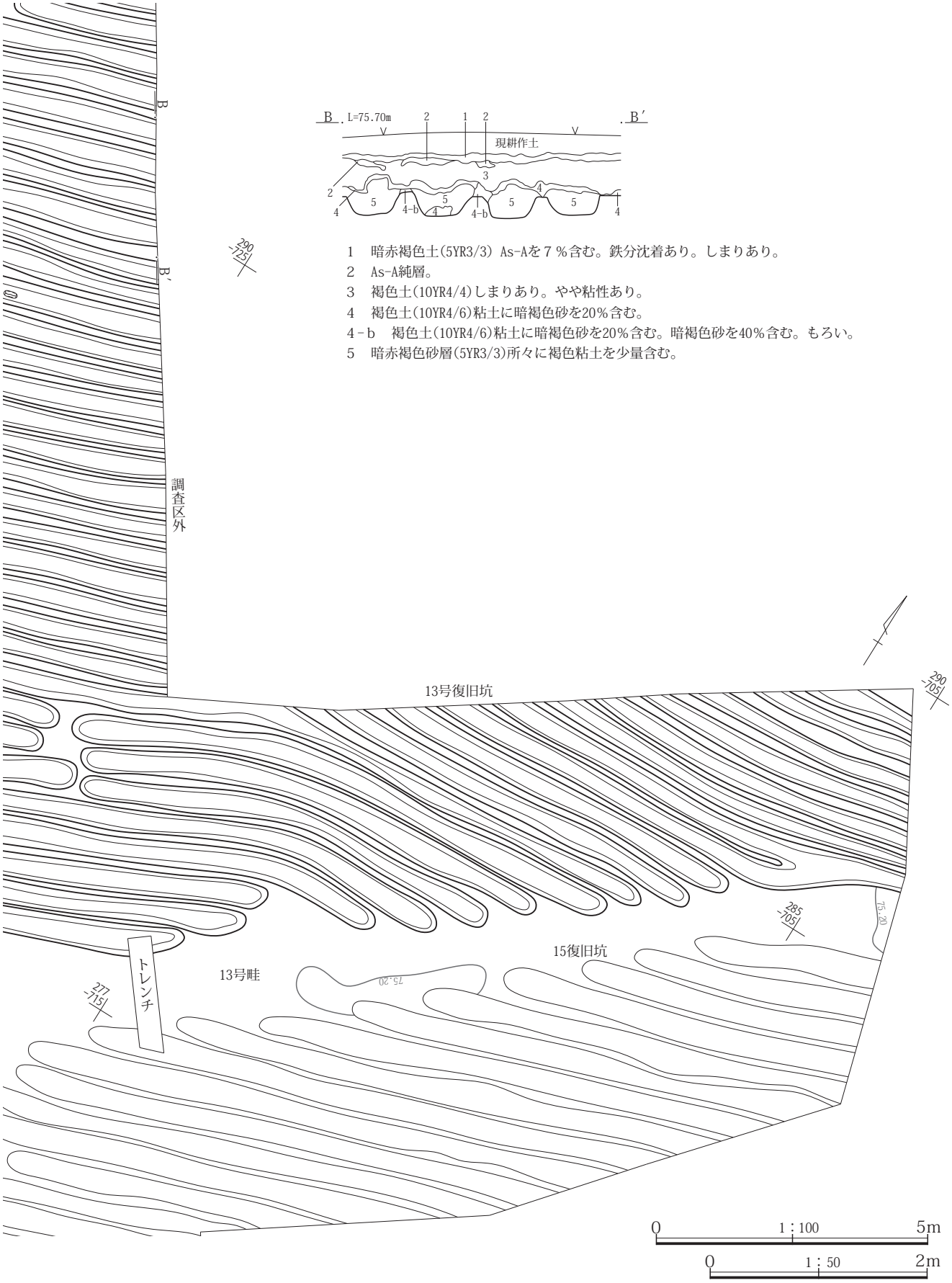
第54図　13号復旧坑（２）

13号復旧坑　割図３



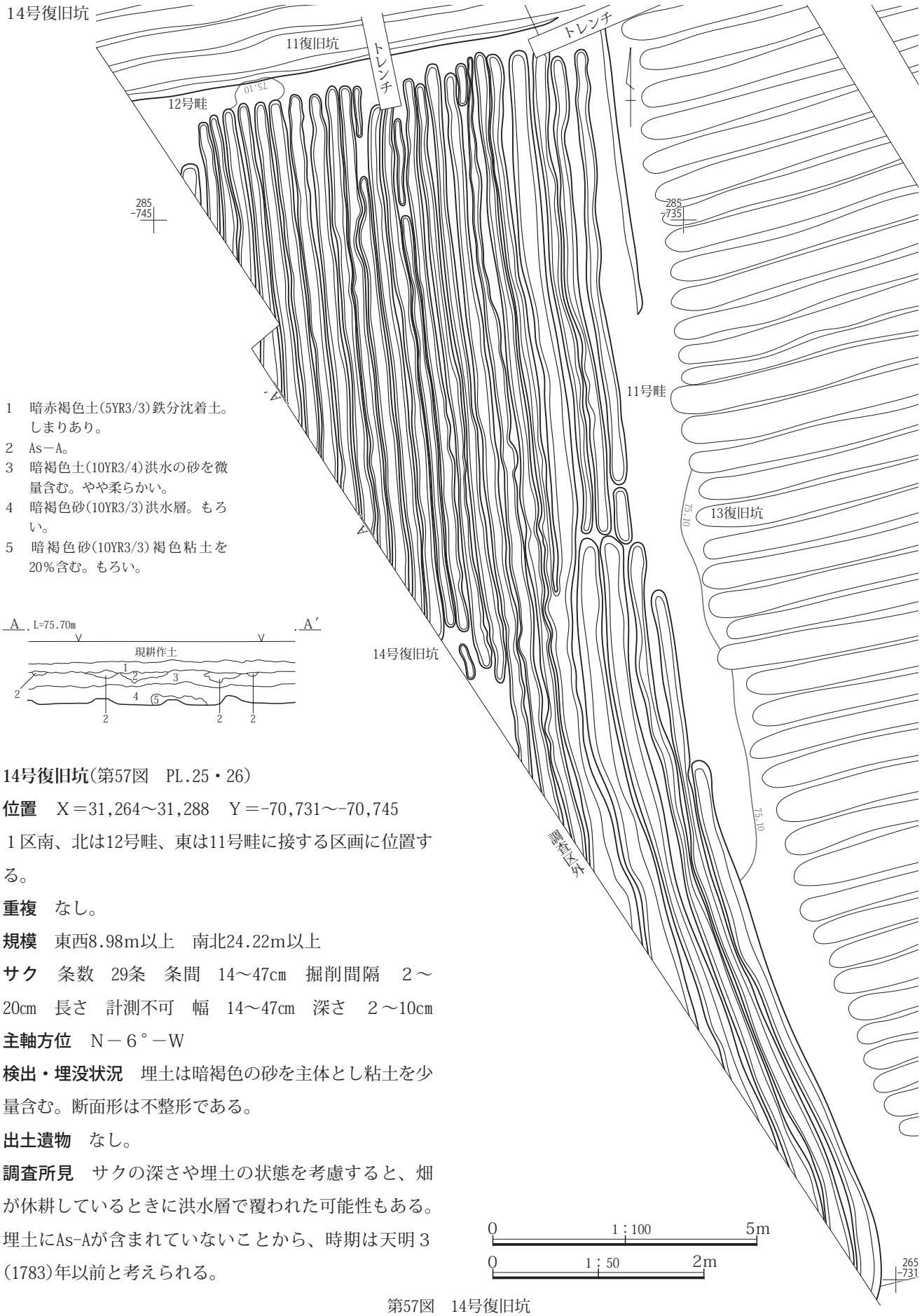
第55図　13号復旧坑（３）

13号復旧坑　割図４



1　暗赤褐色土(5YR3/3) As-Aを７％含む。鉄分沈着あり。しまりあり。
2　As-A純層。
3　褐色土(10YR4/4)しまりあり。やや粘性あり。
4　褐色土(10YR4/6)粘土に暗褐色砂を20％含む。
4－b　褐色土(10YR4/6)粘土に暗褐色砂を20％含む。暗褐色砂を40％含む。もろい。
5　暗赤褐色砂層(5YR3/3)所々に褐色粘土を少量含む。

第56図　13号復旧坑（４）



14号復旧坑(第57図　PL.25・26)

位置　X＝31,264～31,288　Y＝-70,731～-70,745

１区南、北は12号畦、東は11号畦に接する区画に位置する。

重複　なし。

規模　東西8.98m以上　南北24.22m以上

サク　条数　29条　条間　14～47cm　掘削間隔　２～20cm　長さ　計測不可　幅　14～47cm　深さ　２～10cm

主軸方位　N－６°－W

検出・埋没状況　埋土は暗褐色の砂を主体とし粘土を少量含む。断面形は不整形である。

出土遺物　なし。

調査所見　サクの深さや埋土の状態を考慮すると、畑が休耕しているときに洪水層で覆われた可能性もある。埋土にAs-Aが含まれていないことから、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

第57図　14号復旧坑

15号復旧坑　割図１

13復旧坑

13号畦

トレンチ

15号復旧坑

調査区外

A　L=75.90m　A′

現耕作土

A-A′

1　暗赤褐色土(5YR3/3) As-Aを７％含む。鉄分沈着あり。 しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2) As-Aを７％含む。しまりあり。
3　As-A純層。
4　にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)ややしまる。
5　褐色土(10YR4/6)暗褐色砂を20％含む。しまりあり。
6　暗褐色砂(10YR3/3)所々に褐色の粘土を少量含む。もろい。

13号畦

C　L=75.30m　C′

C-C′

1　褐色土(10YR4/4)非常に硬くしまる。粘土。
2　褐色土(10YR4/6)硬くしまる。粘性土。
3　暗褐色土(10YR3/4)φ３～５㎜程度の黒褐色粒を３％含む。粘性土。

割図1

割図2

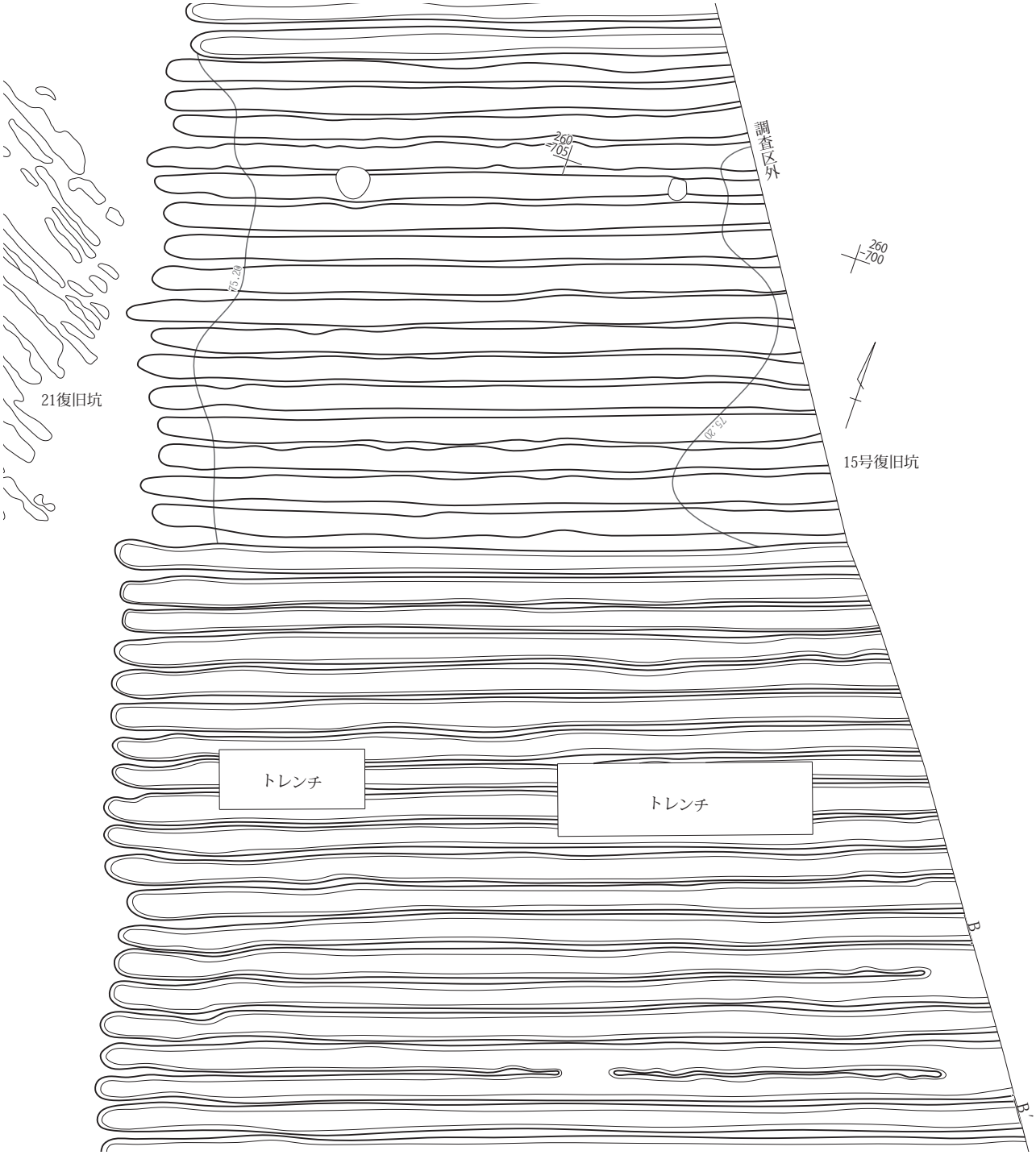
割図3

0　1：100　5m

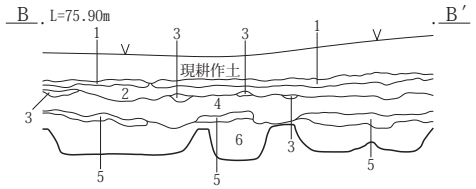
0　1：50　2m

第58図　15号復旧坑（１）

15号復旧坑　割図２



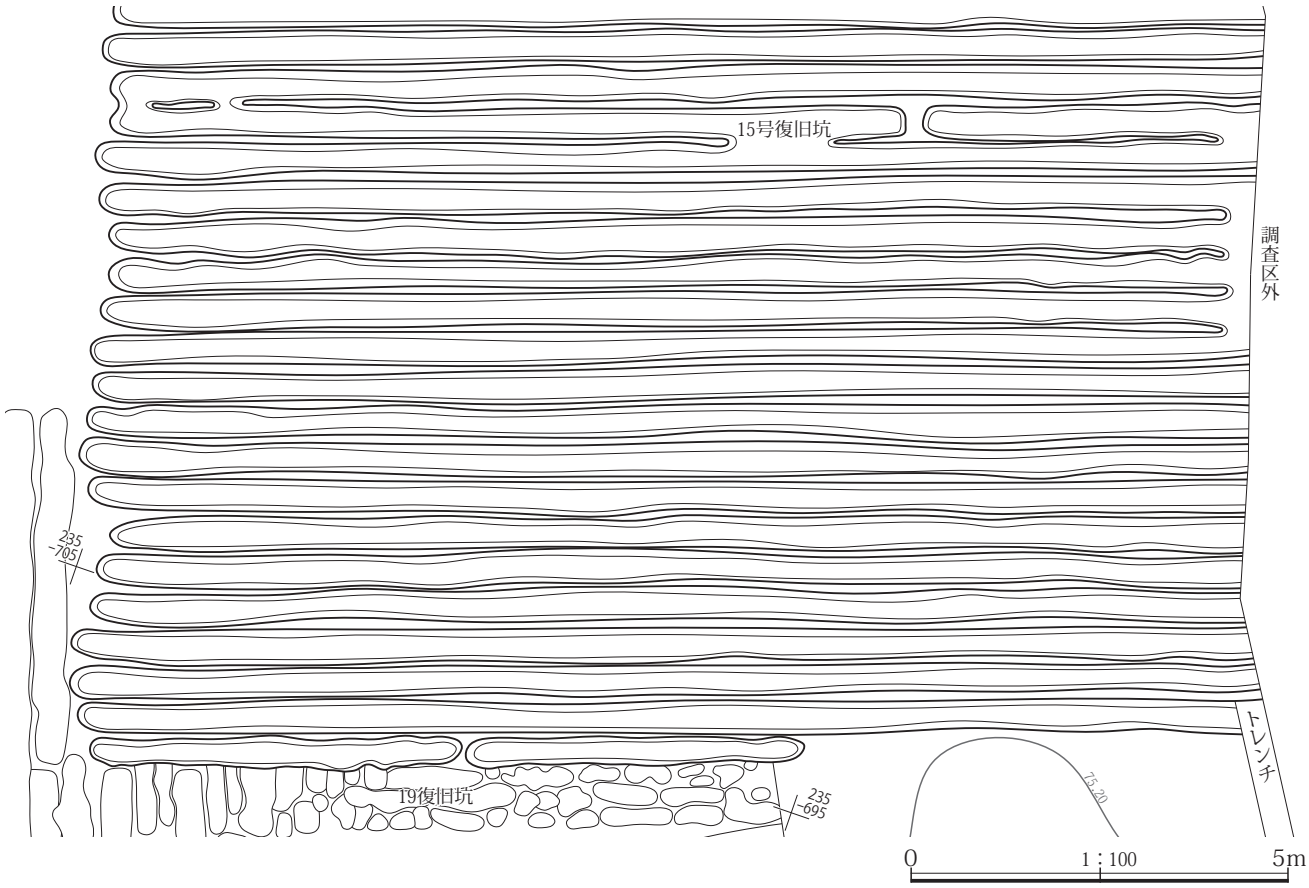
1　暗赤褐色土(5YR3/3) As-Aを７％含む。鉄分沈着あり。しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2) As-Aを７％含む。しまりあり。
3　As-A純層。
4　にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)ややしまる。
5　褐色土(10YR4/6)暗褐色砂を20％含む。しまりあり。
6　暗褐色砂(10YR3/3)所々に褐色の粘土を少量含む。もろい。



0　1：100　5m
0　1：50　2m

第59図　15号復旧坑（２）

15号復旧坑　割図３



第60図　15号復旧坑（３）

15号復旧坑（第58～60図　PL.26）

位置　X＝31,232～31,285　Y＝-70,689～-70,715

１区南北、北に13号畦、南に19号復旧坑に囲まれた区画内に位置する。西側に遺構はないが、１面１号畦付近まで掘削されていた。

重複　なし。

規模　東西15.70m以上　南北49.66m以上

サク　条数　99条　条間　40～62cm　掘削間隔　４～23cm　長さ　計測不可　幅　23～57cm　深さ　12～26cm

主軸方位　N－71°－E

検出・埋没状況　埋土は暗褐色の砂を主体とし、少量の粘土を含んでいる。断面形は台形である。

出土遺物　埋土中から瀬戸・美濃陶器蓋が出土したが小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　復旧坑の上位に暗褐色の砂を含む褐色土が堆積していることから、畑を復旧した後に再び洪水の被害にあったと推測できる。遺構の検出状況と埋土および出土遺物から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

16号復旧坑（第61図　PL.26・27）

位置　X＝31,208～31,230　Y＝-70,693～-70,706

１区南、東に18号復旧坑、南と北に畦状の高まりに囲まれた区画内に位置する。

重複　なし。

規模　東西5.94m以上　南北23.68m以上

サク　条数　11条　条間　47～66cm　掘削間隔　６～18cm　長さ　計測不可　幅　41～54cm　深さ　８～21cm

主軸方位　N－21°－W

検出・埋没状況　暗褐色の砂を主体とし、褐色土を含んでいる。断面形は台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

16号復旧坑・18号復旧坑

19復旧坑

75.30

230
-698

18号復旧坑

B　L=75.50m　1　1　1　1　1　1　1　B′

1

1　暗褐色砂(10YR3/3)所々に暗褐色粘土ブロックを少量含む。もろい。

18号復旧坑

223
-697

調査区外

A′

75.30

16号復旧坑

A

16号復旧坑

A　L=75.40m　1　1　1　A′

2　2　2　2　2

1　褐色土(10YR4/4) しまりあり。天地返しの耕作土の可能性。
2　暗褐色砂(10YR3/3)もろい。

トレンチ

209
-693

0　1：100　5m

0　1：50　2m

第61図　16号復旧坑・18号復旧坑

17号復旧坑　割図１

17号復旧坑(第62・63図　PL.26・27)

位置　X＝31,186～31,210　Y＝-70,668～-70,695

１区最南端に位置する

重複　なし。

規模　東西30.10m以上　南北19.49m以上

サク　条数　35条　条間　42～67cm　掘削間隔　６～19cm　長さ　計測不可　幅　30～63cm　深さ　５～13cm

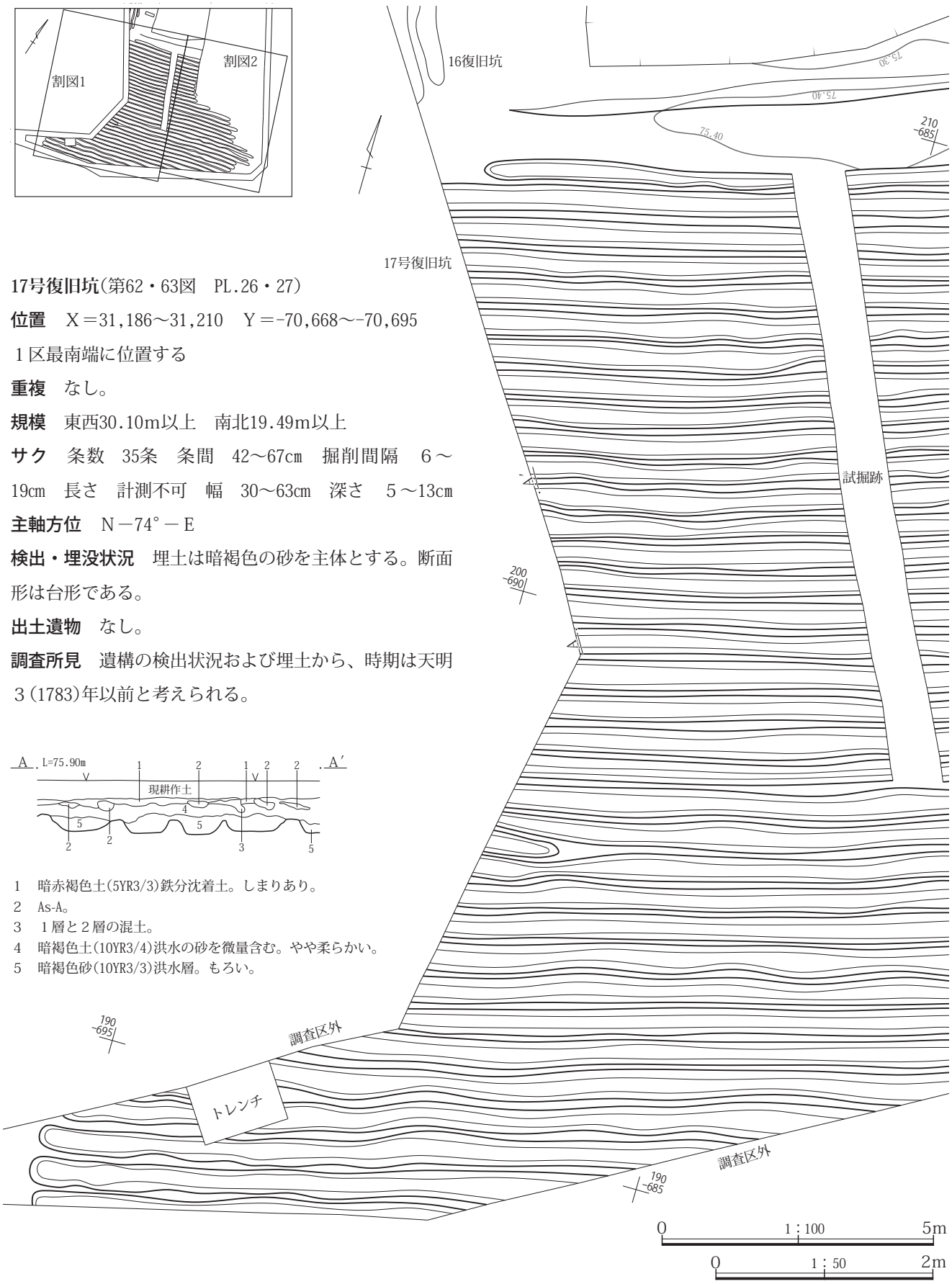
主軸方位　N－74°－E

検出・埋没状況　埋土は暗褐色の砂を主体とする。断面形は台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

1　暗赤褐色土(5YR3/3)鉄分沈着土。しまりあり。
2　As-A。
3　１層と２層の混土。
4　暗褐色土(10YR3/4)洪水の砂を微量含む。やや柔らかい。
5　暗褐色砂(10YR3/3)洪水層。もろい。



第62図　17号復旧坑(１)

17号復旧坑　割図２

第63図　17号復旧坑（２）

18号復旧坑(第61図　PL.26・27)

位置　X＝31,223～31,231　Y＝-70,696～-70,700

１区南、西に16号復旧坑、北に畦状の高まりに接する区画内に位置する。

重複　なし。

規模　東西7.50m以上　南北7.52m以上

サク　条数　23条　条間　25～39cm　掘削間隔　２～８cm　長さ　計測不可　幅　18～41cm　深さ　２～５cm

主軸方位　N－68°－W

検出・埋没状況　埋土は暗褐色の砂を主体とし暗褐色粘土ブロックを少量含んでいる。断面形は台形。

出土遺物　なし

調査所見　掘削深度が比較的浅く幅も狭いため、畑の耕作痕の可能性もある。遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

19号復旧坑(第64図　PL.26・27)

位置　X＝31,229～31,237　Y＝-70,695～-70,709

１区南、西に15号復旧坑、南に畦状の高まりに接する区画内に位置する。

重複　なし。

規模　東西14.48m以上　南北7.82m以上

サク　条数　23条　条間　15～58cm　掘削間隔　２～25cm　長さ　計測不可　幅　15～50cm　深さ　３～８cm

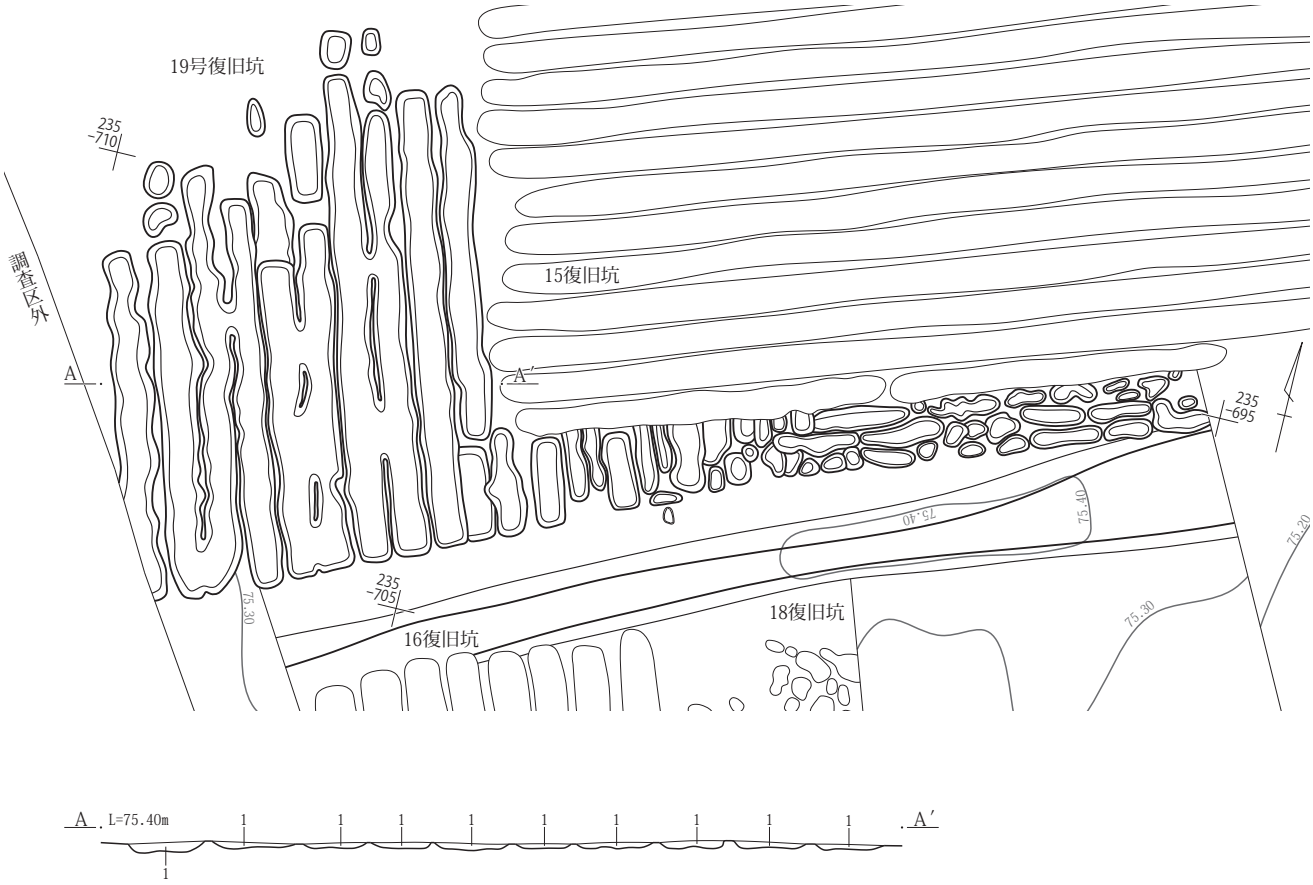
主軸方位　N－18°－W

検出・埋没状況　埋土は洪水による暗褐色の砂。断面形は台形または弧状である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

19号復旧坑



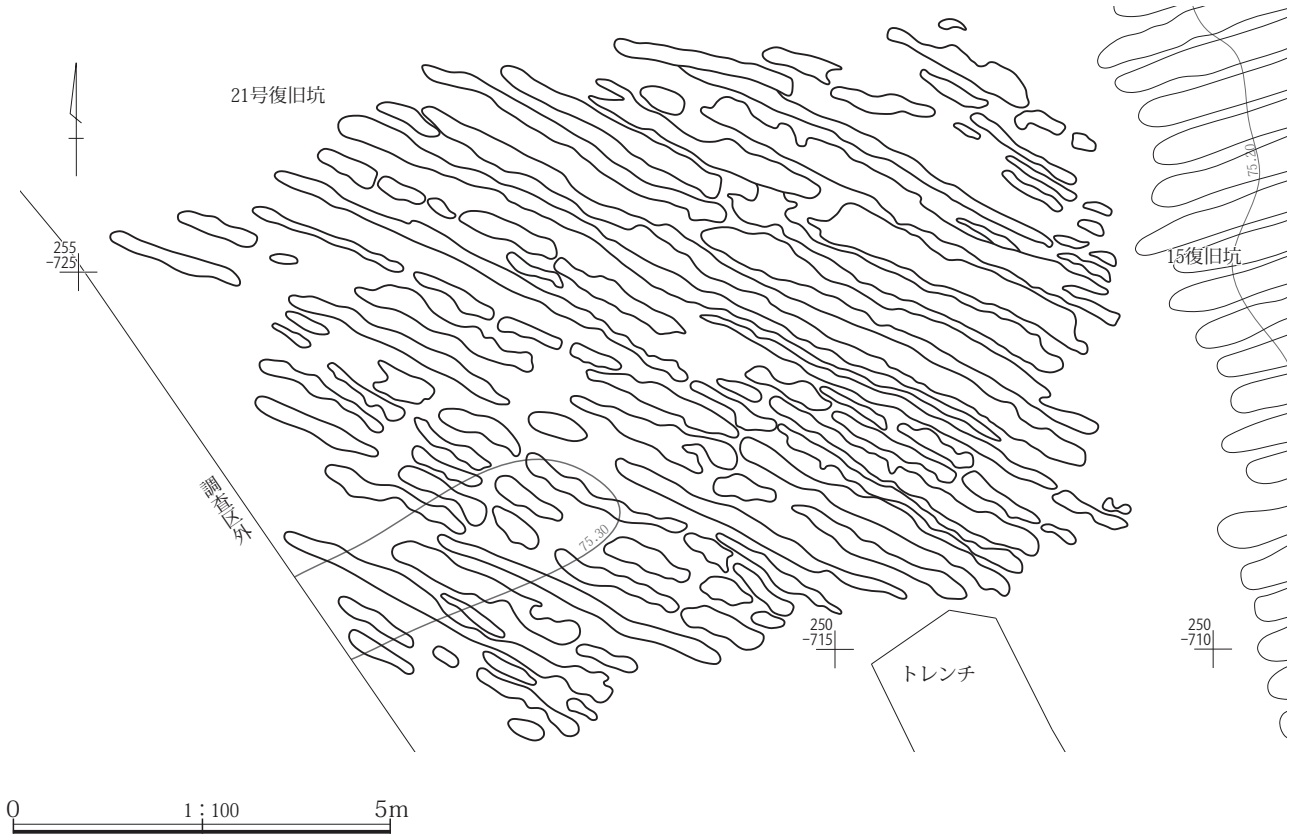
1　暗褐色砂(10YR3/3)洪水層。もろい。

0　1：100　5m

0　1：50　2m

第64図　19号復旧坑

21号復旧坑



第65図 21号復旧坑

21号復旧坑(第65図　PL.27)

位置　X＝31,248～31,258　Y＝-70,711～-70,724

１区中央の重機搬入路下に位置する。

重複　なし。

規模　東西13.17m以上　南北11.08m以上

サク　遺構の上端のみ確認のため、計測不可。

主軸方位　N－61°－W

検出・埋没状況　確認することができなかった。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

(２)集石(第66図　PL.66)

位置　X＝31,288～31,290　Y＝-70,734～-70,738

12～14号復旧坑の地境で検出した。

重複　12～14号復旧坑と11号畦より古い。

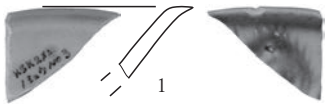
遺物　中国磁器染付皿と思われる口縁部片(第66図１)が出土した。肥前京焼風陶器碗の口縁部片在地系土器内耳鍋の体部片、瀬戸・美濃陶器黄瀬戸鉢の口縁部片が出土したが、いずれも小片のため実測・図示にはいたらなかった。

調査所見　大小さまざまな礫を畑の隅に集めた遺構であろう。遺構の検出状況から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

11号畦　集石

1　暗褐色土(10YR3/3)砂層(復旧坑の覆土)。
2　褐色土(10YR4/4)非常に硬くしまる。
3　褐色土(10YR4/6)硬くしまる。
4　褐色土(10YR4/6)砂を10％含む。やや柔らかい。

0　1：20　1m



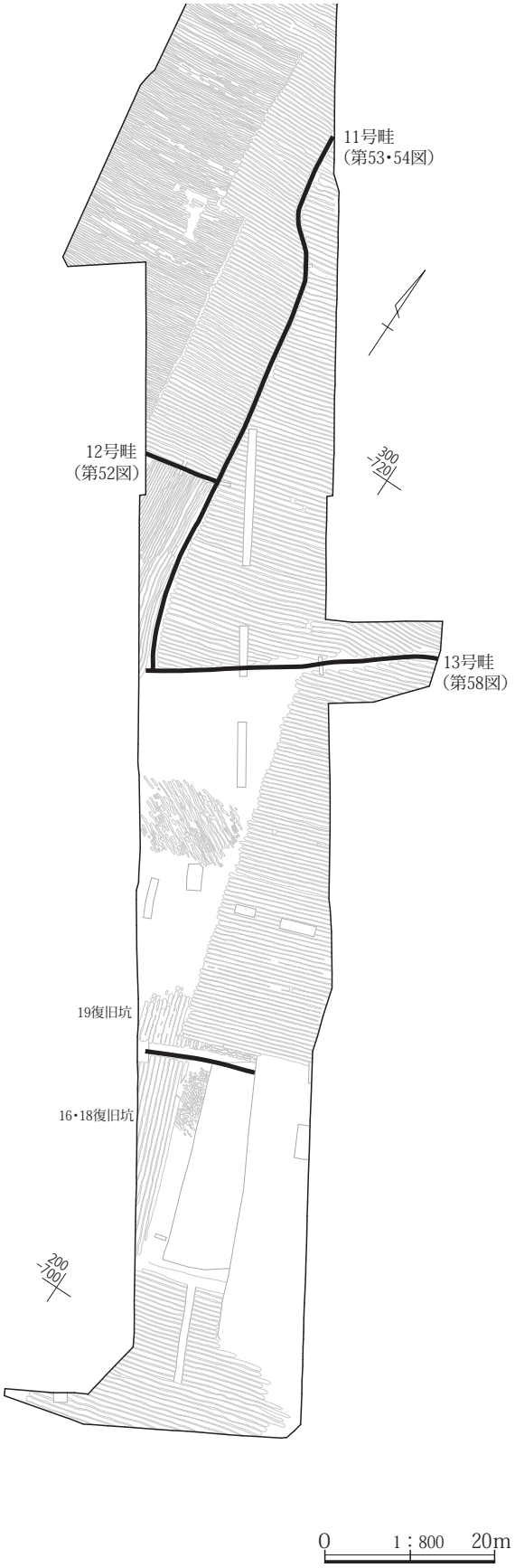
0　1：2　4cm

第66図　11号畦　集石と出土遺物

（３）畦（第52～54・58・67図）

１面と同様に畑や復旧坑の間に掘削されずに固く踏みしめられたり、盛土されたりした畦を３本確認した。11号畦は南北に、12・13号畦は東西に走向している。また、11号畦は１面６号畦の直下、12号畦は１面８号畦直下、13号畦は1面９号畦の直下から検出した。１面と２面とではほぼ同様の区画が検出されており、洪水やAs-Aの降下後には元の状態に畑を復興していることがうかがえる。そのほか、19号復旧坑と16・18号復旧坑の間にも、東西に走向する畦状の高まりを確認した。

いずれの畦からも遺物は出土していない。遺構の検出状況や埋土から、時期は天明３（1783）年以前と考えられる。



第67図　１区２面　畦全体図

第４節　第３面の遺構と遺物

（１）掘立柱建物（３面）

１号掘立柱建物（第69～71図　PL.28～32・36）

位置　Ｘ＝31,414～31,420　Ｙ＝-70,821～-70,831

２区の最北端に位置する。

重複　15号溝と重複するが新旧は不明。

規模　桁行三間×梁間二間の総柱建物で東西に庇を有する。庇を含めた規模は9.36m×4.96mを測る。柱穴はＰ１からＰ18で、平面形はほぼ楕円形を呈する。長軸・短軸・深さの平均は、身舎が0.46×0.38×0.62、庇が0.41×0.34×0.57で大差はない。個別の柱穴は第３表のとおりである。なお、表中の備考欄には、調査当初に付されたピット番号を記載している。

主軸方向：Ｎ－８°－Ｅ

検出・埋没状況　柱穴の埋土にはAs-Aを含んでおらず、断面形は円錐状のものが多い。Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５から扁平な礫を確認した。

出土遺物　なし。

調査所見　時期は、遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

２号掘立柱建物（第72・73図　PL.33～36）

位置　Ｘ＝31,406～31,412　Ｙ＝-70,807～-70,814

１号掘立柱建物から南東約９mに位置する。

重複　なし。

規模　桁行三間×梁間二間の総柱建物で、規模は6.36m×4.05mを測る。個別の柱穴は第４表のとおりである。なお、表中の備考欄には、調査当初に付されたピット番号を記載している。

主軸方向：Ｎ－13°－Ｅ

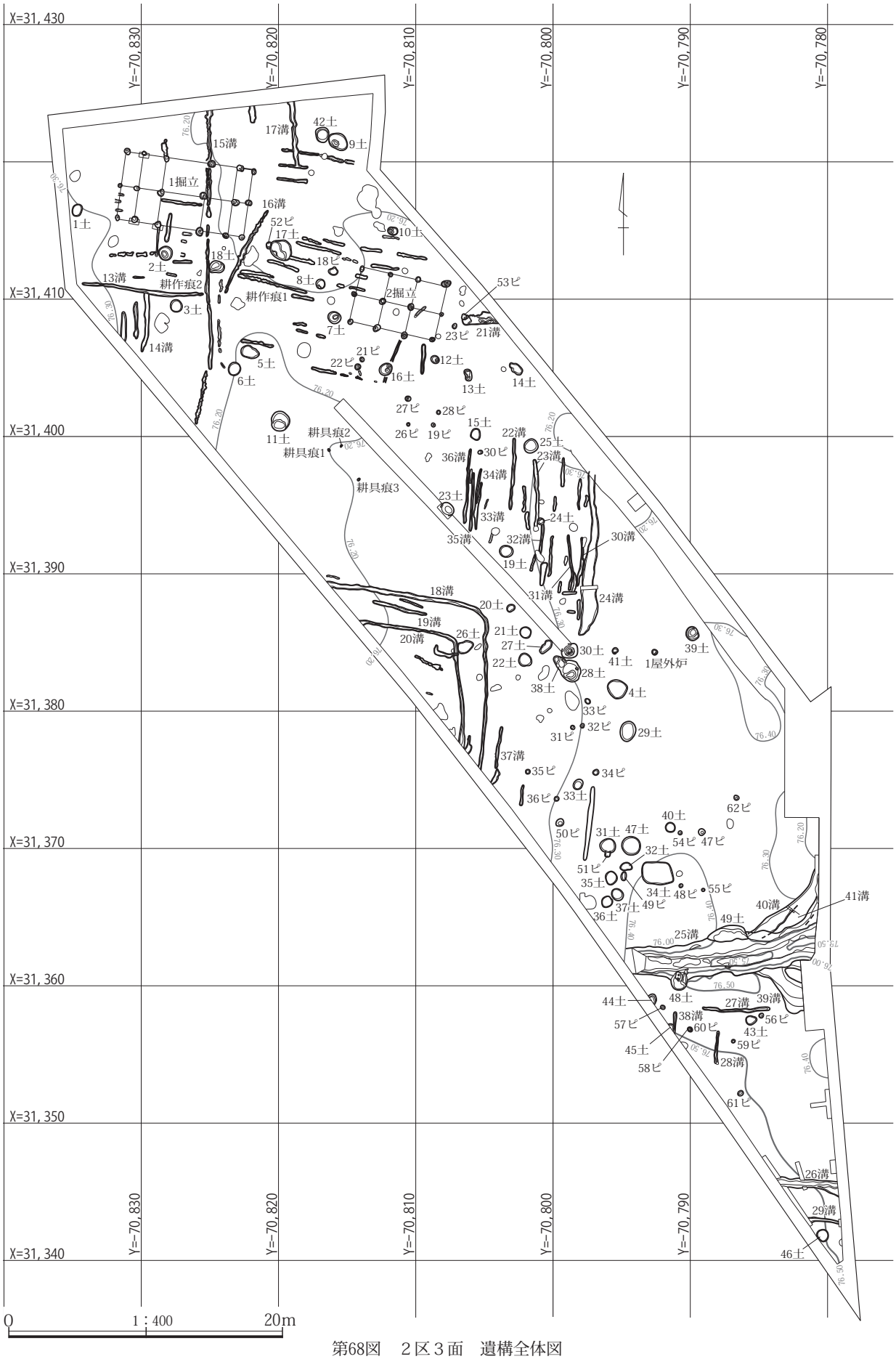
検出・埋没状況　柱穴の埋土にはAs-Aを含んでおらず、断面形は円錐状のものが多い。Ｐ４からは円礫を確認した。

出土遺物　なし。

調査所見　時期は、遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

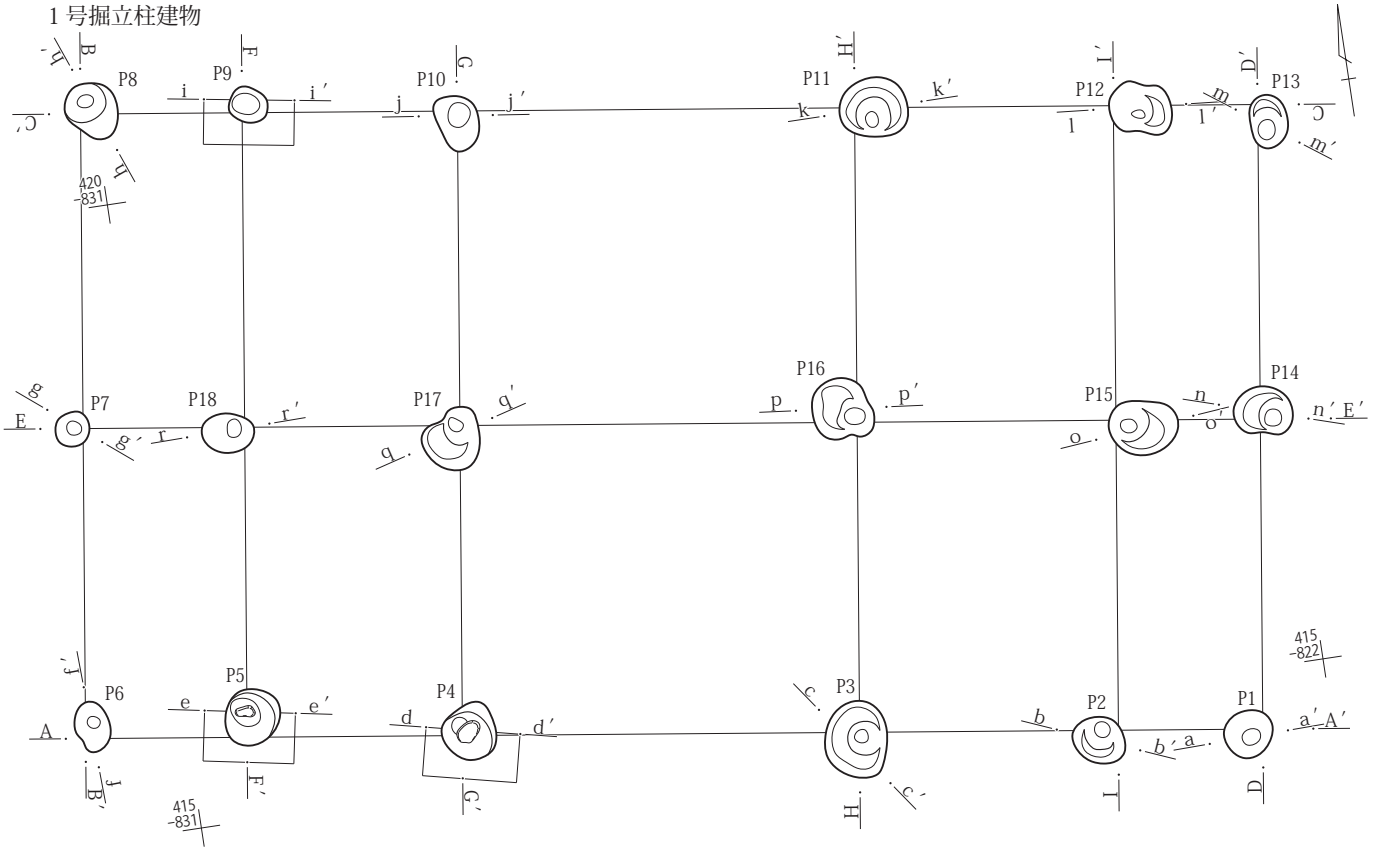
第３表　１号掘立柱建物計測表

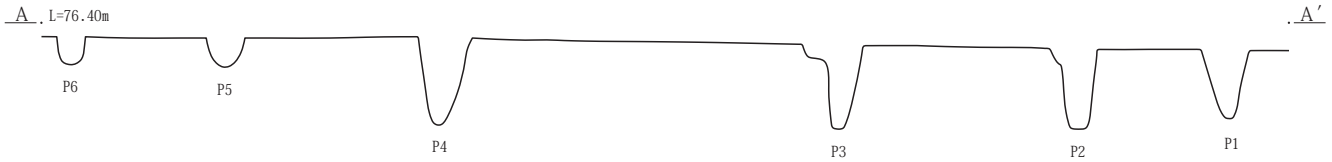
位置	X=31,414 ～ 31,420　Y=-70,821 ～ -70,831						
規模	長軸9.36(m)×短軸4.96(m)			面積　46.52㎡(身舎は34.57㎡)			
主軸方位	N－8°－E						
柱穴№	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	形状	柱間寸法(m)		旧ピット番号
1	0.40	0.37	0.55	ほぼ円形	～Ｐ2=1.18	～Ｐ14=2.53	10
2	0.44	0.37	0.65	楕円形	～Ｐ3=1.91	～Ｐ15=2.45	9
3	0.61	0.50	0.67	楕円形	～Ｐ4=3.20	～Ｐ16=2.57	11
4	0.47	0.44	0.70	楕円形	～Ｐ5=1.69	～Ｐ17=2.40	46
5	0.47	0.42	0.68	楕円形	～Ｐ6=1.26	～Ｐ18=2.30	45
6	0.40	0.28	0.63	楕円形	～Ｐ7=2.34		5
7	0.29	0.28	0.66	円形	～Ｐ8=2.60		2
8	0.48	0.41	0.64	楕円形	～Ｐ9=1.27		1
9	0.31	0.27	0.56	楕円形	～Ｐ10=1.69	～Ｐ18=2.59	43
10	0.44	0.35	0.68	楕円形	～Ｐ11=3.28	～Ｐ17=2.47	44
11	0.54	0.47	0.74	楕円形	～Ｐ12=2.13	～Ｐ16=2.35	6
12	0.52	0.38	0.67	楕円形	～Ｐ13=1.04	～Ｐ15=2.46	15
13	0.43	0.30	0.53	楕円形	～Ｐ14=2.29		12
14	0.48	0.37	0.39	楕円形	～Ｐ15=1.15		8
15	0.55	0.43	0.43	楕円形	～Ｐ16=2.18		7
16	0.54	0.49	0.70	楕円形	～Ｐ17=3.17		13
17	0.52	0.45	0.66	楕円形	～Ｐ18=1.75		4
18	0.42	0.32	0.58	楕円形	～Ｐ7=1.28		3

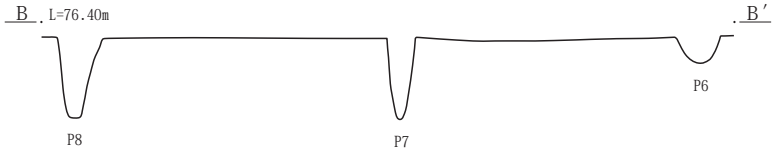


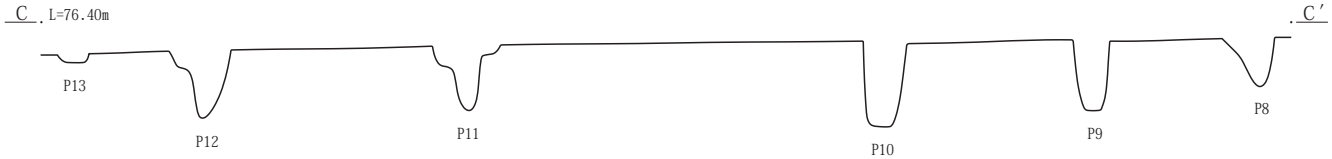
第68図　２区３面　遺構全体図

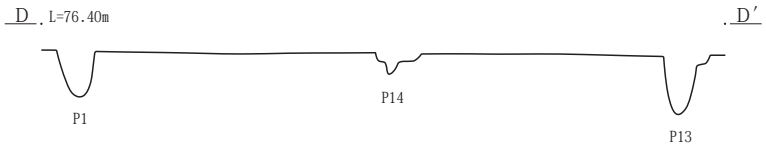
１号掘立柱建物





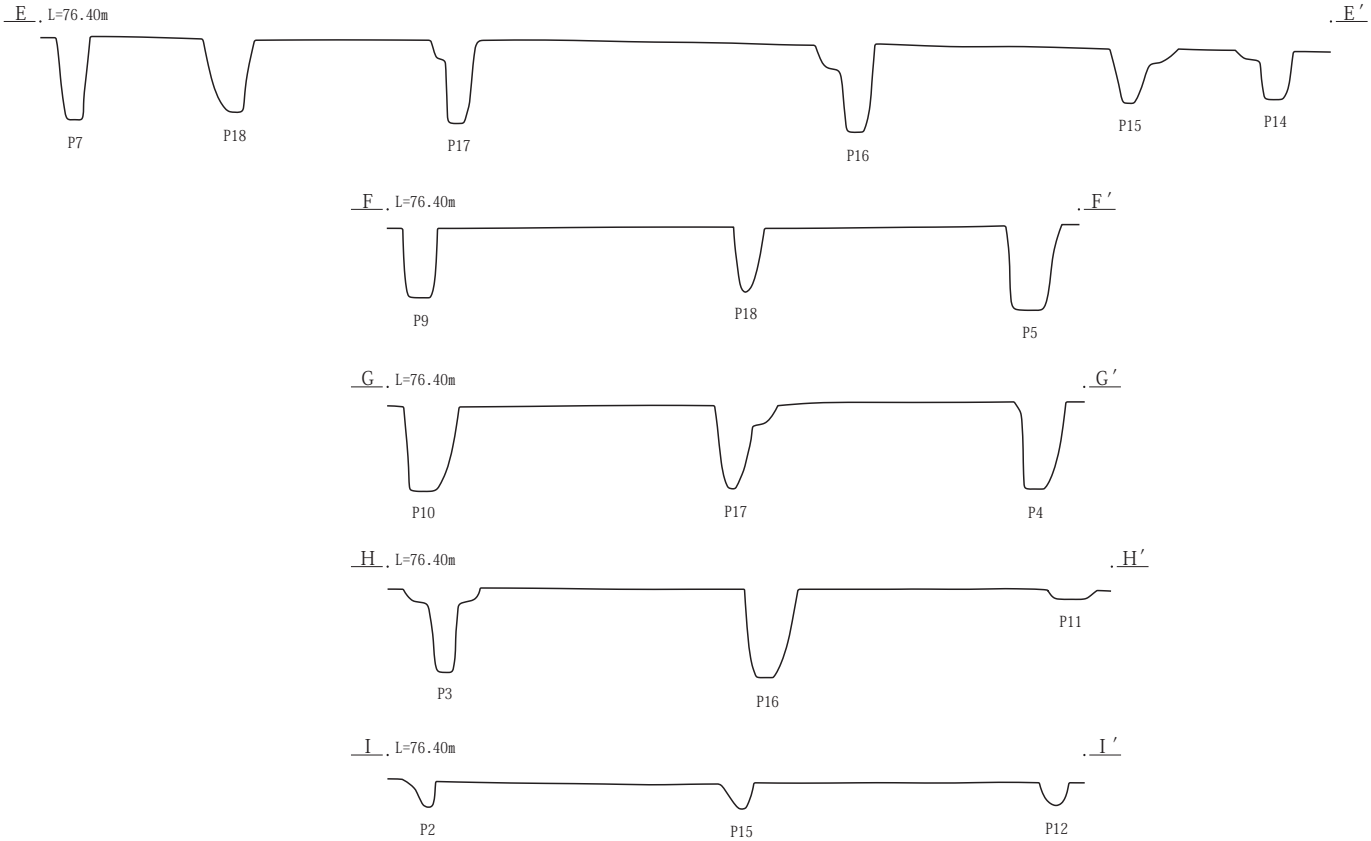


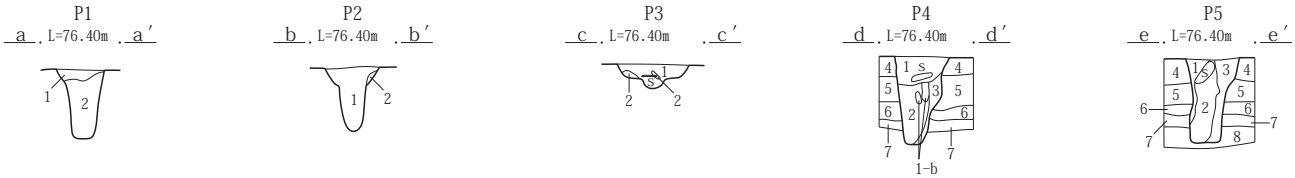




0　1：60　2m

第69図　１号掘立柱建物（１）



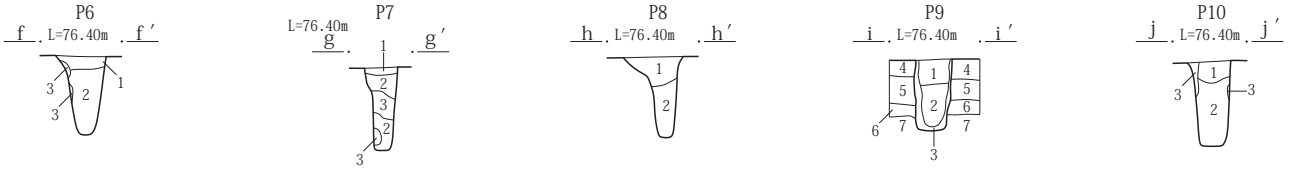


P1　a－a′
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを20％含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを５％含む。

P2　b-b′
1　黒褐色土(10YR2/3)硬い。φ10～30mm褐色の粘土ブロックを20％含む。
2　褐色土(10YR4/4)粘質土。

P3　c-c′
1　黒褐色土(10YR2/3)硬くしまる。φ10mm褐色土ブロックを10％含む。
2　褐色土(10YR4/4)粘質土。

P4　d-d′・P5　e-e′・P10　j-j′
1　黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土ブロックを10％含む。
1－b　黒褐色土(10YR2/3)黄褐色ブロックを20％含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)φ１～３mm白色粒を５％含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。やや柔らかい。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを30％含む。硬くしまる。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)黒色粒を２％含む。やや粘性あり。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。
7　灰黄褐色土(10YR4/3)褐色土を20％含む。粘性あり。
8　褐灰色土(10YR4/1)暗褐色土を20％含む。粘性あり。



P6　f－f′
1　黒褐色土(10YR2/3)硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)やや柔らかい。
3　褐色土(10YR4/4)粘質土。

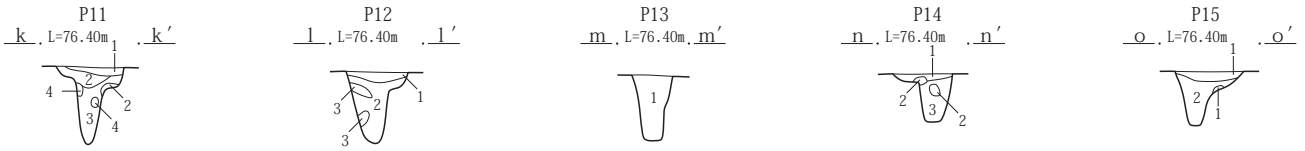
P7　g－g′
1　黒褐色土(10YR2/3)硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)やや柔らかい。
3　褐色土(10YR4/4)粘質土。

P8　h－h′
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土をブロック状に10％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)やや柔らかい。

P9　i-i′
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１～３mm白色粒を５％、褐色土ブロックを30％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土ブロックを10％含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。やや柔らかい。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを30％含む。硬くしまる。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)黒色片を２％含む。やや粘性あり。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。
7　灰黄褐色土(10YR4/3)褐色土を20％含む。粘性あり。

0　1：60　2m

第70図　１号掘立柱建物（２）



P11　k-k′
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを５％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)φ10～20㎜の褐色ブロックを10％含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)やや柔らかい。
4　褐色土(10YR4/4)粘質土。

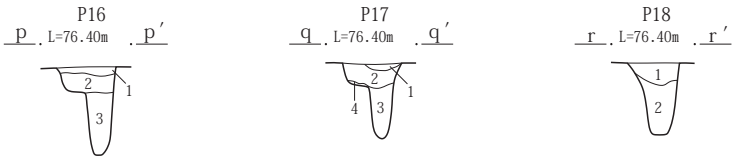
P12　l-l′
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを10％含む。硬い。
2　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを10％含む。
3　褐色土(10YR4/4)粘質土。

P13　m-m′
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを５％含む。

P14　n-n′
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを10％含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)やや柔らかい。
3　褐色土(10YR4/4)粘質土。

P15　o-o′
1　黒褐色土(10YR2/3)硬い。10～50㎜粘土ブロックを30％含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)やや柔らかい。

P16　p-p′
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色の粘土ブロックを30％含む。硬い。
2　黒褐色土(10YR2/3)褐色の粘土ブロックを10％含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)やや柔らかい。



P18　r-r′
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色ブロックを30％含む。
　　硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)やや柔らかい。

P17　q-q′
1　黒褐色土(10YR2/3)硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)褐色の粘土ブロックを30％、炭化物片を10％含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)やや柔らかい。
4　褐色土(10YR4/4)粘質土。

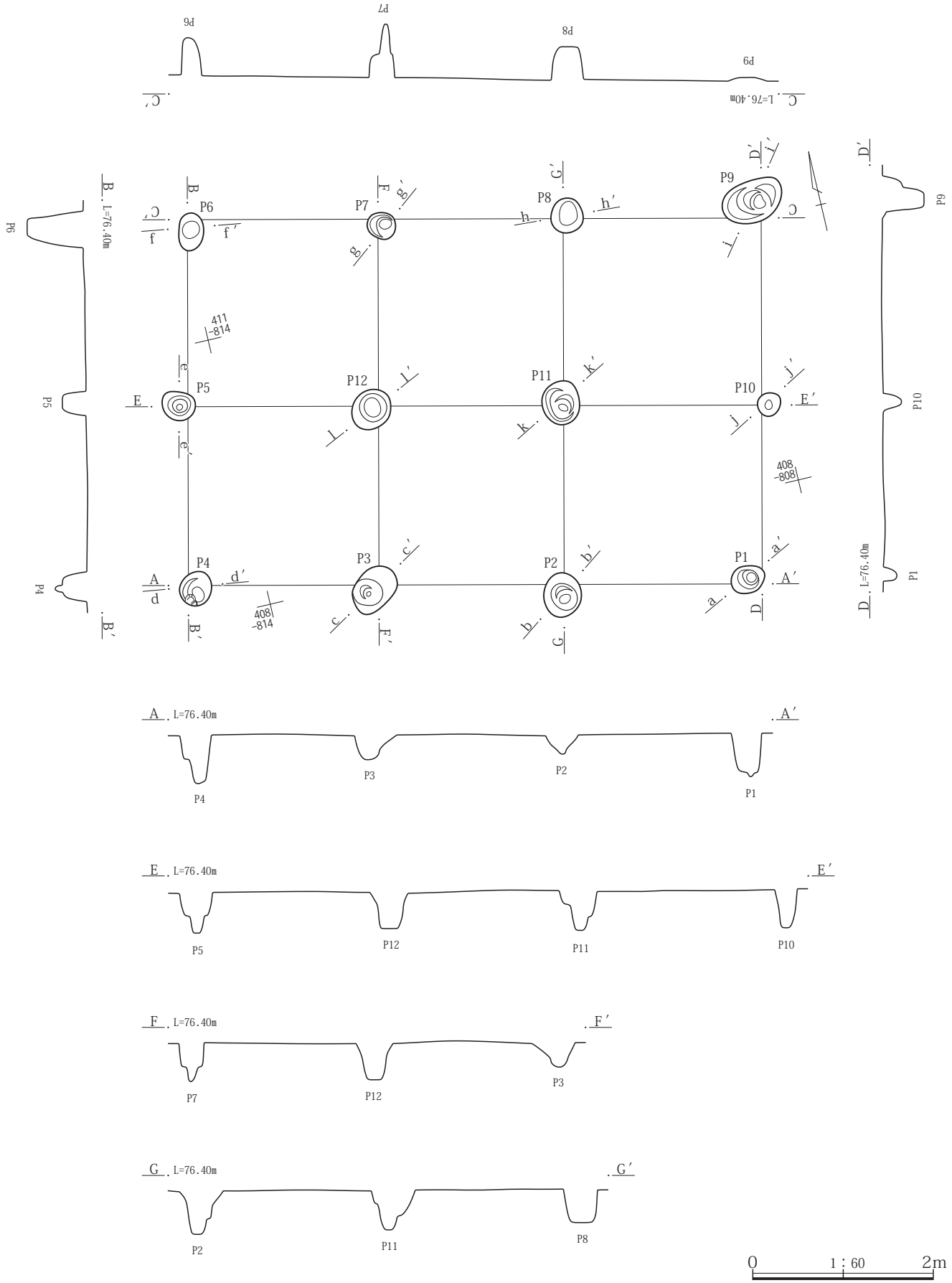
0　1：60　2m

第71図　１号掘立柱建物（３）

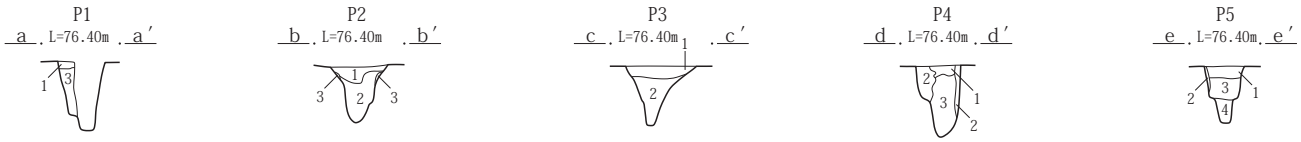
第４表　２号掘立建物計測表

位置	X=31,406 ～ 31,412　Y=-70,807 ～ -70,814						
規模	長軸6.36(m)×短軸4.05(m)			面積　25.59㎡			
主軸方位	N－13°－E						
柱穴№	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	形状	柱間寸法(m)		旧ピット番号
1	0.39	0.32	0.55	楕円形	～P2=2.08	～P10=1.91	39
2	0.49	0.42	0.48	楕円形	～P3=2.18	～P11=2.12	25
3	0.58	0.41	0.48	楕円形	～P4=1.90	～P12=2.06	17
4	0.39	0.35	0.62	楕円形	～P5=2.09		42
5	0.38	0.32	0.45	楕円形	～P6=1.97		41
6	0.42	0.28	0.64	楕円形	～P7=2.16		40
7	0.32	0.29	0.60	ほぼ円形	～P8=2..04	～P12=2.03	20
8	0.39	0.36	0.37	ほぼ円形	～P9=2.12	～P11=2.15	37
9	0.69	0.47	0.46	楕円形	～P10=2.25		24
10	0.27	0.25	0.43	ほぼ円形	～P11=2.27		38
11	0.48	0.44	0.44	楕円形	～P12=2.12		16
12	0.48	0.42	0.40	楕円形	～P5=2.14		14

２号掘立柱建物



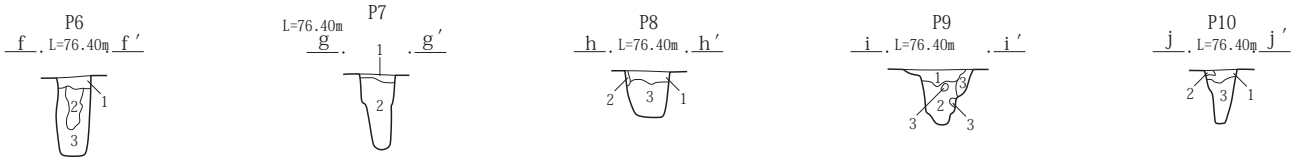
第72図　２号掘立柱建物（１）



P1　a－a′・P4　d-d′・P5　e-e′・P6　f－f′・P8　h－h′・P10　j-j′
1　暗褐色土(10YR3/3)φ１～３㎜程度の白色粒を５％含む。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)φ３～４㎜程度の黒色粒を５％含む。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)褐色の粘質土混土。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)粘質土。ややもろい。

P2　b-b′
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを30％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)やや柔らかい。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。やや柔らかい。

P3　c－c′
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを10％含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)やや柔らかい。

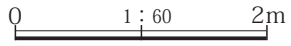


P7　g－g′
1　黒褐色土(10YR2/3)硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを５％含む。

P9　i-i′
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを30％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)やや柔らかい。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。やや柔らかい。

P11　k-k′
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを10％含む。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)粘性あり。

P12　l-l′
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを20％含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)やや柔らかい。



第73図　２号掘立柱建物（２）

（２）溝

溝は29条調査した。いずれも流水の痕跡は認められず、土層は１層しかないものが多数を占める。用途は、地境や区画、畑のサク状痕等が考えられる。ただし、25号溝と39号溝はAs-Aで埋められているため、軽石の処理のために掘削されたのであろう。

13号溝（第74図　PL.37）

位置　X＝31,410～31,411　Y＝-70,825～-70,834

重複　14号溝と同時期。

形状　東西方向のほぼ直線の溝である。西側がやや低く比高差は５cmである。

走向方位　N－85°－W

規模　全長8.89m　最大幅0.36m　最深部0.08m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を含む黒褐色土を主体とし、粘質の褐色土が混じる。断面形は弧状である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

14号溝（第74図　PL.37）

位置　X＝31,406～31,410　Y＝-70,829

重複　13号溝とほぼ垂直に交わる。

形状　南北方向の　ほぼ直線の溝で、南側でやや西に振れる。南側がやや低く比高差は２cmである。

走向方位　N－５°－E

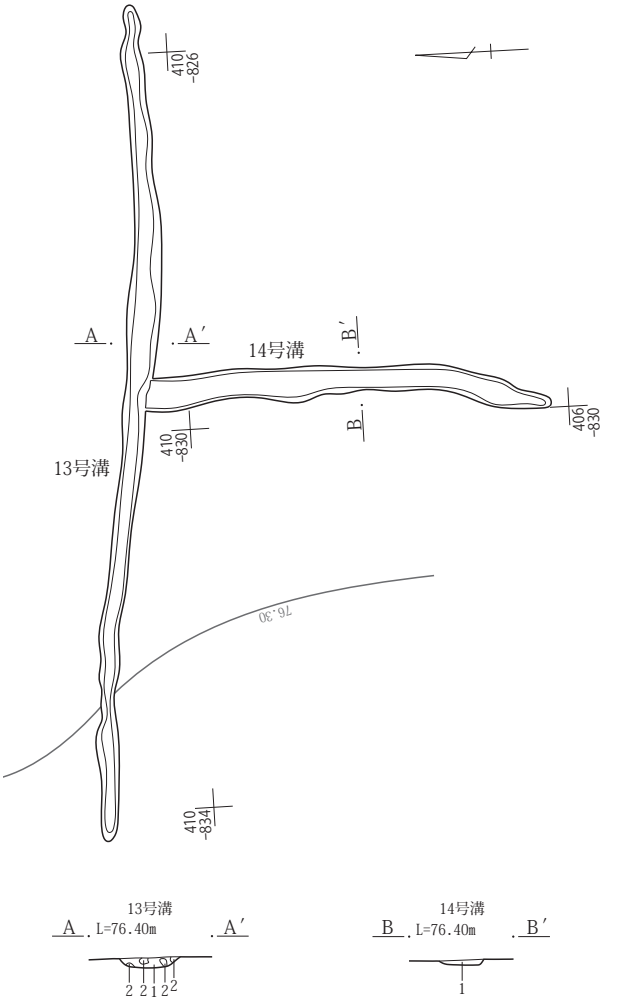
規模　全長4.30m　最大幅0.37m　最深部0.04m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を含む褐色土で硬く締まっている。断面形は台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況及び埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。37号溝と同時期と考えられる。

13号溝・14号溝



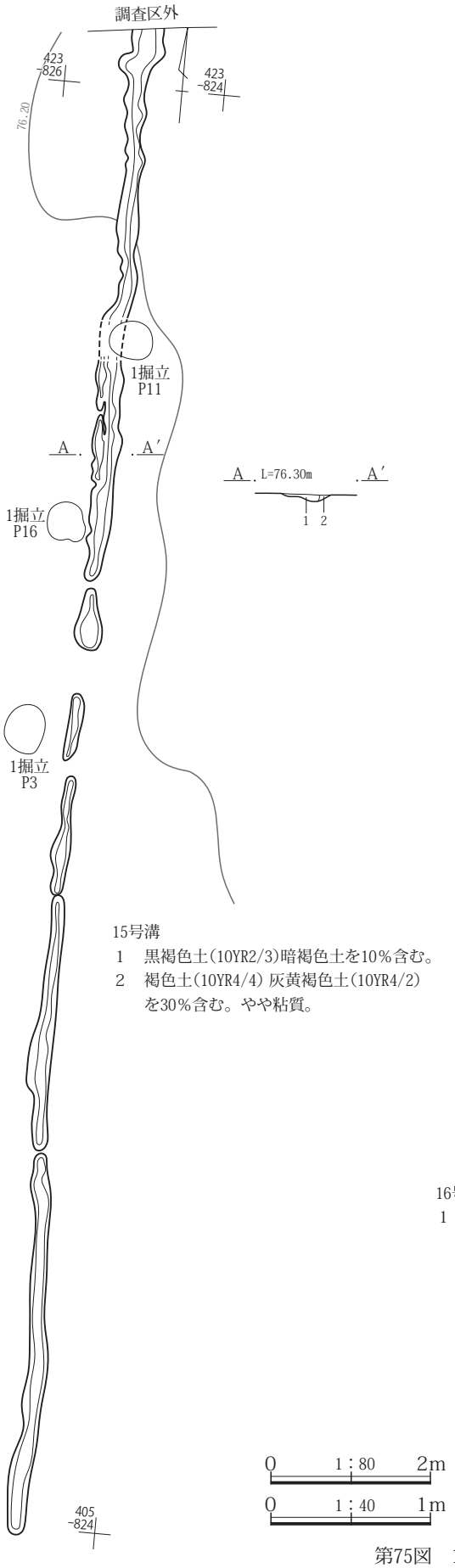
13号溝　A－A′
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１mm白色粒を１％含む。
2　褐色土(10YR4/4)粘質土。黒褐色土(10YR2/3)を30％含む。

14号溝　B－B′
1　褐色土(10YR4/4)φ２～５mm白色粒を５％含む。硬くしまる。

0　1：80　2m
0　1：40　1m

第74図　13号溝・14号溝

15号溝



15号溝
1　黒褐色土(10YR2/3)暗褐色土を10％含む。
2　褐色土(10YR4/4) 灰黄褐色土(10YR4/2)を30％含む。やや粘質。

15号溝(第75図　PL.37・38)

位置　X＝31,404～31,423　Y＝-70,824～-70,825

重複　１号掘立柱建物と重複するが新旧は不明。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。途中、 数か所途切れるが、１連の溝と考えられる。凹凸はあるが、東西の比高差はほとんどない。

走向方位　N－０°

規模　全長18.90m　最大幅0.37m　最深部0.07m

検出・埋没状況　埋土は、黒褐色土に、やや粘質の褐色土を含む。断面形は不整形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

16号溝(第75図　PL.37・38)

位置　X＝31,410～31,416　Y＝-70,820～-70,823

重複　なし。

形状　南西から北東方向へほぼ直線の溝である。南西がやや低く比高差は７㎝である。

走向方位　N－27°－E

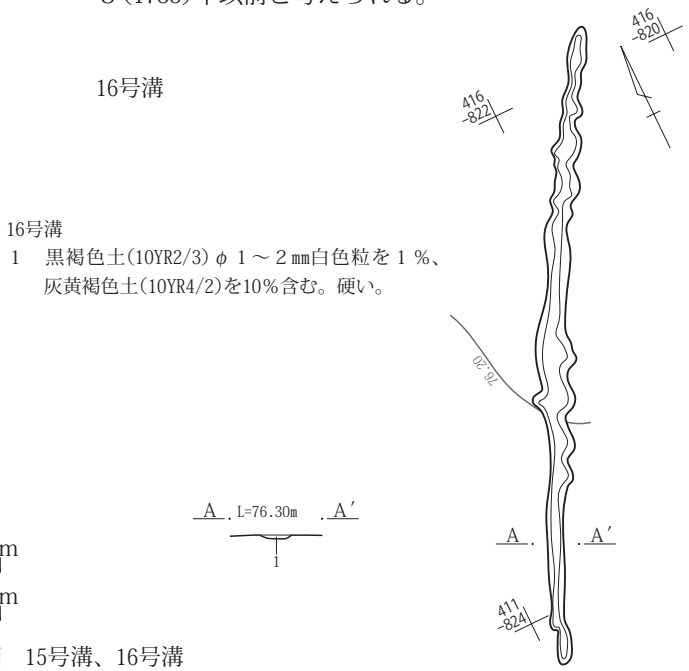
規模　全長6.78m　最大幅0.43m　最深部0.05m

検出・埋没状況　埋土は、黒褐色土に灰黄褐色土を含み、硬くしまっている。断面形は台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

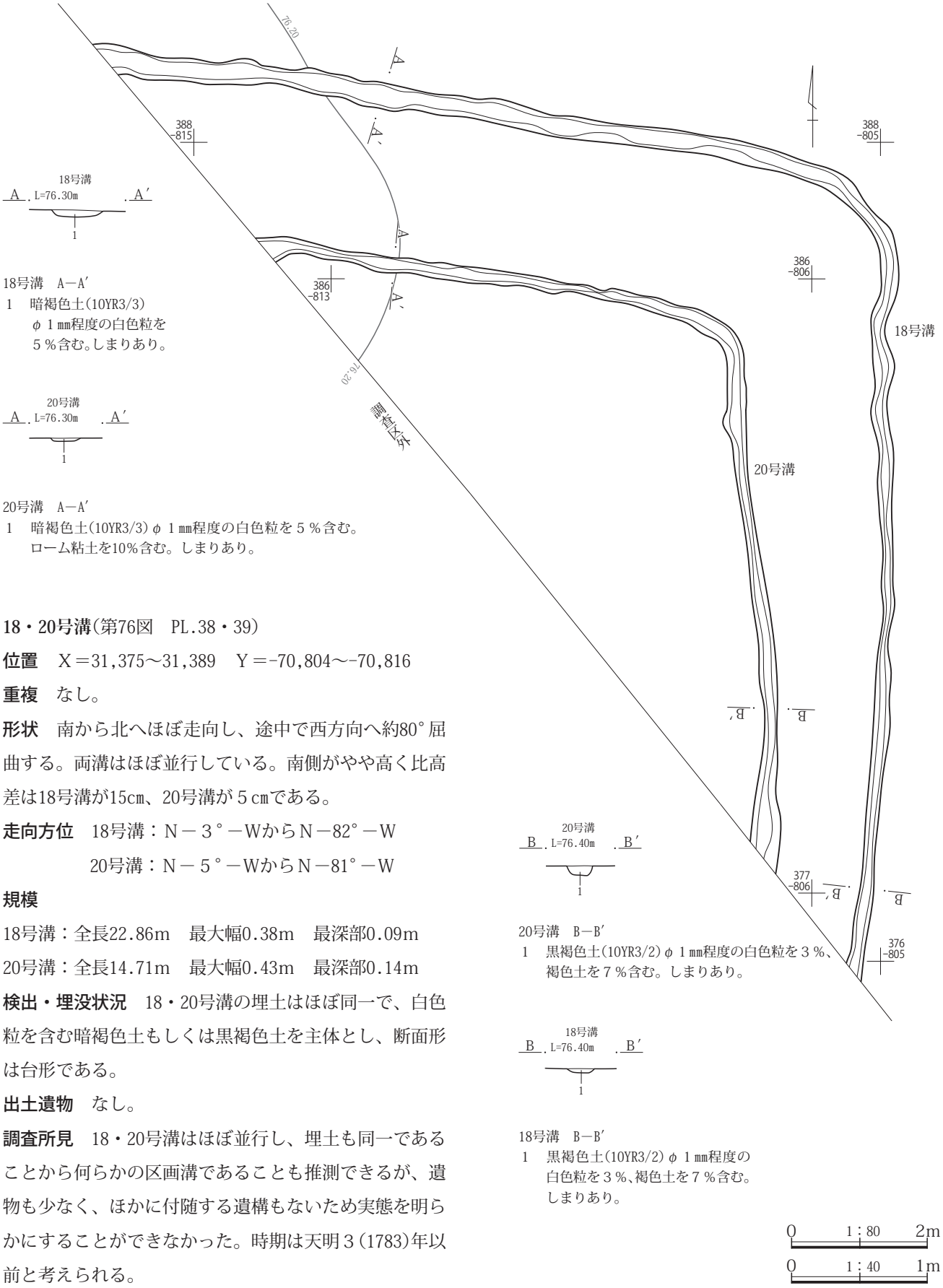
16号溝



16号溝
1　黒褐色土(10YR2/3) φ１～２㎜白色粒を１％、灰黄褐色土(10YR4/2)を10％含む。硬い。

第75図　15号溝、16号溝

18号溝・20号溝



18・20号溝(第76図　PL.38・39)

位置　X＝31,375～31,389　Y＝-70,804～-70,816

重複　なし。

形状　南から北へほぼ走向し、途中で西方向へ約80°屈曲する。両溝はほぼ並行している。南側がやや高く比高差は18号溝が15cm、20号溝が５cmである。

走向方位　18号溝：N－３°－WからN－82°－W

20号溝：N－５°－WからN－81°－W

規模

18号溝：全長22.86m　最大幅0.38m　最深部0.09m

20号溝：全長14.71m　最大幅0.43m　最深部0.14m

検出・埋没状況　18・20号溝の埋土はほぼ同一で、白色粒を含む暗褐色土もしくは黒褐色土を主体とし、断面形は台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　18・20号溝はほぼ並行し、埋土も同一であることから何らかの区画溝であることも推測できるが、遺物も少なく、ほかに付随する遺構もないため実態を明らかにすることができなかった。時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

第76図　18号溝・20号溝

17号溝(第77図　PL.38)

位置　X＝31,419～31,424　Y＝-70,818～-70,819

重複　なし。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。底面に凹凸はあるが比高差はほとんどない。

走向方位　N－５°－W

規模　全長4.67m　最大幅0.50m　最深部0.09m

検出・埋没状況　埋土は、灰黄褐色土に褐色土ブロックが混じる。断面形は台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

19号溝(第77図　PL.39)

位置　X＝31,386～31,388　Y＝-70,809～-70,813

18号溝と20号溝の間に位置する。

重複　なし。

形状　東西方向のほぼ直線の溝である。中央部がやや低く比高差は５cmである。

走向方位　N－76°－W

規模　全長4.06m　最大幅0.28m　最深部0.09m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を含む暗褐色土で、断面形は不整形である。

出土遺物　なし。

調査所見　18・20号溝との関連も考えられるが、走行方位が５°前後異なるため、別遺構と判断した。検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

21号溝(第77図　PL.39)

位置　X＝31,408～31,409　Y＝-70,803～-70,806

重複　53号ピットが後出する。

形状　底面にやや起伏が多く、西側が８cm低く掘削されている。

走向方位　N－84°－E

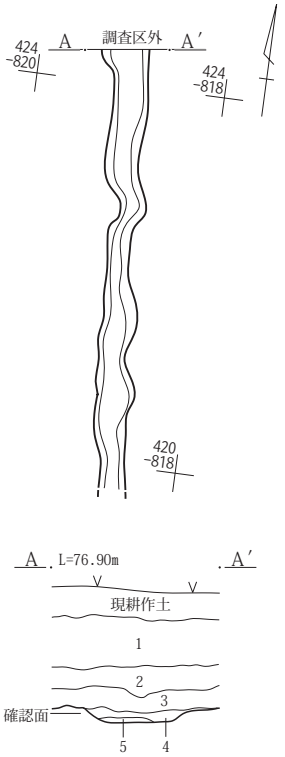
規模　全長2.32m　最大幅0.90m　最深部0.16m

検出・埋没状況　埋土は、褐色土ブロックを含む黒褐色土を主体で、下位は粘性のある灰黄褐色土である。断面形は台形である。

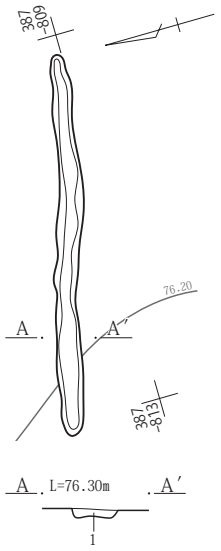
出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明

17号溝



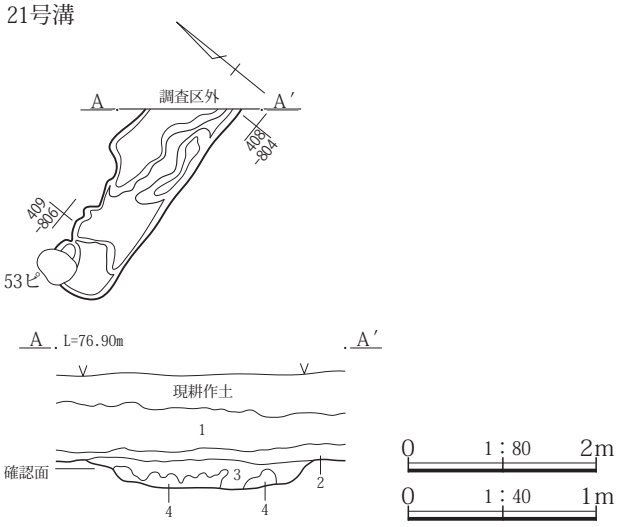
19号溝



19号溝
1　暗褐色土(10YR3/3)φ１mm程度の白色粒を５％含む。しまりあり。

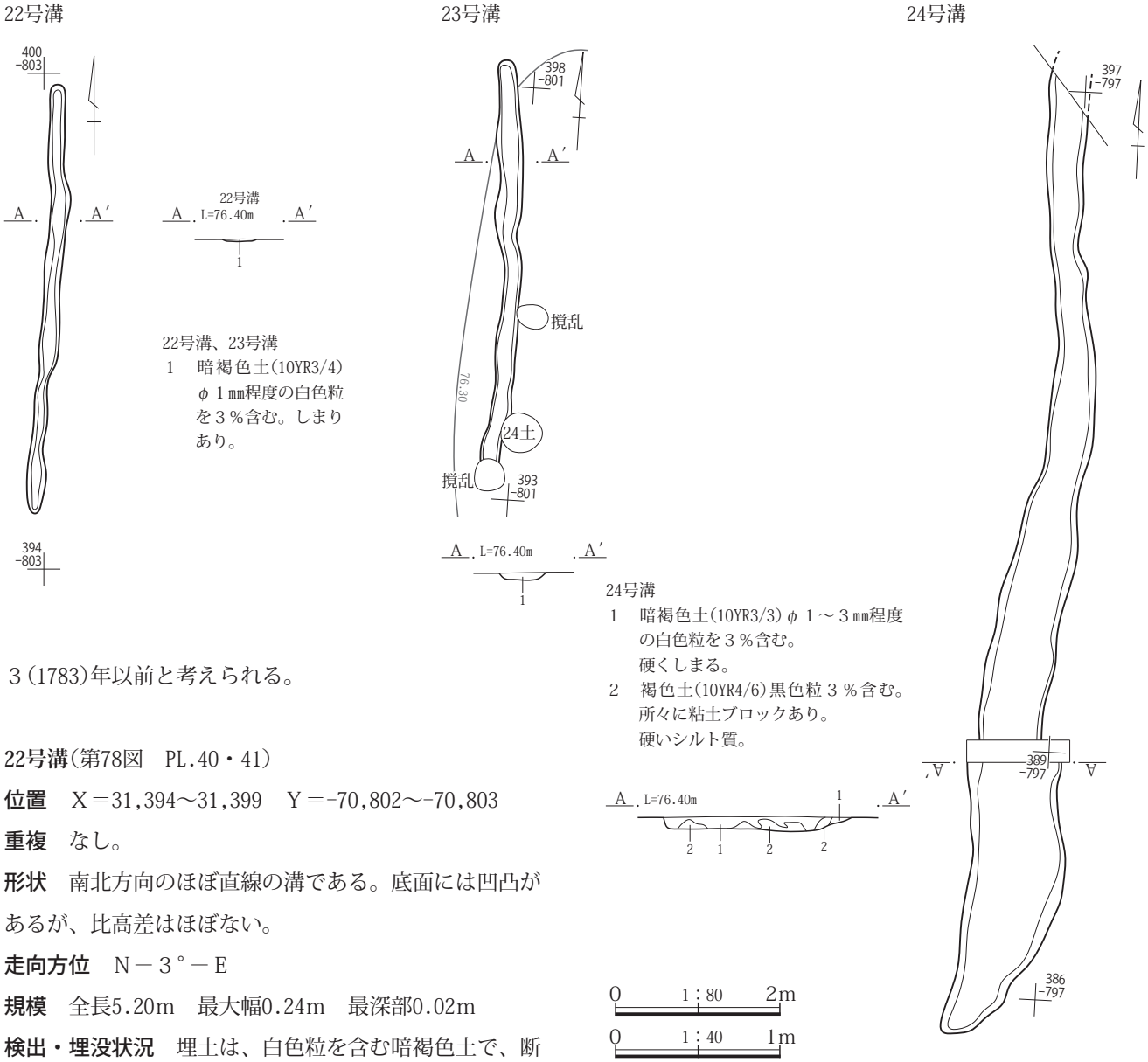
17号溝
1　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土を30％、φ２～５mm白色粒を３％含む。硬くしまる。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを10％、φ１～３mm白色粒を３％含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)酸化土を50％含む。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを５％、酸化土を10％含む。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを10％含む。やや粘性あり。

21号溝



21号溝
1　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土を30％、φ２～５mm白色粒を３％含む。硬くしまる。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを10％含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)褐色土ブロックを10％含む
4　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを20％含む。やや粘性あり。

第77図　17号溝、19号溝、21号溝



第78図　22号溝～24号溝

３(1783)年以前と考えられる。

22号溝(第78図　PL.40・41)

位置　X＝31,394～31,399　Y＝-70,802～-70,803

重複　なし。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。底面には凹凸があるが、比高差はほぼない。

走向方位　N－３°－E

規模　全長5.20m　最大幅0.24m　最深部0.02m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を含む暗褐色土で、断面形は台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

23号溝(第78図　PL.40・41)

位置　X＝31,393～31,398　Y＝-70,801

重複　24号土坑と重複するが新旧は不明。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。底面には凹凸があるが、比高差はほぼない。

走向方位　N－２°－W

規模　全長4.85m　最大幅0.32m　最深部0.09m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を含む暗褐色土で、断面形は台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

24号溝(第78図　PL.40・41)

位置　X＝31,385～31,397　Y＝-70,796～-70,798

重複　なし。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。南側ほど幅が広く、４㎝低い。

走向方位　N－３°－E

規模　全長11.58m　最大幅1.14m　最深部0.09m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を含む暗褐色土を主体

とし、シルト質の褐色土が混じる。断面形は台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

25号溝(第79・80図　PL.40・41・66・67)

位置　X＝31,360～31,366　Y＝-70,780～-70,794

重複　48号土坑、49号土坑、40・41号溝に後出し、39号溝と同時期。

形状　東西方向のほぼ直線の溝である。溝のほぼ中央がやや低く比高差は17cmである。

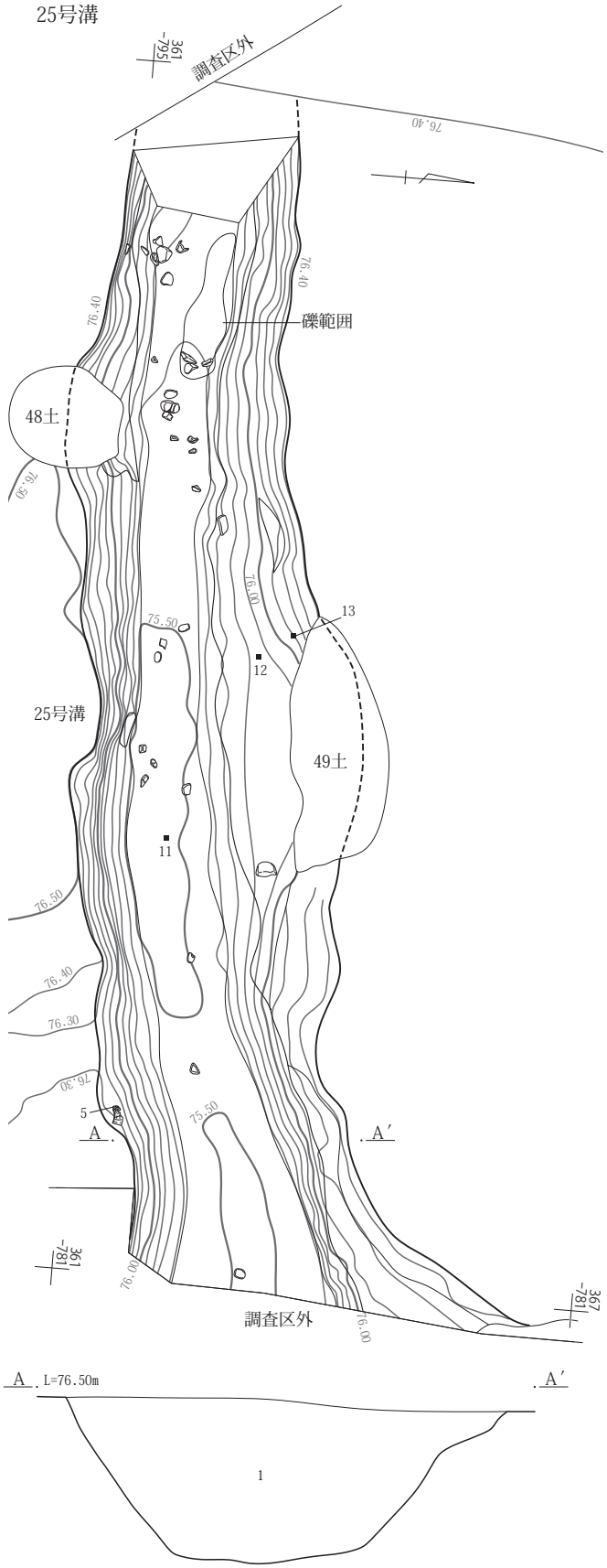
走向方位　N－81°－E

規模　全長13.47m　最大幅3.10m　最深部1.09m

検出・埋没状況　埋土は、As-Aを充填している。断面形はほぼ台形である。

出土遺物　須恵器鉢底部片(第80図１)、円筒埴輪片２点(第80図２・３)、平瓦片(第80図４)、瀬戸・美濃磁器碗蓋片(第80図５)、珉平焼と思われる鉢底部片(第80図６)、瀬戸・美濃陶器鎧碗体部から底部片(第80図７)、在地系土器片口鉢(第80図８)、蕨手状の加工が施された石製品(第80図９)、寛永通寶(第80図11～14・16)、龍一銭銅貨(第80図15)、羽口片(第80図15)、石鍬(写真のみ、PL.67-25溝10)などが出土している。小片のため実測・図示にはいたらなかったが、瀬戸・美濃陶器耳壺蓋片、在地系土器置き竈基底部片、製作地不詳磁器碗底部片、江戸時代以降の手作り土管片、製作地不詳磁器小杯体部から底部片、肥前磁器小杯底部、肥前磁器碗口縁部片などが出土した。

調査所見　埋土は上層から底面までAs-Aで、この溝は軽石を処理するために掘削されたものと考えられる。時期は天明３(1783)年以降であるが、近現代の遺物が含まれており、比較的新しい溝である可能性もある。

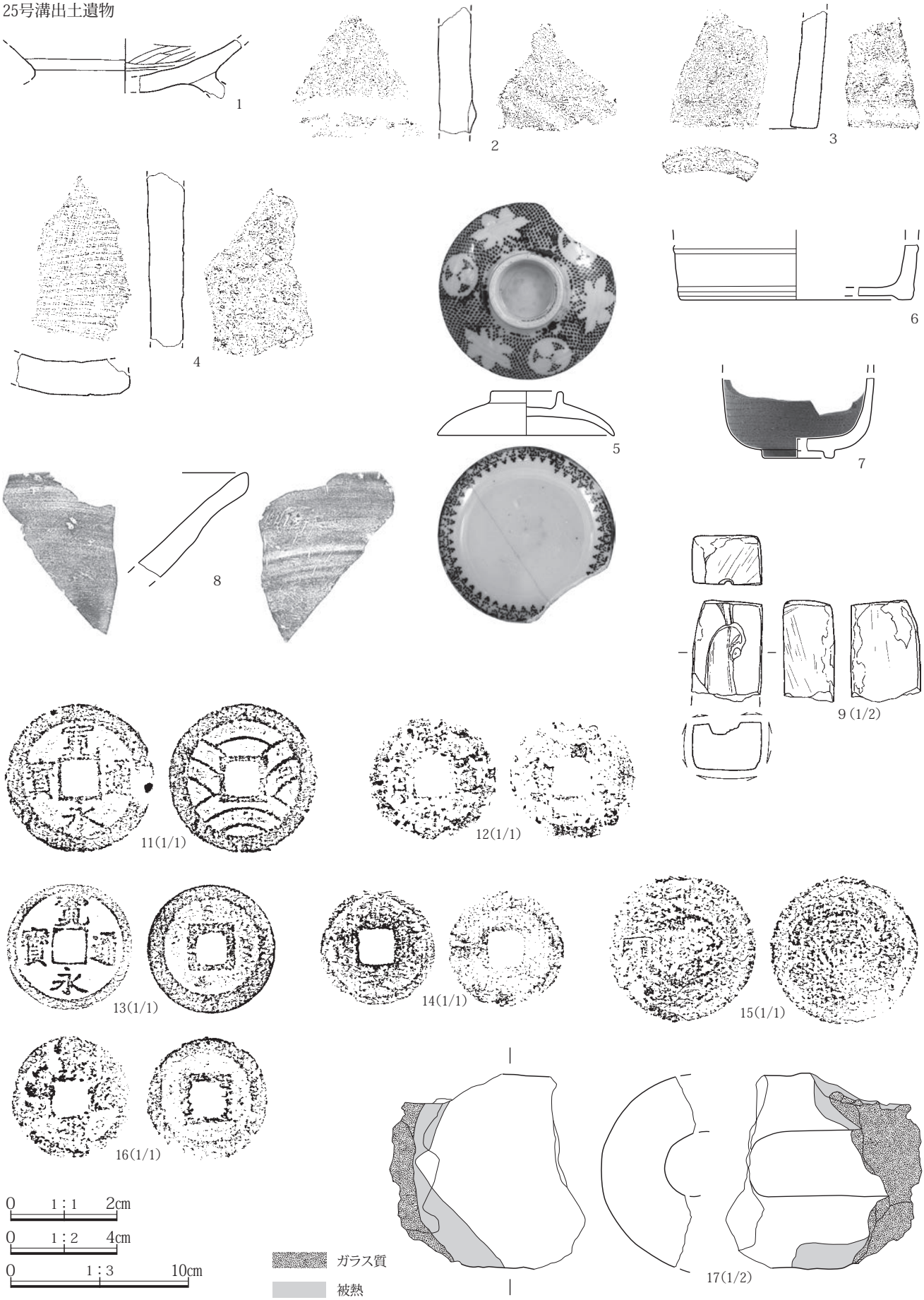


1　As-A純層。φ100～200mm程度の礫を少量含む。

0　1：80　2m　　0　1：40　1m

第79図　25号溝

25号溝出土遺物



第80図　25号溝出土遺物

26号溝(第81図　PL.41・42)

位置　X＝31,344～31,346　Y＝-70,779～-70,783

重複　なし。

形状　東西方向のほぼ直線の溝である。底面は平坦で、東側ほど幅が広くなる。

走向方位　N－87°－W

規模　全長4.30m　最大幅1.03m　最深部0.24m

検出・埋没状況　埋土は、褐色土ブロックや砂質土を含む黒褐色土を主体としている。断面形はほぼ台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

27号溝(第81図　PL.41・42)

位置　X＝31,358　Y＝-70,784～-70,789

重複　なし。

形状　東西方向のほぼ直線の溝である。東側がやや低く比高差は３cmである。

走向方位　N－89°－W

規模　全長4.93m　最大幅0.28m　最深部0.06m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を微量含み粘性のある黒褐色土を主体としている。断面形は弧状である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

28号溝(第81図　PL.42)

位置　X＝31,354～31,356　Y＝-70,787～-70,788

重複　なし。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。底面に凹凸を有するが、比高差はほとんどない。

走向方位　N－４°－E

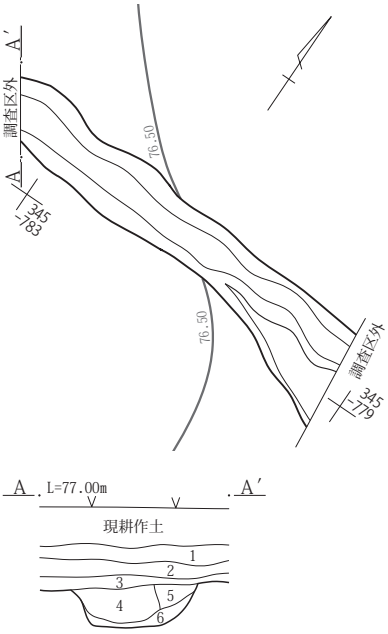
規模　全長2.34m　最大幅0.24m　最深部0.12m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を微量、褐色土ブロックを少量含む黒褐色土を主体とし、硬くしまる。断面形は台形状である。

出土遺物　　なし。

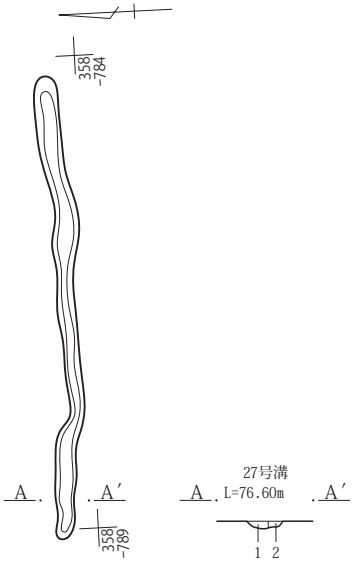
調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

26号溝

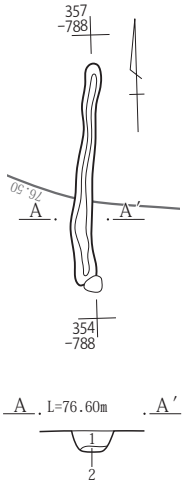


26号溝
1　灰黄褐色土(10YR4/2)φ１～３㎜程度の白色粒を３％含む。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを20％、φ１～３㎜程度の白色粒を1％含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを10％、砂質土を10％、φ１～３㎜程度の白色粒を２％含む。
5　黒褐色土(10YR2/3) 灰黄褐色土(10YR4/2)を30％、φ２～５㎜程度の白色粒を３％含む。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)粘性あり。

27号溝



28号溝



27号溝
1　黒褐色土(10YR2/3)φ２～３㎜白色粒を２％含む。やや粘性あり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。

28号溝
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１～２㎜白色粒を２％、褐色土ブロックを10％含む。硬い。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。

0　1：80　2m
0　1：40　1m

第81図　26号溝～28号溝

29号溝(第82図　PL.42)

位置　X＝31,342～31,343　Y＝-70,779～-70,781

重複　なし。

形状　東西方向のほぼ直線の溝である。東側がやや幅が広くなり、比高差はほとんどない。

走向方位　N－84°－W

規模　全長2.32m　最大幅0.42m　最深部0.12m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を微量、褐灰色土を少量含む黒褐色土を主体とし、硬くしまる。断面形は弧状である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

30号溝(第82図　PL.42)

位置　X＝31,389～31,392　Y＝-70,797～-70,798

重複　なし。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。南側がやや幅が広くなり、比高差はほとんどない。

走向方位　N－６°－W

規模　全長3.59m　最大幅0.30m　最深部0.07m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を微量含む暗褐色土を主体としている。断面形はほぼ台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

31号溝(第82図　PL.42)

位置　X＝31,388～31,392　Y＝-70,798

重複　なし。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。底面に凹凸があるが、比高差はほとんどない。

走向方位　N－２°－W

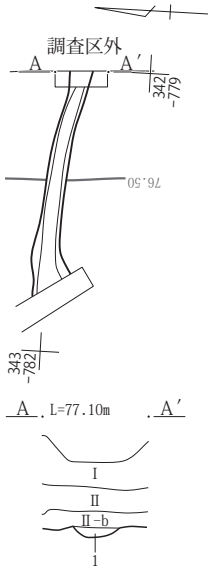
規模　全長4.11m　最大幅0.19m　最深部0.03m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒と暗褐色土を微量含む褐色土を主体とし、しまっている。断面形はほぼ台形である。

出土遺物　なし。

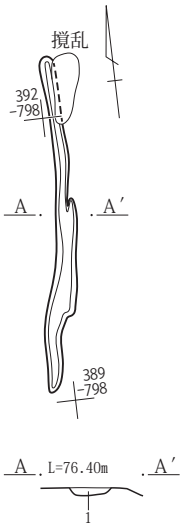
調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

29号溝

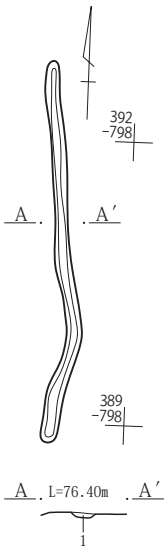


29号溝
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１～３㎜白色粒を２％、褐灰色土を10％、黒色片を１％含む。硬い。

30号溝

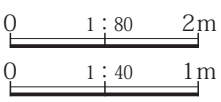


31号溝



30号溝
1　暗褐色土(10YR3/4)φ１～３㎜程度の白色粒を５％含む。しまりあり。

31号溝
1　褐色土(10YR4/4)φ１～３㎜程度の白色粒を３％、暗褐色土を５％含む。しまりあり。



第82図　29号溝～31号溝

32号溝(第83図　PL.43)

位置　X＝31,391～31,393　Y＝-70,800～-70,801

重複　24号土坑、新旧は不明。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。底面に凹凸があるが、比高差はほとんどない。

走向方位　N－５°－E

規模　全長2.12m　最大幅0.20m　最深部0.07m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を微量含む暗褐色土を主体とし、しまりがある。断面形は台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

33・34号溝(第83図　PL.43)

位置　X＝31,393～31,397　Y＝-70,805

重複　両溝の新旧は不明。

形状　南北方向のほぼ直線の溝で、X＝31,395付近で合流する。底面に凹凸はあるが、比高差はほとんどない。

走向方位　33号溝：N－10°－E
34号溝：N－12°－E

規模　33号溝：全長3.45m　最大幅0.17m　最深部0.02m
34号溝：全長4.45m　最大幅0.16m　最深部0.03m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を微量含む暗褐色土もしくは褐色土である。断面形はほぼ台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

35号溝(第83図　PL.43)

位置　X＝31,393～31,397　Y＝-70,805～-70,806

重複　なし。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。底面に凹凸はあるが、比高差はほとんどない。

走向方位　N－３°－E

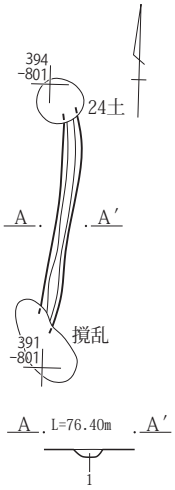
規模　全長4.27m　最大幅0.21m　最深部0.03m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒・暗褐色土を微量含む褐色土を主体とし、しまりがある。断面形はほぼ台形である。

出土遺物　なし。

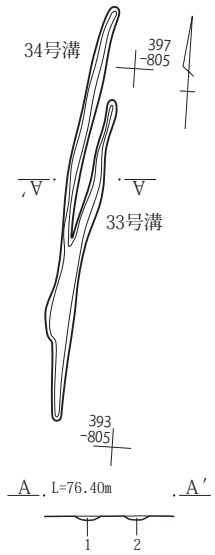
調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

32号溝

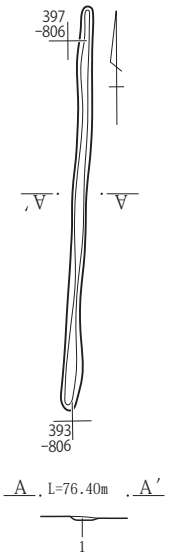


32号溝
1　暗褐色土(10YR3/4)φ１～３㎜程度の白色粒を５％含む。しまりあり。

33号溝・34号溝



35号溝



33号溝
1　暗褐色土(10YR3/4)φ１～３㎜程度の白色粒を５％含む。しまりあり。
34号溝
2　褐色土(10YR4/4)φ１～３㎜程度の白色粒を３％、暗褐色土を５％含む。しまりあり。

35号溝
1　褐色土(10YR4/4)φ１～３㎜程度の白色粒を３％、暗褐色土を５％含む。しまりあり。

0　1：80　2m
0　1：40　1m

第83図　32号溝～35号溝

36号溝(第84図　PL.43)

位置　X＝31,393～31,399　Y＝-70,805～-70,806

重複　なし。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。底面に凹凸はあるが、比高差はほとんどない。

走向方位　N－５°－E

規模　全長5.44m　最大幅0.23m　最深部0.05m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒・暗褐色土を微量含む褐色土を主体とし、しまりがある。断面形はほぼ台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　33～36号溝は、掘削方向や深度、底面の凹凸等を考慮すると畑の耕作痕の可能性が高い。遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

37号溝(第84図　PL.44)

位置　X＝31,375～31,378　Y＝-70,803～-70,804

重複　なし。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。底面に凹凸はあるが、比高差はほとんどない。

走向方位　N－８°－E

規模　全長3.08m　最大幅0.21m　最深部0.05m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を微量含む暗褐色土を主体とし、しまりがある。断面形はほぼ台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。14号溝と同時期と考えられる。

38号溝(第84図　PL.44)

位置　X＝31,356～31,358　Y＝-70,791

重複　45号土坑に後出する。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。底面はほぼ平坦である。

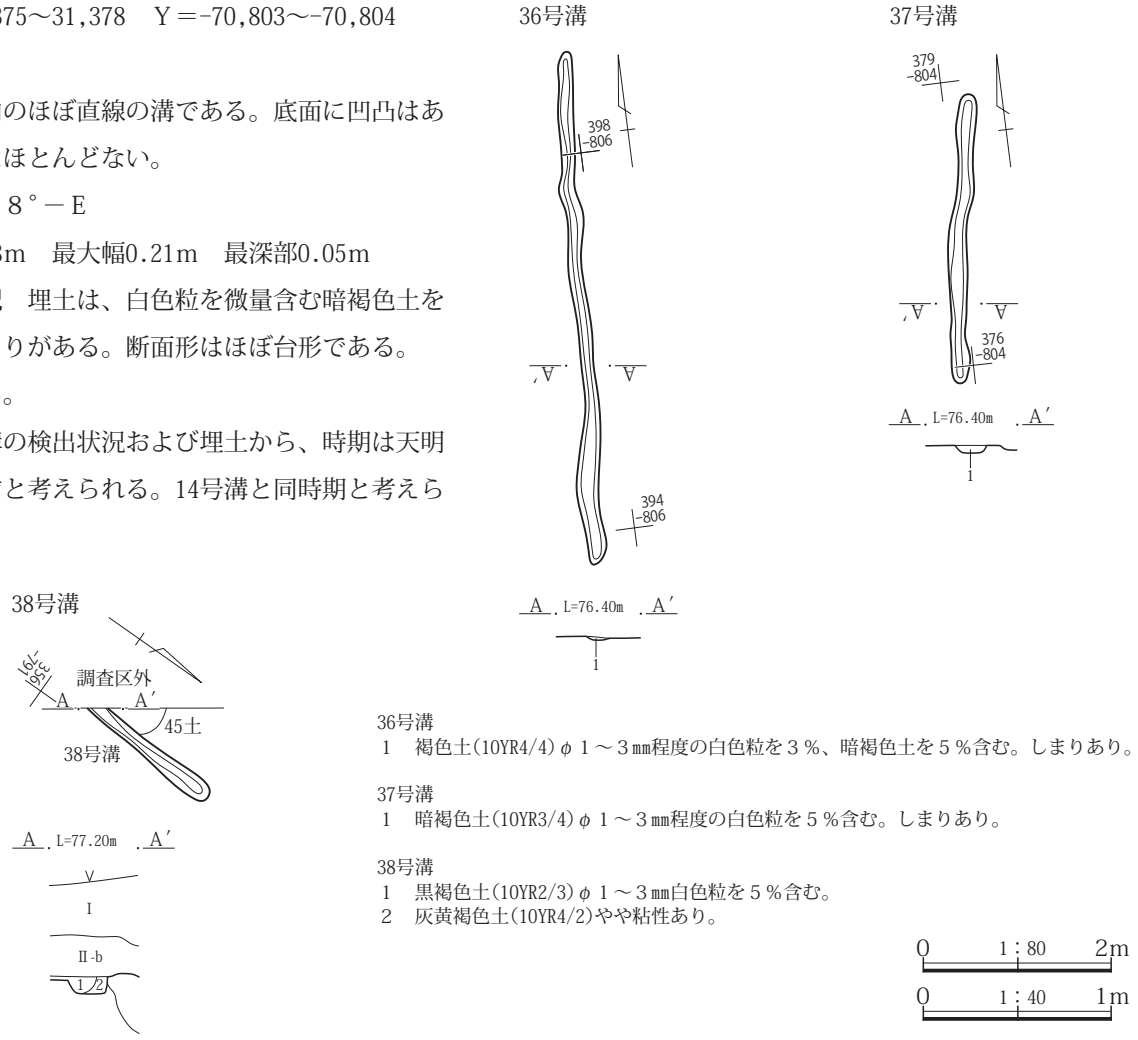
走向方位　N－４°－E

規模　全長1.52m　最大幅0.23m　最深部0.09m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を含む黒褐色土を主体とし、粘質の灰黄褐色土が混じる。断面形はほぼ台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。



36号溝
1　褐色土(10YR4/4)φ１～３㎜程度の白色粒を３％、暗褐色土を５％含む。しまりあり。

37号溝
1　暗褐色土(10YR3/4)φ１～３㎜程度の白色粒を５％含む。しまりあり。

38号溝
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１～３㎜白色粒を５％含む。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。

0　1：80　2m
0　1：40　1m

第84図　36号溝～38号溝

39号溝(第85図　PL.44・67)

位置　X＝31,357～31,361　Y＝-70,781～-70,785

重複　25号溝と同時期。

形状　25号溝から南東方向への溝である。比高差は70cmほどである。

走向方位　N－52°－W

規模　全長2.95m　最大幅1.99m　最深部0.45m

検出・埋没状況　埋土はAs-Aで、25号溝と差異はない。断面形は不整形である。

出土遺物　埋土中から銅製品キセル(雁首)(第85図１)１点が出土した。未掲載ではあるが、在地系土器火消壺口縁部片１点も出土している。

調査所見　埋土中から出土した遺物には近現代のものも含まれているが、埋土のAs-Aには混入物が少ない。よって、軽石は降下後間もなく処理された可能性が高い。時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

40・41号溝(第85図　PL.44・45・67)

位置　X＝31,363～31,368　Y＝-70,780～-70,785

重複　40号溝が新しい。両溝とも25号溝より先んずる。

形状　南西から北東方向への溝である。

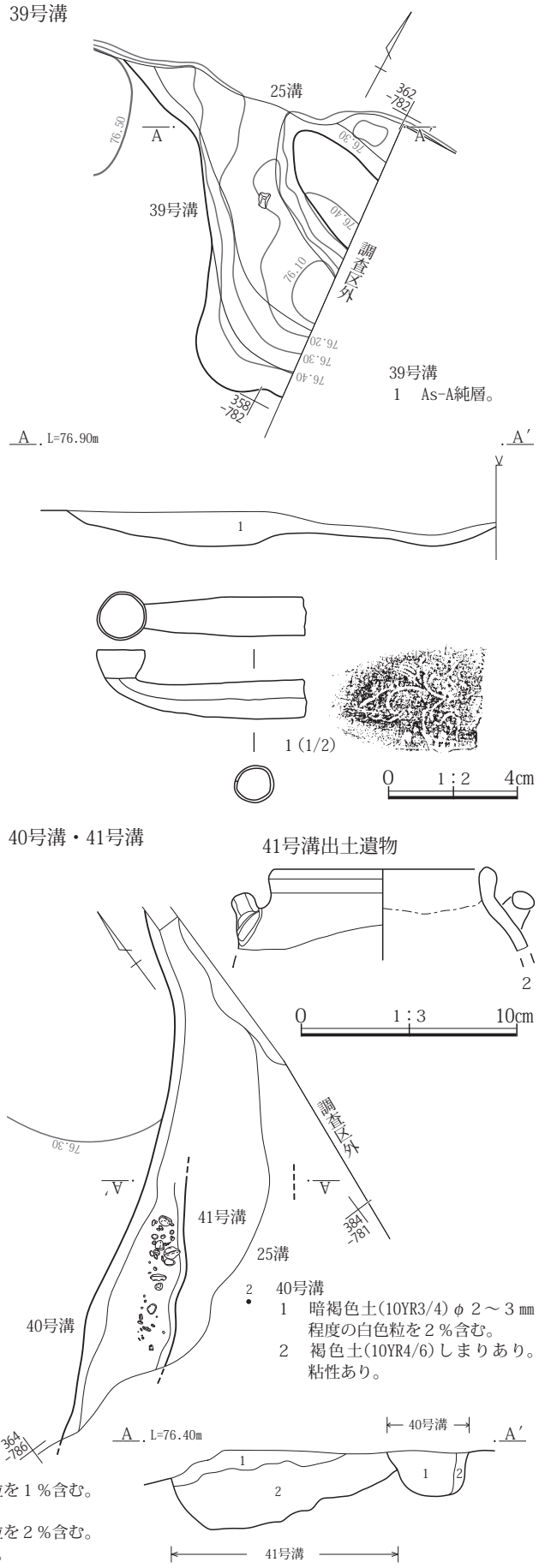
走向方位　N－47°－E

規模　40号溝：全長5.40m　最大幅1.11m　最深部0.28m　41号溝：全長　計測不可　最大幅1.40m　最深部0.36m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を含む暗褐色土が主体で、よく似ている。40号溝の断面形はほぼ台形である。

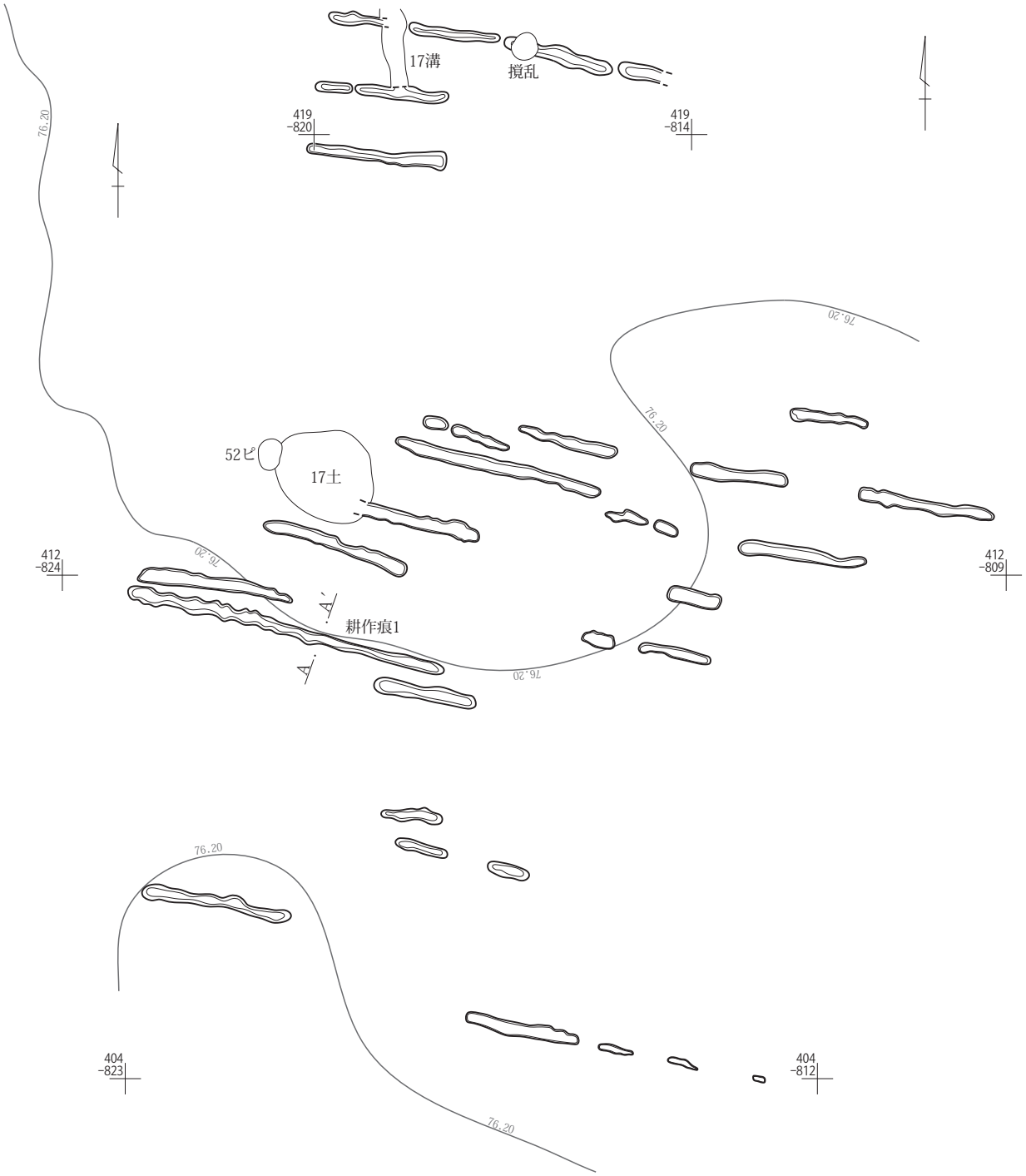
出土遺物　40号溝からは、瀬戸・美濃陶器すり鉢口縁部片、江戸時代陶磁器片と時期不詳陶器片、中国白磁と思われる口縁部片１点が出土したが、小片のため実測・図示にはいたらなかった。41号溝からは、瀬戸・美濃陶器双耳壺口縁部片(第85図２)が出土した。

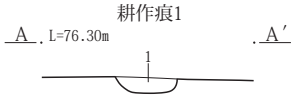
調査所見　両溝の埋土は酷似しており、比較的近い時期に掘削されたのであろう。遺構の検出状況や遺物から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。



第85図　39号溝～41号溝と出土遺物

耕作痕１





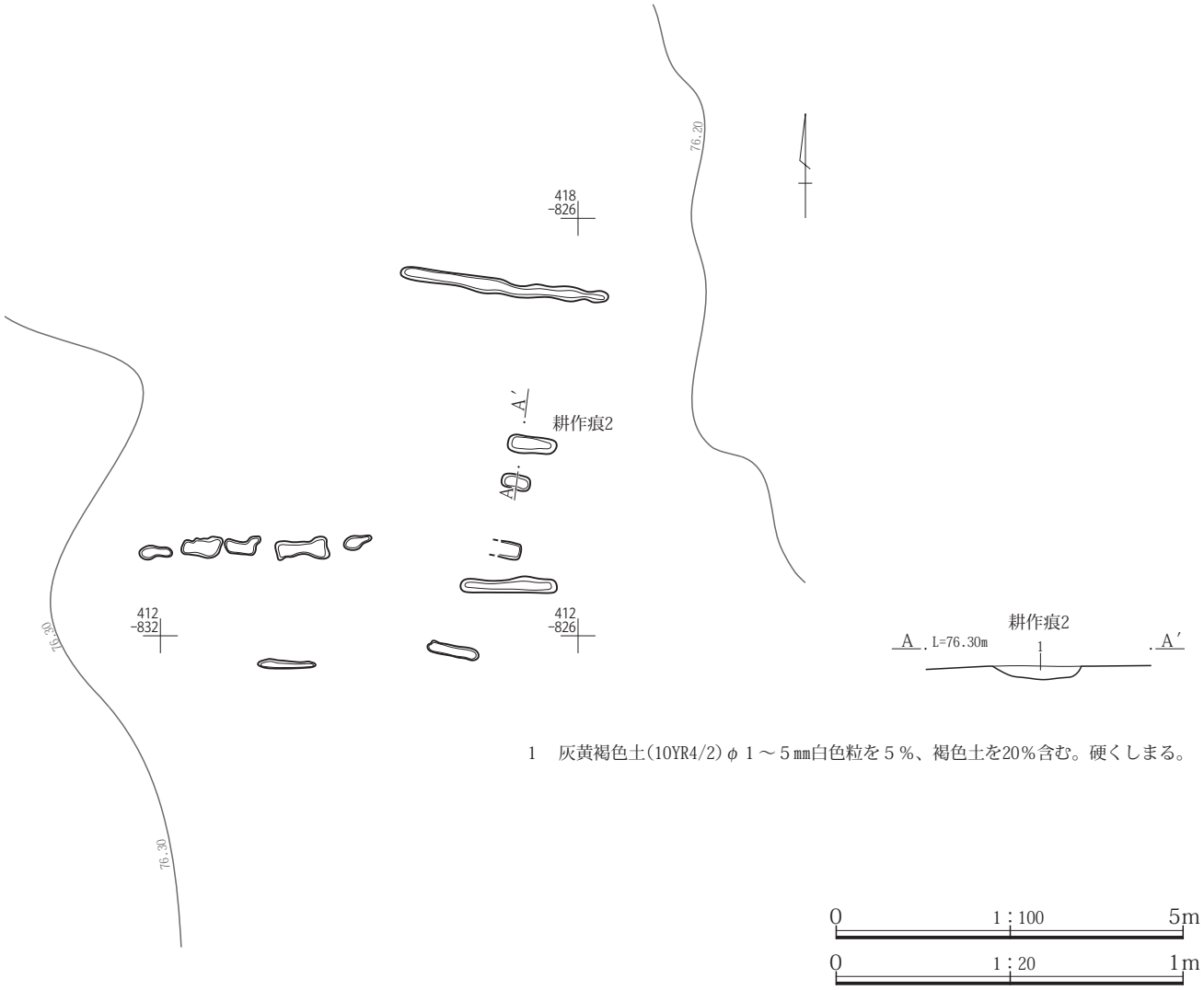
1　灰黄褐色土(10YR4/2)φ２㎜白色粒を５％、褐色土を40%含む。硬くしまる。

0　1：100　5m

0　1：20　1m

第86図　耕作痕　1

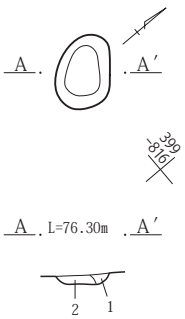
耕作痕２



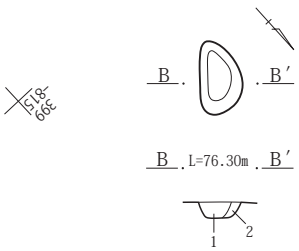
1　灰黄褐色土(10YR4/2)φ１～５㎜白色粒を５％、褐色土を20％含む。硬くしまる。

第87図　耕作痕　２

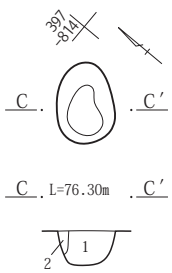
耕具痕１



耕具痕２



耕具痕３



耕具痕１～耕具痕３
1　褐灰色土(10YR4/1)硬くしまる。φ１㎜白色粒を３％含む。
2　褐色土(10YR4/4)褐灰色土をブロック状に20％含む。

0　1：20　1m

第88図　耕具痕　１～３

（３）耕作痕と耕具痕

耕作痕１（第86図　PL.58）

位置　X＝31,403～31,420　Y＝-70,809～-70,822

１号掘立柱建物と２号掘立柱建物の間に位置する。

形状　南北方向に連なる耕作痕群である。

主軸方位　N－75°－W

重複　17号溝、17号土坑に先んずる。

検出・埋没状況　褐色土を多量に含む灰黄褐色土主体で、硬くしまる。

出土遺物　なし。

調査所見　サク状痕は途切れ途切れで、遺存状況は良くない。17号溝、17号土坑よりも古く埋土にはAs-Aを含んでいないことから、天明３(1783)年以前であると考えられる。

耕作痕２（第87図　PL.58）

位置　X＝31,411～31,417　Y＝-70,825～-70,832

１号掘立柱建物の南に位置する。

形状　南北方向に連なる耕作痕群である。

主軸方位　N－86°－E

重複　なし。

検出・埋没状況　褐色土を多量に含む灰黄褐色土主体で、硬くしまる。

出土遺物　なし。

調査所見　１号耕作痕と同様にサク状痕は途切れ途切れで、遺存状況は良くない。埋土もよく似ており、As-Aを含んでいないことから、天明３(1783)年以前であると考えられる。

耕具痕１～３（第88・89図　PL.58）

X＝31,380～31,405、Y＝-70,795～-70,820に多数の耕具痕を検出した。そのうち、代表的な耕具痕を３か所取り上げて図示した。

耕作方向に規則性はなく、大きさは形状もさまざまである。X＝31,398、Y＝-70,808からX＝31,391、Y＝-70,815にかけては耕具痕が認められず、畦であった可能性も考えられる。重複関係は、平面図から溝や土坑より古いことが読み取れる。

時期は、検出状況は埋土から天明３(1783)年以前であると考えられる。

（４）屋外炉

１号屋外炉（第89図　PL.58）

位置　X＝31,384　Y＝-70,792

重複　なし。

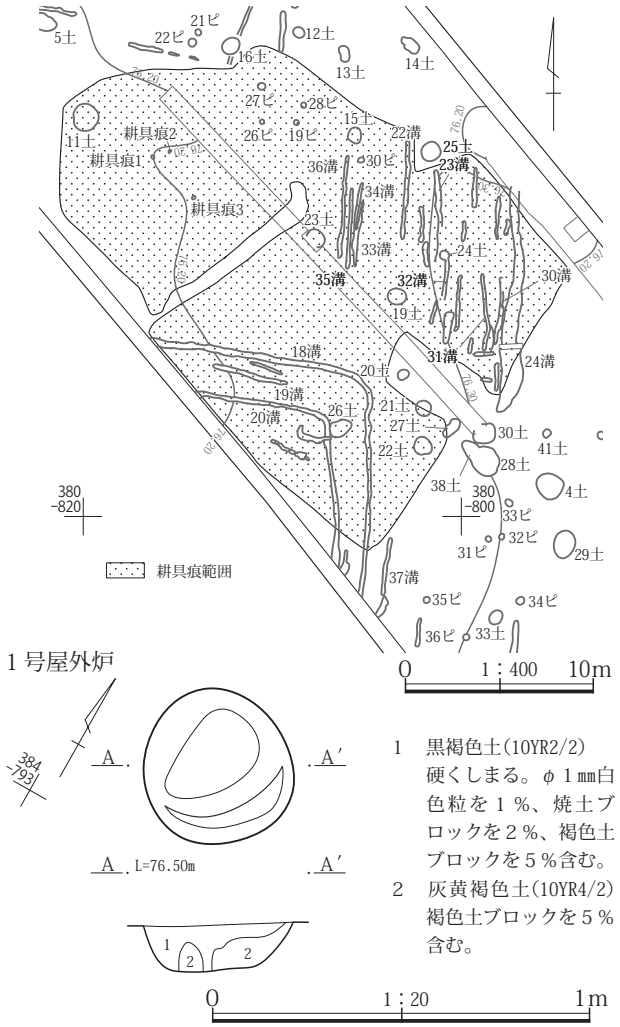
平面形　楕円形　　長軸方位　N－43°－W

規模　長軸0.42m　短軸0.84m　深さ0.13m

検出・埋没状況　埋土は、焼土を微量含む黒褐色土を主体とし、硬くしまる。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物　なし。

調査所見　確認された焼土は微量でブロック状に混入している。また、底面には土が焼けた痕跡や灰などは確認できなかったため、炉ではなく土坑の可能性が高い。遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以前と考えられる。



第89図　２区耕具痕範囲、１号屋外炉

（５）土坑（第90～97図　PL.46～58、第５表）

２区では49基の土坑を調査し、その分布は調査区全体に及んでいる。形態をみると、イモ穴のような長方形の土坑はなく、ほとんどが円形や楕円形を呈している。掘削深度の平均は遺構確認面から24cmで、遺物は26・29・30・34・48・49号土坑の６基から出土している。

ここでは遺物の出土した土坑のみ記載することとする。そのほかの土坑については、第５表を参照されたい。

26号土坑（第93図　PL.52・67　第５表）

位置　X＝31,384・31,385　Y＝-70,805・-70,806

重複　なし。

平面形　不整形　　長軸方位　N－66°－E

規模　長軸1.22m　短軸0.80m　深さ0.08m

検出・埋没状況　埋土は、炭化物を少量含む暗褐色土を主体とし、やや粘質の褐色土が混入する。人為的な埋没と考えられる。断面形は不整形である。

出土遺物　埋土中から中国磁器白磁碗（第93図１）と火打石と思われる石英（PL.67）が出土した。図示した遺物以外に埋土中から、時期不詳の陶磁器類11点が出土している。

調査所見　白磁碗は12世紀中葉から後葉の所産であるが、遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３（1783）年以前と考えられる。

29号土坑（第93図　PL.52・53・67　第５表）

位置　X＝31,377～31,379　Y＝-70,793～-70,795

重複　なし。

平面形　楕円形　　長軸方位　N－９°－E

規模　長軸1.49m　短軸1.12m　深さ0.14m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を含む黒褐色土を主体とし、炭化物を微量含む。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物　埋土中から刀子（第93図３）が１点出土した。図示した遺物以外に遺物はない。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３（1783）年以前と考えられる。

30号土坑（第94図　PL.53　第５表）

位置　X＝31,383・31,384　Y＝-70,798・-70,799

重複　なし。

平面形　隅丸長方形か　　長軸方位　N－85°－E

規模　長軸1.18m　短軸1.03m以上　深さ0.65m

検出・埋没状況　埋土は、ロームブロックを少量含む褐色土を主体とし、炭化物を微量含む。人為的な埋没と考えられる。断面形は底部がやや落ち込む台形状である。

出土遺物　埋土中より中国磁器白磁皿（第94図１）が１点出土した。図示した遺物以外に遺物はない。

調査所見　白磁皿は11世紀後半～12世紀中葉の所産であるが、遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３（1783）年以前と考えられる。

34号土坑（第94図　PL.54・67　第５表）

位置　X＝31,367～31,369　Y＝-70,791～-70,793

重複　なし。

平面形　隅丸長方形　　長軸方位　N－89°－W

規模　長軸2.23m　短軸1.64m　深さ0.21m

検出・埋没状況　埋土は、白色粒を微量含む暗褐色土を主体とし、下層には粘質土が混入する。自然埋没と考えられる。断面形は長方形である。

出土遺物　埋土中からほぼ完形の鉄製釘（第94図２）１点が出土している。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３（1783）年以前と考えられる。

48号土坑（第96・97図　PL.57・67　第５表）

位置　X＝31,359～31,361　Y＝-70,790・-70,791

重複　25号溝より古い。

平面形　楕円形か　　長軸方位　N－７°－E

規模　長軸1.29m以上　短軸1.18m　深さ0.73m

検出・埋没状況　埋土は、黄褐色土ブロックを含む灰黄褐色土を主体とし、１・２層は固くしまっている。人為的な埋没と考えられ、断面形は不明である。

出土遺物　底部から鉄製包丁（第97図１）が出土した。埋土中からは、瀬戸・美濃陶器腰錆碗体部片２点、肥前陶器陶胎染付碗体部片が出土しているが小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　出土遺物、遺構の検出状況および埋土から、

時期は天明３(1783)年以前と考えられる。

49号土坑(第97図　PL.58　第５表)

位置　X＝31,361～31,364　Y＝-70,785～-70,788

重複　25号溝より古い。

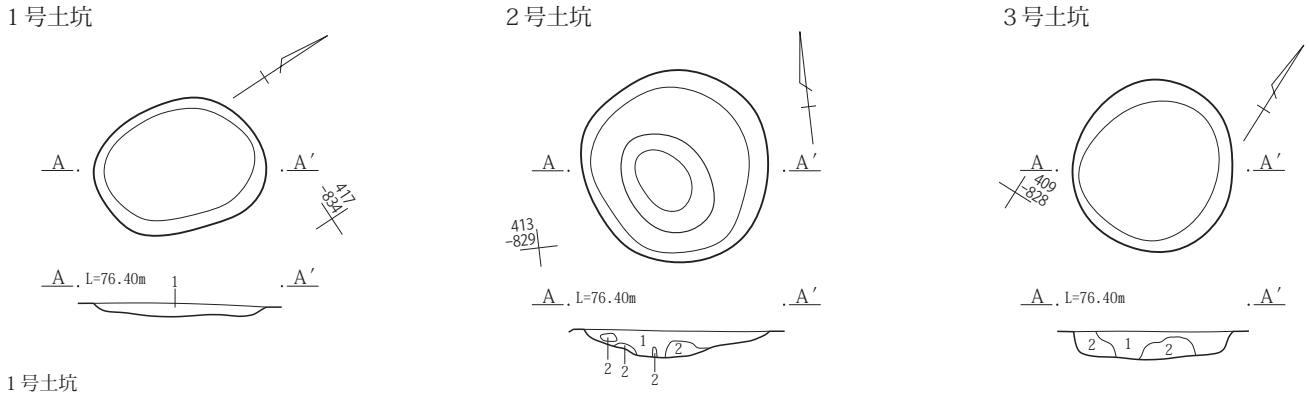
平面形　不明　　長軸方位　計測不可

規模　長軸2.96m　短軸2.39m以上　深さ0.92m

検出・埋没状況　２～３層にはAs-Aが含まれるが、これは25号溝のものと考えられる。土坑は暗褐色粘質土を主体としている。断面形は不明である。

出土遺物　埋土中から中世常滑陶器甕もしくは壺体部片、瀬戸美濃磁器片、近現代の磁器小片1点と万古焼風急須片２点等が出土したが、いずれも実測・図示にはいたらなかった。

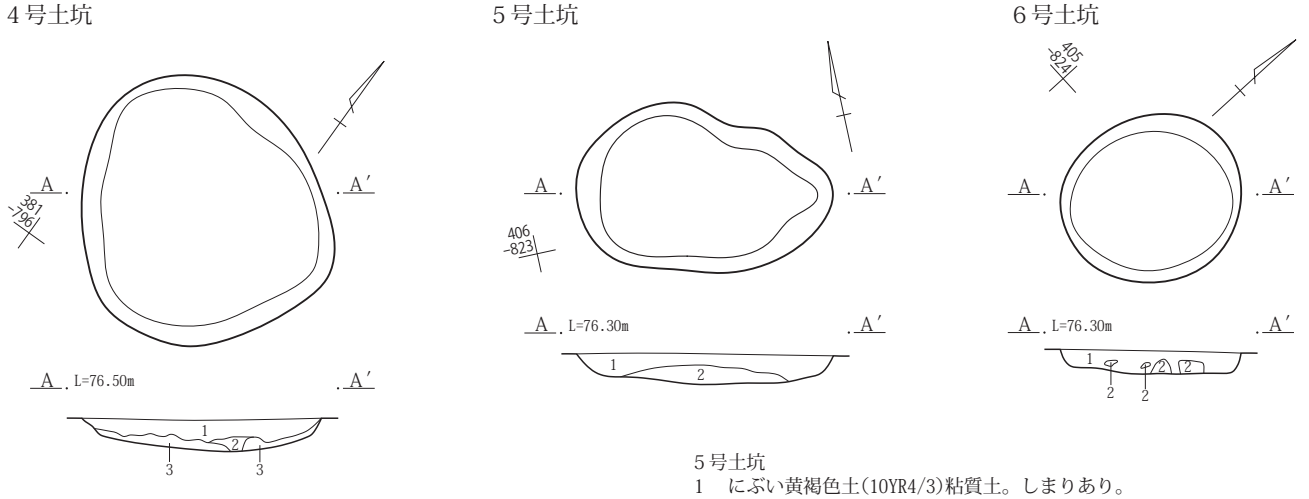
調査所見　遺物は比較的新しいものもあるが、これらは上層からの出土である。埋土の下層にはAs-Aを含んでいないことから掘削時期は天明３(1783)年以前と考えられる。



１号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)褐色粘土をブロック状に15％含む。しまりあり。

２号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)褐色粘土を５％含む。
2　褐色土(10YR4/4)粘土ブロック層。しまりあり。

３号土坑
1　暗褐色土(10YR3/1)炭化物片を３％含む。褐色土を３％含む。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)褐色粘土ブロックを20％含む。



４号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～３㎜の白色粒を３％、炭化物片１％、褐色土ブロックを10％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/2)φ１㎜の白色粒を含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを10％含む。

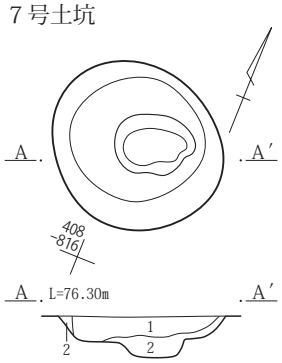
５号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)粘質土。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)しまりあり。やや粘性。

６号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)φ１㎜程度の白色粒を２％含む。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)粘土ブロック。しまりあり。

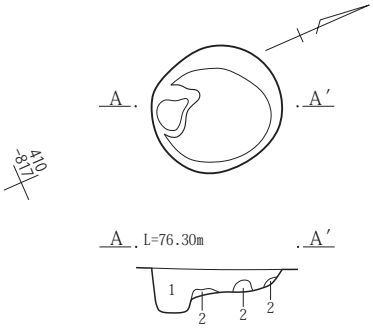
0　1：40　1m

第90図　１号土坑～６号土坑

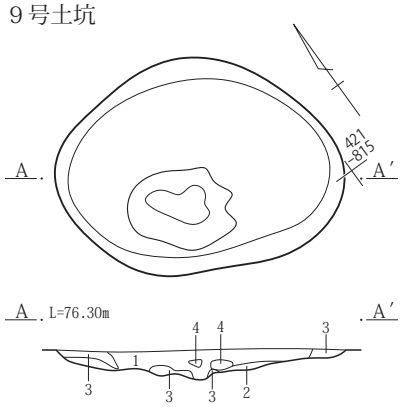
７号土坑



８号土坑



９号土坑

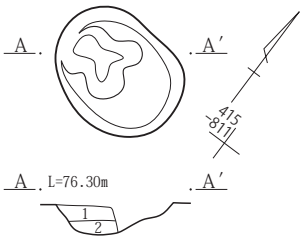


７号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)褐色粘土ブロックを５％含む。しまりあり。やや粘性。
2　褐色土(10YR4/4)暗褐色土を５％含む。しまりあり。

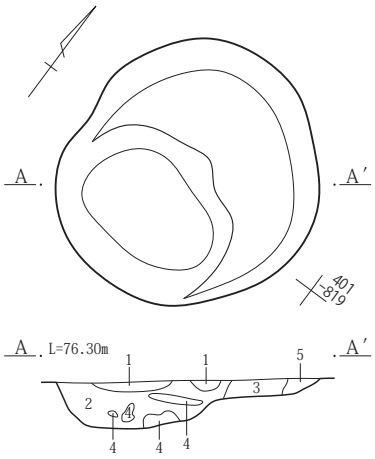
８号土坑
1　褐灰色土(10YR4/1)褐色土ブロックを10％含む。
2　褐色土(10YR4/4)粘質土。

９号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ１㎜の白色粒を３％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR3/2)φ１㎜の白色粒を１％含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを含む。
4　褐色土(10YR4/4)粘質土。

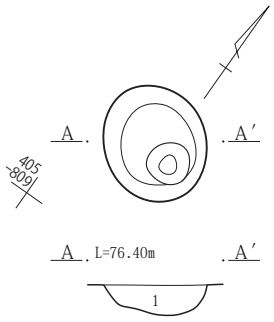
10号土坑



11号土坑



12号土坑

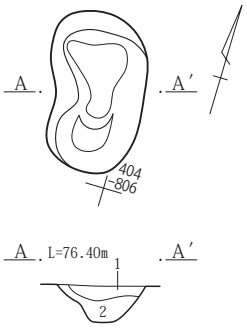


10号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを20％含む。

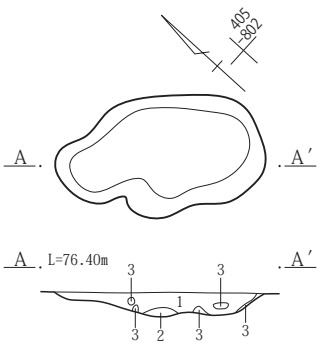
11号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ１㎜の白色粒を１％含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)白色粒・褐色土ブロックを含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)φ３～５㎜の白色粒を３％含む。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを含む。
5　褐色土(10YR4/4)暗褐色土ブロックを含む。

12号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)
　褐色土ブロックを10％含む。
　硬くしまる。

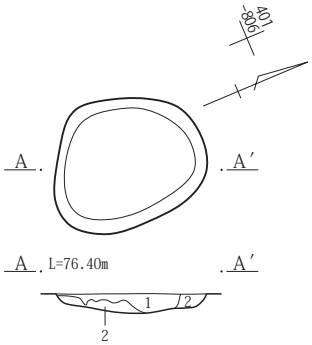
13号土坑



14号土坑



15号土坑



13号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～３㎜の白色粒を２％、褐色土ブロックを20％含む。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを30％含む。

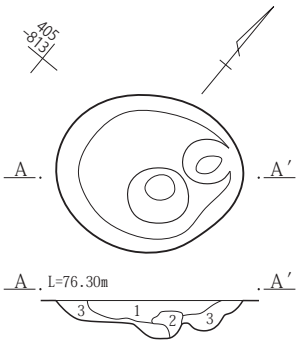
14号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜の白色粒を３％、褐色土を10％含む。
　硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR3/2)硬くしまる。
3　褐色土(10YR4/4)粘性あり。

15号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜の白色粒を３％含む。硬くしまる。
2　褐色土(10YR4/4)褐色土ブロックを30％含む。粘性あり。

0　1：40　1m

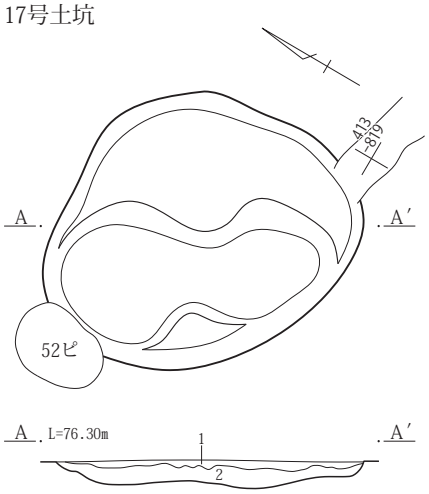
第91図　７号土坑～15号土坑

16号土坑



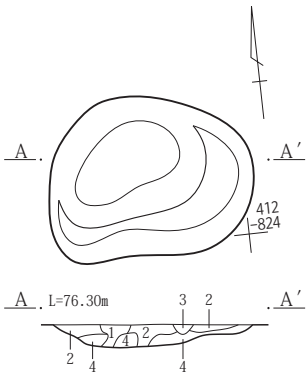
16号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２㎜の白色粒を１％含む。やや粘性あり。硬くしまる。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)粘性あり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを40％含む。粘性あり。

17号土坑



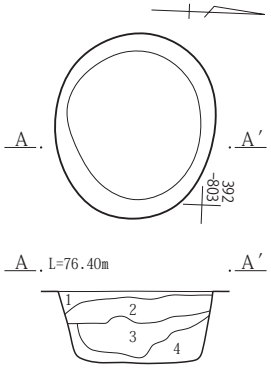
17号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ１～２㎜の白色粒を２％、褐色土ブロックを20％含む。硬い。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)φ２㎜の黒色粒を１％含む。

18号土坑



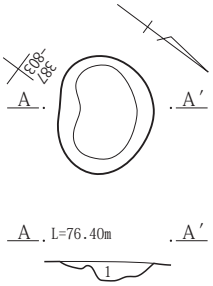
18号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２㎜の白色粒を2％含む。
2　褐色土(10YR4/4)φ２㎜の白色粒を２％、炭化物片を３％、灰黄褐色土(10YR4/2)を10％含む。
3　黒褐色土(10YR3/4)赤褐色土ブロックを２％含む。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)炭化物片を３％含む。

19号土坑



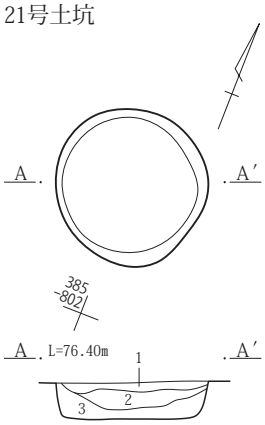
19号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜の白色粒を２％含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)φ10～30㎜の粘土ブロックを５％、φ１～２㎜の白色粒を１％、褐色土ブロックを３％含む。
3　黒褐色土(10YR2/2)粘土ブロックを３％含む。やや柔らかい。
4　黒褐色土(10YR2/2)粘土ブロックを20％含む。柔らかい。粘性あり。

20号土坑



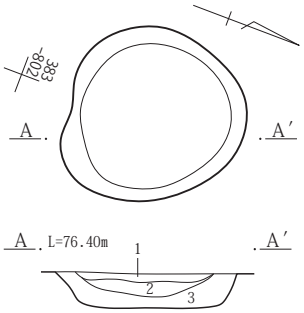
20号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜の白色粒を２％、褐色土ブロックを５％含む。

21号土坑



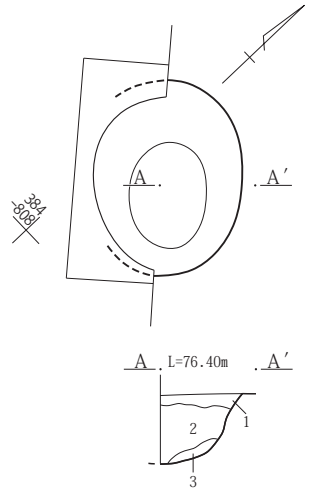
21号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ１～３㎜の白色粒を５％、褐色土ブロックを５％、炭化物片を１％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR3/2)φ１㎜の白色粒を１％、褐色土ブロックを５％、炭化物片を１％含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)粘土ブロックを10％含む。

22号土坑



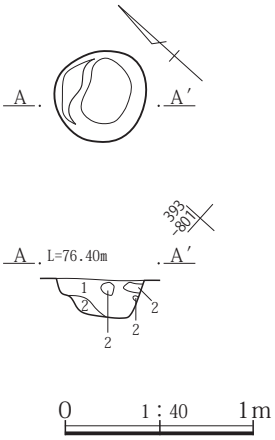
22号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ１～３㎜の白色粒を５％、褐色土ブロックを５％、炭化物片を１％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR3/2)φ１㎜の白色粒を１％、褐色土ブロックを５％、炭化物片を１％含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)褐色土ブロックを５％、炭化物片を１％含む。

23号土坑



23号土坑
1　暗褐色土(10YR3/4)φ２～３㎜程度の白色粒を３％含む。炭化物片を微量含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)褐色土を５％含む。
3　褐色土(10YR4/4)ローム粘土を10％含む。

24号土坑

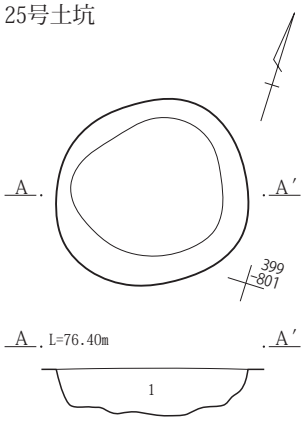


24号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～３㎜の白色粒を２％、褐色土ブロックを５％含む。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)１層土が20％混じる。

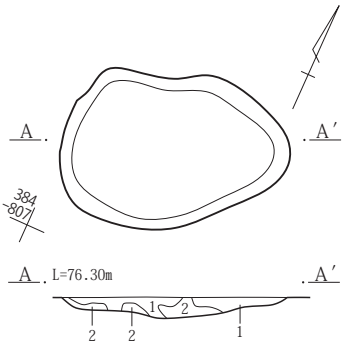
0　1：40　1m

第92図　16号土坑～24号土坑

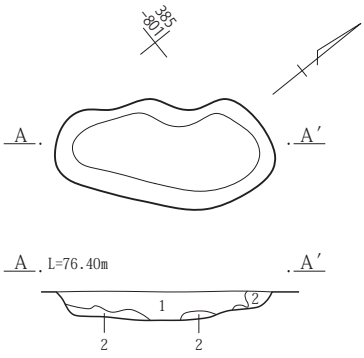
25号土坑



26号土坑



27号土坑

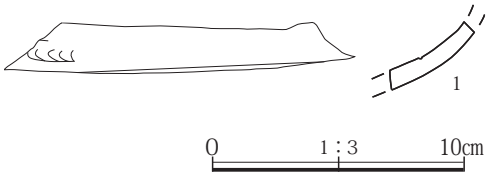


25号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)φ１～３㎜程度の白色粒を７％含む。しまりあり。

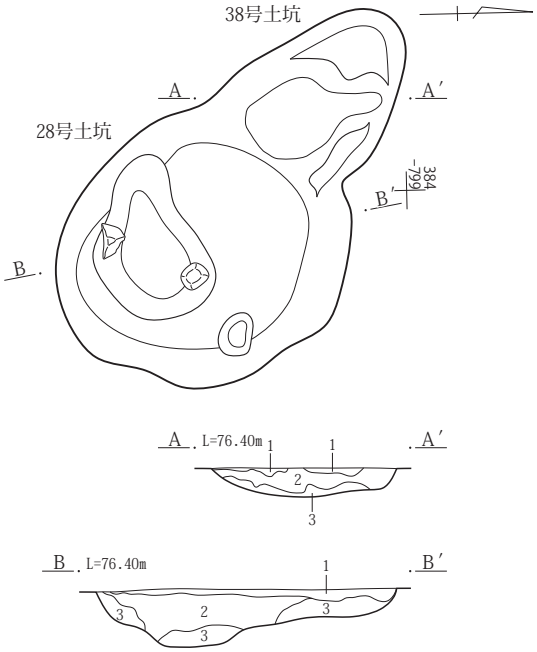
26号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)φ１㎜程度の白色粒を５％含む。炭化物片を少量含む。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/6)しまりあり。やや粘質。

27号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ２～５㎜の白色粒を３％、褐色土ブロックを10％含む。硬くしまる。
2　褐色土(10YR4/4) 灰黄褐色土(10YR4/2)を30％含む。やや粘性あり。

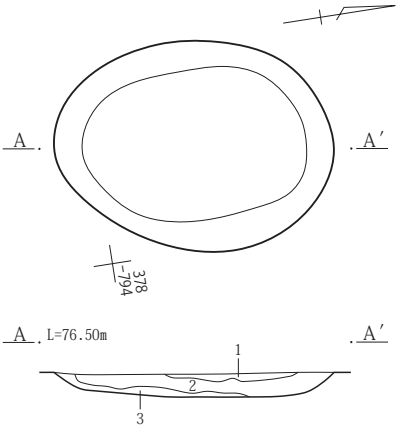
26号土坑出土遺物



28号土坑・38号土坑



29号土坑

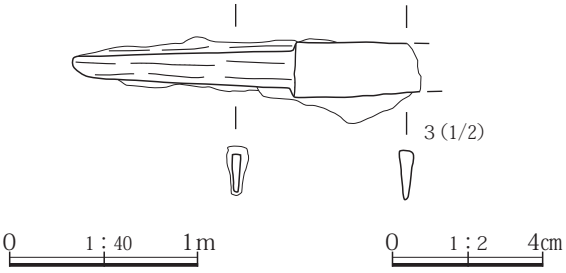


29号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ１～２㎜の白色粒を３％、炭化物片を１％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR3/2)φ１～２㎜の白色粒を１％、褐色土ブロックを５％、炭化物片を２％含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。

28号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)φ１～３㎜白色粒を５％含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)暗褐色土を30％含む。炭化物片を少量含む。やや柔らかい。
3　褐色土(10YR4/4)黒褐色土を10％含む。粘性あり。しまりあり。

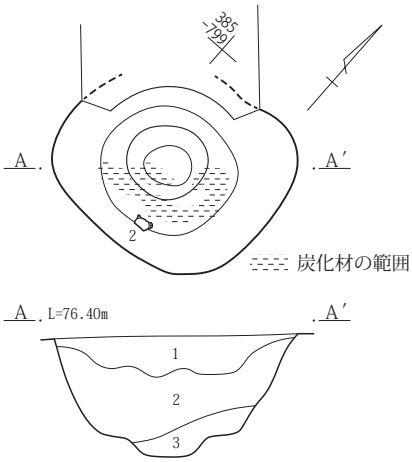
38号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)φ１～３㎜程度の白色粒を２％含む。褐色の粘土を７％含む。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)褐色の粘土を５％含む。しまりあり。
3　黄褐色土(10YR5/6)暗褐色土を10％含む。粘質土。しまりあり。

29号土坑出土遺物

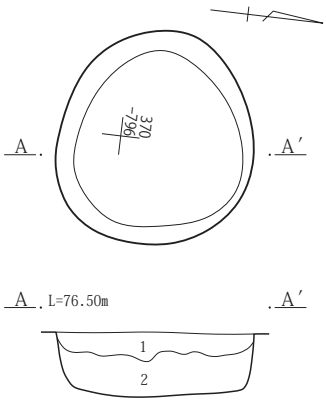


第93図　25号土坑～29号土坑、38号土坑と出土遺物

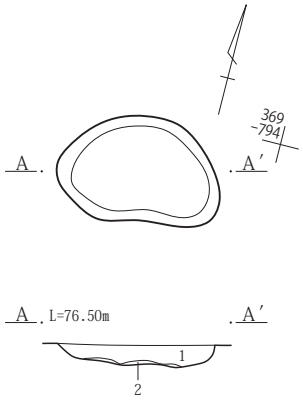
30号土坑



31号土坑



32号土坑

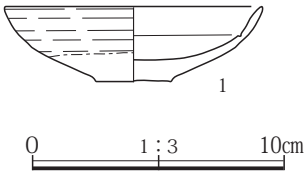


30号土坑
1　暗褐色土(10YR3/2)φ１～２㎜程度の白色粒を５％含む。炭化物片を７％含む。硬くしまる。
2　褐色土(10YR4/4)炭化物片を１％含む。ロームブロックを少量含む。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)炭化物片を５％含む。ローム粘土を５％含む。 やや柔らかい。

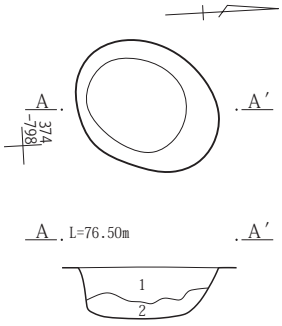
31号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)φ１～３㎜程度の白色粒を５％含む。炭化物片を３％含む。硬くしまる。
2　暗褐色土(10YR3/3)褐色のロームブロック15％含む。やや粘性あり。しまりあり。

32号土坑
1　暗褐色土(10YR3/2)φ１㎜白色粒２％含む。炭化物片を２％含む。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)シルト質。

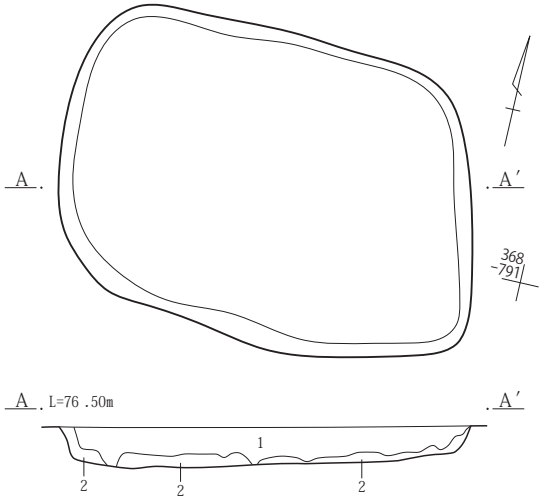
30号土坑出土遺物



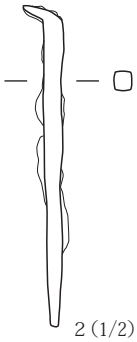
33号土坑



34号土坑



34号土坑出土遺物



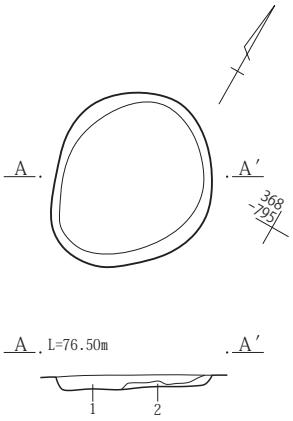
33号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)炭化物片を５％含む。φ１～３㎜程度の白色粒を５％含む。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)褐色の粘土を20％含む。やや粘性あり。しまりあり。

34号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)φ１～３㎜程度の白色粒を５％含む。 炭化物片を５％含む。
2　暗褐色土(10YR3/3)粘質の褐色土混土。しまりあり。

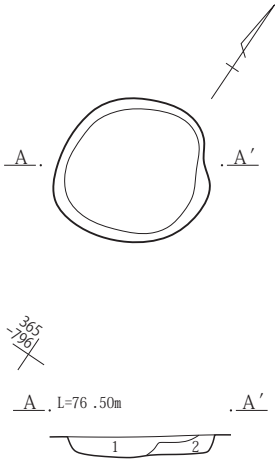
0　1：40　1m

第94図　30号土坑～34号土坑と出土遺物

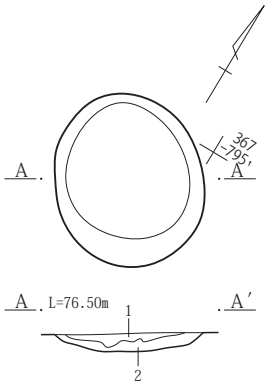
35号土坑



36号土坑

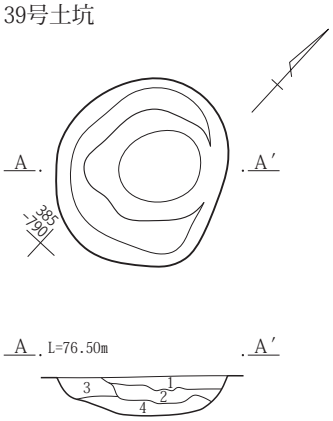


37号土坑

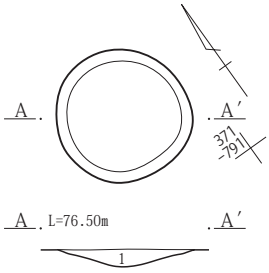


35号土坑～37号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)φ１～３㎜程度の白色粒を７％含む。炭化物片を３％含む。硬くしまる。
2　暗褐色土(10YR3/4)φ１㎜程度の白色粒を２％含む。褐色土を20％含む。炭化物片を３％含む。しまりあり。

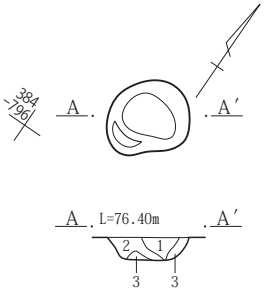
39号土坑



40号土坑



41号土坑

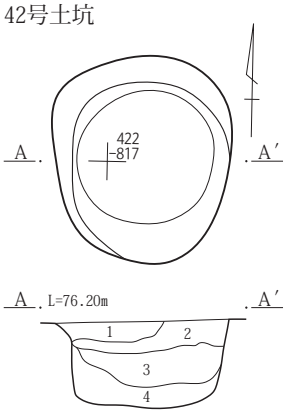


39号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)炭化物片を２％含む。φ３㎜程度の白色粒を２％含む。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)褐色土を５％含む。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/6)灰黄褐色土を30％含む。黒色粒を３％含む。シルト質。
4　褐色土(10YR4/4)灰黄褐色土を20％含む。シルト質。

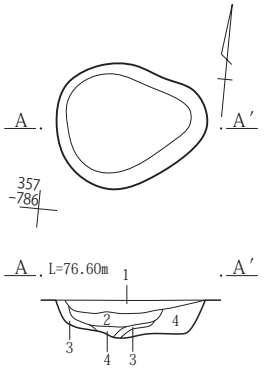
40号土坑
1　褐色土(10YR4/6)φ５㎜程度の黒色粒を５％含む。灰黄褐色土を30％含む。粘質土。

41号土坑
1　暗褐色土(10YR2/3)φ１～３㎜白色粒を５％、焼土ブロックを２％含む。硬くしまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)φ１～２㎜白色粒を３％、炭化物片を１％、褐色土ブロックを５％含む。焼土ブロックを２％含む。
3　褐色土(10YR4/4)灰黄褐色土を10％含む。炭化物片を１％含む。

42号土坑



43号土坑



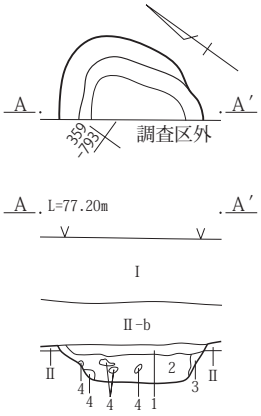
42号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)φ１㎜程度の白色粒を７％含む。褐色土を５％含む。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)褐色土ブロックを10％含む。φ１㎜程度の白色粒を７％含む。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)褐色土ブロックを10％含む。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/4)やや柔らかい。やや粘性あり。

43号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１～５㎜の白色粒を１％、褐色土ブロックを10％含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを10％含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)炭化物片を30％含む。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。

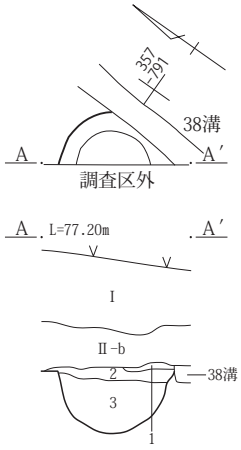
0　1：40　1m

第95図　35号土坑～37号土坑、39号土坑～43号土坑

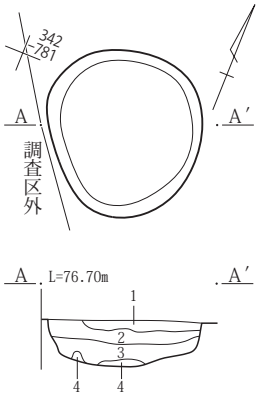
44号土坑



45号土坑



46号土坑

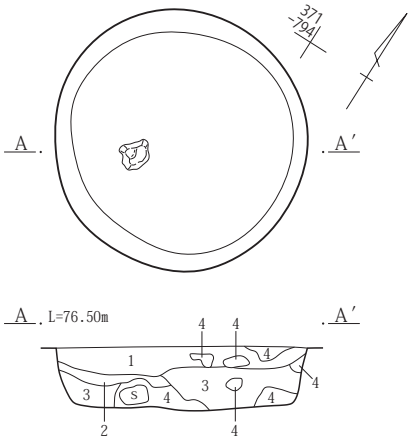


44号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)φ２～５㎜白色粒を５％、褐色土ブロックを10％含む。
2　黒褐色土(10YR2/3) 灰黄褐色土(10YR4/2)を10％、褐色土ブロックを５％、黒色粒を２％含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。
4　炭化物片

45号土坑
1　褐灰色土(10YR4/1)褐色土を30％含む。しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)φ１㎜程度の白色粒を３％、暗褐色土ブロックを30％含む。
3　褐灰色土(10YR4/1)しまりあり。粘質土。

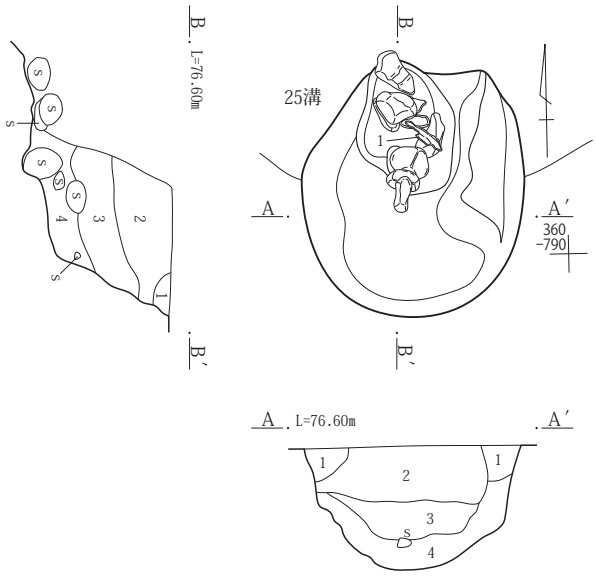
46号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１～５㎜白色粒を２％、褐色土ブロックを10％含む。硬くしまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを５％、φ１㎜白色粒を１％、灰黄褐色土(10YR4/2)を30％、黒色片を１％含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)黒色片を１％含む。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。

47号土坑



47号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)φ２～５㎜白色粒を５％、褐色土ブロックを５％、φ２～５㎜の黒色粒を３％含む。硬くしまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)φ１～２㎜白色粒を１％、灰黄褐色土(10YR4/2)ブロックを５％、φ２～５㎜の黒色粒を1％含む。
3　黒褐色土(10YR2/3) 灰黄褐色土(10YR4/2)ブロックを５％、φ２～５㎜の黒色粒を１％含む。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。

48号土坑

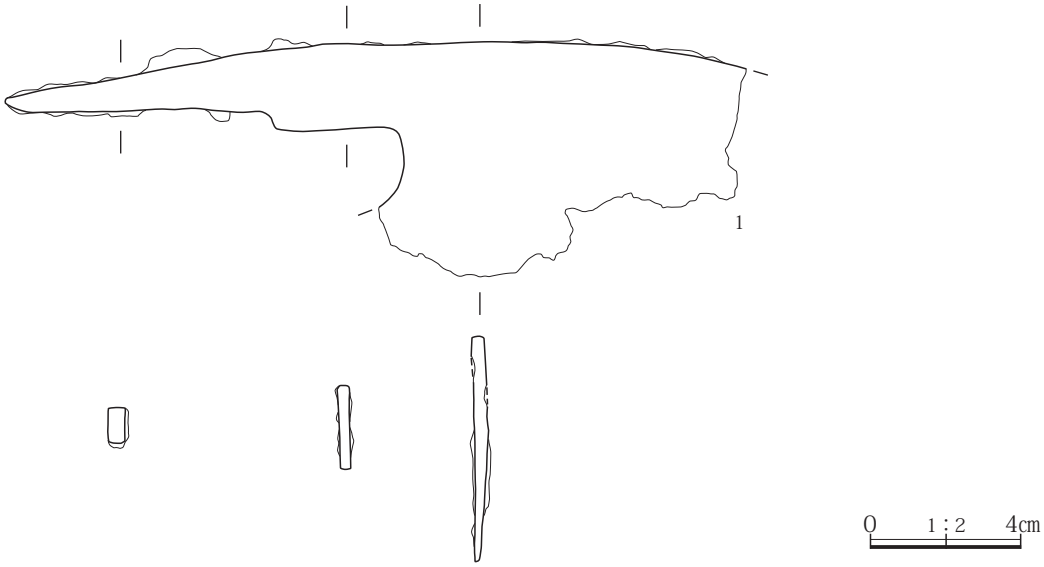


48号土坑
1　褐灰色土(10YR5/1)φ２～５㎜の白色粒を５％含む。硬くしまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)φ２～５㎜の白色粒を５％、黄褐色土ブロックを10％含む。硬くしまる。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色土ブロックを20％含む。
4　黒褐色土(10YR3/2)やや粘性あり。灰黄褐色土(10YR4/2)ブロックを20％含む。

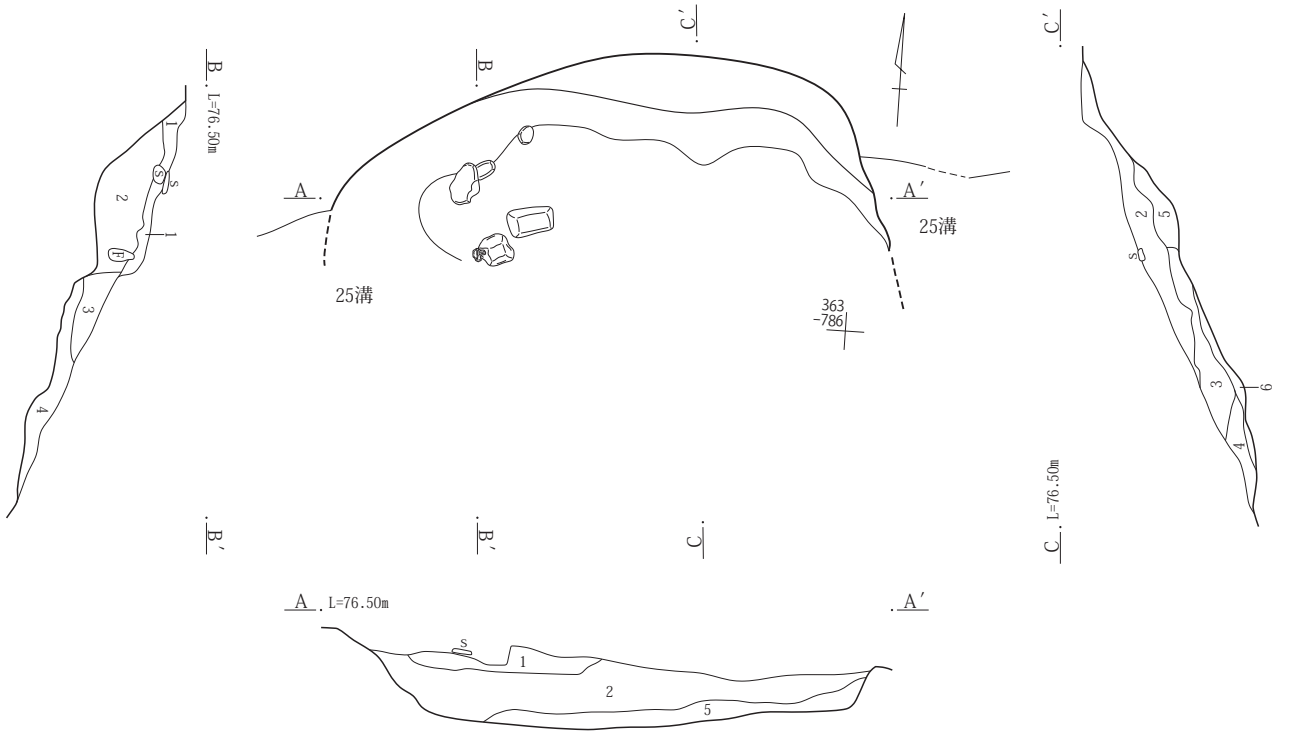
0　1：40　1m

第96図　44号土坑～48号土坑

48号土坑出土遺物



49号土坑



1　褐色土(10YR4/4)しまりあり。粘質土。
2　褐灰色土(10YR4/1) As-Aを５％含む。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)As-Aを10％含む。所々砂粒をブロック状に少量含む。粘性あり。
4　褐色土(10YR4/6)φ３～５㎜程度の暗褐色粒を５％含む。粘質土。
5　暗褐色土(10YR4/6)褐色土混土。φ10～20㎜程度の礫を少量含む。しまりあり。
6　暗褐色土(10YR3/4)しまりあり。粘質土。

0　1：40　1m

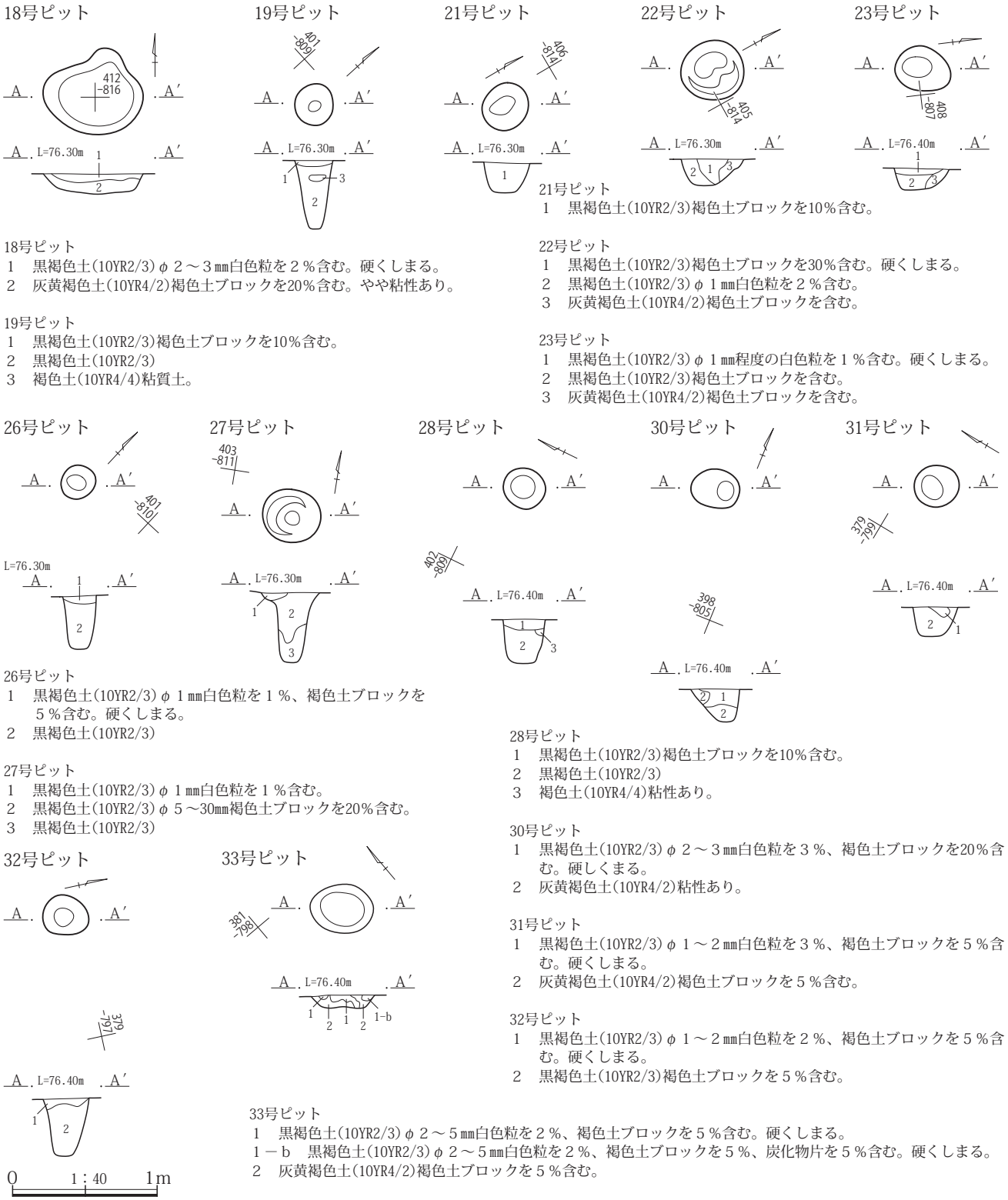
第97図　48号土坑出土遺物、49号土坑

第５表　土坑計測表

No.	図	PL.	X座標	Y座標	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方向	
1	90	46	31,416	−70,384・−70,385	0.91	0.70	0.07	N−28°−E	
2	90	46	31,412・31,413	−70,827・−70,828	1.03	0.99	0.15	N−８°−E	
3	90	46	31,409	−70,827	0.92	0.85	0.16	N−35°−W	
4	90	46	31,380〜31,382	−70,794〜−70,796	1.42	1.27	0.17	N−46°−W	
5	90	47	31,405・31,406	−70,821・−70,822	1.36	0.84	0.16	N−71°−W	
6	90	47	31,404・31,405	−70,822・−70,823	0.96	0.89	0.13	N−38°−E	
7	91	47	31,408・31,409	−70,815・−70,816	0.93	0.85	0.22	N−46°−W	
8	91	47	31,410・31,411	−70,816・−70,817	0.69	0.69	0.24	−	
9	91	48	31,420〜31,422	−70,814〜−70,816	1.54	1.14	0.20	N−52°−W	
10	91	48	31,414・31,415	−70,811・−70,812	0.74	0.58	0.23	N−79°−W	
11	91	48	31,400・31,401	−70,819・−70,820	1.44	1.38	0.28	N−21°−W	
12	91	48	31,405	−70,808	0.63	0.54	0.42	N−52°−W	
13	91	49	31,404	−70,805・−70,806	0.85	0.47	0.17	N−12°−W	
14	91	49	31,404・31,405	−70,802・−70,803	1.11	0.64	0.13	N−49°−W	
15	91	49	31,399・31,400	−70,805・−70,806	0.81	0.69	0.10	N−13°−E	
16	92	49	31,404・31,405	−70,811・−70,812	0.99	0.84	0.21	N−46°−E	
17	92	50	31,412〜31,414	−70,819・−70,820	1.70	1.43	0.21	N−47°−W	52号ピットと重複
18	92	50	31,411・31,412	−70,823〜−70,825	1.07	0.86	0.12	N−72°−W	
19	92	50	31,391・31,392	−70,802・−70,803	0.99	0.85	0.38	N−73°−W	
20	92	50	31,387	−70,802・−70,803	0.63	0.51	0.1	N−50°−E	
21	92	50・51	31,385・31,386	−70,801・−70,802	0.85	0.81	0.2	N−30°−W	
22	92	51	31,393・31,394	−70,801・−70,802	1.01	0.92	0.2	N−39°−W	
23	92	51	31,394・31,395	−70,807・−70,808	1.04	0.79	0.37	N−43°−W	
24	92	51	31,393・31,394	−70,800・−70,801	0.49	0.48	0.21	−	32号溝と重複
25	93	51・52	31,398・31,399	−70,801・−70,802	1.04	1.03	0.25	−	
26	93	52・67	31,384・31,385	−70,805・−70,806	1.22	0.8	0.08	N−66°−E	
27	93	52	31,384・31,385	−70,800	1.16	0.53	0.15	N−44°−E	
28	93	52	31,382・31,383	−70,797〜−70,799	1.61	1.43	0.31	N−19°−W	38号土坑と重複
29	93	52・53・67	31,377〜31,379	−70,793〜−70,795	1.49	1.12	0.14	N−９°−E	
30	94	53	31,383・31,384	−70798・−70,799	1.18	−1.03	0.65	N−85°−E	
31	94	53	31,369・31,370	−70,795・−70,796	1.15	−1.03	0.34	N−80°−E	51号ピットより新
32	94	53	31,368	−70,794・−70,795	0.84	0.56	0.11	N−76°−E	
33	94	54	31,374・31,375	−70,797・−70,798	0.81	0.65	0.27	N−34°−E	
34	94	54・67	31,367〜31,369	−70,791〜−70,793	2.23	1.64	0.21	N−89°−W	
35	95	54	31,367・31,368	−70,795・−70,796	0.99	0.85	0.07	N−７°−E	
36	95	54	31,365・31,366	−70,795・−70,796	0.83	0.78	0.11	N−40°−E	
37	95	55	31,366・31,367	−70,794・−70,795	0.93	0.78	0.11	N−40°−W	
38	93	55	31,382〜31,384	−70,798・−70,799	1.23	0.77	0.20	N−45°−W	28号土坑と重複
39	95	55	31,385・31,386	−70,789・−70,790	1.01	0.89	0.21	N−24°−W	
40	95	55	31,371	−70,791	0.73	0.71	0.09	−	
41	95	56	31,384	−70,795	0.47	0.41	0.12	N−13°−E	
42	95	56	31,421・31,422	−70,816・−70,817	1.1	0.93	0.47	N−４°−W	
43	95	56	31,357	−70,785	0.8	0.65	0.21	N−77°−E	
44	96	56	31,358・31,359	−70,792・−70,793	0.8	0.43+	0.18	計測不可	
45	96	57	31,356・31,357	−70,791	0.63+	0.28+	0.33	計測不可	38号溝が新
46	96	57	31,341・31,342	−70,779・−70,780	0.89	0.82	0.25	N−53°−W	
47	96	57	31,369・31,370	−70,793・−70,794	1.38	1.34	0.35	−	
48	96・97	57・67	31,359〜31,361	−70,790・−70,791	1.29+	1.18	0.73	N−７°−E	25号溝が新
49	97	58	31,362〜31,364	−70,785〜−70,788	2.96	2.39	0.92	計測不可	25号溝が新

（６）ピット（第98～100図　PL.59～62、第６表）

調査した62基のピットのうち、１～17・20・24・25・37～46号ピットは掘立柱建物の柱穴として掲載している。29号ピットは12号土坑の一部であると判断したため、欠番とした。残りのピットについては、調査範囲が限られているため、掘立柱建物や柵などの規則性は認められない。埋土や遺構の確認状況からいずれも中・近世であると考えられる。詳細は第６表に示す。



18号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ２～３㎜白色粒を２％含む。硬くしまる。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを20％含む。やや粘性あり。

19号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを10％含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)
3　褐色土(10YR4/4)粘質土。

21号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを10％含む。

22号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを30％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)φ１㎜白色粒を２％含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを含む。

23号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１㎜程度の白色粒を１％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを含む。

26号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１㎜白色粒を１％、褐色土ブロックを５％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)

27号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１㎜白色粒を１％含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)φ５～30㎜褐色土ブロックを20％含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)

28号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを10％含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)
3　褐色土(10YR4/4)粘性あり。

30号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ２～３㎜白色粒を３％、褐色土ブロックを20％含む。硬しくまる。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)粘性あり。

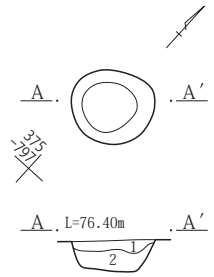
31号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１～２㎜白色粒を３％、褐色土ブロックを５％含む。硬くしまる。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを５％含む。

32号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１～２㎜白色粒を２％、褐色土ブロックを５％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを５％含む。

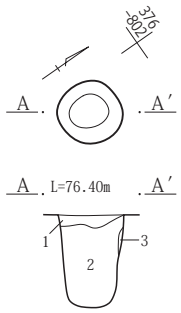
33号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ２～５㎜白色粒を２％、褐色土ブロックを５％含む。硬くしまる。
1－b　黒褐色土(10YR2/3)φ２～５㎜白色粒を２％、褐色土ブロックを５％、炭化物片を５％含む。硬くしまる。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを５％含む。

第98図　18号、19号、21号～23号、26号～28号、30号～33号ピット

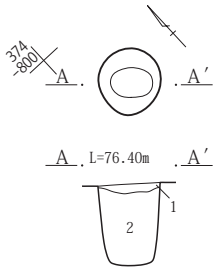
34号ピット



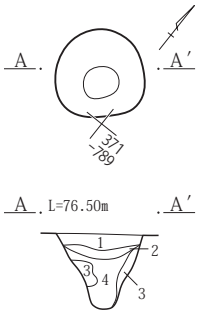
35号ピット



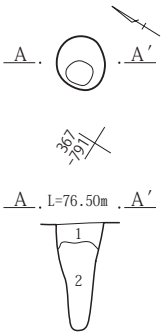
36号ピット



47号ピット



48号ピット



34号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１～２㎜白色粒を２％、褐色土ブロックを５％、炭化物片を２％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)φ１～２㎜白色粒を１％、褐色土ブロックを10％、炭化物片を２％含む。

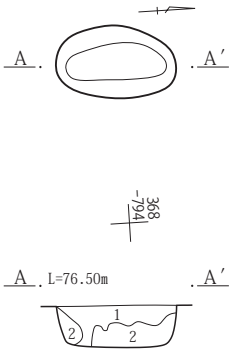
35号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１～２㎜白色粒を２％、褐色土ブロックを５％、炭化物片を２％含む。硬くしまる。
2　黒褐色土(10YR2/3)炭化物片を１％含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)粘質土。

36号ピット
1　暗褐色土(10YR3/3)炭化物片を５％含む。φ１㎜程度の白色粒を２％含む。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)褐色の粘土を15％含む。やや粘性あり。しまりあり。

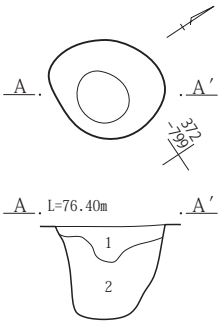
47号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１～２㎜白色粒を２％、焼土を１％、炭化物片を20％含む。
2　灰黄褐色土(10YR4/2) 褐色土を３％、炭化物片を２％含む。やや粘性あり。
3　褐色土(10YR4/4) 灰黄褐色土(10YR4/2)を20％含む。やや粘性あり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。

48号ピット
1　暗褐色土(10YR3/3)φ２～３㎜程度の白色粒を１％含む。炭化物片を１％含む。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)ややもろい。やや粘性あり。

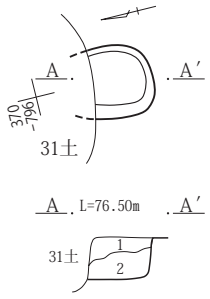
49号ピット



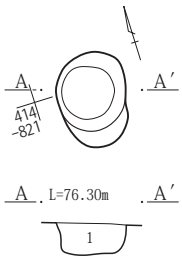
50号ピット



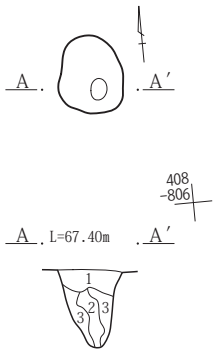
51号ピット



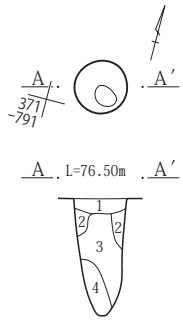
52号ピット



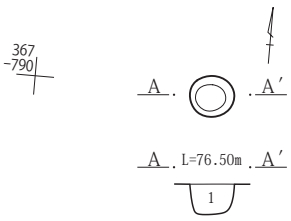
53号ピット



54号ピット



55号ピット



55号ピット
1　褐色土(10YR4/4)φ１～３㎜程度の白色粒を１％含む。しまりあり。

49号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ２～５㎜白色粒を20％、褐色土ブロックを10％含む。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを10％、炭化物片を３％含む。やや粘性あり。

50号ピット
1　褐灰色土(10YR4/1)φ２～３㎜白色粒を５％、φ５～20㎜褐色土ブロックを20％含む。硬くしまる。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを30％含む。やや粘性あり。

51号ピット
1　暗褐色土(10YR3/3)φ１～３㎜程度の白色粒を７％含む。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)褐色の粘質土を２％含む。やや柔らかい。やや粘性あり。

52号ピット
1　暗褐色土(10YR3/3)φ１～５㎜程度の白色粒を２％含む。褐色土を10％含む。しまりあり。

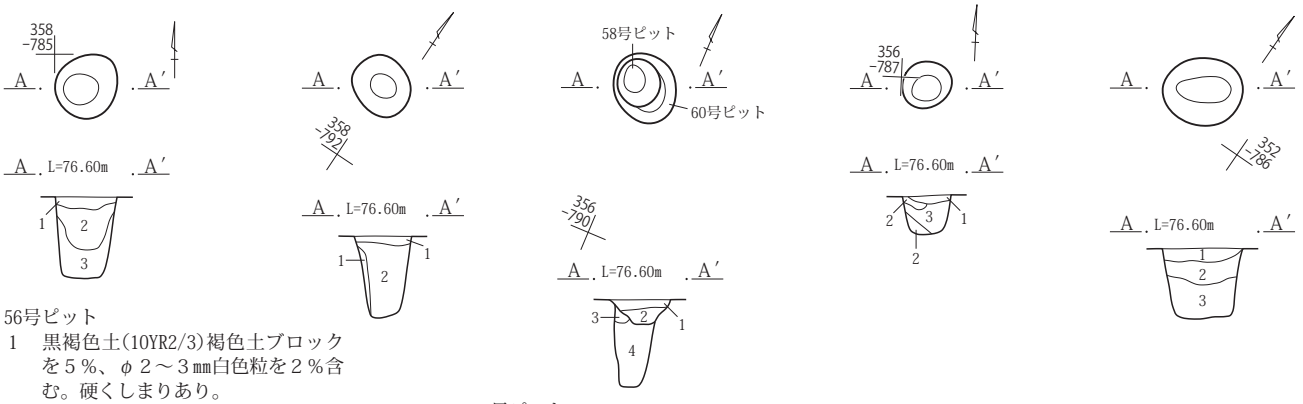
53号ピット
1　暗褐色土(10YR3/3)φ１～５㎜程度の白色粒を３％含む。褐色土を10％含む。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)褐色土を10％含む。やや柔らかい。やや粘性あり。
3　褐色土(10YR4/6)暗褐色土を２％含む。やや粘性あり。

54号ピット
1　褐色土(10YR4/4)φ１㎜程度の白色粒を２％含む。φ３～５㎜の黒色粒を３％含む。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)褐色粘土ブロックを５％含む。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)褐色粘土ブロックを３％含む。やや粘性あり。
4　褐色土(10YR4/6)粘質土。

0　1：40　1m

第99図　34号ピット～36号ピット、47号ピット～55号ピット

56号ピット　57号ピット　58号ピット・60号ピット　59号ピット　61号ピット



56号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを５％、φ２～３㎜白色粒を２％含む。硬くしまりあり。
2　黒褐色土10YR2/3)褐色土ブロックを５％、灰黄褐色土(10YR4/2)を10％含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。

57号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを５％、φ１～２㎜白色粒を２％含む。硬くしまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを５％含む。

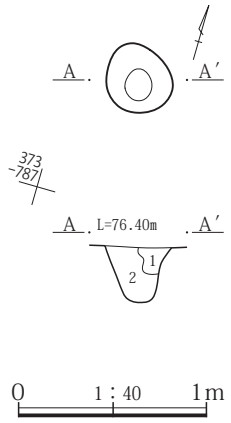
58号ピット
3　灰黄褐色土(10YR4/2)黒色片を２％含む。やや粘性あり。
4　黒褐色土(10YR2/3)粘土ブロックを５％含む。

60号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ２～３㎜白色粒を２％、褐色土ブロックを５％含む。
2　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロックを５％含む。

59号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１～２㎜白色粒を２％、褐色土ブロックを10％含む。硬くしまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)やや粘性あり。
3　黒褐色土(10YR 4/2)黒色片を１％含む。

61号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)φ１～２㎜白色粒を２％含む。硬くしまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)φ２～３㎜白色粒を３％、褐色土ブロックを20％含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土ブロックを10％含む。やや粘性あり。

62号ピット



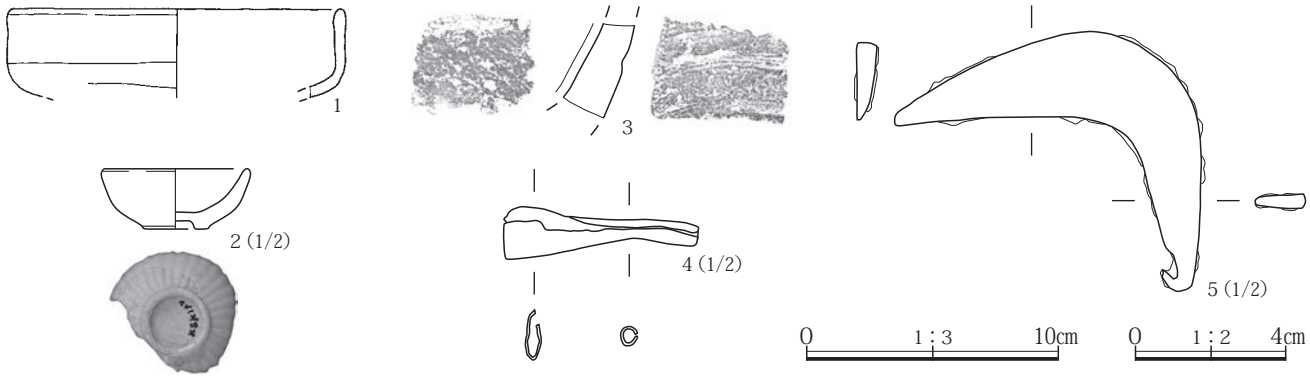
62号ピット
1　褐色土(10YR4/4)暗褐色土を30％、φ３㎜程度の黒色粒を２％含む。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)φ１～２㎜程度の白色粒を２％含む。褐色土を７％含む。しまりあり。

第100図　56号ピット～62号ピット

第５節　遺構外出土遺物(第101図　PL.67)

図示した遺物は、土師器杯口縁部片(第101図１)、肥前磁器紅皿(第101図２)、常滑陶器片口鉢片(第101図３)、キセル吸口(第101図４)、鉄製鎌完形品(第101図５)の５点である。

実測・図示にはいたらなかった遺物は、古代６点、中世６点、近世115点、近現代12点、時期不明８点である。



第101図　遺構外出土遺物

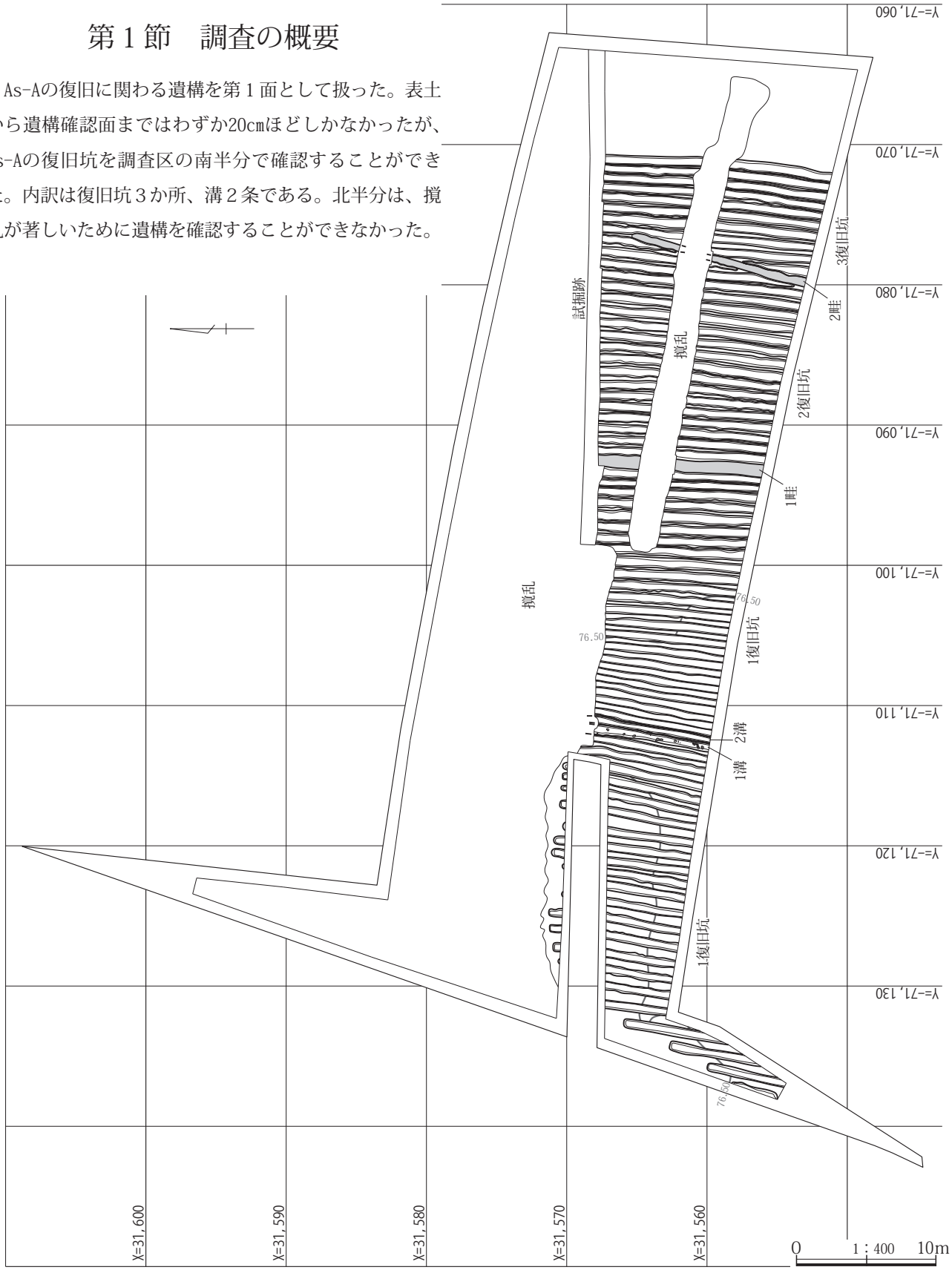
第６表　ピット計測表

No.	図	PL・	X座標	Y座標	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方向	備考
1	69・70	30-3・4	－	－	0.48	0.41	0.64	－	１掘立-８
2	69・70	30-1・2	－	－	0.29	0.28	0.66	－	１掘立-７
3	69・71	32-7・8	－	－	0.42	0.32	0.58	－	１掘立-18
4	69・71	32-5・6	－	－	0.52	0.45	0.66	－	１掘立-17
5	69・70	29-7・8	－	－	0.40	0.28	0.63	－	１掘立-６
6	69・71	31-1・2	－	－	0.54	0.47	0.74	－	１掘立-11
7	69・71	32-1・2	－	－	0.55	0.43	0.43	－	１掘立-15
8	69・71	31-7・8	－	－	0.48	0.37	0.39	－	１掘立-14
9	69・70	28-4・5	－	－	0.44	0.37	0.65	－	１掘立-２
10	69・70	28-2・3	－	－	0.40	0.37	0.55	－	１掘立-１
11	69・70	29-1・2	－	－	0.61	0.50	0.67	－	１掘立-３
12	69・71	31-5・6	－	－	0.43	0.30	0.53	－	１掘立-13
13	69・71	32-3・4	－	－	0.54	0.49	0.70	－	１掘立-16
14	72・73	36-3・4	－	－	0.48	0.42	0.40	－	２掘立-12
15	69・71	31-3・4	－	－	0.52	0.38	0.67	－	１掘立-12
16	72・73	36-1・2	－	－	0.48	0.44	0.44	－	２掘立-11
17	72・73	34-1・2	－	－	0.58	0.41	0.48	－	２掘立-３
18	98	59	31,411・31,412	−70,815・−70,816	0.69	0.60	0.14	N−76°−W	
19	98	59	31,400	−70,808	0.29	0.27	0.48	N−51°−W	
20	72・73	35-1・2	－	－	0.32	0.29	0.60		２掘立-７
21	98	59	31,405	−70,813・−70,814	0.34	0.31	0.21	N−１°−W	
22	98	59	31,404・31,405	−70,814	0.43	0.42	0.19	－	
23	98	59	31,407・31,408	−70,807	0.39	0.30	0.15	N−30°−E	
24	72・73	35-5・6	－	－	0.69	0.47	0.46		２掘立-９
25	72・73	33-4・5	－	－	0.49	0.42	0.48		２掘立-２
26	98	59	31,400	−70,810	0.25	0.22	0.37	N−２°−W	
27	98	59	31,402	−70,810	0.40	0.37	0.49	N−70°−W	
28	98	59・60	31,401	−70,808	0.29	0.27	0.30	N−８°−E	
29	欠番		－	－	－	－	－	－	12号土坑の一部
30	98	60	31,398	−70,805	0.34	0.27	0.22	N−71°−E	
31	98	60	31,378	−70,798	0.32	0.29	0.20	N−63°−W	
32	98	60	31,378・31,379	−70,797・−70,798	0.32	0.26	0.40	N−23°−E	
33	98	60	31,380	−70,797	0.43	0.34	0.09	N−50°−W	
34	99	60	31,375	−70,796・−70,797	0.44	0.41	0.18	N−28°−E	
35	99	60	31,375	−70,801	0.35	0.34	0.49	－	
36	99	60	31,373	−70,799	0.35	0.33	0.45	N−45°−E	
37	72・73	35-3・4	－	－	0.39	0.36	0.37	－	２掘立-８
38	72・73	35-7・8	－	－	0.27	0.25	0.43	－	２掘立-10
39	72・73	33-3	－	－	0.39	0.32	0.55	－	２掘立-１
40	72・73	34-7・8	－	－	0.42	0.28	0.64	－	２掘立-６
41	72・73	34-5・6	－	－	0.38	0.32	0.45	－	２掘立-５
42	72・73	34-3・4	－	－	0.39	0.35	0.62	－	２掘立-４
43	69・70	30-5・6	－	－	0.31	0.27	0.56	－	１掘立-９
44	69・70	30-7・8	－	－	0.44	0.35	0.68	－	１掘立-10
45	69・70	29-5・6	－	－	0.47	0.42	0.68	－	１掘立-５
46	69・70	29-3・4	－	－	0.47	0.44	0.70	－	１掘立-４
47	99	61	31,370・31,371	−70,788・−70,789	0.49	0.49	0.40	－	
48	99	61	31,367	−70,790	0.29	0.25	0.57	N−59°−E	
49	99	61	31,367・31,368	−70,794・−70,795	0.63	0.39	0.22	N−９°−E	
50	99	61	31,371・31,372	−70,799	0.62	0.52	0.51	N−52°−E	
51	99	61	31,369	−70,795・−70,796	0.34+	0.38	0.23	計測不可	31号土坑が新
52	99	61	31,413・31,414	−70,820	0.50	0.37	0.17	N−３°−E	17号土坑と重複
53	99	61	31,408	−70,806	0.43	0.36	0.45	N−32°−W	21号溝より新
54	99	61・62	31,371	−70,790	0.28	0.28	0.62	－	
55	99	62	31,366・31,367	−70,788・−70,789	0.24	0.22	0.16	N−62°−E	
56	100	62	31,357	−70,784	0.36	0.33	0.43	N−42°−E	
57	100	62	31,358	−70,791・−70,792	0.34	0.29	0.43	N−66°−W	
58	100	62	31,356	−70,789・−70,790	0.25	0.22	0.46	N−43°−W	60号ピットが新
59	100	62	31,355・31,356	−70,786	0.27	0.25	0.21	N−48°−E	
60	100	62	31,356	−70,789・−70,790	0.38	0.33	0.14	N−51°−W	58号ピットより新
61	100	62	31,351・31,352	−70,786	0.43	0.36	0.37	N−64°−E	
62	100	62	31,373	−70,786	0.38	0.34	0.30	N−36°−W	

第４章　山名赤沼遺跡の遺構と遺物

第１節　調査の概要

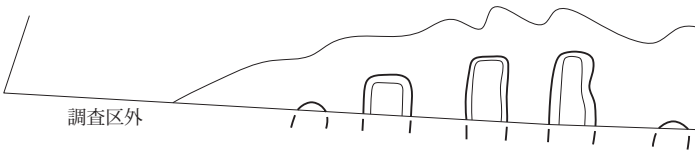
As-Aの復旧に関わる遺構を第１面として扱った。表土から遺構確認面まではわずか20cmほどしかなかったが、As-Aの復旧坑を調査区の南半分で確認することができた。内訳は復旧坑３か所、溝２条である。北半分は、撹乱が著しいために遺構を確認することができなかった。



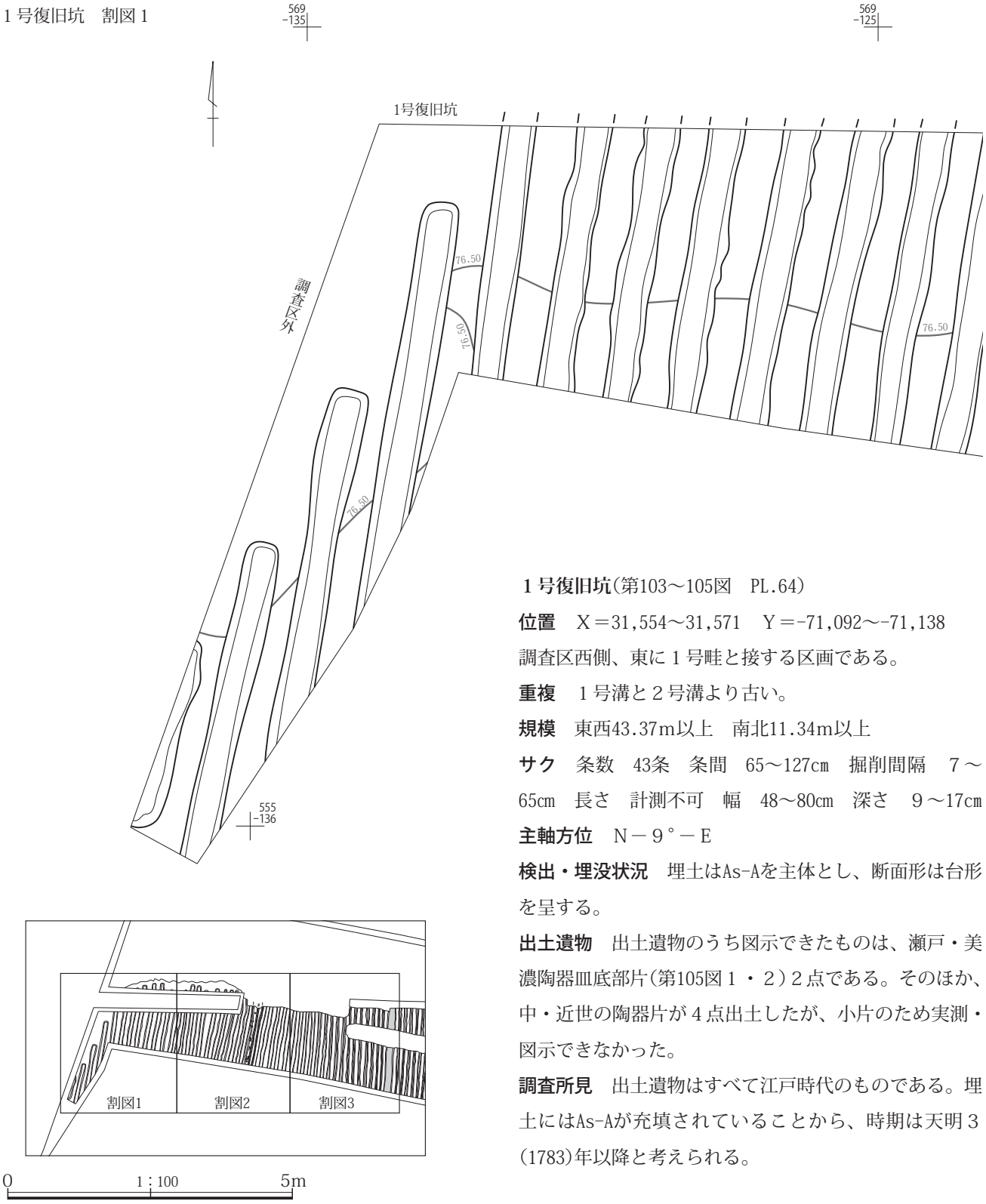
第102図　遺構全体図

第２節　検出された遺構と遺物

（１）復旧坑



１号復旧坑　割図１



１号復旧坑（第103～105図　PL.64）

位置　Ｘ＝31,554～31,571　Ｙ＝-71,092～-71,138

調査区西側、東に１号畦と接する区画である。

重複　１号溝と２号溝より古い。

規模　東西43.37m以上　南北11.34m以上

サク　条数　43条　条間　65～127cm　掘削間隔　７～65cm　長さ　計測不可　幅　48～80cm　深さ　９～17cm

主軸方位　Ｎ－９°－Ｅ

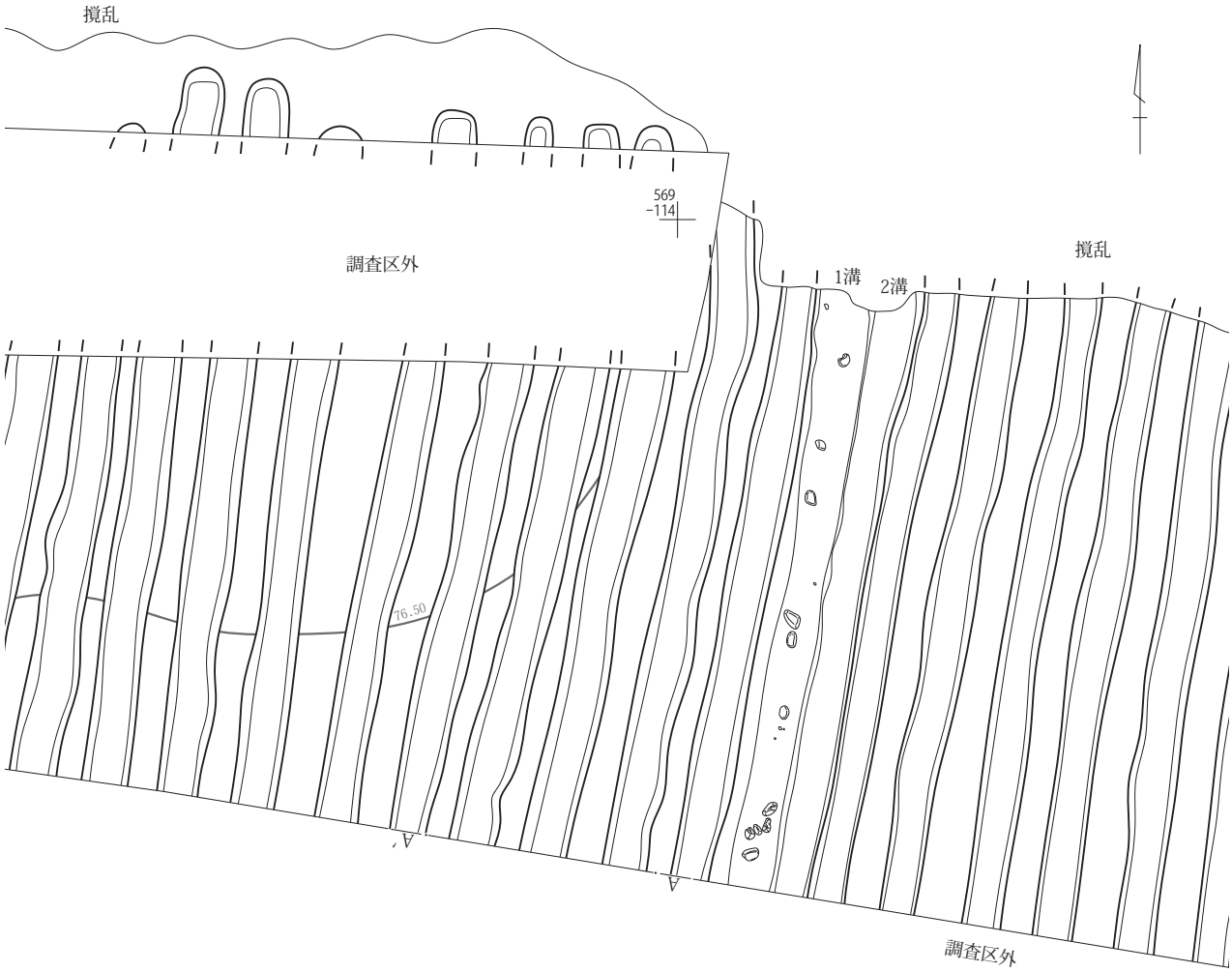
検出・埋没状況　埋土はAs-Aを主体とし、断面形は台形を呈する。

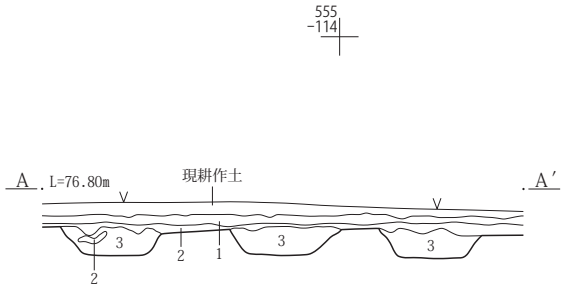
出土遺物　出土遺物のうち図示できたものは、瀬戸・美濃陶器皿底部片（第105図１・２）２点である。そのほか、中・近世の陶器片が４点出土したが、小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　出土遺物はすべて江戸時代のものである。埋土にはAs-Aが充填されていることから、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

第103図　１号復旧坑（１）

１号復旧坑　割図２



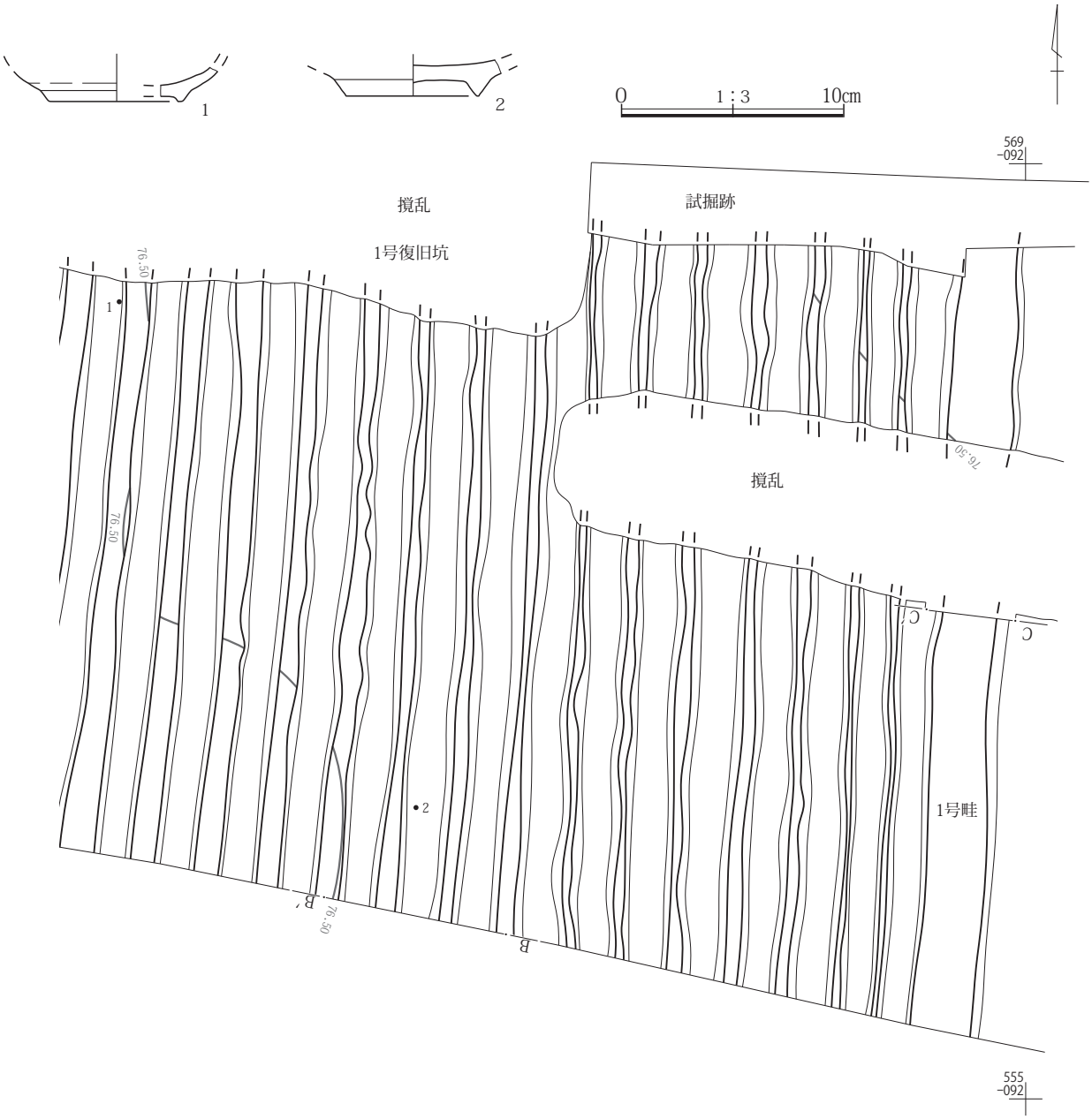


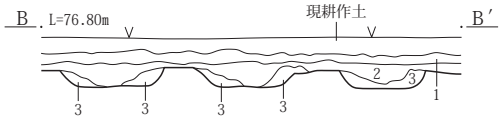
1　褐灰色土(10YR4/1) As-Aを３％含む。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)黒褐色土を10％含む。黄褐色土を５％含む。しまりあり。
　粘質土。
3　As－A。

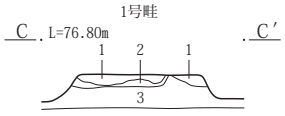
0　1：100　5m
0　1：50　2m

第104図　１号復旧坑（２）

１号復旧坑　割図３







1　褐灰色土(10YR4/1) As-Aを３％含む。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)黒褐色土を10％含む。黄褐色土を５％含む。しまりあり。粘質土。
3　As－A。

1　褐灰色土(10YR4/1)As－Aを７％含む。黄褐色土を40％含む。しまりあり。
2　褐灰色土(10YR4/1)As-Aを10％含む。所々 As-Aの純層をブロック状に含む。しまりあり。
3　褐灰色土(10YR4/1)褐色土粘土を少量含む。しまりあり。粘質土。

0　1：100　5m

0　1：50　2m

第105図　１号復旧坑（３）と出土遺物

２号復旧坑(第106図　PL.64・65・67)

位置　X＝31,553～31,567　Y＝-71,076～-71,092
東に２号畦、西に１号畦に囲まれた区画内に位置する

重複　２号畦に先んずる。

規模　東西15.69m　南北14.62m以上

サク　条数　19条　条間　74～99cm　掘削間隔　10～35cm　長さ　計測不可　幅　53～74cm　深さ　９～18cm
主軸方位　N－６°－E

検出・埋没状況　埋土はAs-Aを主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物　出土遺物のうち図示できたものは、在地系焙烙口縁部片(第106図１)、肥前磁器染付碗底部片(第106図２)、製作地不詳行平鍋体部片(第106図３)の３点である。そのほか、近世陶磁器片など９点出土したが、小片のため実測・図示できなかった。

調査所見　出土遺物には18世紀以降ものも含まれるが、埋土の上位からの出土のため、後世の耕作による混入の可能性もある。埋土にはAs-Aが充填されていることから、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

３号復旧坑(第107図　PL.64・65・67)

位置　X＝31,551～31,567　Y＝-71,070～-71,079
調査区最東端、西に２号復旧坑と２号畦に接する区画に位置する。

重複　２号畦に先んずる。

規模　東西7.67m以上　南北16.19m以上

サク　条数　10条　条間　66～92cm　掘削間隔　５～28cm　長さ　計測不可　幅　57～81cm　深さ　11～16cm
主軸方位　N－５°－E

検出・埋没状況　埋土はAs-Aを主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物　龍泉窯系青磁碗底部片(第107図１)、在地系焙烙の円盤状加工品(第107図２)が出土した。そのほか、近世の陶磁器片など８点が出土したが、小片のため実測・図示にはいたらなかった。

調査所見　出土遺物や埋土の状況から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

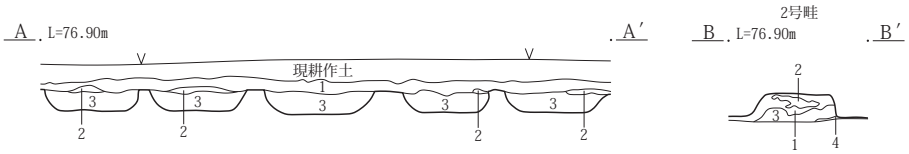
(２)畦(第105・106図　PL.65)

畑や復旧坑の間に掘削されずに固く踏みしめられたり、盛土されたりした部分を２本確認した。出土遺物はない。

１号畦は、上層にAs-Aを含んだ褐色土、下層には粘性のある褐灰色土で構築されている。As-A降下以前からの畦を踏襲して使用され続けたのであろう。よって時期は、天明３(1783)年以前と考えられる。

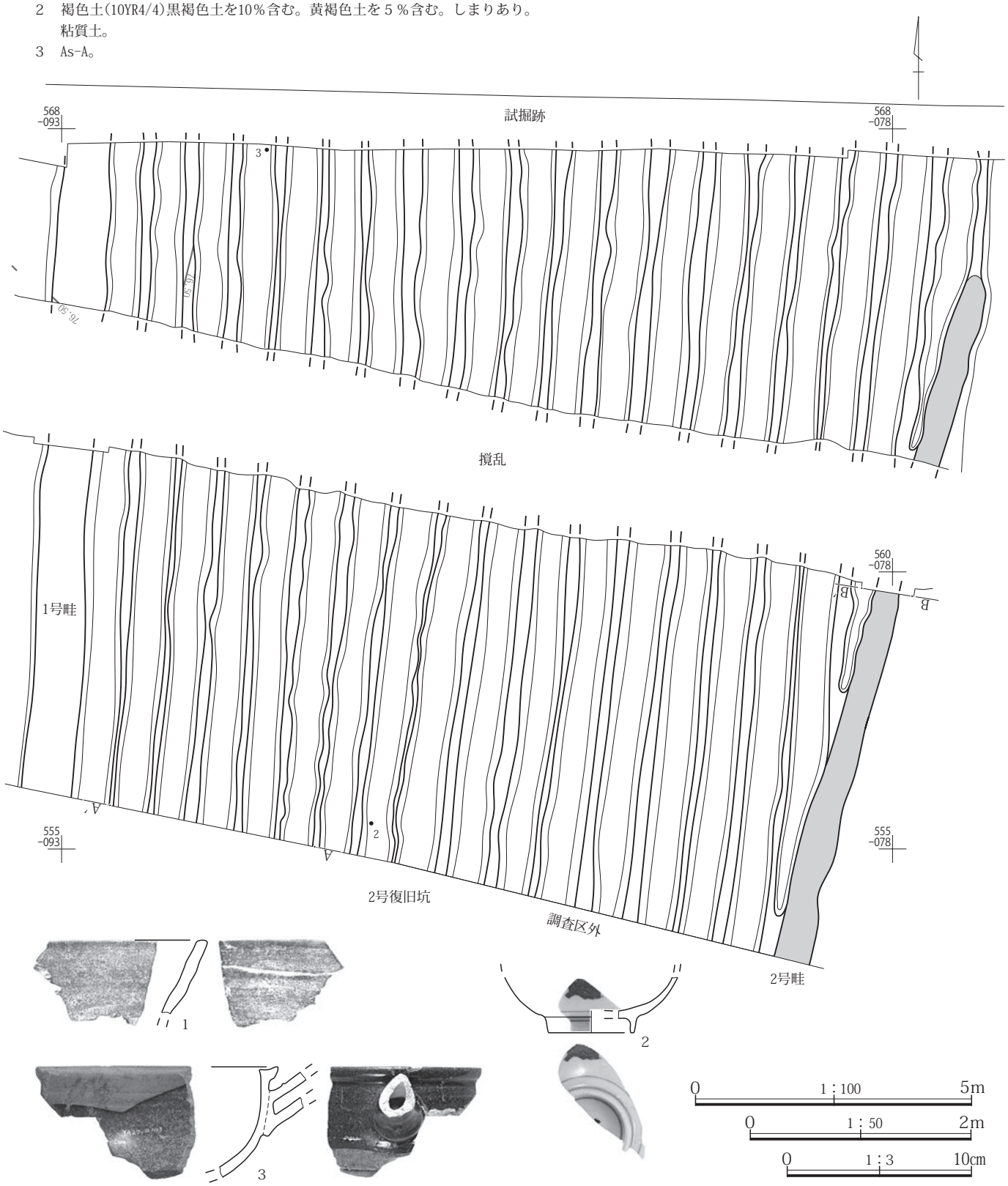
２号畦はAs-Aを混入する褐色土で構築され、２号復旧坑と３号復旧坑上をN－15°－Eに走向している。時期は、天明３(1783)年以降と考えられる。

２号復旧坑



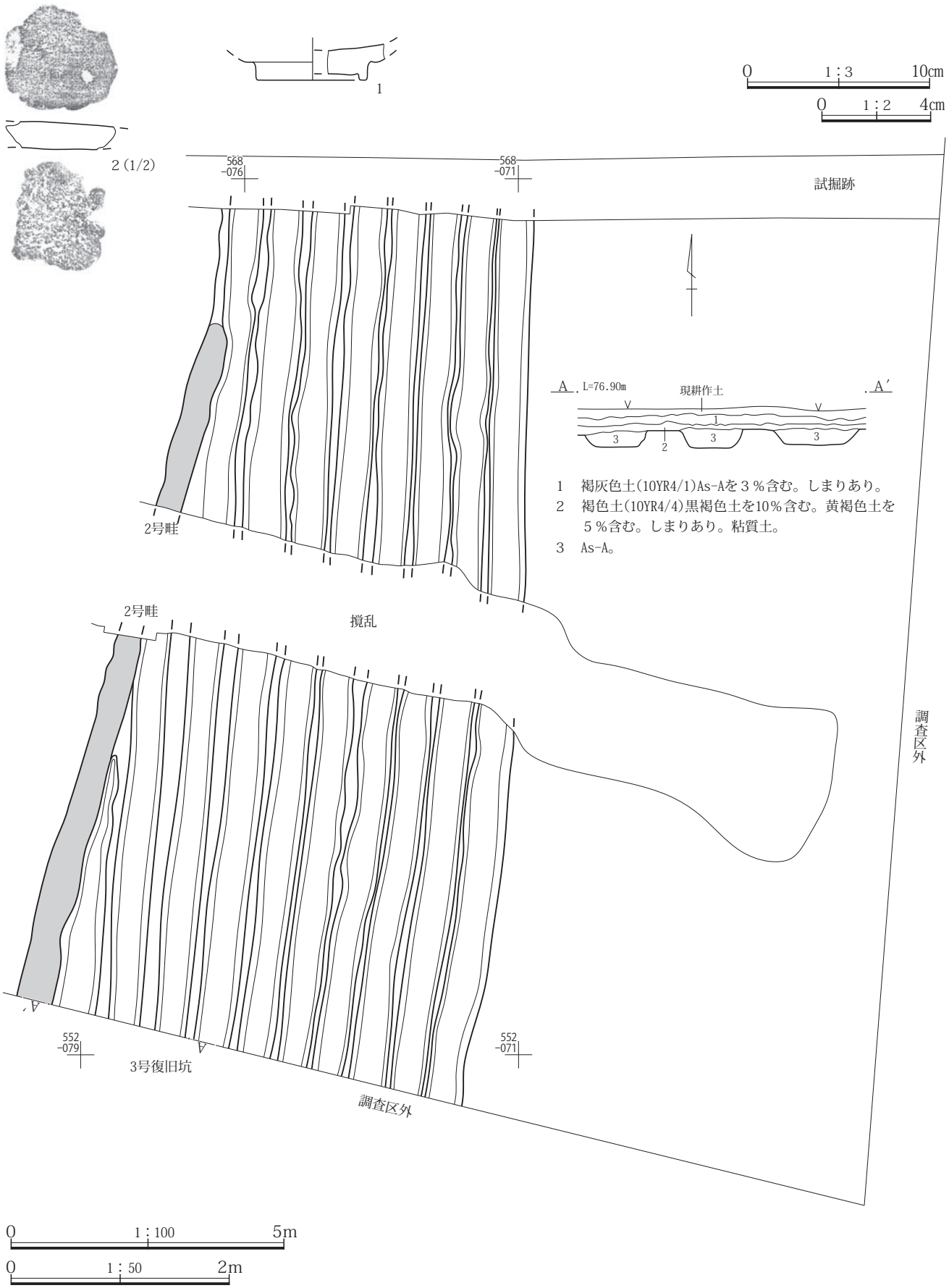
1　褐灰色土(10YR4/1)As-Aを３％含む。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)黒褐色土を10％含む。黄褐色土を５％含む。しまりあり。粘質土。
3　As-A。

1　褐色土(10YR4/6)褐灰色土を30％含む。As-Aを７％含む。しまりあり。やや粘性あり。
2　As-A。褐色土を７％含む。ややもろい。
3　褐灰色土(10YR4/1)しまりあり。粘性土。
4　褐色土(10YR4/4)粘性土。



第106図　２号復旧坑と出土遺物

３号復旧坑



第107図　３号復旧坑と出土遺物

（３）溝

１号溝(第108図　PL.65)

位置　X＝31,559～31,568　Y＝-71,111～-71,113

重複　２号溝に後出する。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。南側がやや高く、比高差は５㎝である。　**走向方位**　N－10°－E

規模　全長8.23m　最大幅0.74m　最深部0.22m

検出・埋没状況　埋土は、砂粒を多量に含む暗褐色土を主体とし、しまっている。底面に多数の礫を確認した。断面形はほぼ台形である。

出土遺物　肥前磁器碗小片、焙烙片、瀬戸・美濃陶器徳利口縁部片、瀬戸・美濃陶器碗底部片が出土したが小片のため実測・図示にはいたらなかった。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

２号溝(第108図　PL.65)

位置　X＝31,559～31,567　Y＝-71,110～-71,112

重複　１号復旧坑に後出し、１号溝に先んずる。

形状　南北方向のほぼ直線の溝である。北側がやや高く、比高差は７㎝である。　**走向方位**　N－10°－E

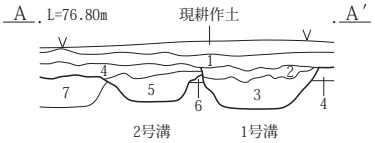
規模　全長8.42m　最大幅0.55m　最深部0.14m

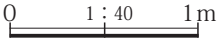
検出・埋没状況　埋土は、砂粒を多量に含む暗褐色土を主体とし、しまっている。断面形はほぼ台形である。

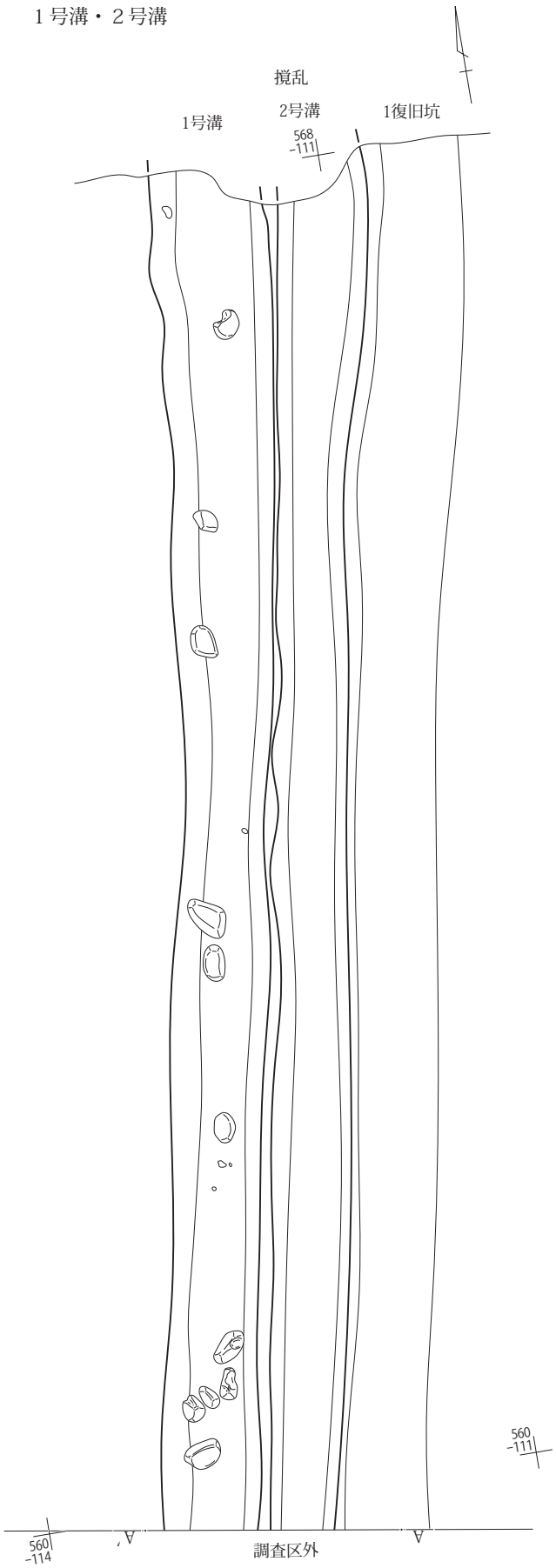
出土遺物　なし。

調査所見　遺構の検出状況および埋土から、時期は天明３(1783)年以降と考えられる。

1　暗褐色土(10YR3/3)As-Aを３％含む。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)As-Aを５％含む。褐色土を10％含む。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)褐色土を10％含む。φ２～３㎜程度の砂粒を多く含む。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/4)暗褐色土を30％含む。As-Aを10％含む。粘性。
5　暗褐色土(10YR3/4)褐色土を10％含む。砂粒を多く含む。しまりあり。
6　灰黄褐色土(10YR5/2)褐色土を５％含む。しまりあり。
7　As-A。







第108図　１号溝、２号溝

第７表　木部下久保田遺跡　遺物観察表

４号畑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第14図 PL.66	1	鉄製品 刀子か	完形	長 幅	8.8 0.9	厚 重	0.2 9.0		刀子状の形状ではあるが、刃はつかない。端部から約３cmで曲がる。	

６号畑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第19図	1	肥前磁器 染付碗	底部1/2	口 底	－ (3.7)	器	－	灰白	内面は無文。高台脇に１重圏線。高台外面に２重圏線。	18世紀。
第19図	2	瀬戸・美濃 陶器 碗	底部1/4	口 底	－ (4.7)	器	－	灰白	内面から体部外面下位に飴釉。	18世紀。
第19図 PL.66	3	砥石		長 幅	(11.4) 3.3	厚 重	3.7 213.8	砂岩	基本的に表裏面の二面使用。表面側に浅い線条痕様の刃ならし傷、裏面側に深いＵ字状の刃ならし傷があり、表裏面とも研ぎ減っている。両側面は切断後に粗く磨き整形されているが、粗い刃ならし傷が著しい。	

７号畑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第20図 PL.66	1	砥石		長 幅	7.9 2.6	厚 重	2.9 91.3	砥沢石	二面使用。裏面側は比較的平坦であるのに対して、表面側は研ぎ減りが著しい。両側面にタガネ状の整形痕が残る。被熱して砥面の剥落が著しい。	

１号復旧坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第27図 PL.66	1	肥前磁器 青磁染付碗	底部2/3	口 底	－ 4.3	器	－	灰白	底部内面は２重圏線内にコンニャク印判による五弁花。外面は高台端部を除き青磁釉。	18世紀中葉～後葉。
第27図 PL.66	2	在地系土器 焙烙加工品	完形	長 短	4.5 4.1	厚	0.7	褐灰	焙烙底部片を打ち欠いた後、割れ口を簡単に磨って円盤状に加工し、中央に円孔を穿つ。断面中央は褐灰色、器表付近は浅黄橙色、内面器表は黒褐色、底部外面は浅黄橙色。	焙烙は江戸時代の製品。
第27図 PL.66	3	銅製品 煙管(雁首)	完形	長 幅	4.9 1.7	高 重	2.2 7.6		つなぎ目は不明瞭。わずかになだらかな肩を持つ。火皿内部に土砂とは異なる内容物が入り、固着しているとみられる。	
第27図	4	鉄製品 火打金	1/2	長 高	(3.2) (1.5)	厚 重	0.6 4.6		山形の火打金。比較的小型のものとなる。	

２号復旧坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第29図 PL.66	1	肥前陶器 皿	1/4	口 底	(11.2) (4.7)	器	3.2	灰黄	内面から口縁端部に青緑釉、口縁部外面から体部外面に透明釉。底部内面蛇の目釉剥ぎ。	17世紀後葉～18世紀前葉。
第29図 PL.66	2	龍泉窯系青磁 碗	体部から底部片	口 底	－	器	－	灰白	外面無文。底部内面周縁に上方からの片彫りによる圏線。体部内面に片彫りによる施文。内外面に青磁釉。大宰府分類の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-２・３類か。	12世紀中葉～後葉か。

４号復旧坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第32図	1	製作地不詳 磁器 染付碗	口縁部片	口 底	－	器	－	白	酸化コバルトによる染付。	近現代。

９号畦出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第43図 PL.66	1	砥石		長 幅	5.9 3.2	厚 重	1.7 39.0	砥沢石	基本的に表面側のみ使用。裏面側および両側面にはタガネ状の整形痕が残り、右側面のみ砥面として使用され、研磨面が形成されている。	

12号復旧坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第52図 PL.66	1	堺・明石陶器 すり鉢	口縁部1/6	口 底	(39.2) －	器	－	赤褐	残存部少なく推定口の誤差は大きい。口縁部器壁は厚いが、内面の段差は明瞭。無釉で外面口縁部以下は回転篦削り。	18世紀後葉～19世紀初頭。

11号畦出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第66図 PL.66	1	中国磁器 染付皿か	口縁部片	口 底	－	器	－	白	口縁部内面に１重圏線。口縁端部外面に幅広の１重圏線か。口縁部外面に宝珠状の染付。	16世紀か。

25号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第80図	1	須恵器 鉢	底部片	口 底	－ 10.0			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部切り離し技法不明、高台は貼付。内面はヘラナデ。	
第80図	2	埴輪 円筒	胴部片					細砂粒/良好/にぶい橙	凸帯は貼付。外面胴部は器面摩滅のため整形不鮮明であるが、ナデか。内面は斜め方向のナデ。	
第80図 PL.66	3	埴輪 円筒	下端部片					細砂粒/良好/浅黄	下端部はヘラナデ、胴部は内外面ともナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第80図 PL.66	4	瓦 平瓦	小片					細砂粒/還元焔/灰	成形不明。表面に布目が残る。裏面はヘラナデ。	
第80図 PL.66	5	瀬戸・美濃 磁器か 碗蓋	口縁部一部欠	口 底	9.9 3.8	器	2.5	白	内外面ともに型紙摺りによる染付。外面は円内にイチョウ状の文様とモミジ文。内面は瓔珞文。	近現代。
第80図 PL.66	6	珉平焼か 鉢	底部1/8	口 底	— (12.7)	器	—	浅黄橙	盥状の鉢であろう。高台脇に２条に突帯。体部外面に小さい段差。高台端部を除き光沢の強い緑釉。釉には細かい貫入入る。	近現代。
第80図 PL.66	7	瀬戸・美濃 陶器 鎧碗	体部1/2、底部完	口 底	— 3.9	器	—	褐灰	外面に回転施文具による施文。内面は鉄釉、外面は高台端部を除き飴釉を化粧掛け。	18世紀中葉～後葉。
第80図	8	在地系土器 片口鉢	口縁部片	口 底	—	器	—	灰	口縁部は薄い玉縁状をなし、内面はやや窪む。口縁部は丁寧な回転ナデ調整。残存部内面下位は使用によりやや平滑となる。	13世紀後半か。
第80図 PL.66	9	石製品		長 幅	3.8 2.6	厚 重	1.9 31.2	砥沢石	表面側を蕨手状に刻み、刻み頭部には上面側から湯口状に溝が刻まれる。蕨手状に刻んだ表面側は丁寧に研磨されるのに対し、上面側や右側面には線条痕が残り、表面側とは差別化されている。裏面側および左側面に本来の砥面が残されている。砥石を再加工したものであるが、蕨手状に刻み込んだ加工意図は不明。	
PL.67	10	石鍬		長 幅	11.7 10.5	厚 重	2.7 431.7	珪質頁岩	全面的に摩耗しており、その状態はローリングを受けたかのようである。表面側は全面的に被熱剥離して当初の状態は分からない。刃部は器軸に直交して研磨摩耗しており、のちに転用されたものと思われる。	
第80図 PL.66	11	銭貨 寛永通寶 (四文銭)	完形	外径 内径	2.792 2.060	厚 重	0.114 3.4		11波。面、背ともに文字、輪、郭が明瞭。面の輪の一部が盛り上がり、鋳詰まりしているか。	
第80図 PL.66	12	銭貨 新寛永	完形	外径 内径	2.308 1.875	厚 重	0.092 1.4		面は一部劣化が見られるが比較的明瞭。背は劣化により輪、郭が不明瞭。	
第80図 PL.66	13	銭貨 古寛永	完形	外径 内径	2.403 1.977	厚 重	0.136 3.2		面、背ともに文字、輪、郭が明瞭だが、背の彫はやや浅い。	
第80図 PL.66	14	銭貨 新寛永	完形	外径 内径	2.179 1.861	厚 重	0.099 1.5		面の文字、輪、郭は確認出来る。虎の尾寛。背は輪、郭が見えない。	
第80図 PL.67	15	銭貨 龍一銭銅貨	完形	外径 内径	2.816 —	厚 重	0.153 4.8		ほとんどが劣化で確認できない。わずかに竜の痕跡が残存する。	
第80図 PL.67	16	銭貨 新寛永	完形	外径 内径	2.320 1.666	厚 重	0.154 2.2		面の文字は細く周囲に錆が付着する。一部の輪も不明瞭。瀬はわずかに郭がゆがんでいる。輪は明瞭。	
第80図 PL.67	17	羽口	破片	長 径	(7.3) 7.2	厚 重	2.4 148.0		内径は2.3cm。一部ガラス質に変化する。残存部で垂れが見られるため、羽口の上部に位置していたものか。胎土にスサや砂粒などは見られず均一。	

39号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図 PL.67	1	銅製品 煙管(雁首)	完形	長 幅	6.5 1.5	高 重	2.1 10.0		羅宇の一部と火皿内に灰が残存する。側面につなぎ目が確認できる。表面に刻みがあるが、模様の内容は判断できない。	

41号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図 PL.67	2	瀬戸・美濃 陶器 双耳壺	口縁部1/2	口 底	(9.9) —	器	—	灰白	残存する耳は１カ所であるが、残存範囲から双耳と推定される。口縁部内面から外面に鉄釉。	江戸時代。

26号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第93図	1	中国磁器 白磁碗	体部下位片	口 底	—	器	—	白	外面は無文。底部内面周縁に上方からの片彫りによる１重圏線。圏線より上位に短い櫛描き文。大宰府分類の白磁碗Ⅴ-４b類か。	12世紀中葉～後葉か。
PL.67	2	火打石？		長 幅	4.1 3.2	厚 重	2.2 32.9	石英	板状を呈する。稜はシャープで使用された痕跡はない。不純物が混じり、空隙もあり、石材としては良質とはいえない。	

29号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第93図 PL.67	3	鉄製品 刀子	1/2	長 幅	(9.3) 2.3	厚 重	0.6 12.7		柄の部分に木質が残存している。刃の表面の錆に刀子とみられる錆痕跡が残存する。	

30号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第94図	1	中国磁器 白磁皿	口縁部一部、底部完	口 底	(10.2) 3.0	器	2.9	灰白	器壁薄く、口縁部内面下位に小さい段差。外面は口縁部以下左回転箆削り。内面から体部外面上位に灰黄気味の釉。露体部に灰白色(7.5YR8/2)の化粧土残る。焼成不良。大宰府分類の白磁皿Ⅵ1a類。	11世紀後半～12世紀中葉。

34号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第94図 PL.67	2	鉄製品 釘	ほぼ完形	長 幅	8.5 0.9	厚 重	0.5 6.5		頭が折り曲げられる釘。わずかに脚部が欠損する。	

48号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第97図 PL.67	1	鉄製品 包丁	約1/2	長 幅	19.5 6.0	厚 重	0.8 61.8		柄から峰の一部が残存する。柄からあごにかけて凹みが見られる。桑切り包丁が考えられる。	

遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第101図	1	土師器 杯	口縁部片	口 底	13.0 —	器	—	細砂粒/良好/明黄褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第101図 PL.67	2	肥前磁器 紅皿	口縁部2/3欠	口 底	(3.8) 1.6	器	1.6	白	型押し成型。高台に型押し成型跡残る。外面に菊花状の陽刻文。内面から体部外面付近に透明釉。	18世紀後葉～19世紀。
第101図	3	常滑陶器 片口鉢	体部下位片	口 底	—	器	—	灰白	内面は使用により平滑となる。常滑の片口鉢Ⅰ類。	12～13世紀。
第101図 PL.67	4	銅製品 煙管(吸口)		長 幅	5.2 (1.3)	厚 重	(0.6) 2.9		潰れている吸口。つなぎ目の部分から広がるように壊れる。	
第101図 PL.67	5	鉄製品 鎌	完形	長 幅	8.1 2.3	厚 重	0.7 28.9		片刃の小ぶりの鎌。柄に取り付ける部分は目釘を打つために「し」の字状に曲がる。	
PL.67	6	銭貨 新寛永	一部欠損	外径 幅	2.600 1.965	厚 重	0.191 2.08		背文。全体が非常に劣化しており、もろい状態になっている。文字、輪、郭は比較的深かったと思われる。	

第８表　山名赤沼遺跡　遺物観察表

１号復旧坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第105図	1	瀬戸・美濃 陶器 皿	底部1/4	口 底	— (5.8)	高	—	灰白	内面から高台内に灰釉。高台端部も施釉。大窯。	16世紀。
第105図	2	瀬戸・美濃 陶器 皿	底部	口 底	— 5.9	高	—	灰白	高台は逆三角形状の削り出し高台。内面から高台脇に薄い灰釉。	17世紀。

２号復旧坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第106図	1	在地系土器 焙烙	口縁部片	口 底	—	高	—	灰白	断面中央は黒褐色、器表付近は灰白色。内面器表は灰白色、外面器表は暗褐色。器壁薄く、外面中位に紐作り痕。	江戸時代。
第106図	2	肥前磁器 染付碗	底部1/3	口 底	— (4.5)	高	—	白	外面コンニャク印版による葉状文。高台内１重圏線内に不明銘。	18世紀前葉～中葉。
第106図 PL.67	3	製作地不詳 陶器 行平鍋	体部片	口 底	—	高	—	明褐	口縁部外面から体部外面鉄釉、底部内面から体部内面に鉄釉を薄く施釉。体部内面上位から口縁部内面と底部外面は無釉。底部外面に受熱痕。	19世紀中葉以降。

３号復旧坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第107図 PL.67	1	龍泉窯系青磁 碗	底部1/2	口 底	— (5.8)	高	—	褐灰からにぶい橙	底部内面無文。体部外面鎬連弁文残存か。内面から高台外面に青磁釉。一部高台端部にも青磁釉かかる。	13世紀か。
第107図 PL.67	2	在地系土器 焙烙加工品	完形	長 短	4.4 4.1	厚	0.9	にぶい黄褐	断面中央は黒褐色。器表やや摩滅。焙烙底部片の周囲を打ち欠いて円盤状に加工。	江戸時代の焙烙を使用。

計測値単位　cm・g

第５章　調査のまとめ

木部下久保遺跡　旧河道内に位置する１区と、１段高いところに位置する２区に分けて調査した結果、検出された遺構は以下の通りである。１区１面では畑12面、復旧坑10か所、溝14条、２面では復旧坑10か所、集石１基を確認した。２区では、掘立柱建物２棟、溝29条、土坑49基、ピット31基、屋外炉１が検出された。

遺跡は烏川と鏑川が合流する地点にあるため、度々洪水災害に見舞われていた。１区では洪水による砂質土が確認できたが、２区では遺構確認面が1.1m高いため、洪水の被害は少なかったと考えられる。

１面と２面の畦の位置を比較すると、ほぼ同じ位置に復旧されていることがわかる。江戸時代の優れた測量技術により、正確に区画を復元したのであろう。県内では、東吾妻町の上郷岡原遺跡や板倉町の島悪途遺跡、五箇川入堤外遺跡などで、同様の例が調査されている。特に五箇川入堤外遺跡は、利根川と渡瀬川の合流地点付近の旧合の川の流路内に位置し、木部下久保田遺跡の地形と共通点が多い。ここでも、洪水の被害を被ったのち、畑を復元し、現在までその区画が利用されていたことがわかっている。

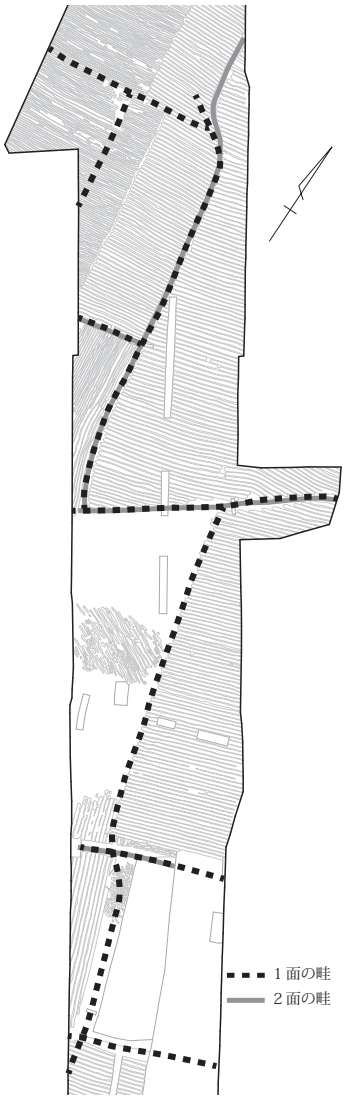
２面の復旧坑の時期について、調査所見では寛保２(1742)年としている。この面の出土遺物は非常に少なく、江戸時代の陶磁器片が２点である。また、天明以前に関東地方を襲った主な水害には、享保13(1728)年、宝暦７(1757)年、明和２(1765)年、安永9(1780)年などの記録がある。遺跡地は川の合流点近くに位置するため、寛保２年の洪水のほかにも、たびたび水害を被っていたと推測できる。よって、２面復旧坑の埋没土が、寛保２年の洪水であると断定することは難しい。

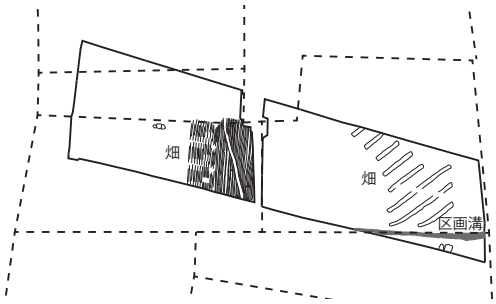
２区では掘立柱建物２棟のほか、土坑、ピット等も多数検出された。これらの遺構の出土遺物には、中世から近代のものが含まれている。２区は前述のように、標高が１区よりも高く、水害を受けにくいことから、居住域として利用されていたと考えられる。また、遺跡周辺には木部城、木部氏館、山名館などの中世の館が数多く存在するため、居住域は、さらに広がると予想される。

山名赤沼遺跡　調査された遺構は、復旧坑２か所、溝２条である。調査区の北側は撹乱のため遺構がなく、南側も１面のみの調査を実施した。

遺構はAs-A降下後の復旧坑と溝のみであったが、遺物には江戸時代の陶磁器のほか、中世の陶器や龍泉窯系の青磁碗が含まれている。よって遺跡地周辺には、中世の遺構の存在も考えられる。いずれにせよ、周辺での調査例が増えることを期待する。

参考文献
『五箇川入堤外遺跡・小合地西遺跡』2020（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
「日本の災害・防災年表「気象災害／古代から江戸時代まで（中世・江戸時代編）」」WEB防災情報新聞　https://www.bosaijoho.net/about-bjs/





第109図　木部下久保田遺跡と五箇川入堤外遺跡(下)の畑の復旧

写 真 図 版

1　1区1面南側全景(北より)

2　1区2面全景(南より)

1　1号畑全景(南東より)

2　1号畑土層断面(西より)

3　1号畑全景(西より)

4　1号畑土層断面(北東より)

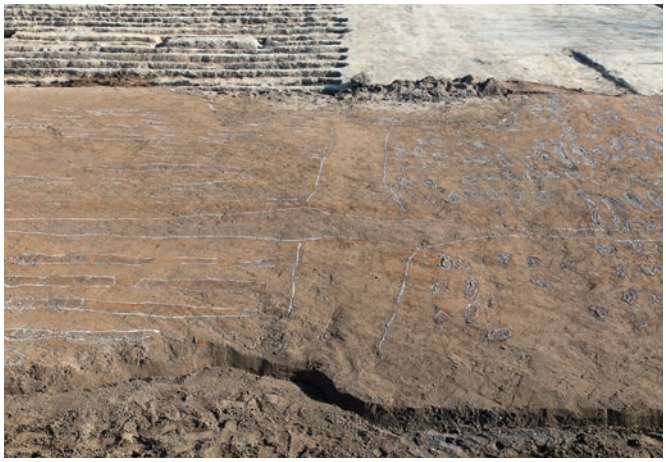
1　２号畑全景(北より)

2　３号畑全景(北より)

3　３号畑土層断面A－A′（南西より）

4　３号畑土層断面B－B′（北東より）

1　4号畑全景(北より)



2　4号畑重機搬入路下全景(北より)

3　4号畑土層断面(南西より)

4　5号畑耕具痕確認状況(東より)

5　5号畑耕具痕(東より)

1　５号畑全景(北より)

2　５号畑重機搬入路下全景(北より)

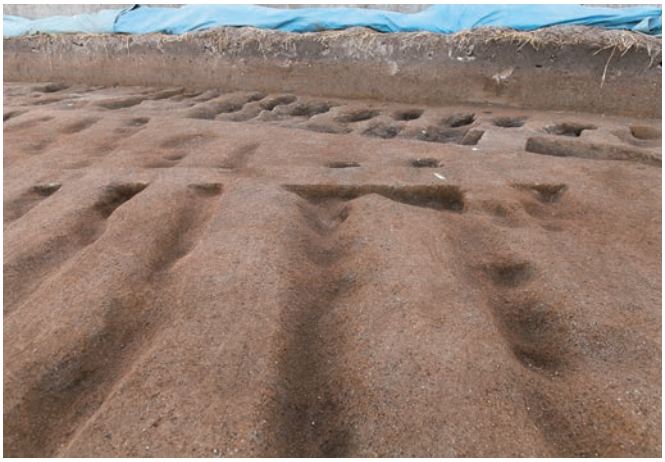
3　５号畑調査風景

4　６号畑土層断面A－A′（西より）

5　６号畑耕具痕２土層断面C－C′（東より）

1　6号畑全景(東より)

2　7号畑全景(東より)



3　7号畑土層断面(北東より)

4　8号畑全景(東より)

5　9号畑重機搬入路下全景(北より)

1　９号畑全景（北より）

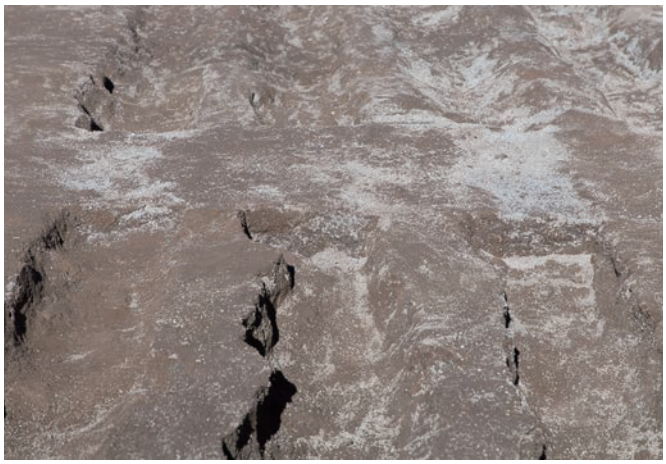
2　９号畑土層断面（南西より）

3　10号畑全景（北より）

4　11号畑（奥）、12号畑（手前）全景（西より）

1　1号復旧坑全景（北東より）

2　1号復旧坑土層断面（南西より）



3　1号復旧坑土層断面（南より）

4　1号復旧坑調査風景

1　２号復旧坑全景(北より)

2　２号復旧坑土層断面A－A′（１）(北より)

3　２号復旧坑土層断面A－A′（２）(北より)

4　２号復旧坑土層断面B－B′（北西より）

1　３号復旧坑全景(北より)

2　３号復旧坑土層断面A－A′（東より）

3　３号復旧坑土層断面B－B′（東より）

4　４号復旧坑全景(北より)

5　４号復旧坑土層断面A－A′（西より）

6　４号復旧坑土層断面B－B′（南より）

1　５号復旧坑全景(北より)

2　５号復旧坑土層断面(１)(南より)

3　５号復旧坑土層断面(２)(南より)

4　５号復旧坑土層断面(３)(南より)

1　6号復旧坑全景(北より)

2　6号復旧坑土層断面A－A′（南より）

3　6号復旧坑土層断面B－B′（南より）

1　７号復旧坑全景(東より)

2　７号復旧坑土層断面(１)(東より)

3　７号復旧坑土層断面(２)(東より)

4　７号復旧坑土層断面(３)(東より)

1　８号復旧坑全景(西より)

2　８号復旧坑土層断面（１）（東より）

3　８号復旧坑土層断面（２）（東より）

4　８号復旧坑土層断面（３）（東より）

5　９号復旧坑東部(西より)

6　９号復旧坑西部(南より)

1　1号溝全景(南より)

2　2号溝全景(東より)

3　1号溝土層断面(南より)

4　2号溝土層断面(東より)

5　3号溝土層断面(東より)

6　4号溝土層断面(東より)

1　３号溝全景(東より)

2　４号溝全景(東より)

3　５号溝全景(東より)

4　６号溝全景(東より)

1　５号溝土層断面(東より)

2　６号溝土層断面(東より)

3　７号溝土層断面(東より)

4　８号溝土層断面(東より)

5　７号溝全景(東より)

6　８号溝全景(東より)

1　9号溝全景(東より)

2　10号溝全景(東より)

3　11号溝全景(東より)

4　12号溝全景(東より)

1　９号溝土層断面（東より）

2　10号溝土層断面（東より）

3　11号溝土層断面（東より）

4　12号溝土層断面（東より）

5　42号溝全景（北より）

6　42号溝土層断面（南東より）

7　調査風景

1　1号畦全景(北より)

2　2号畦全景(東より)

3　1号畦土層断面　3号畑C－C′(北西より)

4　2号畦土層断面　2号畑D－D′(南西より)

5　3号畦土層断面　基本土層B－B′(北東より)

6　4号畦土層断面　2号復旧抗D－D′(北東より)

1　３号畦全景（東より）

2　４号畦全景（東より）

3　５号畦全景（北より）

4　６号畦全景（南より）

1　５号畦土層断面　２号復旧坑C－C′（北西より）

2　６号畦土層断面　２号復旧坑E－E′（北西より）

3　７号畦土層断面　５号復旧坑B－B′（西より）

4　８号畦土層断面　２号復旧坑F－F′（北東より）

5　７号畦全景(西より)

6　８号畦全景(東より)

1　９号畦全景（東より）

2　10号畦全景（南より）

3　９号畦土層断面　10号畑C－C′（北東より）

4　10号畦土層断面　10号畑D－D′（北西より）

1　10号復旧坑、11号復旧坑北部(西より)

2　10号復旧坑東部(西より)

3　11号復旧坑東部(西より)

1　12号復旧坑全景(東より)

2　12号復旧坑土層断面D－D′（東より）

3　13号復旧坑土層断面B－B′（南西より）

4　11号復旧坑(南部）～14号復旧坑全景(南東より）

1　15号復旧坑全景（南東より）

2　14号復旧坑土層断面（北東より）

3　15号復旧坑土層断面A－A′（南西より）

4　15号復旧坑土層断面B－B′（南西より）

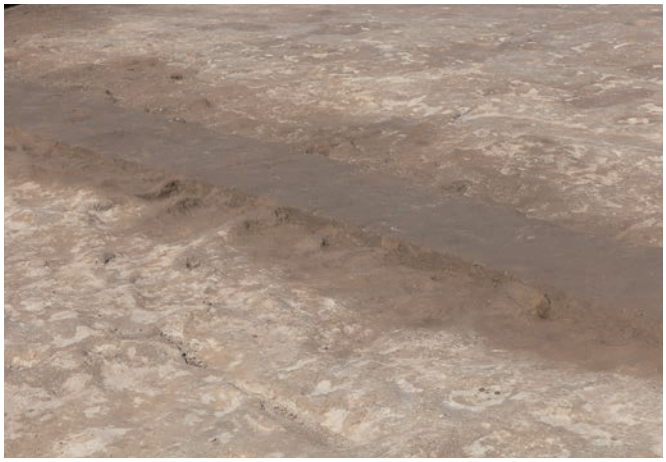
5　16号復旧坑～ 19号復旧坑全景（北東より）

1　16号復旧坑土層断面(南東より)

2　17号復旧坑(２)(東より)

3　17号復旧坑土層断面(北東より)

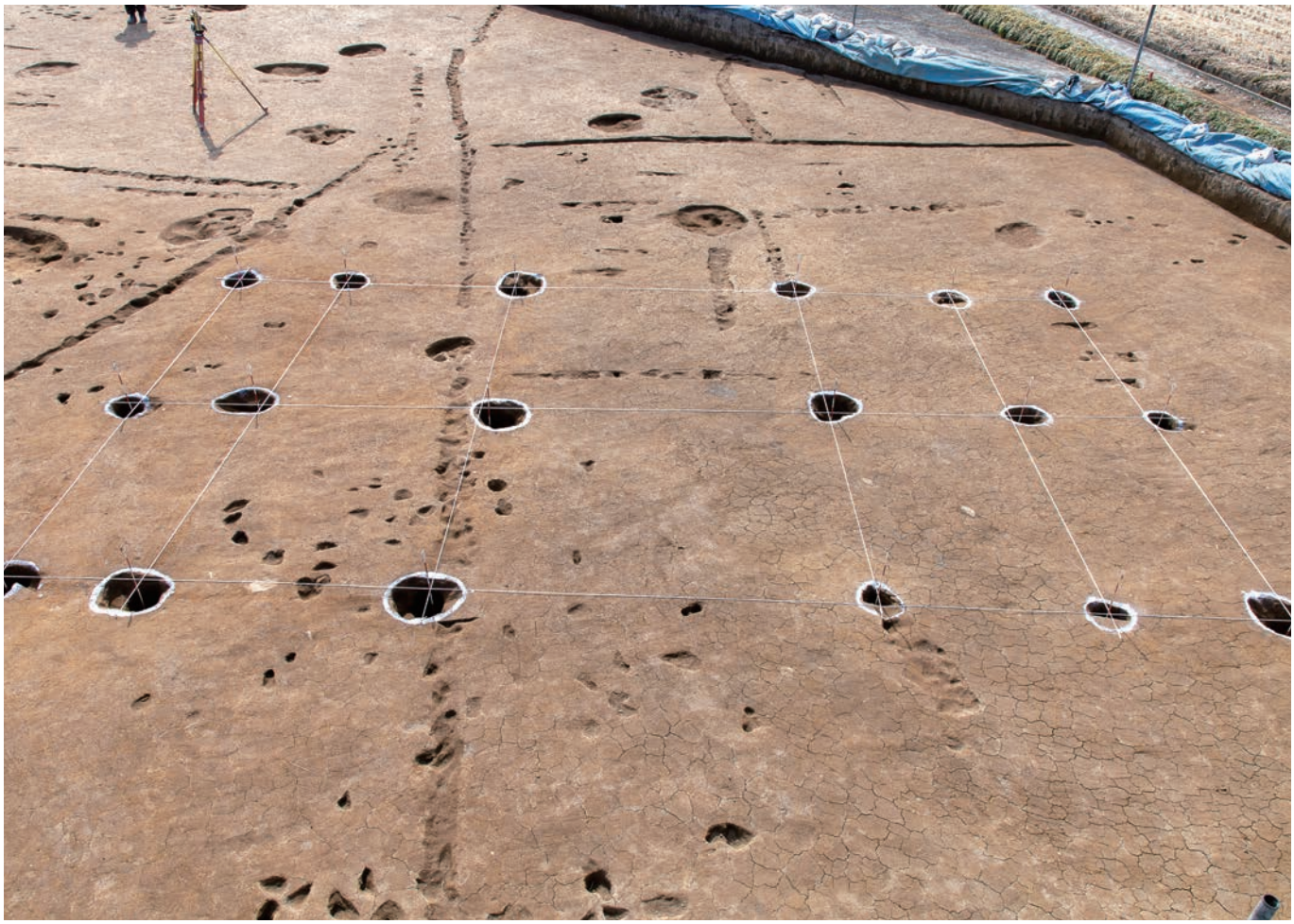
4　18号復旧坑土層断面(南東より)



5　19号復旧坑土層断面A－A′(南より)

6　21号復旧坑重機搬入路下全景(北東より)

7　20号復旧坑全景(北西より)



1　1号掘立柱建物全景(北より)

2　1号掘立柱建物　P 1土層断面(南より)

3　1号掘立柱建物　P 1全景(南より)

4　1号掘立柱建物　P 2土層断面(南西より)

5　1号掘立柱建物　P 2全景(南西より)

1　1号掘立柱建物　P３土層断面(南西より)

2　1号掘立柱建物　P３全景(南西より)

3　1号掘立柱建物　P４土層断面(南より)

4　1号掘立柱建物　P４全景(南より)

5　1号掘立柱建物　P５土層断面(南より)

6　1号掘立柱建物　P５全景(南より)

7　1号掘立柱建物　P６土層断面(東より)

8　1号掘立柱建物　P６全景(東より)

1　1号掘立柱建物　P７土層断面(南西より)

2　1号掘立柱建物　P７全景(南西より)

3　1号掘立柱建物　P８土層断面(北東より)

4　1号掘立柱建物　P８全景(北東より)

5　1号掘立柱建物　P９土層断面(南より)

6　1号掘立柱建物　P９全景(南より)

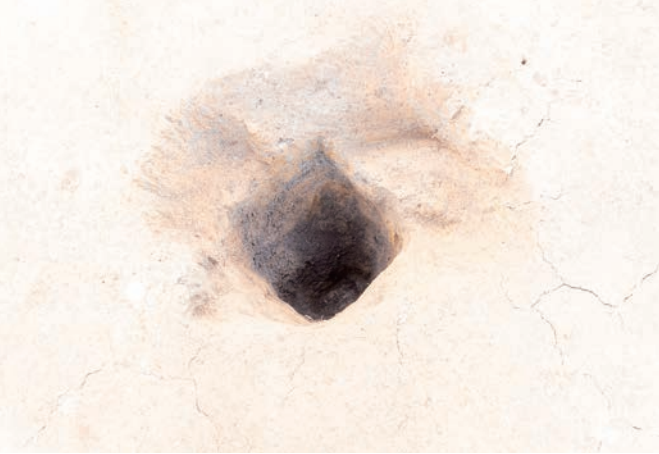
7　1号掘立柱建物　P10土層断面(南より)

8　1号掘立柱建物　P10全景(南より)

1　1号掘立柱建物　P11土層断面(南より)

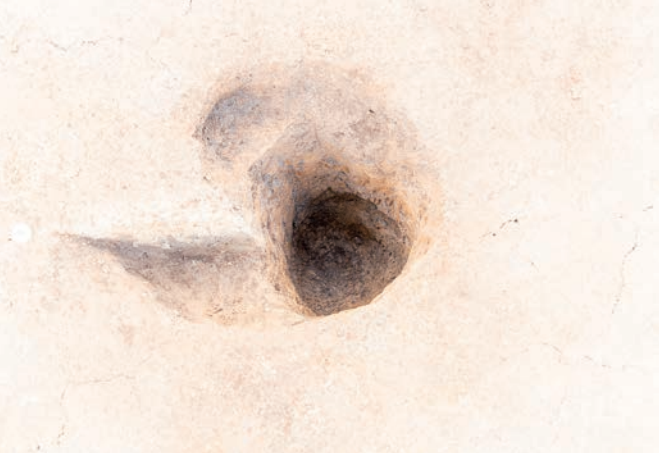
2　1号掘立柱建物　P11全景(南より)

3　1号掘立柱建物　P12土層断面(南より)



4　1号掘立柱建物　P12全景(南より)

5　1号掘立柱建物　P13土層断面(南西より)



6　1号掘立柱建物　P13全景(南西より)

7　1号掘立柱建物　P14土層断面(南西より)

8　1号掘立柱建物　P14全景(南西より)

1　1号掘立柱建物　P15土層断面(南東より)

2　1号掘立柱建物　P15全景(南東より)

3　1号掘立柱建物　P16土層断面(南より)

4　1号掘立柱建物　P16全景(南より)

5　1号掘立柱建物　P17土層断面(南東より)

6　1号掘立柱建物　P17全景(南東より)

7　1号掘立柱建物　P18土層断面(南東より)

8　1号掘立柱建物　P18全景(南東より)

1　２号掘立柱建物全景（南西より）

2　２号掘立柱建物調査風景

3　２号掘立柱建物　Ｐ１全景（南東より）

4　２号掘立柱建物　Ｐ２土層断面（南東より）

5　２号掘立柱建物　Ｐ２全景（南東より）

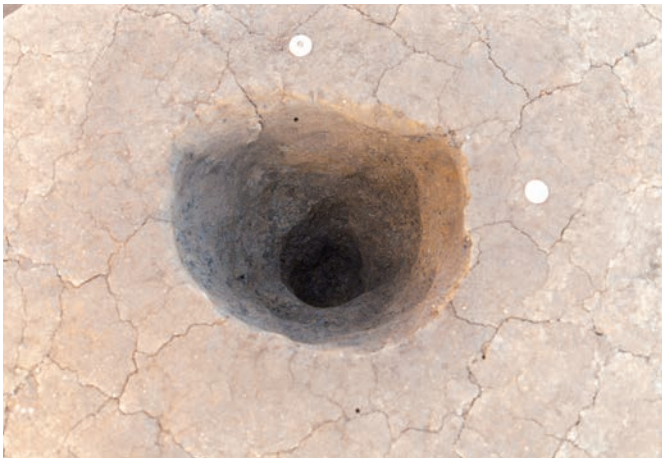
1　２号掘立柱建物　Ｐ３土層断面(南東より)

2　２号掘立柱建物　Ｐ３全景(南東より)

3　２号掘立柱建物　Ｐ４土層断面(南より)

4　２号掘立柱建物　Ｐ４全景(南より)

5　２号掘立柱建物　Ｐ５土層断面(西より)



6　２号掘立柱建物　Ｐ５全景(西より)

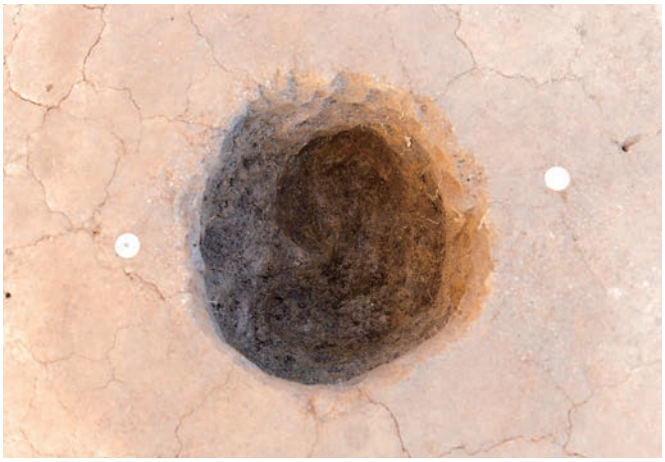
7　２号掘立柱建物　Ｐ６土層断面(南より)

8　２号掘立柱建物　Ｐ６全景(南より)

1　２号掘立柱建物　Ｐ７土層断面(南東より)

2　２号掘立柱建物　Ｐ７全景(南東より)

3　２号掘立柱建物　Ｐ８土層断面(南より)



4　２号掘立柱建物　Ｐ８全景(南より)

5　２号掘立柱建物　Ｐ９土層断面(南東より)

6　２号掘立柱建物　Ｐ９全景(南東より)

7　２号掘立柱建物　P10土層断面(南東より)

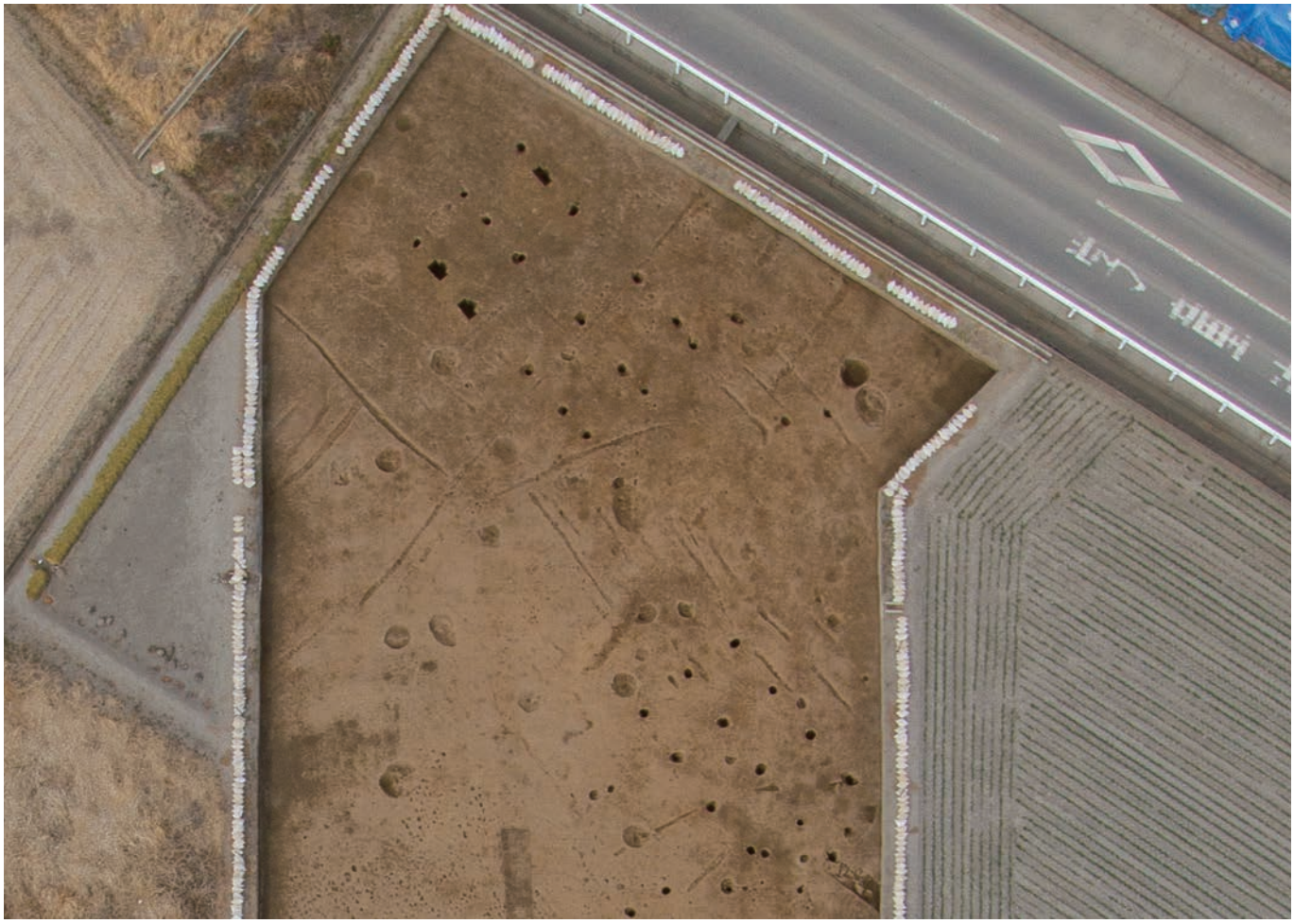
8　２号掘立柱建物　P10全景(南東より)

1　２号掘立柱建物　P11土層断面(南東より)

2　２号掘立柱建物　P11全景(南東より)

3　２号掘立柱建物　P12土層断面(南東より)

4　２号掘立柱建物　P12全景(南東より)



5　１号掘立柱建物(上)、２号掘立柱建物(下)全景

1　13号溝全景（東より）

2　14号溝全景（北より）

3　13号溝土層断面（西より）

4　14号溝土層断面（南より）

5　15号溝土層断面（南より）

6　16号溝土層断面（南西より）

1　15号溝全景（北より）

2　16号溝全景（北東より）

3　17号溝土層断面（南より）

4　17号溝全景（南より）

5　18号溝土層断面A－A′（北西より）

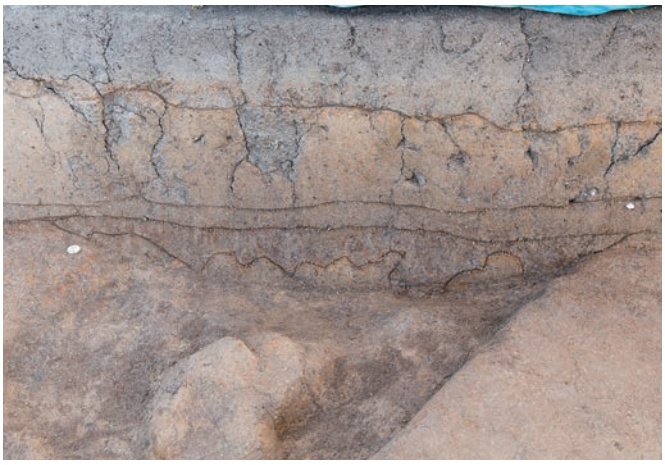
6　18号溝土層断面B－B′（北東より）

1　18号溝～ 20号溝全景(北東より)

2　19号溝土層断面(北西より)

3　20号溝土層断面A－A′（北西より）

4　20号溝土層断面B－B′（北より）



5　21号溝土層断面(南西より)

1　22号溝全景（北東より）

2　23号溝全景（北東より）

3　24号溝全景（南西より）

4　25号溝全景（東より）

1　22号溝土層断面(南より)

2　23号溝土層断面(南より)

3　24号溝土層断面(北より)

4　25号溝土層断面(東より)

5　26号溝全景(東より)

6　27号溝全景(東より)

1　26号溝土層断面(北東より)

2　27号溝土層断面(西より)

3　28号溝土層断面(南より)

4　29号溝土層断面(西より)

5　29号溝全景(西より)

6　30号溝土層断面(南西より)

7　30号溝、31号溝全景(南西より)

8　31号溝土層断面(南より)

1　32号溝全景(北東より)

2　32号溝土層断面(南より)

3　33号溝～36号溝全景(北東より)

4　33号溝土層断面(北より)

5　34号溝土層断面(北より)

6　35号溝土層断面(北より)

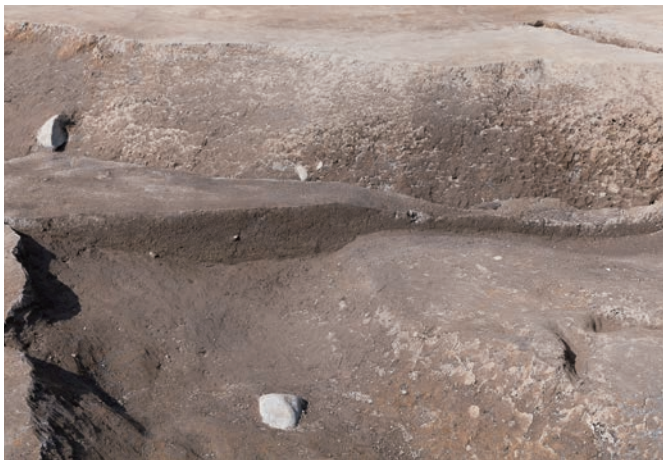
7　36号溝土層断面(北東より)

1　37号溝全景（北東より）

2　38号溝全景（北東より）

3　37号溝土層断面（北東より）

4　38号溝土層断面（北東より）



5　39号溝土層断面（南東より）

6　40号溝土層断面（北東より）

1　40号溝全景(北東より)

2　41号溝土層断面(北東より)

3　41号溝全景(西より)

4　２区３面全景(西より)

1　1号土坑土層断面(南東より)

2　1号土坑全景(南東より)

3　2号土坑土層断面(南より)

4　2号土坑全景(南より)

5　3号土坑土層断面(南東より)

6　3号土坑全景(南東より)

7　4号土坑土層断面(南東より)

8　4号土坑全景(北西より)

1　５号土坑土層断面(南西より)

2　５号土坑全景(南西より)

3　６号土坑土層断面(南東より)

4　６号土坑全景(南東より)

5　７号土坑土層断面(南東より)

6　７号土坑全景(南東より)

7　８号土坑土層断面(南東より)

8　８号土坑全景(南東より)

1　９号土坑土層断面(南西より)

2　９号土坑全景(南西より)

3　10号土坑土層断面(南東より)

4　10号土坑全景(南東より)

5　11号土坑土層断面(南東より)

6　11号土坑全景(南東より)

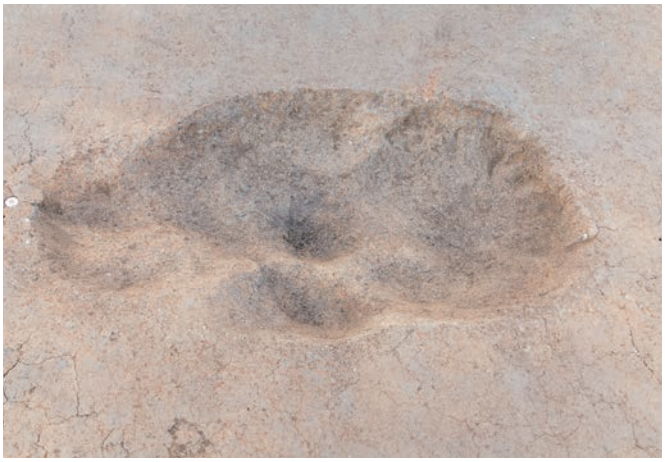
7　12号土坑土層断面(南東より)

8　12号土坑全景(南より)

1　13号土坑土層断面(南東より)

2　13号土坑全景(南西より)

3　14号土坑土層断面(南西より)



4　14号土坑全景(南西より)

5　15号土坑土層断面(南東より)

6　15号土坑全景(北西より)

7　16号土坑土層断面(南東より)

8　16号土坑全景(南より)

1　17号土坑土層断面(南西より)

2　17号土坑全景(南西より)

3　18号土坑土層断面(南より)

4　19号土坑土層断面(東より)

5　19号土坑全景(北より)

6　20号土坑土層断面(北東より)

7　20号土坑全景(北東より)

8　21号土坑土層断面(南東より)

1　21号土坑全景(北西より)

2　22号土坑土層断面(北東より)

3　22号土坑全景(北西より)

4　23号土坑土層断面(南東より)

5　23号土坑全景(北東より)

6　24号土坑土層断面(北東より)

7　24号土坑全景(南より)

8　25号土坑土層断面(南東より)

1　25号土坑全景(南東より)

2　26号土坑土層断面(南東より)

3　26号土坑全景(北西より)

4　27号土坑土層断面(南東より)

5　27号土坑全景(北西より)

6　28号土坑土層断面(北東より)

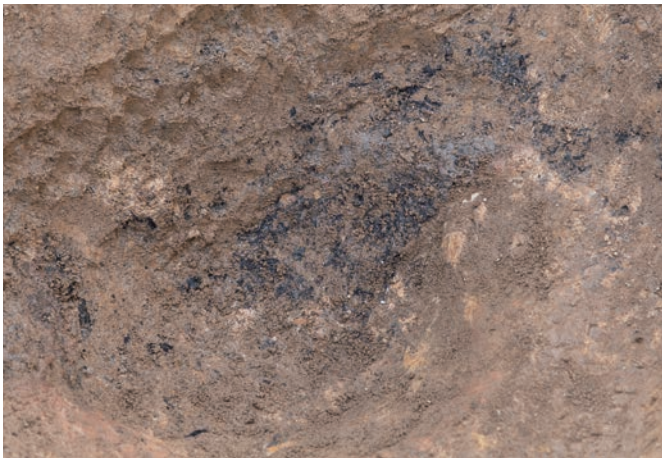
7　28号土坑全景(北東より)

8　29号土坑土層断面(南東より)

1　29号土坑全景(南東より)

2　30号土坑土層断面(北西より)

3　30号土坑全景(北より)



4　30号土坑炭化材検出状況(北より)

5　31号土坑土層断面(東より)

6　31号土坑全景(東より)

7　32号土坑土層断面(南東より)

8　32号土坑全景(北より)

1　33号土坑土層断面(東より)

2　33号土坑全景(南東より)

3　34号土坑土層断面(南東より)

4　34号土坑全景(北より)

5　35号土坑土層断面(南東より)

6　35号土坑全景(北東より)

7　36号土坑土層断面(南東より)

8　36号土坑全景(北西より)

1　37号土坑土層断面(南東より)

2　37号土坑全景(北東より)

3　38号土坑土層断面(東より)

4　38号土坑全景(北東より)

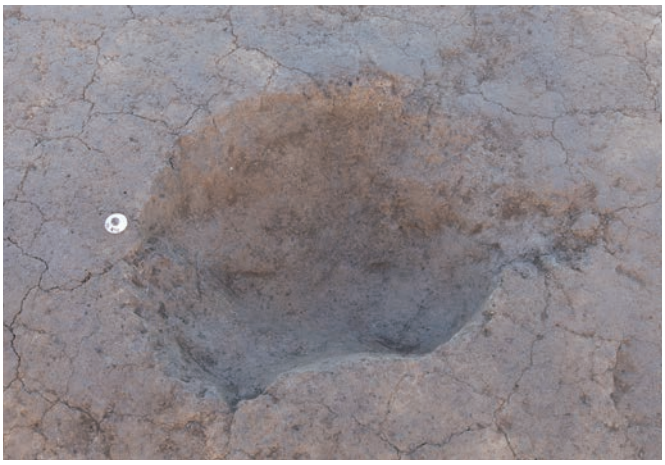
5　39号土坑土層断面(南東より)

6　39号土坑全景(南より)

7　40号土坑土層断面(北東より)

8　40号土坑全景(北西より)

1　41号土坑土層断面(南東より)

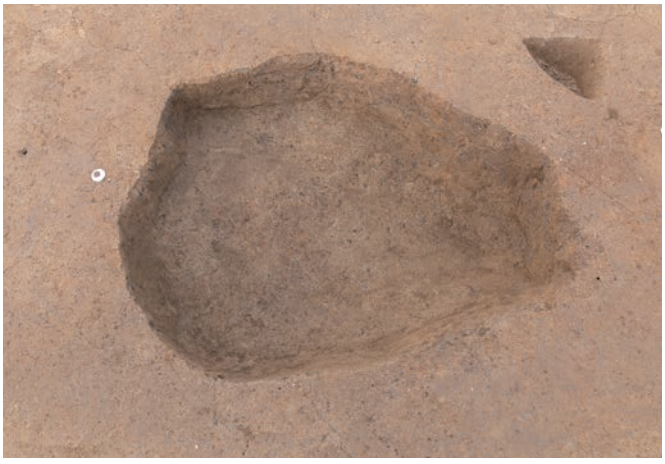


2　41号土坑全景(南東より)

3　42号土坑土層断面(南より)

4　42号土坑全景(南より)

5　43号土坑土層断面(南より)



6　43号土坑全景(南より)

7　44号土坑土層断面(北東より)

8　44号土坑全景(北東より)

1　45号土坑土層断面(北東より)

2　45号土坑全景(北東より)

3　46号土坑土層断面(南東より)

4　46号土坑全景(北西より)

5　47号土坑土層断面(南東より)

6　47号土坑全景(南東より)

7　48号土坑土層断面A－A′(北より)

8　48号土坑全景(南より)

1　49号土坑土層断面B－B′（西より）

2　49号土坑全景（南西より）

3　耕作痕１　土層断面（南東より）

4　耕作痕２　土層断面（南東より）

5　耕具痕１　土層断面（南東より）

6　耕具痕２　土層断面（北東より）

7　耕具痕３　土層断面（南西より）

8　１号屋外炉土層断面（南東より）

1　18号ピット土層断面(南より)

2　18号ピット全景(南より)

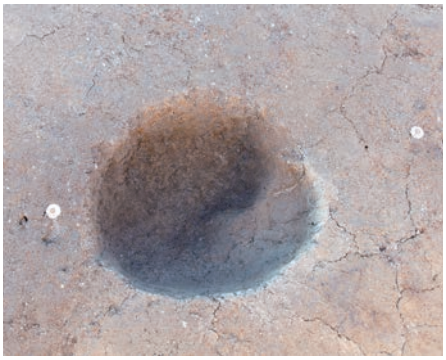
3　19号ピット土層断面(南東より)

4　19号ピット全景(南東より)

5　21号ピット土層断面(南東より)

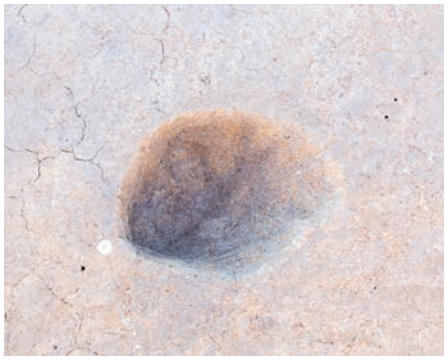
6　21号ピット全景(南東より)

7　22号ピット土層断面(南東より)



8　22号ピット全景(南東より)

9　23号ピット土層断面(東より)



10　23号ピット全景(南東より)

11　26号ピット土層断面(南東より)

12　26号ピット全景(南東より)

13　27号ピット土層断面(南より)

14　27号ピット全景(南より)

15　28号ピット土層断面(北東より)

1　28号ピット全景(北東より)

2　30号ピット土層断面(南東より)

3　30号ピット全景(南東より)

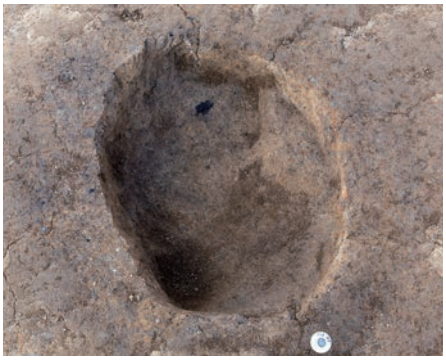
4　31号ピット土層断面(北東より)

5　31号ピット全景(南東より)

6　32号ピット土層断面(南東より)

7　32号ピット全景(南東より)

8　33号ピット土層断面(北東より)



9　33号ピット全景(南東より)

10　34号ピット土層断面(南東より)

11　34号ピット全景(南東より)

12　35号ピット土層断面(南東より)

13　35号ピット全景(南東より)

14　36号ピット土層断面(北東より)

15　36号ピット全景(南東より)

1　47号ピット土層断面(南東より)

2　47号ピット全景(北より)

3　48号ピット土層断面(北東より)

4　48号ピット全景(北より)

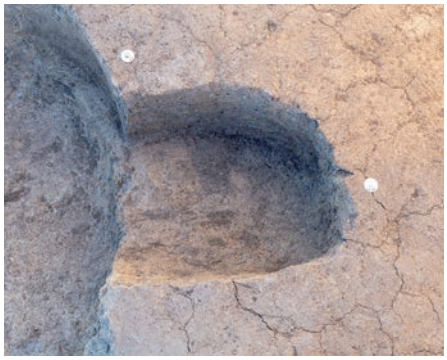
5　49号ピット土層断面(東より)

6　49号ピット全景(東より)

7　50号ピット土層断面(南東より)

8　50号ピット全景(南東より)

9　51号ピット土層断面(北西より)



10　51号ピット全景(北西より)

11　52号ピット土層断面(南西より)

12　52号ピット全景(南西より)

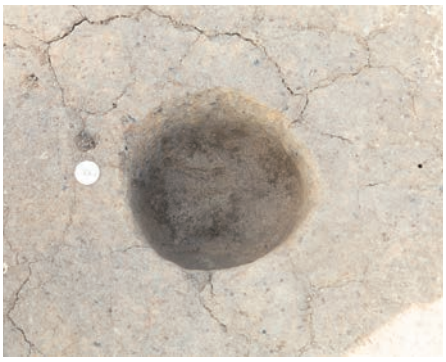
13　53号ピット土層断面(南より)

14　53号ピット全景(南より)

15　54号ピット土層断面(南より)

1　54号ピット全景(北より)

2　55号ピット土層断面(南より)



3　55号ピット全景(南より)

4　56号ピット土層断面(南より)

5　56号ピット全景(南より)

6　57号ピット土層断面(南東より)

7　57号ピット全景(北東より)

8　58号ピット土層断面(南東より)

9　58号・60号ピット土層断面(南東より)

10　59号ピット土層断面(南より)

11　59号ピット全景(南より)

12　61号ピット土層断面(南東より)

13　61号ピット全景(北西より)

14　62号ピット土層断面(南東より)

15　62号ピット全景(北東より)

1　調査区全景(北より)

1　1号復旧坑全景(西より)

2　1号復旧坑土層断面A－A'（北東より）

3　1号復旧坑土層断面B－B'（北東より）

4　2号復旧坑、3号復旧抗全景(北より)

1　２号復旧坑土層断面(北東より)

2　３号復旧坑土層断面(北東より)

3　１号溝土層断面(北東より)

4　２号溝土層断面(北東より)

5　１号溝(右)、２号溝(左)全景(北より)

6　１号畦土層断面　１号復旧坑C－C'（北より）

7　２号畦土層断面　２号復旧抗B－B'（北東より）

PL.66

木部下久保田遺跡

1区1面出土遺物

4畑1

2復旧1

6畑3

7畑1

1復旧1

1復旧2

1復旧3

1復旧4

2復旧2

9畦1

1区2面出土遺物

12復旧1

11畦1

2区3面出土遺物

25溝2

25溝3

25溝4

25溝5

25溝6

25溝7

25溝9

25溝11

25溝12

25溝13

25溝14

25溝15

25溝16

25溝17

25溝10

39溝１

41溝２

34土２

26土２

29土１

48土１

遺構外２

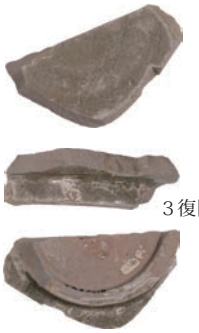
遺構外４

遺構外５

遺構外６

山名赤沼遺跡

２復旧３


３復旧１

３復旧２

発掘調査報告書抄録

書名ふりがな	きべしもくぼたいせき・やまなあかぬまいせき
書　　名	木部下久保田遺跡・山名赤沼遺跡
副　書　名	主要地方道寺尾藤岡線社会資本総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	715
編著者名	齊田智彦
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20221223
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　　所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	きべしもくぼたいせき
遺　跡　名	木部下久保田遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしきべまち
遺跡所在地	群馬県群馬県高崎市木部町
市町村コード	10202
遺跡番号	04002
北緯（世界測地系）	361646
東経（世界測地系）	1390245
調査期間	20191201-20200331
調査面積	7072.32
調査原因	道路建設
種　　別	包蔵地/集落/生産
主な時代	中世/近世
遺跡概要	/中・近世-掘立柱建物2+畑12+復旧坑21+溝43+土坑49+ピット31-土器+石製品+陶磁器+金属器+通貨
特記事項	洪水層下の掘立柱建物、土坑、溝、畑、復旧坑の調査
要　　約	本遺跡は烏川と鏑川の合流地点付近に位置している。鏑川の旧流路から、As-A 復旧坑、畑、溝が検出された。
遺跡名ふりがな	やまなあかぬまいせき
遺　跡　名	山名赤沼遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしやまなまち
遺跡所在地	群馬県高崎市山名町
市町村コード	10202
遺跡番号	04003
北緯（世界測地系）	361655
東経（世界測地系）	1390230
調査期間	20191201-20200331
調査面積	1691.10
調査原因	道路建設
種　　別	集落
主な時代	中世/近世
遺跡概要	中・近世-復旧坑3+溝2-陶磁器
特記事項	As-A 復旧坑の調査
要　　約	本遺跡は烏川と鏑川の合流地点付近に位置している。As-A 復旧坑が検出された。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第715集

木部下久保田遺跡・山名赤沼遺跡

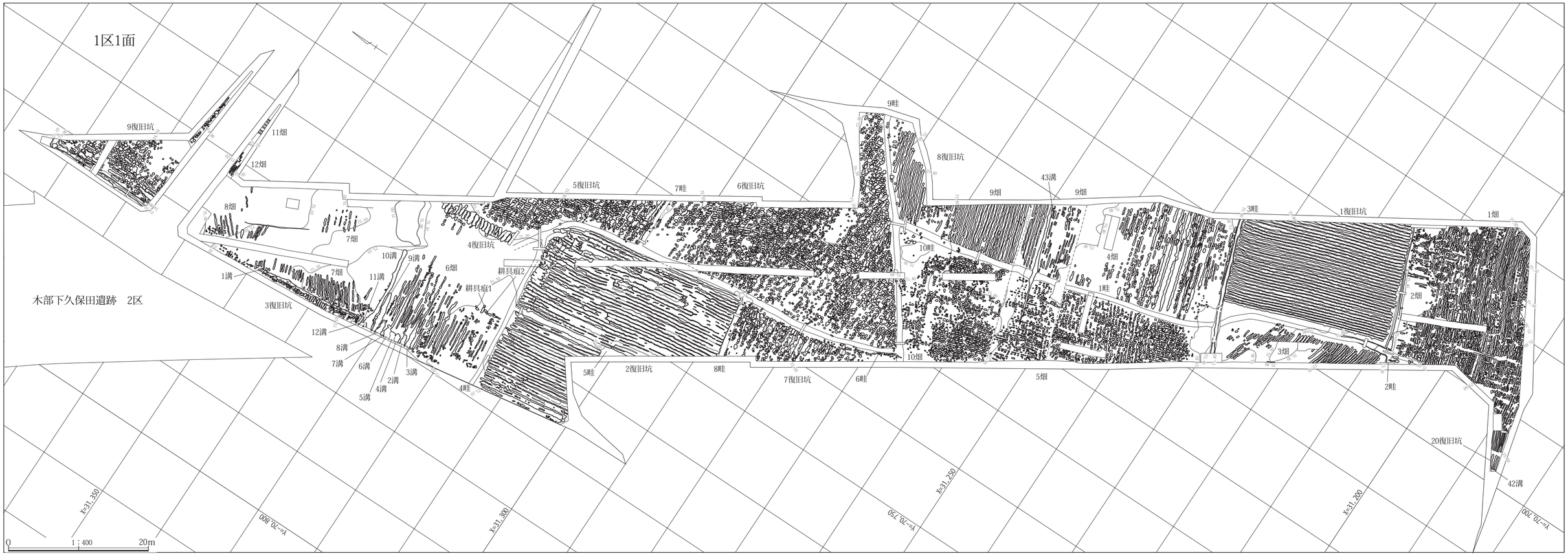
主要地方道寺尾藤岡線社会資本総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

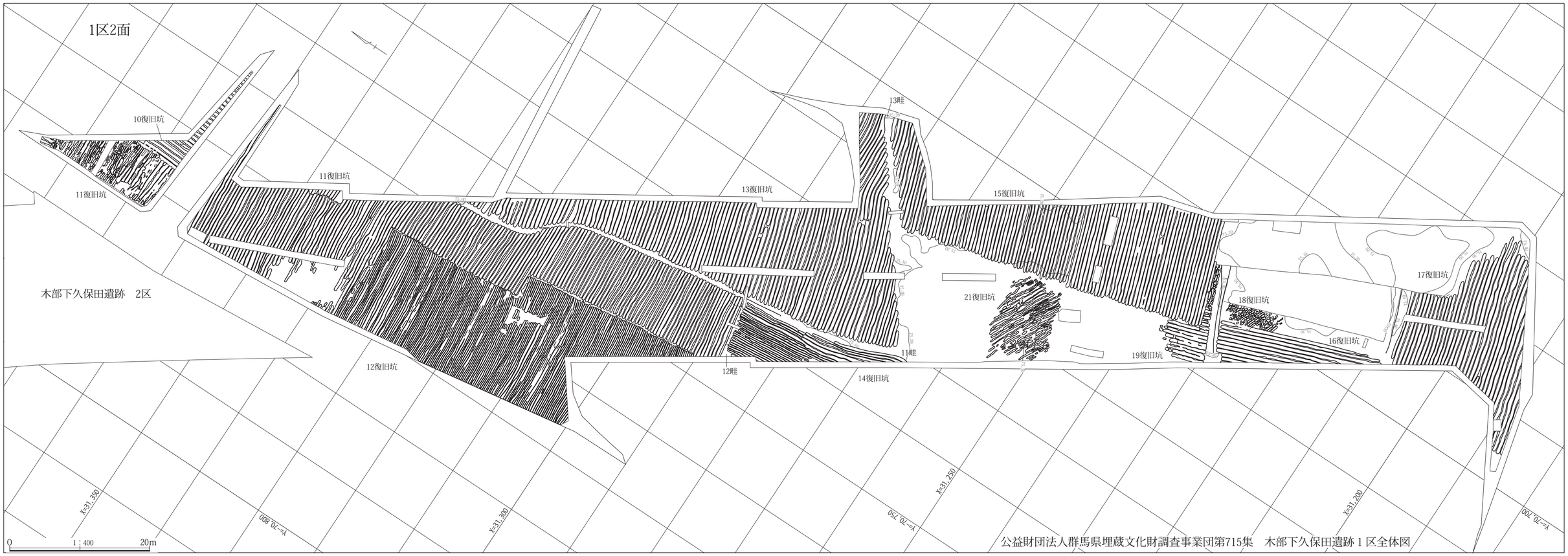
令和４(2022)年12月21日　印刷
令和４(2022)年12月23日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／ジャーナル印刷株式会社





公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団第715集　木部下久保田遺跡１区全体図